

分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登録ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登録ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登録ハ登記ニ代ルモノトス

第二十二條 鑛業出願人ハ名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ試掘ニ付テハ「鑛山監督署長」探掘ニ付テハ農商務大臣ニ届出ラ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十三條 探掘出願人ハ出願地ニ其ノ探掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第二十四條 農商務大臣ニ於テ試掘出願地探掘ニ適スルモノト認メタルトキハ探掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ探掘ノ出願ヲ爲サルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セズ

前二項ノ規定ハ農商務大臣ニ於テ探掘出願地仍試掘ヲ要スルモノト認メタル場合ニ之ヲ適用ス

第二十五條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲サルトキハ探掘ノ出願ハ之ヲ許可セズ

第二十六條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ探掘出願人ハ其ノ訂正ノ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重復スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重復スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セズ

第二十九條 探掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重復スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重復スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セズ但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 探掘出願地他人ノ試掘出願地ト重復スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重復スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 鑛業出願地他人ノ鑛區ト重復スル場合ニ於テ異種ノ鑛物ナルトキハ「鑛山監督署長」ハ之ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ

鑛業權者ハ前項ノ通知書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ自ら其ノ鑛業ヲ出願スルコトヲ得

前二項ノ規定ハ第三十六條及豫メ鑛業權者ノ承諾ヲ得タル場合ニハ之ヲ適用ス

第一項ノ出願他人ノ鑛業ニ妨害アリト認メタルトキハ之ヲ許可セズ

第三十二條 公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ又ハ鑛業ノ價值ナシト認メタルトキハ鑛業ノ出願ヲ許可セズ

第三十三條 試掘出願地又ハ試掘出願地電復スルトキハ其ノ重復スル部分ニ付テハ同書發送ノ日ヨリ先ナル者優先權ヲ有ス願書發送ノ日ヨリ一ナルトキハ「鑛山監督署長」ハ之ヲ各出願人ニ通知スヘシ此ノ場合ニ於テハ出願人ハ其ノ通知書發送ノ日ヨリ六十日以内ニ協議ヲ調ヘ之ヲ届出ヘシ

出願人前項ノ届出ヲ爲サルトキハ抽籤ニ依リ優先權者ヲ定ム

前二項ノ規定ハ第二十五條、第二十六條、第三十一條第二項及第三十六條ノ場合ニハ之ヲ適用ス

試掘出願地探掘出願地ト重復スル場合ニ於テ願書發送ノ日時同一ナルトキハ其ノ重復スル部分ニ付テハ探掘出願人ハ優先權ヲ有ス

第三十三條ノ二 試掘權者試掘權ノ存続期間満了後十日以内ニ同種ノ鑛物ニ付テハ鑛業ノ出願ヲ爲サルトキハ舊試掘鑛區ニ係ル部分ニ付テハ他人ノ出願人ニ對シ優先權ヲ有ス

前項ノ場合ニ於テ他人ノ出願ノ目的異種ノ鑛物ナルトキハ第三十一條ノ規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ出願ヲ爲サル者ヲ以テ鑛業權者ト看做ス明治四十四年法律第九號ヲ以テ本條ヲ追加

第三十四條 試掘出願人同種ノ鑛物ニ付テハ探掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ出願地重復スルトキハ其ノ重復スル部分ニ付テハ探掘ノ出願ハ試掘願書發送ノ日時ニ於テ試掘ノ出願ニ代リタルモノト看做ス但シ第三十三條第四項ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス明治四十四年法律第九號ヲ以テ本項ヲ改正

前項本文ノ規定ハ探掘出願人同種ノ鑛物ニ付テハ試掘ノ出願ヲ爲シタル場合ニ之ヲ適用ス

前二項ノ規定ハ第二十四條及第二十五條ノ場合ニ於ケル期限經過後ノ出願ニ之ヲ適用ス

第三十五條 探掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ農商務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルコト亦同シ

第三十六條 探掘權者ハ其ノ探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ニ於テ探掘ノ出願ヲ爲サルコトヲ得

第三十七條 鑛業出願人ハ其ノ探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ニ於テ探掘ノ出願ヲ爲サルコトヲ得

鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ヲ示シテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サルモノト認メタルトキハ其ノ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添付スヘシ

前項ノ鑛床圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス(明治四十四年法律第九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十七條 第二十五條第一項、第二十六條、第二十七條及第三十三條第三項ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ適用ス

第二十五條第一項ニ該當スル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲サルトキハ農商務大臣ハ探掘權ヲ取消スヘシ

探掘權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ豫メ探掘權者ノ承諾ヲ經ヘシ

第三十八條 錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ農商務大臣ハ鑛區ノ改正ヲ命シ又ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

前項ノ改正ヲ命シタル場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ出願ヲ爲サルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第三十九條 鑛業公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十條 鑛業權者正當ノ理由ヲ示シテ登録ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ着手セズ若ハ一箇年以上休業シタルトキハ又ハ施業案ニ依ラズシテ探掘ヲ爲シタルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十一條 鑛業權者第七十二條ノ命令ニ從ハサルトキハ又ハ鑛業稅ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ鑛業權ヲ取消スヘシ

第四十二條 探掘權取消ノ登録アリタルトキハ「鑛山監督署長」ハ直ニ之ヲ探掘權者ニ通知スヘシ

探掘權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ探掘權ノ請求ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第五

三十九條ノ規定ニ依リ探掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

探掘權ハ前項ノ期間内又ハ願書ノ手續完結ノ日迄願書ノ目的ノ範圍内ニ於テ存続スルモノト看做ス

鑛業ニ依リ得金ハ鑛費ノ費用及探掘權者ニ對スル債務ノ清算ニ充テラレ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

第四十三條 前條ノ規定ハ探掘權者廢業シタル場合ニ之ヲ適用ス

第四十四條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ施業案ヲ「鑛山監督署長」ニ差出スヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

探掘權者ハ施業案ニ依リ非サレハ探掘ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 「鑛山監督署長」ハ理由ヲ示シテ施業案ノ變更ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ變更シタル施業案ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十六條 探掘權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ坑内實測圖及鑛業簿ヲ鑛業事務所ニ備置キ且其ノ複本ヲ「鑛山監督署長」ニ差出スヘシ

第四十七條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛業ニ關スル明細表ヲ「鑛山監督署長」ニ差出スヘシ

第四十八條 試掘ニ依リ得タル鑛產物ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

第四十九條 探掘權者其ノ他ノ利害關係人ハ他人ノ鑛區ニ付テハ「鑛山監督署長」ニ其ノ實地調査ヲ出願スルコトヲ得

出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供スヘシ

第十四條及第五十六條ノ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シ權利ヲ有スル者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第五十一條 本章ニ於テ補償金ト稱スルハ對價ノ使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金ヲ總稱ス

第五十二條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲必要アルトキハ鑛業權者ハ鑛區ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀鑛區圖ノ訂正ヲ命シタル者、鑛業出願人又ハ鑛業權者ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得

前項ノ許可ヲ得タル者他人ノ土地ニ立入り測量又ハ検査ヲ爲スル土地占有者ニ通知スヘシ

第五十三條 前條ノ規定ニ依リ測量又ハ検査ノ爲必要アルトキハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却セムトスルトキハ豫メ其ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ

第五十四條 鑛業上急迫ノ危険ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ運搬ナク之ヲ土地占有者ニ通知スヘシ

第五十五條 前三條ニ依リ所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ補償金ヲ拂渡スヘシ

第五十六條 鑛業權者ハ左ニ掲グル目的ノ爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

一 鑛鑿孔又ハ坑口ノ開穿

二 鑛物、土石、爆發藥、用材、薪炭、鑛滓又ハ灰燼ノ置場ノ設置

三 選鑛場又ハ製煉場ノ建設

四 鐵道、軌道、道路、運河、溝渠、管樋、池井

第五 其ノ他鑛業上必要ナル工事又ハ工作物ノ施設

前項ノ規定ニ依リ鑛業權者他人ノ土地ヲ使用セムトスルキハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受クヘシ
「鑛山監督署長」前項ノ許可ヲ與ヘタルキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ
前項ノ通知ノ後鑛業權者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議ヲ爲スヘシ
第五十七條 土地ノ使用ニ關シテハ其ノ土地ノ形質ヲ變更スルキハ所有權者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
第五十八條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
第五十九條 土地ヲ使用又ハ收用スルキハ土地所有者及關係人ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生ズヘキトキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十一條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、堤堰、橋、柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必要ヲ生ズルキハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十二條 第五十六條ノ通知ノ後土地ノ形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置セムトスルキハ土地所有者及關係人ハ「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受クヘシ許可ヲ受クシテ之ヲ爲シタル者ハ之ニ關スル補償金ヲ請求スルコトヲ得
第六十三條 第五十六條ノ通知ノ後事業ヲ廢止又ハ變更シタルニ因リテ土地所有者及關係人ノ受ケタル損失ニ對シ鑛業權者ハ其ノ補償金ヲ拂渡スヘシ
第六十四條 土地所有者及關係人ハ鑛業權者ヲシテ補償金

第六十五條 土地ノ使用又ハ收用ノ協議調ヒ裁決確定シ又ハ判決アリタルキハ補償金又ハ擔保ノ裁決確定セザルトキト雖

鑛業權者ハ其ノ裁決ニ依リ補償金ヲ供託シ又ハ擔保ヲ供シテ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得
第六十六條 鑛業權者補償金ノ拂渡若ハ供託ヲ爲サズ又ハ擔保ヲ供セザルトキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得
第六十七條 土地ノ收用スルキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ鑛業權者ノ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
土地ノ使用スルキハ其ノ權利ハ使用ノ時期ニ於テ鑛業權者ノ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ノ期間其ノ行使ヲ停止セラル但シ使用ヲ妨ケザルモノハ此ノ限ニ在ラス
第六十八條 土地ノ使用ヲ終リタルキハ鑛業權者ハ土地ノ原狀ニ復シ又ハ原狀ニ復セザルニ因リテ生ズル損失ニ對シ補償金ヲ拂渡シ之ヲ返還スヘシ
第六十九條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ使用又ハ收用ニ因リテ債務者ノ受ケヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス
第四章 鑛業警察
第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及「鑛山監督署長」ニ行フ
一 建設物及工作物ノ保安
二 生命及衛生ノ保護
三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護
第七十二條 鑛業上危害ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ

第七十三條 農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及「鑛山監督署長」ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス
第五章 鑛夫
第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞務ニ關スル規則ヲ定ム「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受クヘシ
第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ
第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ
第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上前日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ
第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間、婦女、幼若ノ勞務ノ種類ヲ制限スルコトヲ得
第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上ノ負擔、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ大正十三年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ改正
停止ヲ命スヘシ
急迫ノ危險ヲ防ク爲必要ナルキハ「鑛山監督署長」ハ前項ノ規定ヲ爲スコトヲ得
第七十三條 農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得
第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及「鑛山監督署長」ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス

第六章 鑛業稅

第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス
金銀、銀、鉛、錫及鐵礦ニ付テハ鑛產稅ヲ課セズ
自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ノ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(明治四十四年法律第九號ヲ以テ本項ヲ追加)
第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セズ(昭和二年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正)
第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一十坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一十坪未滿ハ之ヲ一十坪ト看做ス(明治四十四年法律第十號ヲ以テ本條ヲ改正)
第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ
第三十五條第一項ニ依リモノヲ除外ノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ
前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存続期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ
第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス
鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示ニ其ノ告示セザルモノハ之ヲ檢定ス
第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ
第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス
第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、採掘鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得(明治四十四年法律第十

第七十條 土地ノ使用及收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利ニ之ヲ準用ス

第四章 鑛業警察
第七十一條 鑛業ニ關スル左ノ警察事務ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農商務大臣及「鑛山監督署長」ニ行フ
一 建設物及工作物ノ保安
二 生命及衛生ノ保護
三 危害ノ豫防其ノ他公益ノ保護
第七十二條 鑛業上危害ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認メタルキハ農商務大臣ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ
第七十三條 農商務大臣ハ採掘權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ改任ヲ命スルコトヲ得
第七十四條 鑛業權消滅シタル後ト雖一箇年間ハ農商務大臣及「鑛山監督署長」ハ第七十二條ノ規定ニ準シ其ノ鑛業權ヲ有セシ者ニ對シテ危害豫防ニ關スル設備ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得
前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ危害豫防ノ目的ノ範圍内ニ於テ鑛業權者ト看做ス
第五章 鑛夫
第七十五條 採掘權者ハ鑛夫ノ雇傭及勞務ニ關スル規則ヲ定ム「鑛山監督署長」ノ許可ヲ受クヘシ
第七十六條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ鑛夫名簿ヲ鑛業事務所ニ備置クヘシ
第七十七條 鑛業權者鑛夫ヲ解雇シタル場合ニ於テハ其ノ請求ニ因リ雇傭ノ期間、業務ノ種類、技能、賃金及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ
第七十八條 鑛業權者ハ毎月一回以上前日ヲ定メ通貨ヲ以テ鑛夫ニ其ノ賃金ヲ支拂フヘシ
第七十九條 農商務大臣ハ命令ヲ以テ鑛夫ノ年齢及就業時間、婦女、幼若ノ勞務ノ種類ヲ制限スルコトヲ得
第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上ノ負擔、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ大正十三年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ改正
第八十一條 鑛業權者ニハ鑛業稅ヲ課ス
金銀、銀、鉛、錫及鐵礦ニ付テハ鑛產稅ヲ課セズ
自己ノ掘採シタル鑛物ト他人ヨリ取得シタル鑛物トヲ合併シ製鍊スル場合ニ於テ其ノ取得鑛物ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テモ亦前項ノ同シ但シ其ノ取得鑛物ノ數量カ自己ノ掘採シタル鑛物ノ數量ニ超過スルキハ其ノ超過部分ヨリ製出シタル鑛產物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(明治四十四年法律第九號ヲ以テ本項ヲ追加)
第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業收益稅ヲ課セズ(昭和二年法律第三十六號ヲ以テ本條ヲ改正)
第八十三條 鑛區稅ハ鑛區一十坪毎ニ毎年試掘ニ付テハ三十錢、採掘ニ付テハ六十錢トス但シ一十坪未滿ハ之ヲ一十坪ト看做ス(明治四十四年法律第十號ヲ以テ本條ヲ改正)
第八十四條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ
第三十五條第一項ニ依リモノヲ除外ノ外鑛業權ノ設定若ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ
前項ニ依リ納付スヘキ鑛區稅ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス鑛業權ノ存続期間滿了ノ年ニ係ルモノ亦同シ
第八十五條 鑛產稅ハ鑛產物ノ價格ノ百分ノ一トス
鑛產物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示ニ其ノ告示セザルモノハ之ヲ檢定ス
第八十六條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ
第八十七條 共同鑛業權者ノ納稅義務ハ連帶トス
第八十八條 北海道、府縣及市町村ハ鑛業稅ニ對シ各鑛產稅百分ノ十、試掘鑛區稅百分ノ三、採掘鑛區稅百分ノ七以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得(明治四十四年法律第十

第八十條 鑛業權者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ鑛夫カ業務上ノ負擔、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

第八章 罰則
第九十四條 鑛業權者有セシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ許偽ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ「重禁錮」又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス
第九十六條 第十條第三項若ハ第十一條ノ規定ニ違背シタル者又ハ第七十二條若ハ第七十四條第一項ノ命令ニ從ハサル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十七條 第四十四條若ハ第四十五條第二項ノ規定ニ違背シタル者、第四十五條第一項若ハ第七十三條第一項ノ命令ニ從ハサル者又ハ第七十九條若ハ第八十條ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十八條 第四十六條乃至第四十八條、第七十六條又ハ第七十八條ノ規定ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 第五十三條第一項ノ許可ヲ受ケシテ障礙物ヲ除却シタル者又ハ第七十五條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
當該官吏ニ對シテ鑛業ニ關スル書類若ハ物件ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ前項ノ同シ但シ其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依リ
第七十七條ノ規定ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
詐偽其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ鑛業稅ヲ免レ又ハ免

レムトシタル者ハ其ノ脱税金額三倍ニ相當スル罰金ニ處ス
 第八條 本法又ハ本法ニ其ノ手發スル命令ノ規定ニ違背シタル者ニハ刑法ノ減輕ノ再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用キス
 第九條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ルトキハ本法又ハ本法ニ其ノ手發スル命令ノ規定ニ依リ鑛業權者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第十條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
 本法ニ其ノ手發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ
 第十一條 前二條ノ場合ニ於テハ「禁錮」又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス
 第十二條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ其ノ手發スル命令ニ依リ犯罪ニシテ適用ス

附則

第十三條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第十四條 鑛業條例ハ之ヲ廢止ス
 第十五條 鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可ハ試掘權ノ登錄ト看做ス
 第十六條 日本坑法ニ依ル借區ノ許可及鑛業條例ニ依リ採掘ノ特許ハ採掘權ノ登錄ト看做ス但シ鑛業條例第四十一條第二項ニ定メタル面積ニ滿タル鑛區ニ對スルモノハ其ノ期限ノ到來ニ因リテ消滅ス
 第十七條 本法施行前ニ於ケル官廳所屬ノ採掘區域ハ採掘權區トシ本法施行ノ日ニ於テ採掘權ノ登錄ヲ得タルモノト看做ス

第十八條 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス
 第十九條 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ採掘スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ採掘區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ
 第二十條 前項ノ採掘者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ採掘ヲ繼續スルコトヲ得

第二十一條 鑛業條例ニ依リ採掘權ノ書入ノ登錄ハ抵當權ノ登錄ト看做ス
 第二十二條 第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ試掘認可又ハ採掘特許ノ消滅シタル場合ニモ之ヲ適用ス但シ一箇年ノ期間ハ其ノ消滅ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第二十三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス
 第二十四條 明治三十八年分ノ鑛區稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス
 第二十五條 第八十八條ノ規定ハ明治三十八年度分ノ稅ニ限リテ適用セズ
 第二十六條 鑛業條例ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ其ノ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第二十七條 本法施行前ニ爲シタル處分ニ對スル訴訟、裁定請求、行政訴訟又ハ民事訴訟ニ關シテハ鑛業條例ノ規定ニ依リ
 第二十八條 鑛業條例ニ依リ試掘又ハ採掘ヲ出願シタル鑛區ノ面積ニ付テハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ヲ適用ス
 第二十九條 明治三十七年十二月三十一日以前ヨリ引續キ重石鑛又ハ水鉛鑛ヲ採掘スル者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ採掘區域ニ限リ第三十一條、第三十三條及鑛區ノ面積ニ關スル第九條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ
 第三十條 前項ノ採掘者ニシテ明治三十八年七月三十一日迄ニ其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ採掘ヲ繼續スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル區域ノ面積五千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第二十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第三十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第四十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第五十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第六十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第七十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第八十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十一項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十二項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十三項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十四項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十五項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十六項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十七項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十八項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第九十九項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス
 第一百項ノ規定ニ依リ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキ消滅ス

鑛業抵當法

(明治三十八年三月十三日法律第五十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル鑛業抵當法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一章 鑛業抵當法
 第一條 採掘權者ハ抵當權ノ目的ト爲ス爲鑛業財團ヲ設クルコトヲ得
 第二條 鑛業財團ハ左ニ掲クルモノニシテ鑛業ニ關シ同一採掘權者ニ屬スルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ之ヲ組成スルコトヲ得
 一 鑛業權
 二 土地及工作物
 三 地上權及土地ノ使用權
 四 賃貸人ノ承諾アルトキハ物ノ賃借權
 五 機械、器具、車輛、船舶、牛馬其ノ他ノ附屬物
 第三條 鑛業財團ニ付テハ工場抵當法中工場財團ニ關スル規定ヲ準用ス
 第四條 採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督署長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ直ニ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルトキハ抵當權者ハ第一項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ
 採掘權ハ前項ノ期間内又ハ抵當權實行ノ終了ニ至ル迄抵當權實行ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス
 競落人又ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ハ採掘權取消ノ登錄アリタルトキニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス
 前二項ノ規定ハ錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可セラレタル場合又ハ鑛業カ公益ヲ害スルモノト認メラレタル場合ニ於ケル採

掘權ノ取消ニ關シテハ之ヲ適用セズ
 第五條 前條ノ規定ハ採掘權者カ廢業シタル場合ニ之ヲ適用ス
 第六條 競賣ニ付セラレタル鑛業ヲ目的トシ帝國法律ニ從ヒ法人ヲ設立セムトスル者カ競賣ニ加入スルトキハ競買ノ申込ト同時ニ其ノ旨ヲ執行裁判所ニ申出ツヘシ
 前項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入スル者ハ競買ノ申込ニ關シテハ連帶シテ其ノ責任ヲ負フ
 第七條 鑛業財團ノ競落人カ前條第一項ノ規定ニ依リ競賣ニ加入シタル者ナルトキハ競落ヲ許ス決定ヲ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ法人ヲ設立シ之ヲ執行裁判所ニ届出ツヘシ
 第八條 前條ノ競落人ハ法人設立ノ日ヨリ一週間以内ニ競落代金ヲ執行裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競落人タル場合ニ於テハ自己カ競落代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル
 第九條 前條ノ規定ニ依リ競落代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鑛業財團ノ所有權ハ競落人ニ依リテ設立セラレタル法人ニ移轉ス
 第十條 第七條ノ期間内ニ法人設立ノ届出ナキトキ又ハ第八條ノ期間内ニ競落代金ノ支拂ナキトキハ執行裁判所ハ職權ヲ以テ鑛業財團ノ再競賣ヲ命スヘシ
 前項ノ再競賣ニ關シテハ民事訴訟法第六百八十八條ノ規定ヲ準用ス
 第十一條 工場抵當法中工場財團ニ關スル罰則ハ鑛業財團ニ關シテ之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十八年勅令第百八十八號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

鑛業抵當法

砂鑛法

(明治四十二年三月二十五日) 法律第十三號

改正、大五、法三一

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ砂鑛法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

砂鑛法

第一條 本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錳其ノ他沖積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ(大正五年法律第三十一號ヲ以テ本項ヲ改正)

第二條 本法ニ於テ砂鑛業ト稱スルハ砂鑛ノ採取及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ砂鑛區ト稱スルハ砂鑛權ノ登録ヲ得ル土地ノ區域ヲ謂フ

第四條 砂鑛權者ハ砂鑛區内ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 砂鑛區鑛區ト重疊スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採取及採掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

第六條 協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第七條 砂鑛權者ハ砂鑛區内ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八條 砂鑛區鑛區ト重疊スル場合ニ於テハ砂鑛權者及鑛業權者ハ其ノ採取及採掘又ハ試掘ニ付互ニ協議ヲ爲スヘシ

第九條 協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者又ハ鑛業權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第十條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第十一條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスル時ハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第十二條 土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第十三條 前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムコトヲ得

第十四條 砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サズ又ハ擔保ヲ供セザルトキハ第十二條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第十五條 補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第十六條 前條ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十七條 砂鑛權者ハ砂鑛區内ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第十九條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスル時ハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第二十條 土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十一條 前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムコトヲ得

第二十二條 砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サズ又ハ擔保ヲ供セザルトキハ第二十一條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第二十三條 補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ裁決ニ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十五條 砂鑛權者ハ砂鑛區内ニ於ケル各種ノ砂鑛ヲ採取スル權利ヲ有ス但シ第六條ノ砂金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 砂鑛權者ハ砂鑛區ノ減少ヲ出願セムトスル時ハ抵當權者ノ承諾ヲ受クヘシ

第二十八條 土地所有者、地上權者、永小作權者又ハ土地ニ對シ使用ノ權利ヲ有スル者ハ其ノ土地ニ於テ砂鑛ヲ採取セムトスル者ニ對シ相當ノ補償金ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 前條ノ請求權者ハ砂鑛權者ヲシテ補償金ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムコトヲ得

第三十條 砂鑛權者補償金ノ拂渡ヲ爲サズ又ハ擔保ヲ供セザルトキハ第二十九條ノ請求權者ハ砂鑛ノ採取ヲ拒ムコトヲ得

第三十一條 補償金又ハ其ノ擔保ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ砂鑛權者ハ鑛山監督署長ノ裁決ヲ申請スルコトヲ得

砂鑛法

附則

第三十二條 本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十三條 砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス

第三十四條 砂鑛採取法ニ依ル砂鑛採取ノ許可ハ之ヲ砂鑛權ノ登録ト看做ス

第三十五條 本法施行前ニ金鑛ヲ目的トスル鑛業ノ出願ヲ爲シタル者第一條第二項ノ砂金ノミヲ採取セムトスルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之ヲ鑛山監督署長ニ届出ツヘシ

第三十六條 前項ノ届出アリタルトキハ鑛業ノ出願ハ願書發送ノ日時ニ於テ砂鑛權ノ出願ニ代リタルモノト看做ス

第三十七條 本法施行前設定シタル砂鑛權ニシテ第一條第二項ノ砂金ノミヲ目的トスルモノニ付テハ命令ノ定ムル期間内ニ其ノ鑛區ニ付砂鑛權設定ノ登録ヲ申請スヘシ其ノ登録アリタルトキハ鑛業權ノ上ニ現ニ存スル權利義務ハ砂鑛權ノ上ニ存ス

第三十八條 前項ノ鑛業權ニ關シテハ砂鑛權ノ登録アル迄仍舊業法ヲ適用ス

第三十九條 第一項ノ鑛業權ニシテ鑛業財團ヲ組成スルモノニ付テハ砂鑛權ノ登録アリタル後ト雖其ノ財團ノ關係ニ於テハ之ヲ鑛業權ト看做ス

第四十條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シテ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十一條 本法施行前砂鑛採取法ニ依リ又ハ本法第一條第二項ノ砂金ニ關シテ鑛業法ニ依リテ爲シタル處分ニ對スル訴訟、訴訟ノ判定、裁定又ハ裁決ニ關シテハ各砂鑛採取法又ハ鑛業法ノ規定ニ依ル

第五十六條ニ依ル土地ノ使用ハ左ノ場合ニ限ル

- 一 洗鑛
二 製鍊所ノ建設
三 洗鑛用水路及溜池ノ開設
四 砂鑛原料ノ置場

第五十七條 當該官吏砂鑛業取締ノ爲必要アリト認ムルトキハ工場其ノ他ノ場所ニ檢査スルコトヲ得

第五十八條 當該官吏砂鑛業取締ノ際砂鑛業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ捜査ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第五十九條 檢査、捜査及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ適用ス

第六十條 權利ヲ有セスシテ砂鑛業ヲ爲シ又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ砂鑛採取ノ許可ヲ受ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 第二十三條ニ於テ進用シタル鑛業法第十條第三項又ハ同法第七十二條ノ命令ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 砂鑛權ノ出願又ハ砂鑛業ノ爲ニ他人ノ土地ニ立入り測量又ハ檢査ヲ爲ス場合ニ於テ鑛山監督署長ノ許可ヲ受ケズシテ障礙物ヲ除去シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 當該官吏ノ訊問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執行ヲ拒ミ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ罰金ニ處ス

第六十四條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ適用ス

第六十五條 鑛業法第五條、第六條、第七條第一項第二項、第十條、第十二條、第十五條、第十六條、第十九條、第二十條、第二十七條、第三十二條、第三十三條第一項第二項、第三十五條、第三十八條乃至第三十九條

●漁業法

(明治四十三年四月二十一日) (法律第五十八號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ漁業法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漁業法

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ
本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ
第二條 公共ノ用ニ供セザル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用セス
第三條 公共ノ用ニ供セザル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セザル水面ニハ本法ヲ適用ス
前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之ヲ利用シ又ハ廢止スルコトヲ得
第四條 漁具ヲ設置シ又ハ水面ヲ圍圍シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得トスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣ノ旨ヲ指定ス
第五條 水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得トスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ
前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス
第六條 前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケルニ必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第七條 漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ適用ス
民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス
第八條 漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁業ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ

附加シテ之下一體ヲ成シタル物ト看做ス

第九條 裁判所ノ土地ノ管轄カ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁業ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動産所在地ト看做ス
第十條 漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス
地先水面ノ專用ノ漁業權ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス
第十一條 漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ
第十二條 入漁權者ハ設定行為又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ專用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ專用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス
第十三條 入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス
第十四條 入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十五條 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ス
第十六條 漁業權ノ存續期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依リ但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基キ命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス
前項ノ期間ハ漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得
第十七條 設定行為ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業ヲ存續中存續スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニモ其ノ權利ヲ放棄スルコトヲ得
第十八條 入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

入漁權者カ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルキハ漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 入漁料ハ入漁ヲ爲ササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス
第二十條 入漁權ニ關シ前二條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ
第二十一條 行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得
第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スルコトヲ得
第二十三條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基キ命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス
第二十四條 水産動物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊緊留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スルコトヲ得
漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キ發スル命令ニ違反シタルトキハ漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得
第二十五條 錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スルコトヲ得
第二十六條 免許漁業原簿ノ登記ハ登記ニ代ハルモノトス
第二十七條 漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登録シタル抵當權者及先取特權者ニ通知セス
前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ放棄ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二

十五條ノ規定ニ依リ取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ廢止ノ手續完結ノ日迄發賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス
發賣ニ依リ發賣金ハ發賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ清償ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス
發賣ノ決定ハ確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セザリシモノト看做ス
第二十八條 漁業權ハ登録シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割、變更又ハ放棄スルコトヲ得ス
第二十九條 漁業權者ハ左ニ掲ケル目的ノ爲ニ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得
一 漁場ノ標識ノ建設
二 魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備
三 漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設
第三十條 漁業權者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ヲ他人ノ土地ニ立入リ漁業ヲ爲スコトヲ得
第三十一條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲ニ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入リ支障木竹ヲ伐採シ又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得
第三十二條 前三條ノ行為ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲シ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ
第三十三條 行政官廳ハ漁業權者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命令スルコトヲ得
第三十四條 地方長官ハ水産動物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得
一 水産動物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止
二 水産動物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止
三 漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止

漁業法

四 漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限

五 水産動物ノ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止
六 水産動物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止
主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ノ沒收並犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徴ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得
第三十五條 汽船「トロール」漁業又ハ汽船捕鯨業ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ禁ムコトヲ得
第三十六條 爆發物ノ使用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三十七條 主務大臣ハ遼河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得
工作物ニシテ遼河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命ジタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命ジタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者ノ補償スヘシ
前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第三十九條 公共ノ用ニ供セザル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノハ命令ヲ以テ第三十四

條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第四十條 漁業ニ從事スル者ノ履帶並履入及遺族ノ扶助ニ關シハ勸令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得
第四十一條 海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得
前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得
臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ適用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ適用セス
第四十二條 一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得
漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
市制町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ市町村ニ進スヘキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス
北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得
第四十三條 漁業組合ハ法人トス
漁業組合ハ漁業權者ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス
漁業組合ハ自ら漁業ヲ營ムコトヲ得
組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得
第四十四條 漁業組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行

政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合會ヲ設クルコトヲ得

漁業組合會ハ法人トス

第四十五條 漁業組合及漁業組合會ニハ所得稅及營業稅ヲ課セズ

第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合會ノ設立ハ其ノ主ナル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第四十七條 行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合會ノ決議若ハ役員ノ行為ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スル虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消

二 役員ノ解職

三 組合又ハ聯合會ノ解散

第四十九條 本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合會ノ設立、登記、管理、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 漁業組合又ハ漁業組合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會力之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

前二項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至

第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第五十一條 漁業者又ハ水産動物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲メ水産組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條 水産組合成立シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五十三條 水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲メ水産組合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條 水産組合及水産組合會ハ法人トシ重要物產同業組合法ヲ準用ス

第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對シテ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依リ處分ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起シ違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條 漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴訟ヲ提起シ違法ニ權利ヲ侵害セラレタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依リ裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者

三 專用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第五十九條 汽船トローラ漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處シ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十一條 漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依リ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及處檢搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ

基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ズ

第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス

附則

第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム明治四十四年勅令第四百二十八號ヲ以テ同四十四年四月一日ヨリ施行ス

第六十七條 本法ハ鰐虎及鰐鰂ノ漁獲ニ之ヲ適用セズ

第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同シ

第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シタルモノト看做ス

第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限り登錄ナキモノヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴訟又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限り登記ナキモノノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

ニ依ルシ
 第二十一條 組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス
 第二十二條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承継ス
 第二十三條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス
 第二十四條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得
 第二十五條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法法令又ハ定款ニ違背スト認ムルキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第二十六條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クシ
 理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)
 第二十七條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニテラス
 第二十八條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得
 第二十九條 理事及監事ノ選任及解任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニテラス
 第三十條 理事ハ定款及總會ノ決議ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ
 第三十一條 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得
 第三十二條 組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ(明治

四十二年法律第二十七號ヲ以テ本條ヲ追加)

一 各組合員ノ氏名、住所
 二 各組合員ノ出資口數
 三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
 四 出資各口ノ取得ノ年月日
 五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備ヘシ
 第三十三條 組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覧ヲ求ムルコトヲ得
 第三十四條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ
 第三十五條 産業組合カ其ノ組合員ニ對シテ寫ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル
 第三十六條 前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スルカシキ時ニ到達シタルモノト看做ス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第三十七條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス
 第三十八條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス
 第三十九條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス
 第四十條 理事缺ケタルトキハ總會ノ招集ハ監事ニ之ヲ行フ
 第四十一條 理事力第二十三條ノ規定ニ依リ請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲ササルトキハ監

事ハ其ノ總會ヲ招集スシ大正十年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十二條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ
 第三十三條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス
 第三十四條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス
 第三十五條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス
 第三十六條 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得
 第三十七條 總會ニ關スル規定ハ前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得(明治三十九年法律第四十五號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第三十八條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ
 第三十九條 第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
 第四十條 定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼス
 第四十一條 組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルヘシ
 第四十二條 組合カ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シテ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

第四十二條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ベサルトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス
 債權者カ異議ヲ述ベタルトキハ組合ハ之ヲ辨濟ス爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス
 第四十三條 前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス
 第四十四條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ミ終ル迄ハ之ニ相當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ但シ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ相當スヘキ剩餘金ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(大正十五年法律第五十四號ヲ以テ本項但書ヲ追加)
 第四十五條 組合員ニ相當スヘキ剩餘金又ハ持分ノ計算ニ付テハ計算ノ基礎ト爲ルヘキ金額ニシテ計算上不便ナル端數金額ハ之ヲ切捨ツルコトヲ得(大正十年法律第七十三號ヲ以テ本項ヲ追加、同十五年法律第五十四號ヲ以テ改正)
 第四十六條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十七條 剩餘金配當ニ關スル制限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十九年法律第四十五號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第四十八條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス
 第四十九條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ
 第五十條 信用組合ハ第一條第四項ノ規定ニ依リ貯金ノ總額ノ四分ノ一以上ノ金額ヲ拂戻準備金トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ管理スヘシ
 第五十一條 前項ノ金額ハ事業年度ニ從ヒ毎六箇月末日現在ノ貯金總額ニ依リ之ヲ定ム
 第五十二條 第一條第四項ノ規定ニ依リ貯金ヲ爲シタル者ハ第一項ノ拂戻準備金ノ上ニ先取特權ヲ有ス大正六年法律第二十二

號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第四十六條ノ三 有限責任又ハ保證責任ノ信用組合第一條第四項ノ規定ニ依リ貯金ニ關スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ各理事連帶シテ之ヲ辨濟スルノ責ニ任ス
 前項ノ規定ニ依リ理事ノ責任ハ其ノ退任前ノ債務ニ付退任ノ登記後二箇年間仍存續ス同上本條ヲ追加)
 第四十七條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス
 第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

除名ハ總會ノ決議ニ依リ但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス
 第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス
 第二十九條 脫退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得
 第三十條 脫退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脫退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産ニ依リテ之ヲ定ム但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脫退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得(明治三十九年法律第四十五號、同四十二年法律第二十七號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第三十一條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脫退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ(明治三十九年法律第四十五號ヲ以テ本項但書ヲ追加)
 第三十二條 持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス
 第三十三條 持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ脫退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失額ヲ拂込ムヘシ
 第三十四條 脫退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得
 第三十五條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脫退シタル組合員ハ脫退前ノ組合債權者ニ對シテ其ノ脫退ノ組合原簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス
 第三十六條 前項ノ規定ニ依リ期間ハ總會組合員ノ同意アルトキハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)
 第三十七條 前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セザル限リ之ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四十條及

第五十三條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 組合員ノ加入ハ無限責任組合ニ在リテハ總會組合員ノ同意アルコトヲ要ス
 第五十五條 前項ノ同意ニ付テハ總會組合員ニ對シ加入ニ異議アラハ二週間ヲ下ラサル一定ノ期間内ニ之ヲ述ベキ旨ヲ催告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ其ノ期間内ニ異議ヲ述ベサル者ハ同意ヲ爲シタルモノト看做ス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第五十六條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否ト問ハス組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ
 第五十七條 前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
 第五十八條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脫退ス
 一 組合員タル資格ノ喪失
 二 死亡
 三 破産
 四 禁治産
 五 除名

第五十九條 前項ノ規定ニ依リ延長シタル期間ハ第一項ノ規定ニ違背セザル限リ之ヲ短縮スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第四十條及

産業組合法 管理 加入及脱退

六 役員ニ關スル規定
 七 會議ニ關スル規定
 八 事業ノ執行ニ關スル規定
 九 定款ノ變更ニ關スル規定
 十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼズ

第八十七條 産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ主務大臣事務所所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

登記スヘキ事項左ノ如シ

- 一 目的及第八十二條第三項ノ規定ニ依ル事業ノ種類
- 二 第八十六條第一項第一號、第二號及第十號ニ掲ケタル事項
- 三 資産ノ總額
- 四 設立許可ノ年月日
- 五 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(同上本項ヲ改正)

第十六條ノ三ノ規定ハ第一項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ同條中地方長官トシテハ主務大臣トス(同上本項ヲ追加)

第八十八條 産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

第八十九條 産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第九十條 産業組合中央會ノ總會ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ會

員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第六十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス

第九十一條 産業組合中央會ハ主務大臣ノ之ヲ監督ス

第九十二條 第三條、第五條乃至第七條、第十條、第十五條、第十六條、第二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、第四十七條、第六十條、第六十一條、第六十二條第一項第一號、第六十三條、第六十四條、第六十五條、第六十六條乃至第六十七條、第八十條第二項、第九十三條ノ二及第九十四條並民法第六十二條及第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス但シ第六十五條、第七十三條ノ二及第七十三條ノ三中並第六十三條、第七十四條及第七十四條ノ二ニ於テ準用シタル第十六條ノ三中地方長官トシテハ主務大臣トス(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

第十章 罰則

第九十三條 組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスル間ハ組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付若ハ手形ノ割引ヲ爲シ又ハ投資取引ヲ爲シ組合財産ノ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アリ場合ニハ之ヲ適用ス(同上本條ヲ追加、第九十三條第九十三條ノ二ニ改ム)

第九十三條ノ二 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 本法ニ定メタル届出若ハ組合原簿ヲ提出スルコトヲ怠リ又ハ不正ノ届出ヲ爲シ若ハ組合原簿ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ改正)

- 二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由ヲシテ其ノ閲覧ヲ拒ミタルトキ
- 四 第一條第五項、第四十三條、第四十五條乃至第四十六條ノ二、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背シタルトキ(同上本項ヲ改正)
- 五 第六十條ノ報告ヲ爲サズ又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ
- 六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ
- 七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ
- 八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ
- 九 組合ノ目的タル事業ニ非サル營利事業ヲ營ミタルトキ(明治四十二年法律第二十七號ヲ以テ本項ヲ追加)
- 十 第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ違背シテ出資一口ノ金額若ハ組合員ノ保證金額ヲ減少シ、第五十八條ノ規定ニ依ル責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併若ハ組織變更ヲ爲シタルトキ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本項ヲ追加)
- 十一 法令又ハ定款ニ違背シテ剩餘金ヲ處分シタルトキ(同上本項ヲ追加)

第九十三條ノ三 第四條第二項又ハ第八十三條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處セラル(大

正六年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ追加)

第九十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス(大正十年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

附則

第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十三年勅令第三百一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行ス)

第九十六條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所、産業組合聯合會及産業組合中央會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トシ明治四十二年法律第二十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十七條 各登記所ニ産業組合登記簿、産業組合聯合會登記簿及産業組合中央會登記簿ヲ備フ(同上本條ヲ改正)

第九十八條 登記ノ囑託ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

囑託書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ(大正六年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

- 一 産業組合、産業組合聯合會又ハ産業組合中央會ノ名稱及事務所
- 二 登記ノ目的及事由
- 三 年月日
- 四 登記所ノ表示

第九十九條 設立登記ノ囑託書ニハ定款及届書ヲ添附シ其ノ他ノ登記ノ囑託書ニハ届出ニ因ル場合ニ於テハ届書ヲ添附スヘシ(同上本條ヲ改正)

第一百條 (同上本條ヲ削除)

第一百條 (同上本條ヲ削除)

第一百條 (同上本條ヲ削除)

第九十三條 (同上本條ヲ削除)

第九十四條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所選審ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合原簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(明治四十二年法律第二十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十五條 非訟事件手續法第三百十八條、第三百十八條ノ二、第四百一十一條乃至第四百十六條、第四百十八條、第四百四十八條ノ二、第五百一十一條乃至第五百一十八條、第六百七十五條ノ規定ハ産業組合、産業組合聯合會及産業組合中央會ニ之ヲ準用ス

第九十六條 (大正十五年法律第五十四號ヲ以テ本條ヲ削除)

第九十七條 (大正六年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ削除)

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前産業組合カ裁判所ニ差出シタル組合員名簿ハ組合原簿ト看做ス

附則 (大正六年法律第二十二號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正六年勅令第九十九號ヲ以テ同年十一月一日ヨリ施行ス)

本法施行前ニ登記シタル産業組合及産業組合聯合會ニシテ定款ニ區域ノ定アルモノニ付テハ地方長官ハ本法施行ノ日ヨリ三月内ニ區域ノ登記ヲ各事務所所在地ノ登記所ニ囑託スヘシ

附則 (大正十年法律第七十三號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第三百七十一號ヲ以テ同年八月十日ヨリ施行ス)

本法施行前ニ設立シタル生産組合又ハ生産組合聯合會ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル利用組合又ハ利用組合聯合會ト看做ス

附則 (大正十五年法律第五十四號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年勅令第三百三十號ヲ以テ同年五月二十五日ヨリ施行ス)但シ第五十九條及第六十六條ニ關スル規定ハ郡長及島司廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道營業法 (明治三十三年三月十六日)

改正、明四三—法五〇、大八—法五四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鐵道營業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

鐵道營業法

第一章 鐵道ノ設備及運送

第一條 鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規程ニ依ルヘシ
第二條 本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

三 運送カ法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反セザルトキ
四 貨物カ成規ニ依リ其ノ線路ニ於ケル運送ニ適スルトキ
五 天災事變其ノ他已ムラ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支障ナキトキ

前項ノ規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス
第七條 運送ニ付特別ノ設備ヲ要スル貨物ニ關シテハ鐵道ハ其ノ設備アル場合ニ限リ之ヲ引受ケルノ義務ヲ負フ

第八條 鐵道ハ直ニ運送ヲ爲シ得ヘキ場合ニ限リ貨物ヲ受取ルヘキ義務ヲ負フ
第九條 貨物ハ運送ノ爲受取リタル順序ニ依リ之ヲ運送スルコトヲ要ス但シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スヘキコトヲ荷送人ニ求ムルコトヲ得若シ其ノ種類及性質ニ付疑アルトキハ荷送人ノ立會ヲ以テ之ヲ點檢スルコトヲ得

第十一條 貨物ノ種類及性質カ荷送人ノ明告シタル所ト異ナル場合ニ限リ鐵道ハ點檢ニ關スル費用ヲ負擔シ且之ヲ發生シタル損害ヲ賠償スルノ責任ニ任ス

第十二條 牛馬其ノ他ノ獸類ニ付テハ荷送人カ運送委託ノ際價格ヲ明告セザルトキ又ハ明告スルモ鐵道運輸規程ニヨリ鐵道ノ請求スル増賃金ヲ支拂ハサルトキハ其ノ限ニ在ラス

第十三條 惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル手荷物ノ滅失、毀損ニ付テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ニ定ムル最高金額迄ノ限リ損害賠償ノ責任ニ任ス

第十四條 荷受人及荷送人ヲ確知スルコト能ハサル運送品ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ公告ヲ爲シタル後六月内ニ其ノ權利者ヲ知ル能ハサル場合ニ於テハ鐵道其ノ所有權ヲ取得スル手荷物及一時預リ品ニ付亦同シ明治四十三年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加

第十五條 鐵道カ其ノ責任ニ關スルハカサル事由ニ因リ貨物ノ引渡ヲ爲スコト能ハサルトキハ貨主ノ費用ヲ以テ之ヲ倉庫營業者ニ委託スルコトヲ得

第十六條 鐵道ハ運送品ノ積込ニ關シテ積込人及積受人ニ對シ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第十七條 貨物ヲ寄託シタル場合ニ於テ倉庫證券ヲ作製セシムルトキハ其ノ證券ノ交付ヲ以テ貨物ノ引渡ニ代フルコトヲ得

第十八條 第一項ノ費用ノ辨濟ヲ受ケル迄倉庫證券ヲ留置スルコトヲ得

第十九條 前四項ノ規定ハ貨物ノ引取期間内ニ其ノ引取ナキ場合ニ之ヲ準用ス大正八年法律第五十四號ヲ以テ本條ヲ追加

第二十條 運賃價還ノ權限ハ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第二十一條 旅客ハ營業上別段ノ定アル場合ノ外運賃ヲ支拂ヒ乘車券ヲ受ケルニ非サレハ乘車スルコトヲ得ス

第二十二條 乘車券ヲ有スル者ハ列車中座席ノ存在スル場合ニ限リ乘車スルコトヲ得

第二十三條 旅客カ乘車前旅行ヲ止メタルトキハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ運賃ノ未納トシテ乘車スルコトヲ得

第二十四條 天災事變其ノ他已ムラ得サル事由ニ因リ運送ニ著手シ又ハ之ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ鐵道ハ既ニ寫シタル運送ノ割合ニ應ジ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第二十五條 旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乘車券ヲ呈示シ檢査ヲ受ケヘシ

第二十六條 有效ノ乘車券ヲ所持スル者又ハ乘車券ノ檢査ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル者ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ罰金又ハ拘留ヲ受ケルコトヲ得

第二十七條 前項ノ場合ニ於テ乘車停車場不明ナルトキハ其ノ列車ノ出發停車場ヨリ運賃ヲ計算ス乘車等級不明ナルトキハ其ノ列車ノ最優等級ニ依リ運賃ヲ計算ス(明治四十三年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十八條 鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乘車券ヲ呈示シ檢査ヲ受ケヘシ

第二十九條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 地方鐵道業者ハ鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス(大正八年法律第五十四號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十一條 主務大臣ハ鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 旅客及公眾ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第三十三條 地方鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ケ

第三十四條 地方鐵道業者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケ

第三十五條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條 鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケ

第三十七條 鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第三十八條 旅客及公眾ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第三十九條 地方鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ケ

第四十條 地方鐵道業者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケ

第四十一條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケ

第四十三條 鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第四十四條 旅客及公眾ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第四十五條 地方鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ケ

第四十六條 地方鐵道業者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケ

第四十七條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケ

第四十九條 鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第五十條 旅客及公眾ニ對スル職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第五十一條 地方鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ケ

第五十二條 地方鐵道業者ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケ

第五十三條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十四條 鐵道係員ノ服務規程ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケ

第十九條 抵當權ハ鐵道財團又ハ之ニ屬スルモノノ讓渡、貸付、滅失又ハ毀損ニ因リテ會社力受クヘキ金錢其ノ他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ抵當權者ハ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

第二十條 會社力鐵道財團ヲ讓渡シ、貸付シ若ハ抵當ト爲シ、鐵道財團ニ關スル營業ノ管理委託ヲ爲シ、其ノ線路ヲ變更シ又ハ其ノ線路ノ全部若ハ一部ニ付營業ヲ休止セムトスルキ又ハ鐵道財團ニ屬スルモノノ處分セムトスルキハ抵當權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得

第二十一條 會社力鐵道財團ニ關スル工率方法ノ變更ニ付認事可ラ申請シタル場合ニ於テ其ノ變更力鐵道財團ノ價額ヲ著シク減スヘキ虞アリト認ムルキハ監督官廳ハ會社ヲシテ抵當權者ニ對シ異議アラハ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告セムヘシ(同上本項ヲ改正)

第二十二條 免許ノ失効又ハ取消ノ場合ニ於テハ抵當權者ハ其ノ權利ヲ實行スルコトヲ得
前項ニ依リ抵當權ヲ實行セムトスルキハ抵當權者ハ免許ノ失効又ハ取消ノ日ヨリ六箇月内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ
免許ハ前項ノ期間及抵當權實行ノ終了ニ至ル迄仍存續スルモノト看做ス

第二十三條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準ジテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ
或鐵道財團ノ代價ノ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在リテ抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツル迄ニ代價シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第二十四條 前條ノ規定ニ從ヒ代價ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ低當權ノ登錄ニ其ノ代價ヲ附記スルコトヲ得
第二十五條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケル債權ノ部分ニ付テニ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先テ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セズ但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケルカ爲メニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 政府力鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クモ一箇年前ニ豫告スヘシ
第二十七條 株式會社ニ非サル地方鐵道業者ノ鐵道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十八條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得
第二十九條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣ノラ定ム

第三十條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス
第三十一條 抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ監督官廳ノ官吏之ヲ付與ス(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十二條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第三十三條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之署名捺印スヘシ
一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所

第三十四條 執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要セズ
第三十五條 強制競賣ノ申立ハ競賣期日迄ハ競賣人ノ同意アル場合ニ限リテ之ヲ取下クルコトヲ得
第三十六條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之署名捺印スヘシ
第三十七條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ監督官廳ニ囑託スヘシ
監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十八條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ
第三十九條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時
三 最低競賣價額
四 競賣期日ノ場所及日時
五 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
第五十條 (同上本條ヲ削除)
第五十一條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スル者ハ競賣ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當

第三十條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準ジテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ
或鐵道財團ノ代價ノ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在リテ抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツル迄ニ代價シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第三十一條 前條ノ規定ニ從ヒ代價ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ低當權ノ登錄ニ其ノ代價ヲ附記スルコトヲ得
第三十二條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケル債權ノ部分ニ付テニ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先テ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セズ但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケルカ爲メニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 政府力鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クモ一箇年前ニ豫告スヘシ
第三十四條 株式會社ニ非サル地方鐵道業者ノ鐵道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十五條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得
第三十六條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣ノラ定ム

第三十七條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス
第三十八條 抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ監督官廳ノ官吏之ヲ付與ス(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十九條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第四十條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之署名捺印スヘシ
一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所

第四十一條 執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要セズ
第四十二條 強制競賣ノ申立ハ競賣期日迄ハ競賣人ノ同意アル場合ニ限リテ之ヲ取下クルコトヲ得
第四十三條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之署名捺印スヘシ
第四十四條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ監督官廳ニ囑託スヘシ
監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四十五條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ
第四十六條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時
三 最低競賣價額
四 競賣期日ノ場所及日時
五 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
第五十條 (同上本條ヲ削除)
第五十一條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スル者ハ競賣ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當

第四十六條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第四十七條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之署名捺印スヘシ
一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所

第四十八條 執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要セズ
第四十九條 強制競賣ノ申立ハ競賣期日迄ハ競賣人ノ同意アル場合ニ限リテ之ヲ取下クルコトヲ得
第五十條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之署名捺印スヘシ
第五十一條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ監督官廳ニ囑託スヘシ
監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第五十二條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ
第五十三條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時
三 最低競賣價額
四 競賣期日ノ場所及日時
五 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
第五十條 (同上本條ヲ削除)
第五十一條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スル者ハ競賣ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當

第五十四條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第五十五條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之署名捺印スヘシ
一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所

鐵道抵當法 登錄 強制競賣及強制管理

第三十條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ鐵道財團ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其ノ代價ヲ配當スヘキトキハ其ノ各鐵道財團ノ價額ニ準ジテ其ノ債權ノ負擔ヲ分ツ
或鐵道財團ノ代價ノ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其ノ代價ニ付債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ次ノ順位ニ在リテ抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ鐵道財團ニ付辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツル迄ニ代價シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

第三十一條 前條ノ規定ニ從ヒ代價ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其ノ低當權ノ登錄ニ其ノ代價ヲ附記スルコトヲ得
第三十二條 抵當權者ハ鐵道財團ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケル債權ノ部分ニ付テニ他ノ財產ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得前項ノ規定ハ鐵道財團ノ代價ニ先テ他ノ財產ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セズ但シ他ノ債權者ハ抵當權者ヲシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケルカ爲メニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

第三十三條 政府力鐵道及附屬物件ヲ買上ケタル場合ニ於テ抵當權設定後二十箇年又ハ据置年限ヲ經過シタルトキハ抵當附債務ヲ辨濟スルコトヲ得但シ少クモ一箇年前ニ豫告スヘシ
第三十四條 株式會社ニ非サル地方鐵道業者ノ鐵道ノ抵當ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依ル(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十五條 登錄ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外當事者抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得
手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ鐵道抵當原簿ノ謄本又ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得
第三十六條 鐵道抵當原簿ノ調製、鐵道財團目錄ノ様式其ノ他登錄ニ關スル細則ハ主務大臣ノラ定ム

第三十七條 鐵道財團ニ對スル抵當權ノ強制執行ハ強制競賣又ハ強制管理ニ依リテ之ヲ爲ス
第三十八條 抵當證書又ハ信託證書及之ニ記載シタル事項ヲ變更スル契約證書ハ強制執行ニ關シテハ公證人ノ作成シタル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ監督官廳ノ官吏之ヲ付與ス(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十九條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第四十條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之署名捺印スヘシ
一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所

第四十一條 執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要セズ
第四十二條 強制競賣ノ申立ハ競賣期日迄ハ競賣人ノ同意アル場合ニ限リテ之ヲ取下クルコトヲ得
第四十三條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之署名捺印スヘシ
第四十四條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ監督官廳ニ囑託スヘシ
監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四十五條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ
第四十六條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時
三 最低競賣價額
四 競賣期日ノ場所及日時
五 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
第五十條 (同上本條ヲ削除)
第五十一條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スル者ハ競賣ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當

第四十六條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第四十七條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之署名捺印スヘシ
一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所

第四十八條 執行力アル正本ノ外鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ強制管理ノ開始アリタル場合ニ於テハ鐵道抵當原簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要セズ
第四十九條 強制競賣ノ申立ハ競賣期日迄ハ競賣人ノ同意アル場合ニ限リテ之ヲ取下クルコトヲ得
第五十條 競賣手續ノ開始ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス開始決定ニハ申立人ノ名稱、住所及第四十三條第二項第一號乃至第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ決定ヲ爲シタル判事之署名捺印スヘシ
第五十一條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ鐵道抵當原簿ニ競賣申立ノ登錄ヲ爲スヘキ旨ヲ監督官廳ニ囑託スヘシ
監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ直ニ登錄ヲ爲シ其ノ旨ヲ裁判所ニ通知スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第五十二條 裁判所力競賣手續開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ租稅其ノ他ノ公課ヲ主管スル官廳及公署ニ對シ一定ノ期間内ニ鐵道財團ノ所有者ニ對スル權利ノ有無及其ノ限度ヲ申出ツヘキ旨ヲ公告スヘシ
第五十三條 裁判所ハ競賣期日ヲ定メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
前項ノ公告ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
二 競賣期日ノ場所、日時及入札締切ノ時
三 最低競賣價額
四 競賣期日ノ場所及日時
五 執行記録ヲ閱覽シ得ヘキ場所
第五十條 (同上本條ヲ削除)
第五十一條 鐵道事業ヲ營ム者ニ非スシテ競賣ニ加入スル者ハ競賣ノ申込ト共ニ保證トシテ最低競賣價額百分ノ五ニ相當

第五十四條 強制執行ハ鐵道財團ノ所有者タル會社ノ本店所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス
第五十五條 強制競賣ノ申立ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ申立書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申立人又ハ其ノ代理人之署名捺印スヘシ
一 債務者タル會社及鐵道財團ノ所有者タル會社ノ商號及其ノ本店ノ所在地
二 競賣ニ付スヘキ鐵道財團ノ表示
三 競賣ノ原因タル事由
四 年月日
五 裁判所

當スル金額ヲ現金又ハ有價證券ヲ以テ供託スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本項ヲ改正)

前項ノ規定ハ競買人ニシテ抵當權者カニ加ハルモノニ付テハ其ノ價額カ最低競賣價額ノ百分ノ五以上ニ相當スル場合ニ限リテ適用セズ

第五十二條 競賣ハ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フ

第五十三條 裁判所ハ競買人ノ而前ニ於テ入札ヲ開封スヘシ

第五十四條 競買人ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サズ

第五十五條 競賣期日ニ於テ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ裁判所ハ競賣ヲ以テ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ

第五十六條 入札ハ之ヲ變更シ又ハ取消スコトヲ得ス

第五十七條 裁判所ハ最高價競買人ノ名稱及其ノ競買價額ヲ表示シ競賣ノ終局ヲ告知スヘシ

第五十八條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 競賣ニ付セラレタル鐵道財團ノ表示
二 競賣申立人ノ表示
三 入札及開札ノ日時
四 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキ並第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

キコト、許スヘキ入札ナキトキ若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキ並第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

第五十九條 裁判所ハ競賣期日ニ出頭シタル債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ニ競賣ノ許可ニ付陳述ヲ爲サズヘシ

第六十條 強制競賣申立ノ取テ下若ハ強制執行ノ取消アリタル場合又ハ第四十八條乃至第五十二條若ハ第五十七條ノ規定ニ違反シテ競賣ヲ爲シタル場合ニ限リ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ハ競賣ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六十一條 裁判所ハ異議ノ申立ヲ正當トスル場合ニ於テ更ニ競賣ヲ許スヘキトキハ競賣期日ヲ定ムヘシ

第六十二條 競賣ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ第六十條ニ掲ケタル理由アル場合ニ限リ競賣ヲ許ス決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十三條 競賣ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ競賣期日ニ出頭シ競賣ノ許可ニ付異議ノ申立ヲ爲シタル者ハ競賣ヲ許ササル理由由ナキ場合ニ限リ競賣ヲ許ササル決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 裁判所ハ競賣ニ關スル調書ヲ作成スヘシ

第六十五條 競賣申立人ノ表示

第六十六條 入札及開札ノ日時

- 一 競賣申立人ノ表示
二 入札及開札ノ日時
三 總テノ競買價額及競買人ノ名稱、住所又ハ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ若ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキ並第五十三條第二項又ハ第三項ノ手續ヲ爲シタルコト

ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ之ヲ裁判所ニ支拂フヘシ但シ債權者カ競買人タル場合ニ於テハ自己カ競買代金中ヨリ受取ルヘキ金額ヲ控除シ其ノ殘額ノミヲ支拂フヲ以テ足ル(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六十六條 競買代金ノ支拂アリタルトキハ競賣ニ付セラレタル鐵道財團ニ關スル權利ハ競買人ニ、競買人カ會社ノ發起人ナルトキハ其ノ競買人ニ依リテ發起セラレタル會社ニ移轉ス(同上本條ヲ改正)

第六十七條 第七十三條ノ許可ヲ受ケサルトキ、第七十三條ノ期間内ニ許可ノ申請ナキトキ又ハ第六十五條ノ期間内ニ競買代金ノ支拂ナキトキハ裁判所ハ競賣ヲ以テ競賣ヲ許ス決定ヲ取消シ更ニ競賣期日ヲ定ムヘシ(同上本條ヲ改正)

第六十八條 裁判所ハ競買代金ノ中ヨリ順次ニ競賣ノ費用及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ハ抵當權ノ順位ニ從ヒ之ヲ抵當權者ニ配當シ仍殘餘アルトキハ之ヲ鐵道財團ノ所有者ニ交付スヘシ

第六十九條 裁判所ハ其ノ旨ヲ監督官廳ニ通知シ競賣申立ノ登錄ノ抹消ヲ囑託スヘシ(同上本條ヲ改正)

第七十條 監督官廳ニ於テ前項ノ囑託ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ(同上本條ヲ改正)

第七十一條 監督官廳ハ管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

第七十二條 監督官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第七十三條 監督官廳ハ管理人ニ委任スヘキコトヲ命ジ又ハ之ヲ解任スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第七十四條 監督官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

- 一 第四十六條第二項ニ依リテ爲シタル登錄及抵當權ノ登録ヲ抹消スルコト
二 競賣ヲ許ス決定アリタルコトヲ管轄登記所ニ通知シ

第六十九條 競買人又ハ競買人ニ依リテ登記セラレタル會社カ取得シタル不動産ニ關スル權利ノ登記並第十一條第一項ニ依リテ爲シタル抹消スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七十條 裁判所ハ二回以上競賣期日ヲ開始シタルモ入札ナキトキ、許スヘキ入札ナキトキ又ハ最低競賣價額ニ達スル入札ナキトキハ抵當權者ノ同意アル場合ニ限リ競賣ニ付シタル鐵道財團ヲ箇箇ノモノトシテ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十一條 前項ノ場合ニ於テ裁判所ハ抵當權者ノ意見ヲ聽キ鐵道財團ニ關スルモノヲ分割シ競賣ニ付スルコトヲ得

第七十二條 (同上本條ヲ削除)

第七十三條 競買人カ政府ニ非サル場合ニ於テハ競賣ヲ許ス決定ヲ確定シタル日ヨリ三箇月内ニ許可ヲ申請スヘシ(同上本條ヲ改正)

第七十四條 競買人カ會社ノ發起人ナルトキハ前條ノ許可ノ申請ニハ定款及會社ノ設立登記簿本ヲ添付スヘシ(同上本條ヲ改正)

第七十五條 (同上本條ヲ削除)

第七十六條 監督官廳ハ第七十三條及第七十四條ノ規定ニ依リ申請アリタルトキハ許可スヘシ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七十七條 第七十三條ノ許可ハ競買人又ハ競買人ニ依リテ設立セラレタル會社カ免許ニ關スル權利及義務ヲ承繼ス(同上本條ヲ改正)

第七十八條 強制管理ニ付テハ第四十三條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ヲ適用ス

第七十九條 強制管理開始ノ決定確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ決定ノ謄本ヲ監督官廳ニ送付スヘシ(同上本條ヲ改正)

第八十條 前條決定ノ謄本ノ送付アリタルトキハ監督官廳ハ一人又ハ數人ノ管理人ヲ選任スヘシ但シ強制管理ノ申立人ハ適當ノ人ヲ推薦スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第八十一條 監督官廳ハ管理人ヲ監督シ、管理方法ニ付指揮ヲ爲シ且管理人ニ與フヘキ報酬ノ額ヲ定ムヘシ

第八十二條 監督官廳ハ前項ニ掲ケタル事項ニ付債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及競買人ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第八十三條 監督官廳カ管理人ヲ任免シタルトキハ其ノ旨ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者、抵當權者及裁判所ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

第八十四條 鐵道財團ノ所有者カ管理人選任ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ鐵道財團ヲ管理人ニ引渡スヘシ

第八十五條 鐵道財團ノ所有者ニ對シ管理ニ必要ナル書類其ノ他ノ物ノ引渡ヲ求ムルコトヲ得

鐵道財團ノ所有者カ前二項ノ引渡ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ執達吏ヲシテ其ノ引渡ヲ爲サズヘシ

第八十四條 強制管理ノ申立人ハ管理人ノ請求ニ因リ管理ノ費用ヲ立替支拂スヘシ

第八十五條 管理人ハ鐵道財團ノ管理及收益ニ付必要ナル裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲スヘシ

第八十六條 鐵道財團ノ管理ニ付官廳ニ對スル取締役ノ責任ハ管理人之ヲ負フ

第八十七條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ鐵道財團ノ收入ヨリ順次ニ管理ノ費用、管理人ノ報酬及租稅其ノ他ノ公課ヲ控除シ其ノ殘額ヲ抵當權者ニ交付スヘシ

第八十八條 管理人ハ每營業年度ノ終ニ於テ計算報告書ヲ監督官廳ニ差出スヘシ

第八十九條 監督官廳ハ前項計算報告書ノ謄本ヲ債務者、鐵道財團ノ所有者及抵當權者ニ送付シ且一定ノ期間内ニ異議アラハ之ヲ申出ツヘキ旨ヲ通告スヘシ

第九十條 前項ノ期間内ニ異議ヲ申出テサリシ者ハ計算ヲ承認シタルモノト看做ス

第九十一條 異議ヲ申出テタル者アリタルトキハ監督官廳ハ管理人ノ陳述ヲ聽キタル後之ヲ裁定ス此ノ裁定ハ終局トシ大正八年法律第五十六號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十二條 管理人ハ前條第二項ノ期間ヲ過キ又ハ前條第四項ノ裁定ヲ經タル後ニ非サレハ抵當權者ニ對シ配當額ノ交付ヲ爲スコトヲ得ス

第九十三條 管理人力配當額ノ交付ヲ爲シタルトキハ抵當權者ノ名稱及配當額ヲ監督官廳及裁判所ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

第九十四條 強制管理ノ取消ハ裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第九十五條 強制管理ノ申立ヲ爲シタル抵當權者カ清算ヲ受ケタルトキハ裁判所ハ強制管理ノ取消ヲ命スヘシ

強制管理ノ申立人カ管理費用ノ立替支辨ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ管理人ノ申立ニ因リ強制管理ノ取消ヲ命スルコトヲ得

第四節 罰則

- 第九十二條 左ノ場合ニ於テハ取締役又ハ管理人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ定メタル裁定ヲ遵守セザルトキ
二 第九條ノ規定ニ違反シタルトキ
三 第二十條又ハ第二十一條ノ催告ヲ爲ササルトキ
四 登録ニ關シ不正ノ申請ヲ爲シタルトキ又ハ第三十一條ノ登録ノ申請ヲ爲ササルトキ
五 鐵道財目録ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ、第三十條ノ届出ヲ爲ササルトキ又ハ不正ノ届出ヲ爲シタルトキ
六 管理方法ニ付監督官ノ命令ニ違反シタルトキ(大正八年法律第五十六號ヲ以テ本號ヲ改正)
七 第八十八條ノ計算報告書ヲ差出ササルトキ又ハ不正ノ報告ヲ爲シタルトキ
八 配當額ノ交付ヲ爲ササルトキ又ハ第八十七條若ハ第八十九條第一項ノ規定ニ違反シテ配當額ノ交付ヲ爲シタルトキ
九 第八十九條第二項ノ通知ヲ爲ササルトキ
第九十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ニ定メタル過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十八年勅令第八十六號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行ス)

● 森林法

(明治四十年四月二十三日) 法律第四十三號

改正、明四四一法七五

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾森林法改正法律ヲ就可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

- 第一條 森林ハ其ノ所有者ニ依リテ分子子御料林、國有林、公有林、社寺有林及私有林トス
前項ノ種別ニ依リテ森林ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リテ本法ヲ適用ス
第二條 森林ノ立木竹ヲ所有スル爲地上權、賃借權其ノ他土地ニ關シテ使用又ハ收益ヲ爲ス權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ權利者ヲ以テ本法ニ依リテ森林所有者ト看做ス
前項ノ權利ニ關シテ同一ノ土地ノ上ニ存在スル場合ニ於テハ最後ニ設定セラレタル權利ヲ有スル者ヲ以テ前項ノ森林所有者トス
第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ
第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ權利義務ハ森林若ハ森林立木竹又ハ土地ノ所有權若ハ占有權ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス
第五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ森林所有者、森林立木竹所有者又ハ土地ノ所有者若ハ占有者ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス
第六條 民法第二百五十六條ノ規定ハ共有ノ森林ニ之ヲ適

用セズ但シ各共有者持分ノ價格ニ從ヒ其ノ過半數ヲ以テ分割ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
第七條 公園、社寺境内及命令ヲ以テ定ムル土地ニ付テハ本法ヲ適用セズ但シ命令ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ書類ヲ送付スヘキ場合ニ於テ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ官報又ハ行政廳慣行ノ公布式ヲ以テ之ヲ公示シ其ノ公示ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ送付アリタルモノト看做ス

第二章 營林ノ監督

- 第九條 地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ公共團體又ハ社寺ノ代表者ヲシテ森林又ハ森林トシテ管理スヘキ土地ニ付施業案又ハ施業要領ヲ定メ其ノ認可ヲ受ケシムコトヲ得
地方長官ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前項ノ施業案又ハ施業要領ノ變更ヲ命スルコトヲ得
第十條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニシテ荒廢ノ虞アルトキハ地方長官ニ於テ施業ノ方法ヲ指定スルコトヲ得
前項指定ノ方法ニ違反シ伐木ヲ爲シタル者ニハ地方長官其ノ伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ造林ヲ命スルコトヲ得
第二十五條第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十一條 前條第二項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者造林ヲ怠リタルトキハ行政官廳ニ於テ自ら義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ公共團體ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得
前項造林ニ要シタル費用ハ行政官廳ニ於テ國稅徵收法ノ例ニ依リテ之ヲ徵收スルコトヲ得
第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リテ造林シタル部分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス
府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス
第十三條 公有林、社寺有林又ハ私有林ニ付地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ箇所及期間ヲ指定シ密葉、密枝、葉、土、石、樹根、草根、切芝ノ採取若ハ採掘ニ關スル制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第三章 保安林

- 第十四條 主務大臣ハ左ニ掲グル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得
一 土砂ノ墮崩、流出ノ防備ノ爲必要ナルトキ
二 飛砂ノ防備ノ爲必要ナルトキ
三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲必要ナルトキ
四 類害又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲必要ナルトキ
五 水源涵養ノ爲必要ナルトキ
六 魚附ノ爲必要ナルトキ
七 航行ノ目標ノ爲必要ナルトキ
八 公衆ノ衛生ノ爲必要ナルトキ
九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲必要ナルトキ
第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存置スルノ必要アリト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得
第十六條 保安林ノ編入解除ハ其ノ森林所在ノ府縣市町村又ハ之ニ準スヘキ者其ノ他直接利害ノ關係ヲ有スル者ヨリ地方長官ヲ經由シ主務大臣ニ申請スルコトヲ得
前項ノ申請ニ係ル森林ニ付不編入又ハ不解除ノ處分アリタルトキハ實地ノ狀況ニ著シキ變更ヲ生シタル場合ニ非サレハ同一理由ニ依リ再ヒ之ヲ申請スルコトヲ得ス

第十七條 保安林ノ編入解除ノ申請アリタル場合ニ於テ前條第一項ノ條件ヲ具備セス又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シタルモノト認めタルハ地方長官ハ申請書ヲ却下スルコトヲ得

第十八條 保安林ノ編入解除ヲ爲サントシキハ地方長官其ノ申請ヲ受理シタルキハ地方長官ニ於テ其ノ旨ヲ森林所有者、土地所有者其ノ土地ニ付登記シタル權利ヲ有スル者ニ通知シ且履行ノ公布式ヲ以テ之ヲ告示シ森林所在ノ市町村役場ニシテ之ヲ告示ス

第十九條 地方長官ハ前項告示ノ日ヨリ三十日ヲ経過シタル後保安林ノ編入解除ヲ地方長官ノ議ニ付ス

第二十條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 保安林ノ編入解除ニ關シテ保安林ノ所有者ハ保安林ノ編入解除ノ告示ノ日ヨリ二十日以内ニ意見書ヲ地方長官ニ提出スルコトヲ得

第二十二條 地方長官ハ保安林ノ編入解除ニ關シテ地方長官會ノ決議書其ノ他ノ關係書類ニ意見書ヲ添ヘテ主務大臣ニ差出スヘシ但シ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシム

第二十四條 地方長官ニ於テ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルキハ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 保安林ノ編入解除ニ關シテ直接利害ノ關係ヲ有スル者其ノ編入解除ニ關スル處分ニ不服アルキハ前條第一項ノ告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 地方長官ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關シテ必要アリト認めタルキハ其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十七條 保安林ノ編入解除ニ關シテ必要アリト認めタルキハ其ノ森林ニ於テ木竹ノ伐採ヲ停止スルコトヲ得但シ其ノ停止期間ハ一箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十八條 保安林ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ木竹ノ伐採、掘削、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採取ヲ爲シ又ハ家畜ヲ放牧スルコトヲ得ス

第二十九條 主務大臣ハ保安林ノ所有者ニ對シ前條ノ外其ノ使用收益ヲ制限若ハ禁止シ又ハ施業若ハ保護ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

第三十條 木竹ノ伐採ヲ禁止セザル保安林ノ所有者又ハ立木竹ノ所有者ハ之ニ因リ生シタル直接ノ損害ニ限リ其ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 保安林ノ所有者カ前條ノ指定ニ依リ造林ヲ爲シタルキハ其ノ造林ノ費用ハ前項ノ損害ト看做ス

第三十二條 前二項ノ損害ハ政府ノ補償ニ依リ保安林編入ニ因リ得ル利益ヲ受ケル公共團體若ハ私人ヲシテ其ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシメ國稅徵收法ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第三十三條 第一項及第二項ノ損害ノ算定方法及其ノ補償請求期間ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 前條第三項ニ依リ政府ノ補償金額ニ付不服アル者其ノ補償金額ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 保安林ノ編入解除ニ關シテ保安林ノ編入ニ關スル前條第三項但書ニ依リ負擔ニ付不服アル者ハ前條第一項ノ告示ノ日ヨリ六十日以内ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十六條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ第二十八條第一項ニ依リ受ケル補償金額ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第三十七條 國有地ノ上ニ存在スル森林ニシテ保安林ニ編入セラルタルキハ政府ハ其ノ借地料ヲ免ス

第三十八條 主務大臣國土保安上必要アリト認めタルキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第三十九條 第二十六條ノ規定ニ違反シ、第二十七條又ハ前條ノ制限、禁止若ハ指定ニ違反シタル者アルキハ地方長官ハ造林其ノ他復舊ニ必要ナル行爲ヲ命ジルコトヲ得

第四十條 第十一條ノ規定ハ前條ニ依リ造林ノ命令ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ準用ス

第四十一條 保安林ノ編入解除ニ關スル調査及國土保安ニ關シテ地方長官ノ行フ調査ニ要スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ北海道ニ於テハ北海道地方費、沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス

第四十二條 主務大臣ニ於テ必要アリト認めタルキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

第四十三條 第十八條第二項、第二十八條乃至第三十條ノ規定ハ御料林及國有林ニシテ適用セス

第四十四條 主務大臣ハ命令ヲ定ムル所ニ依リ本章ノ規定ニシテ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第四章 土地ノ使用及收用

第四十五條 本章ニ於テ關係人ト稱スルハ第四十條第二項ニ依リ通知前使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シテ權利ヲ有スル者及

者及其ノ通知後ニ於テ通知前ヨリ既存セル權利ヲ承繼シタル者ヲ謂フ

第四十六條 本章ニ於テ補償金額ト稱スルハ對價、使用料其ノ他土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ニ對スル補償金額ト稱ス

第四十七條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲メ又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲メ必要アルキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ「御料林」又ハ政府ノ使用ニ係ルトキハ當該官廳ハ之ヲ地方長官ニ協議スヘシ

第四十八條 地方長官ハ前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ協議調ヒタルキハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第四十九條 第一項ニ依リ土地ヲ使用セムル者ハ前項通知ノ後其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人ニ協議スヘシ

第五十條 前條第二項ノ通知後一箇年以内ニ同條第三項ノ協議ヲ爲サルトキハ同條第一項ノ許可及協議ハ其ノ效力ヲ失フ第五十五條第一項ニ依リ地方長官會ノ議決ヲ求メサルキ亦同シ

第五十一條 土地ノ使用三箇年以上ニ互ルトキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルキハ所有權者其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ殘地ヲ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルキハ土地所有者其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 土地ヲ使用又ハ收用スルキハ土地所有者及關係人ニ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第五十四條 土地ノ一部ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ殘地ノ價格ヲ減シ其ノ他殘地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第五十五條 土地ヲ使用又ハ收用スルニ因リテ道路、溝渠、堤堰其ノ他ノ工作物ノ新築、改良、増築又ハ修繕ヲ爲スノ必

要ヲ生シタルキハ其ノ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第五十六條 第四十條第二項ノ通知後土地ノ形質ヲ變更シ、工作物ノ新築、改良、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置セムルキハ土地所有者及關係人ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルコトヲ得

第五十七條 第四十條第二項ノ通知後同條第一項ノ目的ニ土地ヲ使用スルコトヲ廢止シタル者ハ土地所有者及關係人ノ受ケル損失ニ對シ其ノ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第五十八條 土地所有者及關係人ハ土地ノ使用者若ハ收用者ヲシテ補償金額ニ付相當ノ擔保ヲ供セシムルコトヲ得但シ土地ノ使用者若ハ收用者カ「御料林」、政府、府縣市町村及之ニ進スヘキモノナルキハ補償金額ノ供託及擔保ノ提供ヲ要セス

第五十九條 前條ニ依リ補償金額ノ拂渡若ハ供託ヲ爲ス又ハ擔保ヲ供セサルキハ土地所有者及關係人ハ土地ヲ用ウルコトヲ拒ムコトヲ得

第六十條 土地ヲ收用スルキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ收用者ノ之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス

第六十一條 土地ヲ使用スルキハ使用ノ時期ニ於テ土地使用者其ノ使用權ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ使用ヲ妨ケザル範圍ニ制限セラルモノトス

第六十二條 土地ノ使用者其ノ使用ヲ終リタルキハ土地ノ原形ニ復シ又ハ原形ニ復セザルニ因リテ生スル損失ニ對シ補償金額ヲ拂渡シ之ヲ返還スヘシ

第六十三條 第三十條ノ規定ハ本章ノ補償金額ニ之ヲ準用ス

第六十四條 土地ノ使用若ハ收用、補償金額又ハ擔保ニ付協議調ヒタルキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルキハ第四十條第二項ノ通知後一箇年以内ニ地方長官會ノ議決ヲ求ムルコトヲ得

第六十五條 前項ノ議決中土地ノ使用又ハ收用ニ關スルモノニ付不服アル者ハ主務大臣ニ訴願ヲ提起スルコトヲ得但シ權利ヲ侵害セラレタルキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ判決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ六十日ヲ経過シタルキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 第一項ノ判決中補償金額又ハ擔保ニ關スルモノニ付不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ判決ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ九十日ヲ経過シタルキハ此ノ限ニ在ラス

第六十七條 土地收用法第六十四條、第六十六條及第六十七條ノ規定ハ本章ニ依リ使用又ハ收用セラレタル土地ニ之ヲ準用ス

第六十八條 土地ノ使用、收用ニ關スル規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ使用又ハ收用ニ之ヲ準用ス

第六十九條 森林ヨリ其ノ產物ヲ運搬スル爲メ又ハ運搬ニ關スル設備ノ爲メ必要アルキハ地方長官ノ許可ヲ得テ水流ニ於ケル他人ノ工作物ヲ使用シ、變更シ又ハ除却スルコトヲ得但シ「御料林」又ハ政府カ之ヲ行フキハ地方長官ニ協議スヘシ

第七十條 前項ノ工作物ノ使用、變更又ハ除却ニ因リテ損害ヲ生スヘキトキハ補償金額ヲ拂渡スヘシ

第七十一條 第四十條第二項第三項、第四十一條、第四十六條乃至第五十一條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條 流水竹ノ爲メ必要アル場合ニ於テ沿岸ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタルキハ賠償ヲ爲スヘシ

第七十三條 前條ノ外流水竹ニ付土地又ハ水ノ使用ニ關スル

森林法 土地ノ使用及收用

規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第六十一條 森林又ハ森林ノ事業ニ關シ實地調査ノ爲必要ナルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採スルコトヲ得但シ「御料局」又ハ政府ニ於テハ地方長官ニ通知シテ之ヲ行フコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ賠償ヲ爲スヘシ
第一項ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知スヘシ

第五章 森林組合

第六十二條 森林組合ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ必要ナル事業ヲ爲ス爲一定ノ地區ヲ限リ之ヲ設立スルコトヲ得
一 國土保安ノ爲又ハ森林ノ荒廢ヲ防止シ若ハ荒廢セル森林ヲ回復スル爲必要ナルトキ
二 森林カ所有者ヲ異ニシ協同シテ事業ヲ爲スニ非サレハ其ノ利用ノ目的ヲ達スルニ困難ナルトキ
三 森林產物ノ運搬ニ必要ナル工事ヲ爲シ又ハ之ヲ維持スル爲關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ
四 森林ノ危害防止ニ付關係者ノ協同ヲ必要トスルトキ
第六十三條 森林組合ハ營利ヲ目的トセザル社団法人トス
第六十四條 森林組合ヲ設立スルニハ定款ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
第六十五條 森林組合ノ組合員ハ其ノ地區内ニ於ケル森林ノ所有者ニ限ル
第六十六條 森林組合ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
一 組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上ノ同意アリ
二 前號同意者ノ所有スル森林ノ面積カ地區内ニ於ケル森林ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

第六十七條 森林組合成立シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ命令又ハ定款ニ於テ加入ノ義務ナシト定ムル者ハ此ノ限ニ在ラス
第六十八條 定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 目的及事業
二 地區
三 名 稱
四 事務 所
五 出資又ハ費用分擔ノ方法
六 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定ムルトキハ其ノ時期又ハ事由

前項ノ外定款ニ定ムルコトヲ要スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セズ
第六十九條 森林組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第七十條 組合員ハ組合ノ承認ヲ得ルニ非サレハ新ニ地區内ノ森林又ハ森林產物ニ付組合ノ事業ヲ妨クヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス
第七十一條 森林組合ハ主務大臣及地方長官之ヲ監督ス
監督官廳ハ何時ニモ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第七十二條 總會ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ法令、監督官廳ノ命令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害ス若ハ害スルノ虞アリト認めタルトキハ監督官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得
一 決議ノ取消
二 役員ノ解職

三 組合ノ解散
第七十三條 森林組合ニ於テ本章又ハ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ其ノ役員ヲ二圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス
前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス
第七十四條 造林ノ用ニ供スル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス
第七十五條 本法ニ規定スルモノノ外森林組合ノ設立、管理、解散、清算其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第六章 森林警察

第七十六條 地方長官ニ於テ必要アリト認めタルトキハ左ノ命令ヲ發シ若ハ處分ヲ爲スコトヲ得
一 森林產物ニ使用スル記號又ハ印章ヲ定メ所轄警察官署ニ届出テシメ森林產物ノ搬出前之ヲ使用セシムルコト
二 前號ニ依リ届出タル記號印章同一定ハ類似ノ記號若ハ印章ノ使用ヲ禁止スルコト
三 前二號ノ規定ニ違反シタル者ニ對シ森林產物ノ運搬ヲ停止スルコト
四 森林產物ニ關スル營業者ヲシテ帳簿ヲ設ケ其ノ產物ノ出所、種類、數量及仕向先ヲ記載セシムルコト
五 前各號ノ外森林ノ危害防止ニ關スルコト
第七十七條 森林官吏、警察官吏又ハ犯罪捜査ニ付職務ヲ有スル官吏、公吏其ノ職務ヲ行フ爲必要アリト認めタルトキハ森林產物又ハ森林產物ニ關スル營業者ノ手帳、帳簿及器具ニ付検査ヲ行フコトヲ得
第七十八條 森林、原野、山岳又ハ荒蕪地ニ於テハ地方長官

主產物ヲ燒燬シタル者ハ「重懲役」ニ處ス
自己ノ森林ニ放火シタル者ハ二月以上二年以下ノ「重禁錮」又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ノ主產物ヲ燒燬シタル者ハ五年以下ノ「重禁錮」ニ處ス
第九十條 第八十三條、第八十四條及前條第二項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法「未遂犯罪」ノ例ニ照シテ處斷ス
第九十一條 森林ノ爲設ケタル標識ヲ移轉、汚損シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法「第四百二十條」ノ適用ヲ妨ケズ
第九十二條 立木竹、木材又ハ根株ニ付シタル他人ノ記號印章ヲ變更又ハ消除シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十三條 他人ノ森林内ニ工作物ヲ設ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林ヲ開墾シタル者亦同シ
前項ノ犯罪ニシテ保安林、開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ六月以下ノ「重禁錮」及二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十四條 他人ノ森林内ニ於テ放牧シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十五條 第十三條ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十六條 第二十條ニ違反シ又ハ第二十五條第一項ノ停止ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十七條 第二十六條ニ違反シ又ハ第三十二條ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十八條 第二十七條ノ制限、禁止又ハ指定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス
第九十九條 前三條ノ場合ニ於テ木竹ヲ伐採又ハ傷害シタル者ニ對スル罰金ハ其ノ伐採又ハ傷害シタル木竹ノ價格ノ二倍ニ達セシムルコトヲ得
第一百條 第七十六條第二號又ハ第三號ニ依ル命令又ハ處分

ニ於テ必要ト認め主務大臣ノ認可ヲ得テ指定シタル場合ヲ除クノ外火ヲ爲スコトヲ得ス
前項指定ノ場合ニ於テ火ヲ爲サントスルトキ又ハ前項以外ノ土地ニシテ森林ニ接近セル土地ニ火ヲ爲サントスルトキハ森林官吏又ハ警察官吏ノ許可ヲ受クヘシ
第七十九條 前條ノ火ヲ爲サントスルトキハ豫メ防火ノ設備ヲ爲シ且接近セル森林ノ所有者又ハ管理者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
第八十條 森林若シテ發生シ又ハ發生ノ虞アルトキハ其ノ若シテ發生シ又ハ發生ノ虞アル森林ノ所有者之ヲ驅除豫防スヘシ
前項ノ場合ニ於テ必要アリトキハ森林所有者ハ警察官署ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り森林若シテ驅除豫防ヲ爲スコトヲ得
第八十一條 森林若シテ蔓延シ又ハ蔓延ノ虞アル場合ニ於テ地方長官ハ森林若シテ驅除又ハ豫防ノ爲必要ナル處置ヲ利害關係アル森林ノ所有者ニ命ジ又ハ自ラ之ヲ行フコトヲ得且類以外ノ動物又ハ蟲菌ヲ驅除豫防スルニ付主務大臣ノ認可ヲ得タル場合亦同シ
前項驅除豫防ノ費用ハ其ノ利害關係アル土地ノ面積又ハ地價ヲ準率ト爲シ森林所有者ノ負擔トス但シ地方長官自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ヲ除クノ外費用ノ負擔者ニ於テ別段ノ定メシタルトキハ此ノ限ニ在ラス
地方長官第一項ニ依リ自ラ驅除豫防ヲ行ヒタル場合ニ於ケル費用ノ徵收ニ付テハ行政執行法第六條ノ規定ヲ準用ス
第八十二條 若シテ驅除豫防法第七條及第八條ノ規定ハ前二條ニ依ル驅除豫防ニシテ準用ス
第七章 罰則

第八十三條 森林ニ於テ其ノ產物ヲ竊取シタル者ハ森林竊盜トシ三年以下ノ「重禁錮」又ハ贖額以上贖額二倍以下ノ罰金ニ處ス其ノ產物ニテ他人ノ工ヲ加ヘタルモノニ係ルトキ亦同シ
第八十四條 森林竊盜ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二月以上三年以下ノ「重禁錮」及贖額以上贖額二倍以下ノ罰金ニ處ス
一 根株ヲ掘採、毀壞、燒燬若ハ障礙シ其ノ他罪跡ノ隠滅ヲ圖ルノ行爲アリタルトキ
二 贖物ノ原料トシテ木炭、樟腦、椎茸、松根油其ノ他ノ物品ヲ製シタルトキ
三 贖物ヲ燃料トシテ贖物ノ採取、精製若ハ石灰、煉瓦石、五其ノ他ノ物品ノ製造ニ使用シタルトキ
四 贖物ヲ運搬スル爲馬、牛、船舶、車輛若ハ他ノ使用シ又ハ運搬、造材ノ設備ヲ爲シタルトキ
五 保安林ニ於テ犯罪シタルトキ
六 森林產物採取ノ權利ヲ行使スルニ際シ犯罪シタルトキ
七 二人以上共同シ又ハ他人ヲ唆使シテ犯罪シタルトキ
八 森林保護ノ義務ヲ有スル者犯罪シタルトキ
九 差押ノ贖物ヲ隱匿、消費、滅却又ハ放棄シタルトキ
十 夜間犯罪シタルトキ
第八十五條 前條第二號ニ依リ製シタル物品ハ之ヲ森林竊盜ノ贖物ト看做ス
第八十六條 民法第九十六條ノ規定ハ森林竊盜ノ贖物ノ回復ニ之ヲ適用セズ但シ善意ノ取得者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
第八十七條 森林竊盜ノ贖物ナルコトヲ知リテ之ヲ受ケ又ハ寄藏放買シ若ハ牙保ヲ爲シタル者ハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」及贖額以上贖額二倍以下ノ罰金ニ處ス
第八十八條 第八十三條、第八十四條及前條ノ贖額ノ二倍カ二圓ニ滿タルトキ雖其ノ罰金ハ二圓以下ニ下スコトヲ得ス
第八十九條 他人ノ森林ニ放火シタル者ハ「輕懲役」ニ處ス因テ

二違反シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第七十七條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ別法ニ依ル
 第七十八條又ハ第七十九條ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス因テ他人ノ森林ヲ燒燬シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス他人ノ森林内ニ於テ焚火ヲ爲シタル者亦同シ
 第七十六條第一號第四號若ハ第五號又ハ第八十一條第一項ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第三十六條ニ依ル土地ハ本章ノ適用上之ヲ森林ト看做ス

第八章 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十年勅令第三百四十六號ヲ以テ同四十二年一月一日ヨリ施行ス)
 北海道、沖繩縣其ノ他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ付テハ本法中保安林ニ關スル規定ニ限リテ之ヲ施行ス
 前項ノ外本法ノ規定ヲ施行スルノ必要アルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 前二項ノ場合ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得
 本法施行前森林ヲシテ本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタルモノハ地方長官ニ於テ造林ヲ命ズルコトヲ得
 前項ニ依リ造林ノ命令ヲ受ケタル者力造林ヲ怠リタル場合ニ付テハ第十一條ノ規定ヲ適用ス
 舊法第三十條ニ依リ保安林ト爲シタルモノニシテ本法施行ノ際現ニ保安林タルモノハ之ヲ保安林トス
 公有林又ハ社寺有林ニ付テハ本法施行前地方長官ノ認可ヲ受ケ又ハ地方長官ニ届出テタル施業案又ハ施業要

領第九條ニ依ル認可ヲ受ケタルモノト看做ス
 舊法又ハ舊法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リテ爲シタル處分、議決、申請、請求、手續其ノ他ノ行爲ハ本法又ハ本法ニ基キテ發シタル命令ノ規定ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ本法ニ基キテ發シタル命令ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 舊法ニ依リ本法施行前ニ進行ヲ始メタル期間中本法中ノ三相當スル期間ヨリ長キトキハ舊法ノ規定ニ從フ但シ其ノ殘期カ本法施行ノ日ヨリ起算シ本法中ノ三相當スル期間ヨリ長キトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シテ本法ノ規定ヲ適用ス
 舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

●取引所法

(明治二十六年三月四日)
 法律 第五號
 改正、明三二一法五八、大三一法三三、
 大一一一法六〇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ取引所法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 取引所法

第一章 取引所ノ設立

第一條 賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得
 第二條 同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣ノ之ヲ定ム
 第三條 取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ爲スコトヲ得
 第四條 株式會社組織ノ取引所ハ他ノ株式會社組織ノ取引所ヲ合併スル場合ニ限リ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ存在シタル地區内ニ支所ヲ設クルコトヲ得支所ノ數ハ其ノ合併ニ依リ消滅スル取引所及支所ノ數ヲ超ユルコトヲ得又大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正
 第五條 有價證券ヲ賣買取引スル市場ハ取引所ト看做シ本法ニ依ルニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第二章 取引所ノ組織

第六條 會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ會員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得
 第七條 株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ取引員ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第八條 取引所ハ法人トシテ財產ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)
 第九條 取引所ノ責任ハ其ノ財產ニ限ルモノトス
 第十條 取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ取引所ノ賣買取引ニ附帶スル業務ヲ營ムコトヲ得
 第十一條 規定ニ依リ賠償ノ責任スル株式會社組織ノ取引所ハ倉庫業ヲ除クノ外前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得但シ物件又ハ路柄ノ一部ニ付賠償ノ責任セザル場合ニ於テ其ノ一部ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ改正)
 第十二條 取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受ケシ

第三章 取引所ノ會員及取引員

第十三條 取引所ノ取引員トナラムスル者ハ政府ノ免許ヲ受ケハシ(同上本條ヲ改正)
 第十四條 帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ニ非サレハ取引所ノ會員又ハ取引員トナルコトヲ得ス(明治三十二年法律第五十八號、大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第十五條 無能力者、復讐セザル家資分散者及破産者並本法ニ依リ除名セラレ除名ノ日ヨリ五箇年ヲ經過セザル者ハ會員トナルコトヲ得ス(大正三年法律第三十三號、同十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第十六條 舊法第二十六條ニ依ル補償ノ請求ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年ヲ經過スルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

二編第十六章乃至第十九章第二十三條第三十五條乃至第三十九條、舊刑法第二編第四章第一節乃至第五節第二十六條乃至第二十七條、第八條第九條第十條、通貨及證券模造取締法、明治三十八年法律第六十六號、紙幣類似證券取締法、印紙犯罪處罰法、商法第二百六十一條、明治二十三年法律第三十二號商法第三編第九章、同年法律第一百號、保險業法第九十八條ノ三若ハ本法第三十一條乃至第三十二條ノ五ノ規定ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ刑ノ執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ五箇年ヲ經過セザル者ハ取引員トナルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

テ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得(大正三年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十一年法律第六十號ヲ以テ改正)

第十一條之三 取引員取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタルトキハ其ノ免許ハ效力ヲ失フ(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十二條ノ四 會員又ハ取引員ハ第二項但書ノ場合ヲ除ク外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ間ハス以上ノ場所ヲ以テ同一取引所ノ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス

何人ト雖取引所ノ賣買取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ會員又ハ取引員ニシテ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ追加)

第十三條 會員又ハ取引員ハ自己ノ計算ヲ以テスル他人ノ計算ヲ以テスルヲ間ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フ(同上本條ヲ改正)

第十四條 取引員ハ其ノ免許ヲ受ケタルトキ免許料ヲ納ム(シ)免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上本條ヲ改正)

第十五條 會員又ハ取引員ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ム(シ)(同上本條ヲ改正)

第十六條 取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ取引員トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ其ノ員數ヲ制限スルコトヲ得

第十七條ノ三 取引員ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍内ニ於テハ取引所ノ結了後二週間ヲ經過スル迄仍舊業セザルモノト看做ス

取引員死亡シ、解散シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許ヲ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

前項ノ規定ハ會員ノ死亡、解散、除名及脱退ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上本條ヲ改正)

前項ノ場合ニ於テ會員又ハ取引員ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得(大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四章 取引所ノ役員及商議員

會(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本目次ヲ改正)

第十六條 取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以内ノ任期ヲ以テ之ヲ選舉シ政府ノ認可ヲ受ク

取引所ノ役員左ノ如シ
理事長 一人
理事 二人以上
監査役 若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選舉スルモ妨ケナシ
第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス
取引員ト間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ

營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ノ同種ノ物件ヲ取引スル株式會社組織ノ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得(大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同十一年法律第六十號ヲ以テ改正)

第十六條ノ二 役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ取引員ノ免許ヲ受ケタルトキハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ理事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルノ認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナル者アルコトヲ發見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得(大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第十六條ノ三 農商務大臣ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第十七條 株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルヲ間ハス其ノ取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ノ役員又ハ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ノ同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ取引員ト間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他取引員ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得(大正十一年法律第三十三號、同十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十七條ノ二 取引所ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ商議員會ヲ置キ取引所ニ關スル重要ナル事項ヲ付議ス(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第五章 取引所ノ賣買取引

第十八條 取引所ノ賣買取引ノ期限ハ有價證券ニ在リテハ二

箇月、米ニ在リテハ三箇月、蠶絲ニ在リテハ六箇月、其ノ他ノ商品ニ在リテハ勅令ノ定ムル期間ヲ超ユルコトヲ得ス(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十九條 取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條 取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セザル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條 取引所ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ賣買取引ノ條件ヨリ生ズル損害ニ付賠償ノ責任ヲ負フ(同上本條ヲ改正)

第二十三條 取引所ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル損害ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十四條 株式會社組織ノ取引所ハ前條ノ規定ニ依リ賠償ノ責任ニ任ズルトキハ營業保證金ヲ政府ニ納ム(同上本條ヲ追加)

第二十五條 取引所ハ賣買取引ノ高ニ應ジ賣買取雙方ヨリ手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受ケル(シ)

第二十六條 取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十七條 取引所ノ賣買取引ノ委託者ハ會員又ハ取引員カ委託契約ニ違ヒタル場合ニ於テ其ノ違約ニ因リ債權ニ關シ違約シタル會員又ハ取引員ノ身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十八條 前條ノ優先權ハ前項ノ優先權ニ對シ優先ノ效力ヲ有ス(同上本條ヲ追加)

第二十九條 會員又ハ取引員ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ賣買取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サシ

テ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決済ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ違反シタル會員又ハ取引員ハ取引所ノ定款ノ規程以上ノ營業停止ヲ命ジ又ハ之ヲ除名ス(大正十一年法律第三十三號、同十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六章 取引所ノ監督

第二十六條 農商務大臣ハ必要ト認ムル所ニ依リ各會員又ハ各取引員ノ賣買取引ノ公示ヘシ大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十七條 農商務大臣ハ取引所ノ行爲ヲ法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 取引所ノ解散
二 取引所ノ停止
三 取引所ノ一部ノ停止若ハ禁止
四 役員ノ解職
五 會員又ハ取引員ノ營業停止若ハ除名(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ取引員ノ帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及取引員ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答ス(シ)

第二十九條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ禁止シ若ハ取消ス

第三十條 取引所ノ任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受ケル(シ)

第三十一條 第十七條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生ズルコトヲ目的トシ行爲ヲ爲シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス(同上本條ヲ改正)

第三十二條 第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス(大正十一年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十三條 取引所ノ役員又ハ取引員ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス(同上本條ヲ追加)

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 取引所ノ役員又ハ取引員ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者
二 取引所ニ於ケル相場ヲ偽リテ公示シタル者
三 公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虛偽ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者
四 免許ヲ受ケシテ取引所ヲ設立シタル者又ハ第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者(大正十一年法律

第六十號ヲ以テ本條ヲ追加

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得(大正三年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十二條ノ四 取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚偽ノ風説ヲ流布シ、偽計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス(同上本條ヲ追加)

第三十二條ノ五 取引所ニ依ラスニ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トシテ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス(同上本條ヲ追加)

第三十二條ノ六 會員又ハ取引員ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス(大正三年法律第三十三號ヲ以テ本條ヲ追加、同一年法律第六十號ヲ以テ改正)

第三十二條ノ七 本法ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ行爲ヲ爲シタル理事、取締役其ノ他ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス(大正十一年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

附則

第三十三條 取引所ノ規則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手数料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條 本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス
明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布

告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條 本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲ササルモハ此ノ限ニ在ラス

附則 (大正十一年法律第六十號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第三百五十二號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行ス但シ第十八條ノ改正規定中有價證券ノ買賣取引ノ期限ニ關スル規定ハ大正十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス)

第十八條ノ改正規定中有價證券ノ買賣取引ノ期限ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ他ノ規定ヨリ後ニ之ヲ施行スルコトヲ得但シ其ノ施行ノ期日ハ大正十四年四月一日ヨリ後ト爲スコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ營業スル仲買人ハ其ノ營業部類ニ付本法ニ依リ其ノ取引所ノ取引員タル免許ヲ受ケタルモノト見做ス
本法施行前ニ爲シタル取引所ノ買賣取引ニ付テハ其ノ取引ノ結了ニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

●保險業法

(明治三十三年三月二十二日) 法律第六十九號

改正、明四五一法一八、昭二一法五〇

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ保險業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

保險業法

第一章 總則

第一條 保險事業ハ主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 保險事業ハ株式會社又ハ相互會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 保險會社ハ他ノ事業ヲ兼スルコトヲ得ス

第四條 同一ノ會社ニシテ生命保險ト損害保險トヲ併セテ其目的ト爲スコトヲ得ス但シ生命保險ノ目的ト爲ル會社ハ生命保險ノ再保險ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ但書ヲ追加)

第五條 保險會社カ免許ヲ申請シタル場合ニ於テ主務官廳ハ必要ト認ムルトキハ相當ノ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第六條 主務官廳ノ認許シタル有價證券ヲ以テ前項ノ供託金ニ代フルコトヲ得(同上本條ヲ追加)

第七條 保險會社カ免許ヲ申請スルニハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附スルコトヲ要ス(同上本條ヲ改正)

- 一 定款
- 二 事業方法書
- 三 普通保險約款
- 四 保險料及ヒ責任準備金算出ノ基礎ニ關スル書類
- 五 財産ノ利用方法ヲ記載シタル書類(同上本條ヲ追加)

保險業法 總則

第六條 (同上本條ヲ削除)

第七條 普通保險約款ニハ左ニ掲ケタル事項ヲ定ムルコトヲ要ス

- 一 保險會社カ保險金額ノ支拂ヲ爲スヘキ事由
- 二 保險契約無効ノ原因
- 三 保險會社カ其義務ヲ免ルヘキ事由
- 四 保險會社ノ義務ノ範圍ヲ定ムル方法及ヒ其義務履行ノ時期
- 五 保險契約者又ハ被保險者カ其義務不履行ノ爲メニ受クヘキ損失
- 六 保險契約ノ全部又ハ一部ノ解除ノ原因及ヒ其解除ノ場合ニ於テ當事者ノ有スル權利義務
- 七 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ利益又ハ剩餘金ノ分配ニ與ル權利ノ有無及ヒ範圍

第八條 第五條ニ掲ケタル書類ヲ變更スルニハ主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九條 保險會社ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ本法及ヒ第五條ニ掲ケタル書類ニ定ムル事項ニ從ハシムル爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十條 主務官廳ハ何時ニモ保險會社ラシテ其事業ノ報告ヲ爲サシムル又ハ會社ノ業務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 主務官廳カ保險會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況ニ依リ其事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ財産ノ供託若クハ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ期間ヲ定メテ業務執行ノ方法若クハ計算ノ基礎ノ變更ヲ命ジ其他保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ノ權利ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

合ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十二條 保險會社カ本法、出務官廳ノ命令又ハ第五條ニ掲ケタル書類ニ定ムル特ニ重要ナル事項ニ違反シタルトキハ主務官廳ハ取締役ノ改選若クハ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十三條 保險會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
主務官廳ハ清算事務及ヒ會社財産ノ狀況ヲ検査シ財産ノ供託ヲ命ジ其他監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十四條 一 保險會社カ免許ヲ取消ニ因リテ解散シタルトキハ主務官廳ハ清算人ヲ選任ス

第十五條 第二項ニ定ムル清算人ノ選任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス此場合ニ於テハ利害關係人ノ請求ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得

第十六條 第九十三條ノ二第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十七條 主務官廳ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當タル株主若クハ十分ノ一以上ノ社員ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任スルコトヲ得但シ請求ヲ爲ス社員ニ付キ定款ヲ以テ他ノ標準ヲ定ムルコトヲ得

第十八條 重要ナル事由アルトキハ主務官廳ハ前項ノ請求ナクシテ清算人ヲ解任スルコトヲ得

第十九條 商法第二百二十八條第二項ノ規定ハ保險會社ノ清算人ニハ之ヲ適用セス(同上本條ヲ追加)

第二十條 前條ノ規定ニ依リ清算人ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ラシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其額ハ主務官廳ノ之ヲ定ム(同上本條ヲ追加)

第二十一條 保險會社ニ非サルモノハ其商號又ハ名稱中ニ保

險事業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二章 株式會社

第十四條 保險ヲ營業トスル株式會社ノ定款ニハ商法第二百一十條第二號乃至第八號ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二 設立費用償却ノ方法

第十五條 會社ハ其商號ニ保險ノ種類ヲ示スコトヲ要ス

第十六條 會社ノ資本ハ十萬圓以下ルコトヲ得ス

第十七條 株式申込證ニハ第十四條及ヒ商法第二百二十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條 會社ハ第十四條及ヒ商法第四百一十一條第一項ニ掲ケタル事項ヲ登記スルコトヲ要ス

第十九條 第五十八條ノ規定ハ株式會社ノ計算ニ之ヲ適用ス但設立費用及ヒ營業費ノ全額ヲ償却シタル後ニ非サレハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 商法第二百十條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニハ之ヲ適用セズ昭和二年法律第五十號ヲ以テ第二十條ノ第十九條ノ規定ニ付テハ之ヲ適用ス

第二十一條 會社ノ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル定款變更ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ減少スヘキ金額、減少ノ方法及ヒ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十二條 第三項、第三項、第二十二條第三項及ヒ第二十五條ノ規定ハ資本減少ノ場合ニ之ヲ適用ス(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十三條 會社ハ契約ヲ以テ責任準備金算出ノ基礎ヲ同ク爲シ保險契約ノ全部ヲ包括シテ他ノ會社ニ移轉スルコトヲ得

會社ハ前項ノ契約ヲ以テ會社財産ヲ移轉スヘキコトヲ定ムルコトヲ得但主務官廳方其會社ノ債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ト認ムル財産ヲ留保スルコトヲ要ス

第一項ノ契約ハ各會社ニ於テ株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ決議ハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ニ在リテハ商法第二百九條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十二條 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ移轉契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ公告ニハ保險契約者ニシテ異議アラハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但其期間ハ二ヶ月以下ルコトヲ得ス

前項ノ期間内ニ異議ヲ述ヘタル保險契約者カ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超ユルコトキハ保險金額カ保險金額總額ノ十分ノ一ヲ超ユルコトキハ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得ス第二十二條ノ六ノ規定ニ依リテ第七條第七號ノ事項ノ變更ヲ定ムル場合ニ於テ異議ヲ述ヘタル保險契約者ニシテ其保險契約ニ付テ同條同項ノ事項ヲ變更セラルヘキ者カ同條同項ノ事項ヲ變更セラルヘキ保險契約者總數ノ十分ノ一ヲ超ユルコトキハ保險金額カ同條同項ノ事項ヲ變更セラルヘキ保險契約者ノ保險金額總額ノ十分ノ一ヲ超ユルコトキ亦同シ(同上本條ヲ追加、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十三條 保險契約ノ移轉ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生ズ

前項ノ認可申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議録、財産目録、貸借對照表及ヒ前條ノ公告並ニ異議ニ關スル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

主務官廳ハ前項ノ書類ノ外必要ト認ムル書類ヲ提出ヲ命スルコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

加)

第二十五條 保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ株主總會ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第二十六條 生命保險ヲ目的トスル會社カ其保險契約ノ全部ヲ移轉スル場合ニ於テハ移轉契約ヲ以テ保險金額ノ削減シ及ヒ將來ノ保險料ヲ減額スヘキコト又ハ其ノ保險契約ニ付テ定ムル第七條第七號ノ事項ヲ變更スヘキコトヲ定ムルコトヲ得(同上本條ヲ追加、昭和二年法律第五十號ヲ以テ改正)

第二十七條 前條ノ規定ニ依リ保險金額ノ削減ヲ定ムル場合ニ於テハ保險契約ヲ移轉セントスル會社ハ第二十條ノ第二項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

第三項ノ決議アリタル時ヨリ保險契約ヲ移轉スルコトヲ得

シタル會社ノ其保險契約ニ付キ有スル權利義務ハ移轉ヲ受ケタル會社ニ於テ之ヲ承繼ス移轉契約ヲ以テ移轉スヘキコトヲ定ムル財産ニ付キ亦同シ

第二十條ノ二第三項ノ決議ノ後ニ於テ移轉スヘキ保險契約ニ付キ有シタル移轉受ケタル會社ニ歸ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十一條 會社カ其保險契約全部ノ移轉ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ解散ス(同上本條ヲ追加)

第二十二條 會社ハ解散ノ後三個月内ニ限リ第二十條ノ二第三項ノ決議ヲ爲スコトヲ得

第七十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セズ但保險契約ノ移轉ヲ爲サルニ至リタルトキハ此限ニ在ラス(同上本條ヲ追加)

第二十三條 第二十條ノ十ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ移轉契約書、各會社ノ株主總會ノ決議録並ニ第二十條ノ三ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル保險契約者アルトキハ其數及ヒ其保險金額カ第二十條ノ三第三項ノ規定シタル割合ヲ超エサルコトヲ證明スル書面及ヒ保險契約移轉ノ認可ヲ證スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス(同上本條ヲ追加、昭和二年法律第五十號ヲ以テ改正)

第二十四條 會社カ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

第二十五條 會社カ合併ノ決議ヲ爲シタルトキハ決議ノ認可ノ日ヨリ二週間内ニ合併契約ノ要旨及ヒ各會社ノ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス

第二十六條 第三項及ヒ第三項ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ適用ス

ニモ對抗スルコトヲ得(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十七條 生命保險ヲ目的トスル會社カ合併ヲ爲ス場合ニ於テハ合併契約ヲ以テ其保險契約ニ付キ定ムル第七條第七號ノ事項ヲ變更スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ第七條第七號ノ事項ヲ變更ラ定ムル場合ニ於テハ其變更ヲ爲サントスル會社ハ第二十條ノ五及ヒ第二十二條ノ七第三項ノ規定ヲ適用ス(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第二十八條 第七十三條第二項及ヒ第八十七條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社ニ之ヲ適用ス(明治四十五年法律第十八號、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十九條 第七十八條ノ規定ハ保險ヲ營業トスル株式會社カ第二十條第一條及ハ商法第七十四條第七號、第二百二十一條第二號、第三號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタル場合ニ之ヲ適用ス

第三十條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第二十二條ノ公告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル保險契約者アルトキハ其數及ヒ其保險金額カ第二十條ノ三第三項ノ規定シタル割合ヲ超エサルコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス(同上本條ヲ改正)

第三十一條 第一節 設立

第三十二條 相互會社ノ發起人ハ定款ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載シテ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一 保險ノ種類及ヒ事業ノ範圍

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 基金ノ總額

五 基金ノ總額

六 社員ノ責任ノ種類

七 基金又ヒ設立費用ノ償却ノ方法

八 剩餘金分配ノ方法

九 會社カ公告ヲ爲ス方法

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定ムルコトキハ其時期又ハ事由

第三十七條 相互會社ハ其名稱ニ保險ノ種類ヲ示シ且之ニ相互會社ナル文字ヲ附スルコトヲ要ス

第三十八條 相互會社ノ基金ハ十萬圓以下ルコトヲ得ス

第三十九條 相互會社ノ社員ノ數ハ百人以下ルコトヲ得ス

第四十條 發起人ニ非サル者カ社員タルトキハ入社申込證ニ通シ保險ノ目的及ヒ保險金額ヲ記載シ之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス但會社カ主たる事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲シタル後社員タルトキハ此限ニ在ラス

第四十一條 入社申込證ハ發起人之ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 定款作成ノ年月日

二 第二十六條ニ掲ケタル事項

三 基金ノ總額

四 發起人ノ姓名、住所

五 發起人カ報酬ヲ受ケヘキキハ其報酬ノ額

六 設立ノ際募集セントスル社員ノ數

七 一定ノ時期迄ニ會社カ成立セザルトキハ入社申込證ヲ取消スルコトヲ得ヘキコト(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

二年間責任ヲ負フ
前項ノ規定ハ第四十條及七十四條ノ場合ニテ之ヲ適用ス

第七節 解散

第七十二條 相互會社ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 存立時期ノ満了ニ其定款ニ定ムル事由ノ發生
- 二 社員ノ百人以上未滿ニ減シタルコト
- 三 社員總會ノ決議
- 四 合併
- 五 破産
- 六 免許ノ取消

第七十三條 任意ノ解散合併及ヒ保險契約移轉ノ決議ハ總社員ノ半數以上出席シ其四分ノ三ノ同意ヲ以テ之ヲ爲ス
前項ノ決議ハ主務官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其效力ヲ生ズ
(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七十四條 (昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ削除)

第七十五條 第二十二條ノ二及ヒ商法第七十六條、第七十八條乃至第八十二條ノ規定ハ相互會社ニテ之ヲ適用ス(同上本條ヲ改正)

第八節 清算

第七十六條 相互會社ヲ解散シタルトキ合併及ヒ破産ノ場合ヲ除ク外本節ノ規定ニ從テ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 (明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ削除)

第七十八條 會社ヲ第七十二條第二號、第三號又ハ第六號ニ掲ケタル事由ニ因リテ解散シタルトキハ保險金額ヲ支拂フヘキ事由ヲ解散ノ時ヨリ三ヶ月内ニ生シタルトキニ限リ保險金額ヲ支拂フコトヲ要ス(同上本條ヲ改正)

前項ノ期間經過ノ後ハ損害保險ノ目的トスル會社ニ在リテハ未ダ經過セザル期間ニ對シテ保險料、生命保險ノ目的トスル會社ニ在リテハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ヲ拂戻スコトヲ要ス

第七十九條 清算人ハ左ノ順序ニ從テ會社財産ヲ處分スルコトヲ要ス

- 一 一般ノ債務ノ清償
- 二 社員ノ保險金額及ヒ前條第二項ノ規定ニ依リテ社員ニ拂戻スヘキ金額ノ支拂
- 三 基金ノ償却

社員ハ保險料ノ外基金ノ償却ニ付キ責任ヲ負フコトヲシ

第八十條 殘餘財産ハ定款ニ別段ノ定キキハ剩餘金ノ分配ト同一ノ割合ヲ以テ之ヲ社員ニ分配ス

第八十一條 (明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ削除)

第八十二條 第四十四條、第五十條乃至第五十二條、第五十四條、商法第八十四條、第九十條乃至第九十三條、第九十七條、第九十九條、第九十九條、第一百零七條、第一百五十九條、第一百六十三條乃至第一百六十七條、第一百六十四條、第一百六十七條、第一百七十一條、第一百七十七條、第一百八十一條、第一百八十三條、第一百八十四條、第一百八十五條、第一百八十六條、第一百九十一條乃至第一百九十三條、第二百二十六條乃至第二百二十七條、第二百二十八條、第二百二十九條、第二百三十條、第二百三十二條、第二百三十三條及ヒ民法第七十九條、第八十二條、第八十三條ノ規定ハ相互會社ノ清算ノ場合ニテ之ヲ適用ス(同上本條ヲ改正)

第九節 補則

第九十條 補則

第八十三條 各登記所ニ相互保險會社登記簿ヲ備フ

第八十四條 相互會社ノ設立ノ登記ハ總取締役及ヒ總監査役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

- 一 定款
- 二 社員名簿
- 三 社員ヲ募集シタル場合ニ於テハ各社員ノ入社申込書
- 四 主務官廳ノ免許書又ハ其認證アル謄本
- 五 創立總會ノ決議錄

第八十五條 相互會社ノ社員名簿ハ登記簿ノ一部ト看做シ社員名簿ニ爲シタル記載ハ之ヲ登記ト看做ス但シ之ヲ公告スルコトヲ要セス

前項ノ規定ハ社員ノ全員ハ保險料ノ限度トシテ責任ヲ負フ會社ノ社員名簿ニハ之ヲ適用セス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第八十六條 相互會社ノ支配人ノ選任ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ取締役ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス支配人ノ代理權ノ消滅及ヒ非訟事件手續法第七十三條第一項第四號ニ掲ケタル事項並ニ其變更、消滅ノ登記ニ付キ亦同シ(同上本條ヲ改正)

第八十七條 相互會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ主務官廳ノ囑託ニ因リテ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第八十八條 第八十四條第一項ノ規定ハ相互會社ノ解散又ハ其合併ニ因ル變更若クハ設立ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニテ之ヲ適用ス

第八十九條 相互會社カ合併ニ因ル變更ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其事由ヲ記載シ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類ヲ添付スルコトヲ要ス

相互會社カ合併ニ因ル設立ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ

其事由ヲ記載シ第八十四條第二項並ニ非訟事件手續法第八十二條第二項ニ掲ケタル書類及ヒ商法第四十四條ノ三第二項ノ規定ニ依リテ選任セラレタル者ノ資格ヲ證スル書類ヲ添付スルコトヲ要ス(明治四十五年法律第十八號ヲ以テ本條ヲ追加)

第八十九條 非訟事件手續法第二百二十六條第一項、第三項、第三百三十五條ノ四、第三百三十八條ノ三乃至第三百三十九條、第四百一十一條乃至第四百四十四條、第四百七十三條、第四百七十四條第二項、第四百七十五條乃至第四百七十八條、第四百八十八條、第四百九十三條第一項、第二項及ヒ第四百九十五條ノ二ノ規定ハ相互會社ニテ之ヲ適用ス(同上本條ヲ改正)

第九十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營業利ノ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス

第九十一條 相互會社ニハ營業收益稅課セズ(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四章 計算

第九十二條 保險會社ハ毎年一回一定ノ時期ニ於テ其帳簿ヲ閉鎖シ總會終結ノ後遲滞ナク財産目錄、貸借對照表、事業報告書、損益計算書及ヒ基金ノ償却、其利息ノ支拂、準備金並ニ利益又ハ剩餘金ノ配當ニ關スル決議書ヲ主務官廳ニ提出スルコトヲ要ス

第九十三條 保險契約者、被保險者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ會社ノ定時總會終結ノ後前條ニ掲ケタル書類ノ開覽ヲ求メ又ハ其謄本若クハ抄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得但シ定款又ハ保險約款ノ定ムル所ニ依リ其謄本又ハ抄本ノ交付ニ付キ手数料ヲ拂フコトヲ要ス

第九十四條 第九十二條ニ掲ケタル書類ノ書式ハ主務大臣之

ヲ定ム(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十五條 保險會社ハ保險契約ノ種類ニ從ヒ各事業年度ノ終ニ於テ存スル契約ニ付キ責任準備金ヲ計算シ且之ヲ特ニ設ケタル帳簿ニ記載スルコトヲ要ス

第九十六條 生命保險ニ在リテハ保險契約者又ハ保險金額ヲ受取ルヘキ者ハ被保險者ノ爲メニ積立テタル金額ニ付キ會社財産ノ上ニ優先權ヲ有ス

第五章 罰則

第九十七條 主務官廳ノ免許ヲ受ケシテ保險事業ヲ營ム者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十五年法律第五十八號、昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第九十八條 一 第十三條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第九十九條 保險會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其行爲ニ付キ刑ヲ科スヘキトキハ此限ニ在ラス(明治四十五年法律第十

八號ヲ以テ本條ヲ改正)

- 一 保險事業ニ非サル事業ヲ爲シタルトキ
- 二 生命保險ノ損害保險トシテ營業ミタルトキ
- 三 主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
- 四 主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
- 五 正當ノ理由ヲナクシテ第九十三條ノ規定ニ依リ開覽ヲ許スヘキ書類ヲ開覽セシメズ又ハ其謄本若クハ抄本ヲ交付セザリシトキ
- 六 會社カ免許ノ取消ニ因リテ解散シタル場合ニ於テ清算人ニ事務ヲ引渡ラザルコトキ
- 七 第二十條ノ規定ニ違反シテ資本減少ヲ爲シタルトキ

(昭和二年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ追加、第七

●銀行法

(昭和二年三月三十日法律第二十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銀行法

第一條 左ニ掲グル業務ヲ營ム者ハ之ヲ銀行トス

一 預金ノ受入ト金錢ノ貸付又ハ手形ノ割引トヲ併セテ爲スコト

二 爲替取引ヲ爲スコト

營業トシテ預金ノ受入ヲ爲ス者ハ之ヲ銀行ト看做ス

第二條 銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 銀行業ハ資本金百萬元以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ス但シ勅令ヲ以テ指定スル地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ノ資本金ハ二百萬元ヲ下ルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ニ依リ地域ノ指定アリタル場合ニ於テ其ノ地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ニシテ資本金二百萬元未滿ノモノハ指定ノ日ヨリ五年ヲ限リ前項但書ノ資本金ニ依ラザルコトヲ得

第四條 銀行ハ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用フベシ

銀行ニ非ザルモノハ其ノ商號中ニ銀行タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條 銀行ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業務ヲ營ミ又ハ保護預り其ノ他ノ銀行業ニ附隨スル業務ヲ營ムノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

一 商號ヲ變更セントスルトキ

二 資本金ヲ變更セントスルトキ

三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

五 支店以外ノ營業所ヲ支店ニ變更セントスルトキ

第七條 銀行ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス

銀行ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス

第八條 銀行ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第九條 銀行ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十條 銀行ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十一條 銀行ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シテ之ヲ公告スベシ

第十二條 銀行ノ監査役ハ銀行ノ業務及財産ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ每營業年度ニ同作成シテ之ヲ本店ニ備ヘ置クベシ

第十三條 銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第十四條 銀行ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ

第十五條 銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ爲スベキ惟告ハ預金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第十六條 銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得合併ニ因リ株式併合ノ場合ニ於テ商法第二百二十條ノ二但書

ノ期間ニ付亦同シ

第十七條 銀行ガ合併ニ因リテ貯蓄銀行法第一條第一項ノ業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケズ

貯蓄銀行法第九條、第十條及第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 銀行ノ休日ハ祭日、祝日、日曜日其ノ他銀行ノ營業所所在地ニ行ハル一般ノ休日ニ限ル

銀行ガ天災其ノ他避クベカラザル事變ニ因リ臨時ニ休業スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ地方長官ニ届出ツベシ

第十九條 銀行ガ預金ノ拂戻ヲ停止スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ事由ヲ具シテ主務大臣ニ届出ツベシ

第二十條 主務大臣ハ何時ニテモ銀行ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ監査書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ヲ停止又ハ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 銀行ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ヲ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ業務ヲ停止ヲ命ゼラレタル銀行ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 銀行業ノ廢止又ハ銀行ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ

第二十六條 銀行ガ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存続スル場合ニ於テハ銀行ニ關スル事務ヲ管理スル主務大臣ハ其ノ會社ガ預金債務ヲ完済スルニ至ル迄財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ銀行ニ非ザル會社ガ銀行ノ預金債務ヲ承繼シタル場合亦同シ

第二十七條 銀行ガ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ選任又其ノ清算人ノ解任亦同シ

第二十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタルトキハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第二十九條 裁判所ハ銀行ノ清算事務及財産ノ狀況ヲ検査シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監査ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ銀行ノ検査監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ検査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

第三十一條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ銀行ノ検査監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三十二條 本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ガ本法施行地内ニ支店、出張所又ハ代理店ヲ設ケ銀行業ヲ營ムントスルトキハ各營業所毎ニ代表者ヲ定メ第二條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケベシ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタルトキハ該營業所ハ本法ノ適用ニ付之ヲ銀行ト看做ス此ノ場合ニ於テハ第三條乃至第九條ノ規定ニ依リ之ヲ行フベシ

第三十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記載、虛偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又ハ公眾ヲ欺瞞シタルトキ

二 本法ニ依リ検査ニ際シ帳簿書類ノ隱蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタルトキ

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、代理店主(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者又ハ外國會社ノ代表者)、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 第五條乃至第八條又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十七條ニ於テ準用スル貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 本法ニ依リ銀行ニ備ヘ置クベキ書類ノ備付若ハ主務大臣ニ提出スベキ書類ノ提出ヲ怠リ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 本法ニ定メタル届出若ハ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不實ノ届出若ハ公告ヲ爲スコトヲ得

●銀行法

(昭和二年三月三十日法律第二十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銀行法

第一條 左ニ掲グル業務ヲ營ム者ハ之ヲ銀行トス

一 預金ノ受入ト金錢ノ貸付又ハ手形ノ割引トヲ併セテ爲スコト

二 爲替取引ヲ爲スコト

營業トシテ預金ノ受入ヲ爲ス者ハ之ヲ銀行ト看做ス

第二條 銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 銀行業ハ資本金百萬元以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ス但シ勅令ヲ以テ指定スル地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ノ資本金ハ二百萬元ヲ下ルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ニ依リ地域ノ指定アリタル場合ニ於テ其ノ地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ニシテ資本金二百萬元未滿ノモノハ指定ノ日ヨリ五年ヲ限リ前項但書ノ資本金ニ依ラザルコトヲ得

第四條 銀行ハ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用フベシ

銀行ニ非ザルモノハ其ノ商號中ニ銀行タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條 銀行ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業務ヲ營ミ又ハ保護預り其ノ他ノ銀行業ニ附隨スル業務ヲ營ムノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

一 商號ヲ變更セントスルトキ

二 資本金ヲ變更セントスルトキ

三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

五 支店以外ノ營業所ヲ支店ニ變更セントスルトキ

第七條 銀行ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス

銀行ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス

第八條 銀行ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第九條 銀行ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十條 銀行ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十一條 銀行ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シテ之ヲ公告スベシ

第十二條 銀行ノ監査役ハ銀行ノ業務及財産ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ每營業年度ニ同作成シテ之ヲ本店ニ備ヘ置クベシ

第十三條 銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第十四條 銀行ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ

第十五條 銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ爲スベキ惟告ハ預金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第十六條 銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得合併ニ因リ株式併合ノ場合ニ於テ商法第二百二十條ノ二但書

ノ期間ニ付亦同シ

第十七條 銀行ガ合併ニ因リテ貯蓄銀行法第一條第一項ノ業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケズ

貯蓄銀行法第九條、第十條及第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 銀行ノ休日ハ祭日、祝日、日曜日其ノ他銀行ノ營業所所在地ニ行ハル一般ノ休日ニ限ル

銀行ガ天災其ノ他避クベカラザル事變ニ因リ臨時ニ休業スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ地方長官ニ届出ツベシ

第十九條 銀行ガ預金ノ拂戻ヲ停止スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ事由ヲ具シテ主務大臣ニ届出ツベシ

第二十條 主務大臣ハ何時ニテモ銀行ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ監査書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ヲ停止又ハ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 銀行ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ヲ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ業務ヲ停止ヲ命ゼラレタル銀行ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 銀行業ノ廢止又ハ銀行ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ

第二十六條 銀行ガ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存続スル場合ニ於テハ銀行ニ關スル事務ヲ管理スル主務大臣ハ其ノ會社ガ預金債務ヲ完済スルニ至ル迄財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ銀行ニ非ザル會社ガ銀行ノ預金債務ヲ承繼シタル場合亦同シ

第二十七條 銀行ガ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ選任又其ノ清算人ノ解任亦同シ

第二十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタルトキハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第二十九條 裁判所ハ銀行ノ清算事務及財産ノ狀況ヲ検査シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監査ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ銀行ノ検査監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ検査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

第三十一條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ銀行ノ検査監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三十二條 本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ガ本法施行地内ニ支店、出張所又ハ代理店ヲ設ケ銀行業ヲ營ムントスルトキハ各營業所毎ニ代表者ヲ定メ第二條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケベシ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタルトキハ該營業所ハ本法ノ適用ニ付之ヲ銀行ト看做ス此ノ場合ニ於テハ第三條乃至第九條ノ規定ニ依リ之ヲ行フベシ

第三十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記載、虛偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又ハ公眾ヲ欺瞞シタルトキ

二 本法ニ依リ検査ニ際シ帳簿書類ノ隱蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタルトキ

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、代理店主(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者又ハ外國會社ノ代表者)、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ其ノ行爲ニ付刑ヲ科スベキトキハ此ノ限ニ在ラズ

一 第五條乃至第八條又ハ第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十七條ニ於テ準用スル貯蓄銀行法第九條ノ規定ニ違反シタルトキ

三 本法ニ依リ銀行ニ備ヘ置クベキ書類ノ備付若ハ主務大臣ニ提出スベキ書類ノ提出ヲ怠リ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ又ハ之ニ不實ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 本法ニ定メタル届出若ハ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不實ノ届出若ハ公告ヲ爲スコトヲ得

●銀行法

(昭和二年三月三十日法律第二十一號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銀行法

第一條 左ニ掲グル業務ヲ營ム者ハ之ヲ銀行トス

一 預金ノ受入ト金錢ノ貸付又ハ手形ノ割引トヲ併セテ爲スコト

二 爲替取引ヲ爲スコト

營業トシテ預金ノ受入ヲ爲ス者ハ之ヲ銀行ト看做ス

第二條 銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 銀行業ハ資本金百萬元以上ノ株式會社ニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ス但シ勅令ヲ以テ指定スル地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ノ資本金ハ二百萬元ヲ下ルコトヲ得ス

前項但書ノ規定ニ依リ地域ノ指定アリタル場合ニ於テ其ノ地域ニ本店又ハ支店ヲ有スル銀行ニシテ資本金二百萬元未滿ノモノハ指定ノ日ヨリ五年ヲ限リ前項但書ノ資本金ニ依ラザルコトヲ得

第四條 銀行ハ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用フベシ

銀行ニ非ザルモノハ其ノ商號中ニ銀行タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第五條 銀行ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業務ヲ營ミ又ハ保護預り其ノ他ノ銀行業ニ附隨スル業務ヲ營ムノ外他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

一 商號ヲ變更セントスルトキ

二 資本金ヲ變更セントスルトキ

三 支店其ノ他ノ營業所又ハ代理店ヲ設置セントスルトキ

四 本店其ノ他ノ營業所ノ位置ヲ變更セントスルトキ

五 支店以外ノ營業所ヲ支店ニ變更セントスルトキ

第七條 銀行ハ代理店主ヲシテ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス

銀行ノ代理店主ハ其ノ代理事務ニ關シ代理店ノ出張所其ノ他ノ從タル營業所又ハ復代理店ヲ設ケシムルコトヲ得ス

第八條 銀行ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ヲ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツベシ

第九條 銀行ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十條 銀行ハ營業年度毎ニ業務報告書ヲ作成シテ之ヲ主務大臣ニ提出スベシ

第十一條 銀行ハ營業年度毎ニ主務大臣ノ定ムル様式ニ依リ貸借對照表ヲ作成シテ之ヲ公告スベシ

第十二條 銀行ノ監査役ハ銀行ノ業務及財産ノ狀況ニ關スル調査ノ結果ヲ記載シタル監査書ヲ每營業年度ニ同作成シテ之ヲ本店ニ備ヘ置クベシ

第十三條 銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ガ他ノ會社ノ常務ニ從事セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ

第十四條 銀行ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ

第十五條 銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リ之ヲ爲スベキ惟告ハ預金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セズ

第十六條 銀行ガ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ一月迄之ヲ下スコトヲ得合併ニ因リ株式併合ノ場合ニ於テ商法第二百二十條ノ二但書

ノ期間ニ付亦同シ

第十七條 銀行ガ合併ニ因リテ貯蓄銀行法第一條第一項ノ業務ニ屬スル契約ニ基ク權利義務ヲ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケズ

貯蓄銀行法第九條、第十條及第十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 銀行ノ休日ハ祭日、祝日、日曜日其ノ他銀行ノ營業所所在地ニ行ハル一般ノ休日ニ限ル

銀行ガ天災其ノ他避クベカラザル事變ニ因リ臨時ニ休業スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ地方長官ニ届出ツベシ

第十九條 銀行ガ預金ノ拂戻ヲ停止スルトキハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ事由ヲ具シテ主務大臣ニ届出ツベシ

第二十條 主務大臣ハ何時ニテモ銀行ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ監査書其ノ他ノ書類帳簿ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十一條 主務大臣ハ何時ニテモ部下ノ官吏ニ命ジテ銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査セシムルコトヲ得

第二十二條 主務大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ヲ停止又ハ財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 銀行ガ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スベキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ヲ停止若ハ取締役、監査役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十四條 主務大臣ハ業務ヲ停止ヲ命ゼラレタル銀行ニ對シ其ノ整理ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 銀行業ノ廢止又ハ銀行ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ズ

第二十六條 銀行ガ其ノ目的ヲ變更シ他ノ業務ヲ營ム會社トシテ存続スル場合ニ於テハ銀行ニ關スル事務ヲ管理スル主務大臣ハ其ノ會社ガ預金債務ヲ完済スルニ至ル迄財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得合併ニ因リ銀行ニ非ザル會社ガ銀行ノ預金債務ヲ承繼シタル場合亦同シ

第二十七條 銀行ガ營業ノ免許ヲ取消サレタルトキハ之ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ清算人ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ裁判所ノ選任又其ノ清算人ノ解任亦同シ

第二十八條 前條ノ場合ヲ除クノ外裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ清算人ヲ解任シタルトキハ裁判所ハ清算人ヲ選任スルコトヲ得

第二十九條 裁判所ハ銀行ノ清算事務及財産ノ狀況ヲ検査シ、財産ノ供託ヲ命ジ其ノ他清算ノ監査ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第三十條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ裁判所ハ銀行ノ検査監督ニ從事スル官吏ニ對シ意見ヲ求メ又ハ検査若ハ調査ヲ囑託スルコトヲ得

第三十一條 銀行ノ清算、破産又ハ強制和議ノ場合ニ於テ銀行ノ検査監督ニ從事スル官吏ハ裁判所ニ對シ意見ヲ述ブルコトヲ得

第三十二條 本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ガ本法施行地内ニ支店、出張所又ハ代理店ヲ設ケ銀行業ヲ營ムントスルトキハ各營業所毎ニ代表者ヲ定メ第二條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケベシ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタルトキハ該營業所ハ本法ノ適用ニ付之ヲ銀行ト看做ス此ノ場合ニ於テハ第三條乃至第九條ノ規定ニ依リ之ヲ行フベシ

第三十三條 主務大臣ノ免許ヲ受ケズシテ銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 業務報告書又ハ監査書ノ不實ノ記載、虛偽ノ公告其ノ他ノ方法ニ依リ官廳又ハ公眾ヲ欺瞞シタルトキ

二 本法ニ依リ検査ニ際シ帳簿書類ノ隱蔽、不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ケタルトキ

第三十五條 左ノ場合ニ於テハ取締役、監査役、支配人、代理店主(代理店主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社員、取締役其ノ他法人ノ代表者又ハ外國會社ノ代表者)、清算人又ハ本法施行地外ニ本店ヲ有スル銀行ノ本法施行地ニ於ケル代表者ヲ十圓以上

員ニ之ヲ準用ス

施行後五年ヲ限リ第三條第一項本文ノ規定ヲ適用セズ第三十九條第二項ノ銀行ノ合併ニ因リ設立シタル銀行ノ資本ニ付亦同シ
命令ヲ以テ定ムル人口一萬未滿ノ地ニ本法施行ノ際現ニ本店ヲ有スル銀行ニ付テハ第三條第一項本文ノ規定ヲ適用セズ但シ其ノ資本金ハ本法施行後五年内ニ五十萬圓以上ト爲ヌコトヲ要ス

第四十二條 本法施行ノ際現ニ銀行ニシテ其ノ商號中ニ銀行ナル文字ヲ用ヒザルモノ及銀行ニ非ズシテ其ノ商號中ニ銀行タルコトヲ示スベキ文字ヲ用フルモノニ付テハ本法施行後六月ヲ限リ第四條ノ規定ヲ適用セズ
第四十三條 本法施行ノ際現ニ第五條ノ業務以外ノ業務ヲ營ム銀行ハ本法施行後五年ヲ限リ仍其ノ業務ヲ繼續スルコトヲ得

第四十四條 第三十九條第二項ノ銀行ノ本法施行ノ際現ニ有スル本店及支店以外ノ營業所又ハ代理店ハ本法施行後一年内ニ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ存續スルコトヲ得ズ
前項ノ認可申請書ハ本法施行後三月内ニ主務大臣ニ提出スベシ

第四十五條 本法施行ノ際現ニ銀行ノ常務ニ從事スル取締役又ハ支配人ニシテ他ノ會社ノ常務ニ從事スル者ハ本法施行後一年ヲ限リ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ引續キ其ノ會社ノ常務ニ從事スルコトヲ得
第四十六條 第三十九條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノノ業務廢止ニ付テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケズシテ
第四十七條 本法中取締役ニ關スル規定ハ第三十九條第二項ノ銀行ニシテ株式會社又ハ外國銀行以外ノモノニ付テハ其ノ營業主(營業主法人ナルトキハ其ノ業務ヲ執行スル社

●銀行條例

(明治二十三年八月二十五日法律第七十二號)

改正、明二八―法一、明三二―法五二、
明三三―法五、大五一―法一三、大
九―法二二、大一〇―法七五

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

銀行條例 (昭和二年法律第二十一號銀行法附則ヲ以テ廢止)

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ取引ヲ爲シ又ハ爲營業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用ケルニ拘ラス總テ銀行トス
第二條 銀行ノ事業ヲ營ムタル者ハ商號、資本金額及本店ノ所在地ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ
第三條 銀行ノ事業ヲ兼營シ又ハ支店ヲ設置セムタルキ亦前項ニ同シ(大正五年法律第十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
第四條 銀行ノ前條第一項ニ掲グル事項ヲ變更セムタルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ(シ支店ノ所在地ヲ變更セムタルトキ亦同シ)
第五條 銀行ノ事業ヲ營ム會社ハ合併ハ大藏大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレハ其效力ヲ生ゼス(同上本條ヲ追加)
第六條 銀行ノ事業ヲ營ム會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項ノ規定ニ依リテ爲スヘキ催告ハ預金者ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ要セス(大正九年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ追加)
第七條 銀行ノ事業ヲ營ム會社カ合併ノ決議ヲ爲シタル場合ニ於テ商法第七十八條第二項但書ノ期間ハ二箇月迄

銀行條例

之ヲ下スコトヲ得合併ニ因ル株式併合ノ場合ニ於テ商法第二百二十條ノ二但書ノ期間ニ付亦同シ(大正九年法律第二十二號ヲ以テ本條ヲ追加)

第八條 銀行ノ事業ヲ營ム會社カ合併ニ因リテ貯蓄銀行法第一條第一項ノ業務ニ屬スル契約ニ基テ權利義務ヲ承繼シタル場合ニ於テハ其契約ノ完了スル迄仍其契約ニ關スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケズ
第九條 貯蓄銀行法第九條、第十條、第十五條及第十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ同法第十五條及第十九條ノ規定中取締役トアルハ合併ニ因リテ設立シタル會社又ハ合併後存續スル會社カ合名會社合資會社又ハ株式會社トシテハ其業務ヲ執行スル社員トス(同上本條ヲ追加)
第十條 銀行ハ每半年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スベシ

第十一條 銀行ハ每半年營業對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス(明治三十三年法律第五號ヲ以テ本條ヲ改正)
第十二條 銀行ノ登記スベキ事項ニシテ大藏大臣ノ認可ヲ要スルモノアルトキハ其認可書ノ到達シタル日ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス(明治二十八年法律第一號ヲ以テ本條ヲ削除、同三十三年法律第五號ヲ以テ追加)
第十三條 銀行ノ營業時間ハ午前九時ヨリ午後第三時迄トス

第十四條 但營業ノ都合ニヨリ之ヲ増加スコトヲ得明治二十八年法律第一號ヲ以テ本條ヲ改正)
第十五條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但シ得ザル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第十六條 大藏大臣ハ何時タリモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命ジテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得
第十七條 大藏大臣ハ銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ其事業ノ停止ヲ命ジ其他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第十八條 銀行ノ法令、定款又ハ大藏大臣ノ命令ニ違反シ其他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ大藏大臣ハ事業ノ停止若ハ役員ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ認可ヲ取消スコトヲ得(大正五年法律第十三號ヲ以テ本條ヲ追加)
第十九條 大藏大臣ノ認可ヲ受ケズシテ銀行ノ事業ヲ營ムタルトキハ其營業主ヲ千圓以下ノ罰金ニ處ス(同上本條ヲ改正)
第二十條 左ノ場合ニ於テハ營業主ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス(同上本條ヲ改正)

第二十一條 第二條第二項又ハ第二條ノ二第一項ノ規定ニ違反シタルトキ
第二十二條 第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告若ハ公告中ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
第二十三條 第八條ノ検査ヲ妨ケタルトキ
第二十四條 第八條ノ二ノ規定ニ依リ大藏大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ
第二十五條 前二條ノ罰則ハ營業主法人ナルトキハ其業務ヲ執行スル社員、取締役、監査役其他法人ノ代表者、外國會社ノ代表者ニ之ヲ適用シ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ之ヲ其法定代理人ニ適用ス(同上本條ヲ追加)

第二十六條 此條例ハ日本銀行積立正金銀行「國立銀行」ニ適用セス

貯蓄銀行法

(大正十年四月十四日 法律第七十四號)

改正、昭二一法二四

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル貯蓄銀行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貯蓄銀行法

第一條 左ニ掲クル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

一 複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト

二 一回十圓未満ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト

三 豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト

四 期限ヲ定メテ一定金額ヲ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金銀ヲ受入ルルコト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トシテ取引ノ結果生シタル十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未満ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 貯蓄銀行業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サルハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款及業務ノ種類及方法ヲ記載シタル書面ヲ添附シテ主務大臣ニ提出スヘシ

第三條 貯蓄銀行業ハ資本金五十萬圓以上ノ株式會社ニ非サルハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第四條 貯蓄銀行ハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行ナル文字ヲ用ウヘシ

貯蓄銀行ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ貯蓄銀行タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條 貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ掲クル業務ヲ併セ營ムコトヲ得

一 定期預金

二 保護預金

三 債權ノ取立

四 公共團體又ハ產業組合ノ金銀出納事務ノ取扱

五 公共團體又ハ產業組合ヨリノ要求拂預金

第六條 貯蓄銀行ハ本法ニ規定セザル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行カ貯蓄銀行ノ營ムコトヲ得サル業務ニ屬スル契約ニ基テ權利義務ヲ合併シテ承繼シタル場合ニ於テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ妨ケス

第八條 貯蓄銀行ハ小切手ニ依リ支拂ヲ爲ス第一條第一項第一號第二號ノ預金取引ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 貯蓄銀行ハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ供託金額中受入金額ノ五分ノ一ヲ超ユル額ニ付テハ第十一條第一項第一號ノ有價證券ヲ以テ國債ニ代フルコトヲ得

第十條 預金者及第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者ハ其ノ預金及給付金ニ關シテ前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債及有價證券ニ付テハ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十一條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依リ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債、地方債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入

二 國債其ノ他前號ニ掲クル有價證券ヲ質トスル貸付

三 不動產ヲ抵當トスル貸付

四 預金者ニ對シ其ノ預金額ヲ限度トスル貸付

五 第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ノ債權者ニ對シ其ノ給付金額ヲ限度トスル貸付

六 銀行ノ預金又ハ郵便貯金

七 銀行引受手形ノ買入

前項ニ規定スル社債及株式ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第十二條 貯蓄銀行ノ所有シ又ハ貸付金若ハ預金ノ擔保トシテ受入ルル一會社ノ株式ハ該會社ノ總株式ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 一人ニ對スル貸付金額ハ拂込資本金及準備金ノ十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 第一條第一項第三號ノ規定ニ依リ貸付金ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條 第一條第一項第五號ノ規定ニ依リ貸付金ノ總額ハ總額ノ十分ノ一ヲ限度トシ且該銀行ノ拂込資本金及準備金ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス但シ其ノ總額中國債其ノ他第十一條第一項第一號ニ掲クル有價證券ヲ以テ擔保セラレタル額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 第九條第二項ノ規定ハ前項ノ受入金ノ額ニ付テハ之ヲ運用ス

第十七條 貯蓄銀行カ其ノ財產ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ第一條第一項及第五條第一號第五號ノ規定ニ依リ契約ニ基テ銀行ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責任ヲ負フ

前項ノ責任ハ取締役ノ退任登記前ノ債務ニ付退任登記後二年間仍存ス

第十六條 貯蓄銀行ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

一 定款ヲ變更セムトスルコト

二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルコト

三 (昭和二年法律第二十四號ヲ以テ本條ヲ削除) 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ヲ制限シ又ハ其ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 (同上本條ヲ削除)

第十八條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ貯蓄銀行業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 左ノ場合ニ於テハ貯蓄銀行ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上十圓以下ノ過料ニ處ス

一 第六條、第八條、第九條、第十一條乃至第十四條及第十六條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十六條第二項ノ規定ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第二十條 第四條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十一條 本法ニ別段ノ規定ヲ設ケザル事項ニ付テハ銀行法ニ依ル

銀行法第十五條又ハ第二十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ第一條第一項第四號ノ規定ニ依リ給付金ハ之ヲ預金ト看做ス(同上本條ヲ改正)

第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ納付スヘキ營業收益稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス(同上本條ヲ改正)

附則

第三十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年)

貯蓄銀行法

年勅令第二百八十四號ヲ以テ同十一年一月一日ヨリ施行ス

第二十四條 貯蓄銀行條例ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ營業ノ認可ヲ受ケタル貯蓄銀行ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ本法ニ依リテ免許ヲ受ケタル貯蓄銀行ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル認可、處分其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第二十五條 前條第二項ノ貯蓄銀行ノ資本金ニ付テハ本法施行後五年ヲ限リ仍舊法ニ依ル

第二十六條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行ニシテ現ニ其ノ商號中ニ貯蓄銀行又ハ貯蓄銀行ナル文字ヲ用ウルモノニ限リ第四條第一項ノ規定ニ拘ラス仍其ノ商號ヲ用ウルコトヲ得

第二十七條 第二十四條第二項ノ貯蓄銀行カ第九條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ供託ニ付テハ本法施行後二年ヲ限リ仍舊法ニ依ル但シ其ノ期間内ニ於テ新ニ供託ヲ爲ス場合ニ於テハ第一條第一項ノ規定ニ依リテ受入レタル金額ノ四分ノ一迄ハ國債ニ限ル

第二十八條 本法施行前貯蓄銀行ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ貯蓄銀行ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍其ノ契約ノ屬スル業務ニ限リ之ヲ繼續スルコトヲ得

第二十九條 本法施行ノ際現ニ貯蓄銀行ノ所有スル公債、社債又ハ株式ニシテ第十一條第一項第一號ノ規定ニ依リ應募、引受又ハ買入ヲ爲スコトヲ得サルモノハ本法施行後三年ヲ限リ仍之ヲ所有スルコトヲ得

無盡業法

(大正四年六月二十一日) 法律第二十四號

改正、大一〇一法

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ無盡業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

無盡業法

第一條 本法ニ於テ無盡ト稱スルハ一定ノ口數ト給付金額トヲ定メ定期ニ掛金ヲ拂込マシメ一口毎ニ抽籤入札其ノ他類似ノ方法ニ依リ掛金者ニ對シ金錢ノ給付ヲ爲スヲ謂フ無盡類似ノ方法ニ依リ金錢又ハ有價證券ノ給付ヲ爲スモノ亦同シ但シ賭博又ハ富籤ニ類似スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 無盡ノ營業ハ主務大臣ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 無盡業ノ管理ヲ爲スハ之ヲ無盡業ト看做ス

第四條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第五條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ營業ヲ表示スル名稱ヲ附シ其ノ名稱中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第六條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號又ハ營業ヲ表示スル名稱中ニ無盡ナル文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第七條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第八條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第九條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十一條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十二條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十三條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十四條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十五條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十六條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十七條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十八條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第十九條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十一條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十二條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十三條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十四條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十五條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十六條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十七條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十八條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第二十九條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第三十條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第三十一條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ商號中ニ無盡ナル文字ヲ用ウヘシ

第五條 無盡業ヲ營ム會社ハ其ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得ス

第六條 無盡業ノ營業區域ハ道府縣ノ區域内ニ於テ之ヲ定メ會社ニ在リテハ定款中ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ事業方法書中ニ之ヲ記載スヘシ

第七條 無盡業ヲ營ム會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生ズ

第八條 無盡業者カ資本金額、營業所、事業方法又ハ無盡契約約款ヲ變更セムトスルキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 無盡業者ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 國債證券、地方債證券其ノ他特別ノ法令ニ依リ設立シタル會社ノ債券又ハ株券ノ買入

二 前號ノ有價證券又ハ不動産ヲ擔保トスル貸付(大正十年法律第一號ヲ以テ本號ヲ改正)

三 掛金者ニ對シ契約約款付金額ノ限度トスル貸付(同上本號ヲ改正)

四 銀行ノ預金又ハ郵便貯金

前項第三號ノ規定ニ依リ貸付金額額ハ拂込済資金及諸準備金ノ總額ヲ超ユルコトヲ得ス(同上本項ヲ追加)

第十條 無盡業ヲ營ム株式會社カ會社財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサルニ至リタルトキハ無盡契約ニ基テ會社ノ債務ニ付各取締役ハ連帶シテ其ノ辨償ノ責任ヲ負ニ任ス

前項ノ責任ハ取締役ノ退任ノ登記ヲ爲シタル後二年間仍存ス

第十一條 無盡業者ハ何人ノ名義ヲ以テスルヲ開ハス自己ノ計

算ニ於テ其ノ經營スル無盡ニ加入スルコトヲ得ス

第十二條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十三條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十四條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十五條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十六條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十七條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十八條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第十九條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十一條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十二條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十三條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十四條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十五條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十六條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十七條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十八條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第二十九條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十一條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

第三十二條 無盡業ノ管理ヲ爲ス無盡業者ハ其ノ管理スル無盡ノ加入者ニ代リ掛金ノ拂込及給付金ノ支拂ニ關シ一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行為ヲ爲ス權限ヲ有ス

●信託業法

(大正十一年四月二十一日) (法律第六十五號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ信託業法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

信託業法

第一條 信託業ハ主務大臣ノ免許ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

前項ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ定款並業務ノ種類及方法ヲ記載シテ書面ヲ添附シ之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

第二條 信託業ハ資本金百萬元以上ノ株式會社ニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第三條 信託會社ハ其ノ商號中ニ信託ナル文字ヲ用ウヘシ

信託會社ニ非サルモノハ其ノ商號中ニ信託業者タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス但シ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ム者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 信託會社ハ左ニ掲グル財産以外ノモノノ信託ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 金錢
- 二 有價證券
- 三 金錢債權
- 四 動産
- 五 土地及其ノ定著物
- 六 地上權及土地ノ賃借權

第五條 信託會社ハ左ニ掲グル業務ニ限リ之ヲ併セ營ムコトヲ得

- 一 保護預リ
- 二 債務ノ保護

三 不動産買賣ノ媒介又ハ金錢若ハ不動産ノ賃借ノ媒介

四 公債社債若ハ株式ノ募集、其ノ拂込金ノ受入又ハ其ノ元利金若ハ配當金ノ支拂ノ取扱

五 左ノ事項ニ關スル代理事務

イ 財産ノ取得、管理、處分又ハ賃借

ロ 財産ノ整理又ハ清算

ハ 債權ノ取立

ニ 債務ノ履行

主務大臣ハ債務ノ保護ニ付命令ヲ以テ必要ナル制限ヲ設クルコトヲ得

第六條 信託會社ハ擔保附社債信託法ニ依リ擔保附社債ニ關スル信託業ヲ營ムコトヲ得

第七條 信託會社ハ信託義務ノ違反ニ因リテ受益者ニ生スルコトアルキ損害ノ擔保トシテ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ本金ノ十分ノ一以上ノ金額ニ相當スル國債ヲ供託スヘシ但シ其ノ金額ハ百萬元ヲ超ユルコトヲ要セス

第八條 受益者ハ信託會社力前條ノ規定ニ依リテ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第九條 信託會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ運用方法ノ特定セサル金錢信託ニ限リ元本ノ損失ヲ來シタル場合又ハ豫メ一定シタル額ノ利益ヲ得ザル場合ニ於テ之ヲ補填シ又ハ補足スル契約ヲ爲スコトヲ得

第十條 信託法第二十二條第一項但書ノ規定ハ信託會社ニ之ヲ適用セス

信託會社ハ金錢信託ニ付其ノ運用ニ依リ取得シタル財産カ取引所ノ相場アルモノナルキハ信託行爲ニ依リ受益者ニ對シ負擔スル債務ヲ履行スル爲ニ必要ナル場合ニ限リ信託行爲ノ定ムル所ニ依リ之ヲ固有財産ト爲スコトヲ得

第十一條 信託會社ハ左ノ方法ニ依リノ外其ノ營業上ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

- 一 公債、社債又ハ株式ノ應募、引受又ハ買入
- 二 公債其ノ他前號ニ掲グル有價證券ヲ買入
- 三 動産ノ買入又ハ動産ヲ擔保トスル貸付
- 四 不動産ノ買入
- 五 不動産又ハ法令ニ依リテ設定シタル財團ヲ抵當トスル貸付
- 六 公共團體又ハ產業組合ニ對スル貸付
- 七 銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
- 八 銀行又ハ信託會社ノ引受アル手形ノ買入

前項第三號ニ規定スル動産ニ付テハ其ノ種類ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第一項第四號ノ規定ニ依リ不動産ノ買入價格ノ總額ハ拂込資本金及準備金ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 信託會社ハ資本ノ總額ニ達スル迄ハ利益ノ配當スル毎ニ準備金トシテ其ノ利益ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第十三條 信託會社ハ毎半年業務報告書ヲ作り之ヲ主務大臣ニ提出スヘシ

貸借對照表ハ毎半年新聞紙ニ依リテ之ヲ公告スヘシ

第十四條 信託會社ノ合併ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十五條 信託會社ハ左ノ場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ得

- 一 定款ヲ變更セムトスルキ
- 二 業務ノ種類又ハ方法ヲ變更セムトスルキ
- 三 代理店ヲ設置セムトスルキ

第十六條 合併後存續スル信託會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル信託會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル信託會社ノ信託ニ關スル權利義務ヲ承繼ス

信託會社ノ合併ニ付異議ヲ述ヘタル受益者アルトキハ其ノ信託ニ關スル權利義務ヲ承繼スルコトヲ得

託ニ付テハ信託法第四十二條及第四十九條第一項第三項ノ規定ヲ適用ス

第十七條 主務大臣ハ何時ニテモ信託會社ヲ其ノ業務ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十八條 主務大臣ハ信託會社ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ業務ノ種類若ハ方法ノ變更又ハ業務ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條 信託會社カ法令、定款若ハ主務大臣ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ業務ノ停止若ハ取締役監督役ノ改任ヲ命ジ又ハ營業ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十條 主務大臣ノ免許ヲ受ケシテ信託業ヲ營ミタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ信託會社ノ取締役、監査役又ハ清算人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第四條、第五條第一項、第七條、第十一條乃至第十三條及第十五條ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第九條ノ規定又ハ同條ニ基テ命令ニ違反シテ信託ニ付補填又ハ補足ノ契約ヲ爲シタルトキ

三 第十條ノ規定ニ違反シテ信託財産ヲ固有財産ト爲シタルトキ

四 第十七條ノ規定ニ依リ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ妨ケタルトキ

五 本法ノ命令又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

六 信託會社カ信託法第二十八條ノ規定ニ依リテ爲スヘキ信託財産ノ管理ヲ爲ササルトキ

七 信託會社カ信託法第三十九條ノ規定スル事務ノ處理若ハ計算ヲ爲サス又ハ財産目録ヲ作ラサルトキ

八 信託會社カ正當ノ理由ナクシテ信託法第四十條ノ規定ニ依リ開覽ノ請求ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲ササルトキ

規定ニ依リ開覽ノ請求ヲ拒ミ又ハ説明ヲ爲ササルトキ

第三十二條 第三條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ過料ニ處ス

第三十三條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ本法ニ定メタル過料ニ之ヲ適用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年勅令第五百十二號ヲ以テ同十二年一月一日ヨリ施行ス)

本法施行ノ際迄一年以上引續キ信託業ヲ營ム者ニシテ本法施行後六月内ニ信託業ノ免許ヲ申請スルモノハ本法施行後五年ヲ限リ第二條ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ資本金ハ二十五萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

本法施行ノ際現ニ信託業ヲ營ム者ニシテ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノハ本法施行前其ノ爲シタル契約ニシテ本法ニ依リ信託會社ノ爲スコトヲ得サル業務ニ屬スルモノニ付テハ其ノ契約ノ完了スル迄仍之ヲ繼續スルコトヲ得

擔保附社債信託法

(明治三十八年三月十三日法律第五十二號)

改正、明四二一法二九、明四五法一四、大三一法三、大一一一法六六

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ法律信託法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

擔保附社債信託法

第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ信託會社ト稱スルハ擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム會社ヲ謂フ
第二條 社債ニ物上擔保ヲ附セムトキハ其ノ社債ヲ發行スル會社ト信託會社トノ信託契約ニ從ヒテ之ヲ發行スヘシ
第三條 本法ニ依リ信託ノ引受ハ之ヲ商行爲トス
第四條 社債ニ附スルコトヲ得ヘキ物上擔保ハ左ニ掲グルモノニ限ル
一 動産質
二 證書アル債權質
三 不動産抵當
四 船舶抵當
五 鐵道抵當
六 工場抵當
七 礦業抵當
八 軌道抵當(明治四十二年法律第二十九號ヲ以テ本號ヲ追加)
九 輕便鐵道抵當(明治四十五年法律第十四號ヲ以テ本號ヲ追加)

十 運河抵當(大正三年法律第三號ヲ以テ本號ヲ追加)

- 第五條 擔保附社債ニ關スル信託事業ハ特別ノ法律ニ依リ場合ヲ除クノ外主務官廳ノ免許ヲ受クルニ非サレハ之ヲ營ムコトヲ得ス
第六條 信託會社ハ銀行事業ヲ除クノ外他ノ事業ヲ兼スルコトヲ得ス但シ銀行事業ヲ兼營セザル株式會社ニ在リテハ信託業法ニ依リ信託業ヲ營ムコトヲ得(大正十一年法律第六十六號ヲ以テ但書ヲ追加)
第七條 信託會社ノ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ總額ハ百萬圓ヲ下ルコトヲ得ス
第八條 信託會社ハ資本又ハ金錢ヲ目的トスル出資ノ拂込金額カ五十萬圓ニ達スル迄其ノ事業ニ著手スルコトヲ得ス
第九條 信託ノ業務ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
第十條 主務官廳ハ何時ニテモ信託會社ヲシテ其ノ事業ノ報告ヲ爲サシメ又ハ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得
第十一條 主務官廳ハ信託會社ノ業務又ハ會社財産ノ狀況カ信託事業ノ執行ニ適セズト認ムトキハ其ノ事業ヲ停止又ハ業務執行方法ヲ變更ヲ命ジ其ノ他委託會社及社債權者ノ利益ヲ保護スルニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得
第十二條 信託會社カ法令、定款若ハ主務官廳ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務官廳ハ其ノ事業ヲ停止若ハ取締役ノ改選ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得
第十三條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ專業トスル會社ハ免許ヲ取消スニ因リ解散ス
第十四條 信託會社カ免許ヲ取消スニ因リ解散シタルトキハ主務官廳ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス
第十五條 新法第八十八條、第八十九條、第九十六條第二項、第一百條、第二百二十六條第二項、第二百二十七條

八條第二項又ハ第二百三十二條ニ定ムル清算人ノ選任又ハ解任ハ主務官廳ニ於テ之ヲ爲ス

- 第十六條 信託會社ノ清算ハ主務官廳ノ監督ニ屬ス
第十七條 外國ニ於テ物上擔保附社債ヲ募集セムトスル會社ハ主務官廳ノ許可ヲ受ケ外國會社ト信託契約ヲ締結スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ信託ヲ引受ケタル外國會社カ日本ニ支店ヲ有セザルトキハ日本ニ於ケル代表者ヲ定ムヘシ
商會社ハ前項ノ代表者タルコトヲ得
第二項ノ規定ニ依リ代表者ヲ定ムタルトキハ選擧ナク其ノ氏名及住所又ハ商號及本店ヲ主務官廳ニ届出ヘシ
日本ニ於ケル外國會社ノ代表者ハ信託事務ニ關シテハ信託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ト同一ノ權限ヲ有ス
第二章 信託證書
第十八條 信託契約ハ信託證書ニ依リ之ヲ締結スヘシ
第十九條 信託證書ニハ左ノ事項ヲ記載シ委託會社及受託會社ノ代表者之ニ署名スヘシ
一 委託會社及受託會社ノ商號
二 社債ノ總額
三 各社債ノ金額
四 社債發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
五 社債ノ利率
六 社債償還ノ方法及期限
七 利息支拂ノ方法及期限
八 債券ニ記載スヘキ事項ノ表示及利札附ナルトキハ其

- 九 擔保ノ種類、目的物、順位、先順位ノ擔保ヲ附シタル債權ノ金額其ノ他目的物ニ關シ擔保權者ニ對抗スルコトヲ得ヘキ權利ノ表示
第十條 第三十二條ニ依リ社債ナルトキハ其ノ事實及各會社ノ負擔部分
第十一條 委託及受託ノ表示
第十二條 證書作成ノ年月日
各社債ノ金額均一ナルカ又ハ最低額ヲ以テ整除シ得ヘキモノナルコトヲ要ス
第二十條 信託證書ハ委託會社及受託會社ニ於テ各自其ノ一通ヲ保存スヘシ
前項ノ信託證書ハ其ノ原本ヲ本店ニ、其ノ副本ヲ各支店ニ備置クヘシ
第二十一條 信託證書ノ原本又ハ副本ハ委託會社ノ株主、債權者又ハ社債應募者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ之ヲ閱覽セシムヘシ
第三章 社債募集
第二十二條 信託契約ニ依リ物上擔保附社債ヲ募集スル會社ハ左ノ事項ヲ公告スヘシ
一 第十九條第一項第一號乃至第七號及第十號ニ掲ケタル事項
二 物上擔保附社債ナルコト
三 信託證書ノ表示
四 擔保ノ價格ヲ知ラシムルニ必要ナル程度ニ於テ第十條九條第一項第九號ニ掲ケタル事項ノ概要ノ表示
五 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了サル總額
六 會社ノ資本及拂込ミル株金ノ總額
七 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額

- 八 信託證書若ハ其ノ副本ヲ應募者ノ閱覽ニ供スヘキ時及場所
前項ノ公告ハ受託會社ノ承認ヲ得テ之ヲ爲スヘシ
第二十三條 委託會社ハ信託契約ニ依リ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ第二十二條第一項ニ掲ケタル公告ハ受託會社ニ於テ之ヲ爲スヘシ
前項ノ公告ハ受託會社カ委託會社ニ代リテ社債ノ募集ヲ爲ス旨ヲ記載スヘシ
第二十五條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ第二十二條及前條ニ定ムタル公告ヲ爲スコトヲ要セス
第二十六條 前條第一項ノ場合ニ於テ受託會社ハ其ノ引受ケタル社債ヲ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ通知シテ前項ノ債券ヲ發行スルコトヲ得
第二十七條 受託會社カ第二十五條第一項ニ依リ引受ケタル社債ヲ讓渡セムトスルトキハ其ノ旨ヲ公告スヘシ
前項ノ公告ニ記載スヘキ事項ニ付テハ第二十二條第一項ノ規定ヲ準用ス
受託會社ハ社債ヲ讓渡セムトスル者ノ請求アルトキハ營業時間内何時ニテモ信託證書又ハ其ノ副本ヲ閱覽セシムヘシ
第二十八條 受託會社カ前條ノ規定ニ依リ社債ヲ讓渡シタル場合ニ於テハ委託會社ニ代リテ其ノ社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
第二十九條 委託會社又ハ受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ

- 從ヒ第三項ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムルコトヲ得
前項ニ依リ社債總額ヲ引受ケタル商行爲トス
第一項ニ依リ社債總額ヲ引受ケタル者ハ其ノ引受ケタル社債ノ分割シテ之ニ相當スル債券ノ發行ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得
受託會社カ信託契約ニ依リ債券發行ノ權限ヲ有スルトキハ委託會社ニ對シテ前項ノ請求ヲ爲スコトヲ得
第二十九條 第二十五條第二項、第二十七條第一項、第二十八條及第二十八條ノ規定ハ前條第一項ニ依リ第三項カ社債ノ總額ヲ引受ケタル場合ニ之ヲ準用ス
第三十條 委託會社又ハ受託會社ハ信託證書ノ副本ヲ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ交付スヘシ
前項ノ副本ハ委託會社又ハ受託會社ノ代表者之ニ署名シテ原本ト相違ナキコトヲ認證スヘシ
第二十七條第三項ノ規定ハ第一項ノ副本ニ之ヲ準用ス
第三十一條 會社ハ合同シテ社債ヲ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社債ノ募集ヲ受託會社ニ委任シ又ハ受託會社ヲシテ社債ノ總額ヲ引受ケシムヘシ
第三十二條 前條ノ場合ニ於テハ受託會社ハ債券ノ發行、社債ノ償還及利息ノ支拂ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス
第三十三條 委託會社ハ商法第二百四條第二項ノ規定ニ從ヒ左ノ事項ヲ登記スヘシ
一 第十九條第一項第一號乃至第七號、第五號乃至第七號、第九號及第十號ニ掲ケタル事項
二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
三 第二十三條ニ依リ委任又ハ第二十五條第一項ニ依リ引受ケリタルトキハ其ノ事實

四 第二十九條第一項ニ依リ引受アリタルキハ其ノ事

第四章 債券

第三十五條 信託證書ニ依リ債券ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 第十九條第一項第一號乃至第三號、第五號乃至第七號ニ掲ケタル事項
二 第二十二條第一項第二號及第三號ニ掲ケタル事項
三 債券ノ番號
四 前條第三號及第四號ニ掲ケタル事項

第三十六條 受託會社ハ委託會社カ信託契約ノ條款ニ適合スル債券ヲ發行シタルキハ其ノ請求ニ依リ債券カ信託證書ニ依リ債券ナルコトヲ證明シテ之ヲ委託會社又ハ其ノ指定シタル者ニ引渡スヘシ

第三十七條 信託證書ニ依リ債券ハ前條ノ證明アルニ非サレハ其ノ効力ヲ生ゼス

第三十八條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタルキハ其ノ旨ヲ各債券ニ記載シ受託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員之署名スルニ依リテ之ヲ爲ス

第三十九條 受託會社カ委託會社ニ代リテ債券ヲ發行シタル前項ノ場合ニ於テハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第四十條 會社カ物上擔保附社債ヲ發行シタルキハ社債原簿ニ商法第七十三條ニ掲ケタルモノノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

第四十一條 社債權者集會ニ於テ決議スヘキ事項ハ本法ニ規定アルモノノ外特ニ信託契約ニ定メタルモノニ限ル

第四十二條 社債權者集會ハ何時ニモ代表者ヲ解任シ又ハ其ノ權限ヲ變更スルコトヲ得

第四十三條 信託契約ニ依リ債權者ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第四十四條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第四十五條 前條第一項ノ場合ニ於テハ受託會社ニ於テ社債原簿ノ原簿ヲ作成シテ之ヲ委託會社ニ交付スヘシ

第四十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第四十七條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第四十八條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第四十九條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第五十一條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十二條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第五十三條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十四條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第五十七條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第五十八條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第五十九條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第六十條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第六十一條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第六十二條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第六十三條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第六十四條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第六十五條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

第六十六條 委託會社又ハ受託會社カ社債原簿ヲ作成シタルトキハ其ノ原簿ニ於テ前項ノ事項ヲ記載スルコトヲ得

第六十七條 社債權者集會ハ其ノ債權額ノ引受ケタル者ニ於テ自ラ之ヲ召集スルコトヲ得

擔保附社債信託法 社債權者集會 信託契約ノ效力

第四十七條 委託會社、受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者カ社債原簿ノ記載ニ變更ヲ生スヘキ取扱ヲ爲シタルトキハ其ノ都度書面ヲ以テ社債原簿ヲ備フル會社ニ之ヲ通知スヘシ

第四十八條 受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ハ必要アルトキハ何時ニモ社債權者集會ヲ召集スルコトヲ得

第四十九條 委託會社又ハ社債總額ノ十分ノ一ニ當ル社債權者ハ集會ノ目的及其ノ召集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ受託會社又ハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニ提出シテ社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十一條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十二條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十三條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十五條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十六條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十七條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十八條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第五十九條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十一條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十二條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十三條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十四條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十五條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十六條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十七條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第六十九條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十一條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十二條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十三條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十四條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十五條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十六條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十七條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十八條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第七十九條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第八十條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第八十一條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第八十二條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

第八十三條 社債權者集會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

社及受託會社連帶ナク各自之ラ公告スヘシ但シ知レタル社債権者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第七十八條 信託契約ニ依ル擔保權ハ總社債権者ノ爲ニ之ヲ行使スルコトヲ得

第七十九條 委託會社カ定期ニ社債ノ一部ヲ償還スヘキ場合ニ於テ其ノ償還ヲ遲延シ二箇月ヲ経過シタルトキハ受託會社ハ社債権者集會ノ決議ニ依リ一定ノ期間内ニ支拂ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間内ニ支拂ヲ爲ササルトキハ社債ノ總額ニ付期限ノ利益ヲ失ハシムル旨ヲ委託會社ニ備告スルコトヲ得

第八十條 前條ニ依リ委託會社カ期限ノ利益ヲ失ヒタルトキハ受託會社ハ連帶ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債権者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第八十一條 前二條ノ規定ハ委託會社カ社債ノ利息ノ支拂ヲ遲延シ三箇月ヲ経過シタル場合ニ之ヲ適用ス

第八十二條 社債カ期限ニ至リ辨済セラレヌ又ハ委託會社カ社債ノ辨済ヲ完了セシテ解散シタルトキハ受託會社ハ連帶ナク社債権者集會ノ決議ニ依リ擔保權ヲ實行スヘシ

第八十三條 受託會社ハ總社債権者ノ爲ニ付與セラレタル執行力アル正本ニ基キ擔保物ニ付強制執行ヲ爲シ又ハ競賣法ニ依リ競賣ノ申立若ハ委任ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 民法第二百九十八條第三項ノ規定ハ信託契約ニ依ル債權ニ之ヲ適用ス

第八章 信託事務ノ承繼及終了

第九十七條 受託會社ハ信託契約ノ定ムル所ニ依リ又ハ委託會社及社債権者集會ノ同意アルトキハ信託事務ヲ承繼スヘキ會社ヲ定メテ辭任スルコトヲ得

第九十八條 受託會社ハ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ主務官第一項ノ規定ヲ適用ス

第九十九條 受託會社カ其ノ義務ニ違反シ又ハ信託事務ヲ處理スルニ不適任ナルトキ其ノ他正當ノ事由アルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債権者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲ辭任スルコトヲ得

第一百條 前二條ノ規定ニ依リ受託會社カ辭任シ若ハ解任セラレタルトキ又ハ免許ヲ取消サレ若ハ解散シタルトキハ主務官廳ハ更ニ受託會社ヲ選任シテ信託事務ヲ承繼セシムヘシ

第一百零一條 第九十七條ニ依リ信託事務ノ承繼ハ委託會社、前受託會社及新受託會社ノ代表者ノ署名シタル契約書ヲ作成スルニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第九十四條 受託會社ハ信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ社債権者ノ爲ニ債權ノ辨済ヲ得ルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第九十五條 受託會社ハ社債権者集會ノ決議ニ依リ總社債ニ付支拂ヲ猶豫シ、不履行ニ因リテ生シタル責任ヲ免除シ又ハ和解ヲ爲スコトヲ得

第九十六條 受託會社ハ社債権者集會ノ決議ニ依リ總社債権者ノ爲ニ訴訟行爲ヲ爲シ又ハ破産手續ニ屬スル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第九十七條 受託會社カ第八十二條、第八十五條又ハ前條ニ掲ケタル行爲ヲ完了シタルトキハ連帶ナク之ヲ公告スヘシ但シ知レタル社債権者及第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第九十八條 受託會社カ社債権者ノ爲ニ辨済ヲ得タル金額ハ連帶ナク債權額ニ應ジテ各社債権者ニ交付ス

第九十九條 受託會社ハ必要アル場合ニ於テハ第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者ノ第一項及第三項ノ行爲ヲ委任スルコトヲ得

第一百條 受託會社カ總社債権者ノ爲ニ爲スヘキ行爲ヲ怠リタルトキハ主務官廳ハ社債権者集會ノ申請ニ因リ特別代理人ヲ選任シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

債ノ總額ヲ引受ケタル者ニハ各別ニ之ヲ通知スヘシ

第九章 罰則

第一百零一條 第五條ノ規定ニ違反シテ擔保附社債ニ關スル信託事務ヲ營ム者ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第一百零二條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第一百零三條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第一百零四條 本法ニ依リ總社債権者ニ代リテ裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ各別ニ社債権者ヲ表示スルコトヲ要セス

第一百零五條 受託會社ハ委託會社ニ對シ信託事務ノ處理ニ付相當ノ報酬ヲ請求スルコトヲ得

第一百零六條 信託契約ニ別段ノ定ナキトキハ民法第六百四十八條第二項及第三項ノ規定ハ信託契約ニ之ヲ適用ス

第一百零七條 委託會社ハ受託會社カ信託事務ヲ處理スルニ付正當ニ支出シタル一切ノ費用及支出ノ日以後ニ於ケル其ノ利息ノ償還シ及過失ヲシテ受ケタル一切ノ損害ヲ賠償スル義務ヲ負フ

第一百零八條 受託會社ハ信託事務ヲ處理スルニ付要スル費用ノ前拂ヲ委託會社ニ請求スルコトヲ得

第一百零九條 信託契約ニ依ル物上擔保ハ前條第一項ノ規定ニ依リ受託會社ニ生スヘキ債權ノ爲ニ其ノ效力ヲ有ス

第一百一十條 受託會社ハ前項ノ債權ニ付社債権者ニ優先シテ擔保物ヨリ辨済ヲ受ケル權利ヲ有ス

第一百一十一條 受託會社カ故意若ハ過失ニ因リ物上擔保ヲ消滅セシメ又ハ其ノ價格ヲ減少セシメタルトキハ主務官廳ハ委託會社又ハ社債権者集會ノ申請ニ因リ受託會社ヲシテ相當ノ金額ノ上ニ質權ヲ設定シタル場合ニ於テハ委託會社カ供託金ノ上ニ質權ヲ設定シタルモノト看做ス

第一百一十二條 委託會社、第六十四條第一項ニ依リ選任セラレタル代表者又ハ社債總額ノ十分ノ一以上ニ當ル社債権者ハ何時ニテモ受託會社ニ於ケル擔保物保管ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

無記名式ノ債券ヲ有スル者ハ其ノ債券ヲ受託會社ニ供託ス

- 一 第六條ノ規定ニ違反シタルトキ
二 第八條ノ規定ニ違反シタルトキ
三 本法ニ依ル主務官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
四 本法ニ依ル主務官廳ノ検査ヲ妨ケタルトキ
五 第十七條第一項又ハ第九十七條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ
六 本法ニ依リ債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
七 委託會社ニ於テ債券ヲ發行シタル場合ニ於テ第三十六條ニ定メタル手續ヲ履行セスシテ之ヲ交付シタルトキ
八 第七十條第二項ニ依リ擔保權ノ保存又ハ實行ヲ怠リタルトキ
九 第八十八條第一項又ハ同條第三項ノ規定ニ違反シタルトキ
十 第九十五條第一項ニ依リ検査ヲ妨ケタルトキ
十一 第九十五條第一項ニ定メタル事務ノ引繼ヲ怠リタルトキ
十二 社債権者集會ノ決議ニ依ルヘキ場合ニ於テ之ニ依ラス又ハ之ニ違反シタルトキ
十三 社債権者集會又ハ其ノ代表者ニ對シテ不實ノ報告ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
第一百零一條 左ノ場合ニ於テハ會社ノ業務ヲ執行スル社員、取締役、清算人、破産管財人、第二十九條第一項ニ依リ社債ノ總額ヲ引受ケタル者、第六十四條ノ代表者、第八十九條ノ特別代理人又ハ外國會社ノ代表者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス
一 本法ニ定メタル届出、公告若ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告若ハ通知ヲ爲シタルトキ
二 本法ニ依リ交付スヘキ書類ヲ交付セス又ハ之ニ不正

ノ記載ヲ爲シタルトキ
三 本法ニ依リ開覽ヲ許スヘキ書類ヲ正當ノ理由ナクシテ
開覽セシメザルコトヲ得
四 本法ニ依リ備置スヘキ書類ヲ備置カス、之ニ記載スヘ
キ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
罰則
罰則
罰則

附則

第百一十條 本法ニ依リ署名スヘキ場合ニ於テハ記名捺印ヲ以
テ署名ニ代フルコトヲ得
第百一十一條 擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム合名會社及
合資會社ノ設立登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ非
訟事件手續法第七十九條第二項ニ掲ケタル書面ノ外
主務官廳ノ免許書又ハ其ノ認證アル附本ヲ添付スヘシ
既設ノ會社力擔保附社債ニ關スル信託事業ヲ營ム免許ヲ
受ケタルニ因リ其ノ登記ヲ申請スルトキ亦前項ニ同シ
第百一十二條 信託會社ノ登記スヘキ事項ニシテ主務官廳ノ免許
ヲ要スルモノニ付テハ免許書ノ到達ノ日ヨリ登記ノ期間ヲ起
算ス
第百一十三條 主務官廳力第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依
リ事業ノ停止ヲ命ジ又ハ免許ヲ取消シタルトキハ登記所ハ主
務官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ
第百一十四條 本法ニ依リ社債ノ登記ヲ申請書ニハ非訟事件手
續法第九十一條ニ掲ケタル書面ノ外信託證書ヲ添付ス
ヘシ
第百一十五條 本法ニ依リ社債ノ登記事項ニ變更ヲ生シタルトキハ
委託會社ノ取締役又ハ之ヲ代表スル社員ハ速ニ其ノ登
記ヲ申請スヘシ
前項ノ登記ノ申請書ニハ其ノ變更ヲ證スル書類ヲ添付スヘ
シ

第百一十八條 信託契約ニ依リ擔保權設定ノ登記ニ付テハ受託
會社ノ登記簿利者トス
第百一十九條 信託契約ニ依リ擔保權設定ノ登記ヲ申請スル場
合ニ於テハ不動産登記法第六十六條又ハ第七十七條ニ
依リ債權額ノ記載ハ社債ノ總額ヲ表示スルヲ以テ足ル
第百二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三
十八年勅令第八十五號ヲ以テ同年七月一日ヨリ施行
ス)

船舶法

(明治三十二年三月八日
法律第四十六號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ船舶法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシ
ム

船舶法

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

- 一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶
- 二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶
- 三 日本ニ本店ヲ有スル商會社ニテ合名會社ニ在リ
テハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式會社ニ在リ
テハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取
締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶
- 四 日本ニ主たる事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ
全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務
擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ
以テ日本船舶トス
第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケルコトヲ得ス
第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港
ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若ク
ハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスル
トキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港
ヲ管轄スル管海官廳ニ船籍ノ積算ノ測度ヲ申請スルコトヲ要
ス
船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船舶ノ積算
ノ測度ヲ囑託スルコトヲ得

船舶法

外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシム
ルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船
籍ノ積算ノ測度ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄
スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス
前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證
書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國
籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本
ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ
且其名稱、船籍港、番號、積算、喫水ノ尺度其他ノ事
項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許
可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積算
ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ速ニ其船籍港ヲ管轄スル
管海官廳ニ其船舶ノ積算ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船舶第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用
ス
第十一條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ
其事ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ
要ス

第十二條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル
トキハ船舶所有者ハ其事ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書
換ヲ申請スルコトヲ要ス船舶國籍證書カ毀損シタルトキ亦同
シ
第十三條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其
事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受ケルコトヲ要
ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍
證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ
生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケル
コトヲ得(明治三十八年法律第六十八號ヲ以テ本項ヲ改
正)

第十四條 日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シ
タルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ
請受ケルコトヲ得
前二項ノ規定ニ從ヒテ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコト能ハ
サルトキハ其後最初ニ到著シタル地ニ於テ之ヲ請受ケルコトヲ
得

第十五條 日本船舶カ滅失若クハ沈没シタルトキ、解散セラレタ
ルトキ又ハ日本ノ國籍ヲ喪失シ若クハ第二十二條ニ掲ケル船舶
トナリタルトキハ船舶所有者ハ其事ヲ知リタル日ヨリ二週間
内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且速ニ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳
コトヲ要ス船舶ノ在否カ六ヶ月間分明ナラサルトキ亦同シ同
上本項ヲ改正)

第十六條 前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消ノ登録ヲ爲サルトキハ
管海官廳ハ一ヶ月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ正當ノ理
由ナクシテ尙其手續ヲ爲サルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ
爲スコトヲ得(同上本項ヲ追加)

第十七條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄ス
ル管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海
官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十八條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假
船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十九條 第十三條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二十條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ
一年ヲ超ユルコトヲ得ス
第二十一條 日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六ヶ月

ヲ超ユルコトヲ得ス
 前二項ノ期間ヲ超ユルキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
 第十八條 船長カ船籍港ニ到著タルトキハ假船國籍證書ハ有效期間満了前ト雖モ其效力ヲ失フ
 第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船國籍證書ニ之ヲ準用ス
 第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶及ヒ端舟其他種船ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ運轉スル船舶ニハ之ヲ適用セズ
 第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタル船舶長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處スシテ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但シ捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス
 日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ
 第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス(明治三十八年法律第六十八號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ「百圓以上千圓以下ノ罰金」ヲ附加ス
 前項ノ罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ刑法「未遂犯罪」ノ例ニ依リテ處斷ス
 第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セザルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキ船長所有者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス
 第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法「數人共犯」ノ例ヲ適用セズ
 第三十條 第二十七條ノ規定ニ於テ刑法「第七十八條乃至第八十條」ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス
 第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス
 第三十二條 警海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ノヲ行フ
 附則
 第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス)
 第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ノ爲メ目的ヲ以テモサルトモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス
 第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニテ本法ノ規定ニ抵觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
 第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船籍札ヲ受有スル

船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキトキハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス
 前項ノ規定ニ從ヒ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船籍札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス
 第二十八條 本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其免狀ハ有效期間満了ニ至ルマテハ假船國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到著タルトキハ此限ニ在ラス
 登簿船免狀ノ有效期間満了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船國籍證書ヲ請受クルコトヲ得
 第二十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未ダ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知りタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未ダ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ
 第三十條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長所有者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十一條及ヒ第三十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未ダ舊法ノ期間カ經過セザルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
 第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣ノヲ定ム

●船舶登記規則

(明治三十二年六月十五日勅令第二百七十號)

改正、明三八一勅七九、大一一勅九三、大三一勅二〇四、大八一勅二八九、大一一勅五二〇、大一一勅三二八

朕船舶登記規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 船舶登記規則

第一章 總則

第一條 不動産登記法第二條乃至第七條、第八條ノ二、第九條第一項、第十條、第十二條、第十三條、第十八條乃至第三十五條、第三十八條乃至第六十六條、第六十九條乃至第七十八條、第八十一條、第八十二條、第八十四條ノ二乃至第四百四條ノ十五、第四百八條、第四百九條、第四百十九條、第四百二十條、第四百二十二條乃至第四百二十七條ノ二、第四百四十一條、第四百四十二條、第四百四十三條ノ二乃至第四百四十八條、第四百四十九條ノ二乃至第四百四十九條ノ五及ヒ第五百五十條乃至第五百五十九條ノ規定ハ船舶ノ登記ニ之ヲ準用ス(大正二年勅令第九十三號、同八年勅令第二百八十九號、同十一年勅令第五百二十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二章 登記所

第一條 此規則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船籍港ヲ管轄スル區域裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス
 船籍港カ數箇ノ登記所ノ管轄地ニ跨ルカトキハ司法大臣管

船舶登記規則

總則 登記所

登記簿

登記手續

第三條 登記所ハ船舶所有權移轉ノ登記又ハ第三十條ノ規定ニ依リ抹消ノ登記ヲ爲シタルトキハ運轉ナク其旨ヲ船籍港ヲ管轄スル警海官廳ニ通知スルコトヲ要ス(大正二年勅令第九十三號ヲ以テ第二項ヲ削除)

第三章 登記簿

第一條 登記簿ハ船籍港毎ニ別冊ト爲ス
 第二條 登記簿ハ一冊ノ船舶ニ付キ一用紙ヲ備フ
 第三條 登記簿ハ其一用紙ヲ登記番號欄、表題部及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分テ向水表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ケ(大正二年勅令第九十三號ヲ以テ本項ヲ改正)
 第四條 登記簿ニハ各船舶ニ付キ登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス
 第五條 表示欄ニハ第十六條ノ規定ニ依リテ船舶ノ表示ヲ爲シ及ヒ其變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス
 第六條 甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス
 第七條 乙區事項欄ニハ船舶管理人ニ關スル事項ヲ記載ス
 第八條 丙區事項欄ニハ抵當權及ヒ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス(大正二年勅令第九十三號ヲ以テ本項ヲ改正)
 第九條 順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第四章 登記手續

第一節 通則

第七條 登記ヲ申請スルニハ始メテ船舶所有權ノ登記ヲ申請スル場合及ヒ第十一條第一項ノ場合ヲ除ク外申請書ニ登記

證書ヲ添付スルコトヲ要ス

第八條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人ノ署名、捺印スルコトヲ要ス
 一 船舶ノ種類、名稱及ヒ積量
 二 船籍港
 三 不動産登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第九條 登記官吏カ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登記權利者ノ氏名、住所、登記原因、其日附、登記ノ目的及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シ之ヲ所有權ノ登記名義人ニ還付スルコトヲ要ス
 第十條 登記證書カ滅失シタルトキハ船舶カ船籍港ニ從泊スル場合ニ限リ所有權ノ登記名義人ハ其登記ヲ爲シタル登記所ノ所在地ヲ管轄スル區域裁判所ノ許可ヲ得テ更ニ登記證書ヲ交付ヲ申請スルコトヲ得
 第十一條 所有權ノ登記名義人ハ登記證書ヲ提出セシメテ登記ヲ申請スルコトヲ得此場合ニ於テハ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
 第十二條 前項ノ場合ニ於テ登記證書ヲ提出スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ之ヲ提出シテ更ニ登記ヲ申請スルコトヲ要ス
 第十三條 登記官吏カ前條第二項ノ申請ヲ受ケタルトキハ特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シ其末尾ニ特別登記簿ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第十四條 登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ順位番號欄ニ其登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載スルコトヲ要ス
 第十五條 特別登記簿ニ登記ヲ移シタルトキハ之ニ關スル特別登記簿ノ用紙

ラ閉鎖スルコトヲ要ス
第十三條 特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移シタルトキハ申請者以外ノ當事者ニ對シテ本登記簿ヲ與フヘキ旨ヲ通知シ若シ第四十五條第一項ノ規定ニ依リテ爲シタル登記アルトキハ同時ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス
不動產登記法第七十五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十四條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其前ニ依リ自己ノ所有權タルコトヲ證明スル者ヨリ其登記ヲ申請スルコトヲ要ス
不動產登記法第七條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十五條 始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ管海官廳ヨリ交付シタル船舶件名書ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス(大正三年勅令第二百四號ヲ以テ本項ヲ改正)
日本又ハ支那ニ於テ製造シタル船舶ニ付キ始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其船舶ノ製造地ヲ管轄スル登記所ノ特別登記簿ノ謄本又ハ特別登記簿ニ其船舶ニ關スル登記ノキコトヲ證明スル書面ヲ添付スルコトヲ要ス(大正十四年勅令第三百二十八號ヲ以テ本項ヲ改正)

第十六條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ表示欄ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 船舶ノ種類及ヒ名稱
二 國籍取得ノ年月日但日本ニ於テ船舶ヲ製造シタル場合ハ此限ニ在ラズ
三 總噸數
四 登簿噸數
五 進水ノ年月

第十七條 汽船ニ在リテハ前項ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
一 船質
二 汽機ノ種類及ヒ數
三 推進器ノ種類及ヒ數
噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル帆船ニ在リテハ第一項ニ掲ケタル事項ノ外船質及ヒ噸數ヲ記載スルコトヲ要ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ總噸數及ヒ登簿噸數ニ代ヘテ積石數ヲ記載スルコトヲ要ス(大正三年勅令第二百四號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十八條 始メテ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ登記官吏カ其登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ヲ作リ之ニ登記番號、船舶ノ種類、名稱並ニ積量、船籍港及ヒ第九條ニ掲ケタル事項ヲ記載シ登記所ノ印ヲ捺捺シ之ヲ登記權利者ニ交付スルコトヲ要ス

第十九條 所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記權利者カ日本ナルトコトヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス(大正十四年勅令第三百二十八號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十條 所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ商會社其他ノ法人ナルトキハ申請書ニ其本店又ハ主たる事務所ノ所在地及ヒ船舶法第一條ニ掲ケタル社員、無限責任社員、取締役、業務擔當社員若クハ代表者ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證明スル書面、抄本又ハ登記證書及ヒ此等ノ者カ日本ナルトコトヲ證明スルニ足ルヘキ書面ヲ添付スルコトヲ要ス(同上本項ヲ改正)

第二十一條 前項ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ支那ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル商會社其他ノ法人ナルトキハ申請書ニ其本店又ハ主たる事務所ノ所在地及ヒ大正十四年法律第五十二號ニ掲ケタル社員、無限責任社員、取締

役若クハ代表者ノ全員ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證明スル登記簿ノ謄本、抄本又ハ登記證書及ヒ此等ノ者ノ二分ノ一以上カ日本ナルトコトヲ證明スルニ足ルヘキ書面並ニ其法人カ日本船舶ヲ所有スルニ適スルコトノ領事官ノ認定書又ハ其謄本ヲ添付スルコトヲ要ス(大正十四年勅令第三百二十八號ヲ以テ本項ヲ追加)

第二十二條 同一ノ登記所ニ於テ既ニ海法第五十一條乃至第五十三條、第七條、第四百一十一條、第四百四十二條、舊商法第三百三十八條又ハ民法第四百六條ノ規定ニ依リテ登記ヲ爲シタルトキハ前二項ニ定メタル登記簿謄本、抄本又ハ登記證書ヲ添付スルコトヲ要セス(同上本項ヲ改正)

第二十三條 始メテ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ船舶カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ申請書ニ各共有者ノ持分及ヒ船舶管理ノ氏名、住所ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十四條 前項ノ規定ハ船舶所有權カ其所有權ノ一部ヲ讓渡シタル場合ニ之ヲ適用ス

第二十五條 第十六條ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ船舶所有權カ其船籍港ヲ變更シタルトキハ所有權ノ登記權利者ヨリ其登記簿ニ其船舶ノ種類及ヒ名稱、國籍取得ノ年月日但日本ニ於テ船舶ヲ製造シタル場合ハ此限ニ在ラズ、總噸數、登簿噸數、進水ノ年月

第二十六條 前項ノ場合ニ於テハ表示欄及ヒ事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ何船籍港ノ登記簿ニ依リ登記ヲ移シタル旨及ヒ申請書受附ノ年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

第二十七條 船舶所有權カ其船籍港ヲ甲登記所ノ管轄地ヨリ乙登記所ノ管轄地ニ移シタルトキハ舊船籍港ノ登記簿及ヒ其附屬書類ノ謄本ノ交付ヲ甲登記所ニ申請シ其謄本ヲ乙登記所ニ提出シ乙登記所ニ申請スルコトヲ要ス

第二十八條 船舶管理人ノ更迭ノ登記ハ所有權ノ登記名義人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス
第二十九條 不動產登記法第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
第三十條 船舶管理人ノ表示ノ變更ノ登記ハ本人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ要ス
第三十一條 不動產登記法第四十三條及ヒ第五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十二條 所有權ノ移轉ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ其移轉ノ結果ニ因リ共有カ消滅スヘキトキハ船舶管理人ノ登記ヲ抹消スルコトヲ要ス
第三十三條 未登記ノ船舶所有權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證明スル者ヨリ之ヲ

船舶登記規則 登記手續

申請スルコトヲ得
不動產登記法第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス
第三十條 左ノ場合ニ於テハ所有權ノ登記名義人ハ申請書ニ事由ヲ記載シ登記ノ抹消ヲ申請スルコトヲ要ス
一 船舶カ滅失又ハ沈没シタルトキ
二 船舶カ解體セラレタルトキ
三 船舶ノ存否カ六個月間分明ナラザルトキ
四 船舶カ日本ノ國籍ヲ喪失シタルトキ
五 船舶カ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶トナリタルトキ(明治三十八年勅令第七十九號ヲ以テ本號ヲ追加)

第三十一條 前項ノ場合ニ於テハ其事實ヲ證明スル官吏又ハ公吏ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十二條 抵當權及ヒ質借權ニ關スル登記手續
第三十三條 登記官吏カ抵當權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動產登記法第一百七條ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十四條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ハ製造地ノ管轄スル登記所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第三十五條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人之署名、捺印スルコトヲ要ス

一 船舶ノ種類
二 龍骨ノ長さ若シ船舶カ石數ヲ以テ積量ヲ表示スルモノナルトキハ航ノ長さ
三 計畫ノ幅及ヒ深サ
四 計畫ノ積量
五 製造地

第六 造船者ノ氏名、住所若シ造船者カ法人ナルトキハ其名稱及ヒ事務所
七 不動產登記法第三十六條第三號乃至第八號ニ掲ケタル事項

第三十六條 製造中ノ船舶ノ抵當權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ前條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ證明スル造船者ノ書面ヲ添付スルコトヲ要ス

第三十七條 特別登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ爲ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ、表示欄ニ第三十三條第一號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ且甲區事項欄ニ登記義務者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三十八條 製造中ニ抵當權ノ登記アリタル船舶ノ所有權ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ船舶港カ抵當權ノ登記ヲ爲シタル登記所ノ管轄ニ屬セザルトキハ申請書ニ特別登記簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ特別登記簿ノ謄本ニ依リ登記簿ニ抵當權ノ登記ヲ移シタル旨ヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十九條 船舶登記規則 登記手續

第四十條 船舶登記規則 登記手續

第四十一條 船舶登記規則 登記手續

第四十二條 船舶登記規則 登記手續

第四十三條 船舶登記規則 登記手續

第四十四條 船舶登記規則 登記手續

第四十五條 船舶登記規則 登記手續

第四十六條 船舶登記規則 登記手續

第四十七條 船舶登記規則 登記手續

第四十八條 船舶登記規則 登記手續

前登記所カ特別登記簿ノ謄本ヲ交付シタルトキハ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第三十九條 船長カ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從テ設定シタル抵當權ノ登記ハ日本又ハ支那ニ於テハ其契約ヲ爲シタル港ヲ管轄スル登記所、外國ニ於テハ最近ノ日本領事館ヲ以テ管轄登記所トシ大正十四年勅令第三百二十八號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第四十條 船長カ前條ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶ヲ抵當ト爲シタル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十一條 第三十九條ノ登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十二條 特別登記簿ニ登記ヲ爲スルキハ登記用紙中登記番號欄ニ番號ヲ記載シ表示欄ニ船舶ノ種類、名稱並ニ積量及ヒ船籍港ヲ記載シ且甲區事項欄ニ船舶所有者ノ氏名、住所及ヒ抵當權ノ登記ノ申請ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十三條 第三十九條ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ代理權ヲ證スル書面カ船中ニ備ヘ置クヘキモノナルトキハ登記官吏ハ登記完了ノ後之ヲ還附スルコトヲ要ス

第四十四條 第三十九條ニ定メタル登記所ハ登記ヲ爲シタル後運轉ナル船舶港ヲ管轄スル登記所ニ特別登記簿ノ謄本ヲ移送シ其用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第四十五條 特別登記簿ノ謄本ノ移送ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リテ登記簿ニ登記ヲ移シ其末尾ニ特別登記簿ノ謄本ニ依リテ登記ヲ移シタル旨及ヒ其年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス

登記官吏カ登記證書ニ依リ商法第五百六十八條第一項第一號ノ規定ニ從テ設定シタル抵當權アルコトヲ知リタルトキハ前項ノ登記ヲ爲スルニ特別登記簿ニ他ノ登記ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ登記ノ申請アリタルトキハ其登記ハ特別登記簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

簿ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條及第十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 登記官吏カ質借權ノ登記ヲ完了シタルトキハ登記證書ニ不動産登記法第二百七條第一項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十七條 既登記ノ船舶ニ關スル未登記ノ抵當權又ハ質借權ノ變更又ハ處分ノ制限ノ登記ハ之ヲ命スル裁判ニ依リテ自己ノ權利ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

不動産登記法第三百三十三條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附則

第四十八條 此規則ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十九條 不動産登記法第六十二條ノ規定ハ明治十年十二月二十八號布告ニ從テ之ヲ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ之ヲ準用ス

第五十條 不動産登記法第六十三條ノ規定ハ此規則施行前ニ登記シタル船舶ニ付キ此規則施行ノ後登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス但登記用紙中表示欄ニ移スヘキ船舶ノ表示ハ第十六條ノ規定ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ非シテ此規則施行前ニ登記セザル船舶ニ付テハ船舶法第四條ノ規定ニ依リ其積量ノ測定ヲ受ケルメテ八舊法ノ規定ニ依リテ之ヲ登記ヲ爲スコトヲ得但質借權ノ登記ニ付テハ舊登記用紙ニ丁區事項欄ヲ追加シ之ニ關シテハ此規則ノ規定ヲ適用ス

前條ノ規定ハ前項ノ船舶ニ付キ此規則ニ依リテ登記ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五十二條 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル登記アルトキハ此規則施行ノ後ト雖モ舊法ノ規定ニ依リテ其登記ノ變更又ハ抹消ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ船舶ノ所有權カ移轉シタルトキハ其船舶ニ付キ此規則施行前ニ爲シタル買入又ハ賣入ノ登記アル場合ニ限リ此規則施行ノ後ト雖モ所有權移轉ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

前二項ニ定メタル申請アリタルトキハ登記官吏ハ舊法ノ規定ニ依リ舊登記簿ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

第五十三條 此規則ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

附則 (大正二年勅令第九十三號附則)

本令ハ大正二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年法律第十八號附則第二條乃至第八條ノ規定ハ本令ニ依リ登記ニ之ヲ準用ス但シ同法附則第五條中「乙區」トアルハ「丙區」ヲ謂フ

附則 (大正三年勅令第二百四號附則)

第一條 本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 船舶積量測定法第十二條ノ規定ニ依リ積量ノ改測ヲ受ケタル船舶ニ付キ其ノ改測ニ因リ變更ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ船舶原簿ノ謄本又ハ第十六條第一項第二號ノ事項ヲ除ク外同條ニ掲ケタル事項及改測ノ事實ヲ記載シタル船舶原簿ノ謄本ヲ添付スルコトヲ要ス

前項ノ登記ノ申請アリタル場合ニ於テ登記ヲ爲スルキハ變更ノ事項ノ記載ハ第十六條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三條 前條ノ規定ニ依リ變更ノ登記ヲ受ケタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ登記簿ニ記載シタル船舶ノ表示ハ本令ニ依リ表示ニ當然變更セラレタルモノト看做ス

海上衝突豫防法

(明治二十五年六月二十三日法律第五號)

改正、明三〇—法四三、明三九—法四四、大一一—法三八

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル海上衝突豫防法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所ト間ハス凡ソ航行船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用キサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用ウルト用キサルト別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ

本法中船舶航行中トハ碇泊若ハ繫留又ハ坐礁、膠沙ニ非サル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シテ見得トハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セズ日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラス

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲グヘシ

一 前燈若ハ其ノ前面ニ於テ又ハ前燈ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船體上ニ二十尺ヨリ低カラサル所ニ若

海上衝突豫防法 總則 船燈

船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其ノ船幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一箇ヲ掲クヘシ然レトモ船體上四十尺以上ノ所ニ掲クル要セズ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正左右舷外ノ十點間ニ即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此ノ燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鏡盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其ノ射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ樣裝置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四 本條第二項第三項ノ燈ニハ其ノ燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其ノ燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ、左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル樣ニ爲スヘシ

五 汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其ノ前燈ノ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其ノ前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨリ多キヲ要ス

第三條 汽船他船ヲ引キテ航行スルキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クル要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其ノ引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾ト距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二箇ノ白燈ヨリ上方若ハ下方六尺ノ所

ニ向同種ノ白燈一箇ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ衝突若ハ後撞ノ後面ノ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此ノ白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル樣ニ爲スコトヲ要ス

第四條 事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアルトキハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此ノ紅燈ハ周同少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタル要ス又晝間ニアルトキハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黒色ノ形象二箇ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアルトキハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ三箇ノ燈ヲ上下ニ少クモ六尺ツツヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三箇ノ内上下ノ二箇ハ紅色中央ノ一箇ハ白色ニシテ周同少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタル要ス又晝間ニアルトキハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三箇ヲ上下ニ少クモ六尺ツツヲ隔テ連掲シ其ノ上下ノ二箇ハ紅色球形ヲ用キ中央ノ一箇ハ白色球狀形ヲ用ウヘシ)

本條ノ船舶全ク運轉セザルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運轉スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運轉スル船舶ハ第二條第一項第三項ノ燈ヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

第六條 小形船舶航行中天氣ノ模樣ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ機點火シテ之ヲ手近カ

●船員法

(明治三十二年三月八日) 法律第四十七號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル船員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二章 船員手帖

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ヲ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到着シタルトキハ其到着ノ日ヨリ一ヶ月内ニ船員手帖ヲ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第九條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章 船長

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作リ其認許ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮スル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀聞カセル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ履止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セザルモ公認ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 海員ハ履止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ヲ交付ヲ請求スルコトヲ得

第五章 紀律

- 一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ
二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ
三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ
四 海員カ喧嘩シタルトキ
五 海員カ船長ノ許可ヲ得テシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セザリタルトキ
六 海員カ船長ノ許可ヲ得テシテ點火又ハ焚火シタルトキ
七 海員カ船長ノ許可ヲ得テシテ端艇ヲ使用シタルトキ
八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ
九 海員カ船長ノ許可ヲ得テシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ
十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セザルトキ

十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ
懲戒ハ左ノ四種トス
一 監禁
二 上陸禁止
三 加役
四 減給

第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘留ス
上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノ算入ス
加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超ユルコトヲ得ス
減給ハ給料月額十分ノ一以下トス
第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス
第四十一條 海員カ兇器、爆發物、火藥、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得
第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ボスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得
第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得
第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得ズシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得
第四十五條 船長ノ命令ニ服從セザル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ

援助ヲ求ムルコトヲ得
第六章 罰則
第四十六條 詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ「重禁錮」ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認認ヲ受ケタル者亦同シ
第四十七條 第七條、第九條、第十條、第十二條、第十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認認ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第四十八條 虚偽ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年以下ノ「重禁錮」ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認認ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減、變換シテ行使シタル者亦同シ
第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 船長カ正當ノ理由ヲナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ
二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ
三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ

命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十八條 船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
船舶法第三十條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第五十九條 船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
第六十條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十一條 海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ヲナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十二條 船長カ第五項ニ定メタル處分ヲ爲スニ當リ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命ジタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セザルトキハ八十一日以下六月以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ラ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命ゼラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ヲナクシテ之ニ應ゼサルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
海員カ脱船シタルトキハ八十一日以下六月以下ノ「重禁錮」ニ處ス
海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ
第六十五條 船長カ正當ノ理由ヲナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一月以上二年以下ノ「重禁錮」ニ處ス
船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ヲナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ

第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サズシテ發航ヲ爲シタルトキ
二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セズシテ船舶ヲ去リタルトキ
三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ
四 船長カ必要ナルシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
第五十一條 船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ「重禁錮」ニ處ス
第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ八十一日以上一年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十五條 船舶ニ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ其船舶ヲ去リタルトキハ八十一日以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處ス
第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當リ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ八十一日以上二年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ

一月以上一年以下ノ「重禁錮」ニ處ス
第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得ズシテ兇器、爆發物又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル機件ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ八十一日以上三年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者ハ「重禁錮」ニ處シ又ハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ「重禁錮」ニ處シ又ハ五十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ
第七十條 海員カ上長ニ對シテ「毆打創傷」ヲ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ
第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職務ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ八十一日以上三月以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處断ス
第七十二條 海員カ相當シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處断ス首魁ハ一等ヲ加フ
一 職務ニ服セズ又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ八十一日以上六月以下ノ「重禁錮」ニ處ス
二 脱船シタルトキハ一月以上一年以下ノ「重禁錮」ニ處ス

第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ
第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ八十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス
附則
第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ施行ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得
第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船舶海員雇入履止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ本法施行ノ後ニ依リテ海員名簿トシテ之ヲ改定スルコトヲ要ス
前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍モ其效力ヲ有ス
第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得
第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ
第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ八十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス
附則
第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ施行ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得
第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船舶海員雇入履止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ本法施行ノ後ニ依リテ海員名簿トシテ之ヲ改定スルコトヲ要ス
前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍モ其效力ヲ有ス
第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得
第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ
第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一月以上五年以下ノ「重禁錮」ニ處シ又ハ八十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス
第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス
附則
第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ施行ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得
第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船舶海員雇入履止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス
第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス
第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ本法施行ノ後ニ依リテ海員名簿トシテ之ヲ改定スルコトヲ要ス
前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍モ其效力ヲ有ス
第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得
第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

海員懲戒法

(明治二十九年四月七日) 法律第六十九號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル海員懲戒法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

海員懲戒法

第一章 總則

第一條 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事... 第二條 免狀行使ノ禁止... 第三條 免狀行使ノ停止... 第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三平以下トス... 第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス... 第六條 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ... 第七條 亂暴相暴其ノ他ノ失行アリタルトキ... 第八條 懲戒ハ左ノ三種トス... 第九條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム... 第十條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三平以下トス... 第十一條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス... 第十二條 確定判決

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第一條 時效... 第二條 時效ノ期間ハ審判ヲ受ケキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス... 第三條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス... 第四條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス... 第五條 地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ選省ニ置ク... 第六條 海員審判所ハ審判所長、審判官、理事官及書記ヲ置ク... 第七條 審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム... 第八條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ... 第九條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム... 第十條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定着場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス... 第十一條 同一ノ事件ニ付二箇以上ノ地方海員審判所ノ管轄權ヲ有スルトキハ其ノ事件ノ生シタル地ニ最モ近キモノノ管轄トス... 第十二條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルヲ申請スルコトヲ得... 第十三條 前項ノ申請ヲ爲ス者ハ審判期日前ニ管轄海員審判所ヲ經由シテ高等海員審判所ニ申請書ヲ差出スヘシ

第三章 審判前ノ手續

第十四條 高等海員審判所ハ前項ノ申請アリタル場合ニ於テ審判上便宜ナリト認ムルトキハ其ノ決定ヲ以テ他ノ地方海員審判所ニ該事件ヲ移付スルコトヲ得... 第十五條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス... 第十六條 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ審判權ヲ行フコトヲ得サルトキ... 第十七條 二以上ノ地方海員審判所ノ審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定判決ヲ爲シタルトキ... 第十八條 「船舶司檢所司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長、及捕役人」ニ於テ此ノ法律ニ依リ審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳記シ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ... 第十九條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ該事實ヲ管轄地方海員審判所ノ理事官ニ報告スヘシ... 第二十條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ該事實ヲ集取シ又必要ニ應ジ實地臨檢スルコトヲ得... 第二十一條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ... 第二十二條 前項ノ申立ヲ爲ストキハ該事實ノ他必要ノ書類ヲ添附スヘシ... 第二十三條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ

第四章 地方海員審判所ノ審判

第二十四條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開始スヘシ... 第二十五條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命ズヘシ... 第二十六條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得... 第二十七條 受命審判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ... 第二十八條 受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命ジ若ハ監檢ヲ爲スコトヲ得... 第二十九條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應ゼサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得... 第三十條 引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ勾引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス... 第三十一條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得... 第三十二條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應ズルコト能ハサルコトヲ證明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得... 第三十三條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證據ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ... 第三十四條 理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ送付スヘシ... 第三十五條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ... 第三十六條 審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ... 第三十七條 判決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

第三十八條 判決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之ヲ保存スヘシ... 第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控訴スルコトヲ得... 第四十條 控訴ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス... 第四十一條 兩席裁決ニ對スル控訴ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送還ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス... 第四十二條 控訴ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ... 第四十三條 原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ... 第四十四條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス... 第四十五條 高等海員審判所ハ控訴ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ... 第四十六條 控訴ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六章 執行處分

第四十七條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス... 第四十八條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ選省ニ送付スヘシ... 第四十九條 免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期間満了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ... 第五十條 免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出サルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

以テ審判ヲ開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ... 第二條 地方海員審判所ニ於テ下調ヲ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命ズヘシ... 第三條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得... 第四條 受命審判官ハ必要ナル證據ヲ集取スヘシ... 第五條 受命審判官ハ證人、鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命ジ若ハ監檢ヲ爲スコトヲ得... 第六條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應ゼサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得... 第七條 引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ勾引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス... 第八條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得... 第九條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應ズルコト能ハサルコトヲ證明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得... 第十條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證據ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ... 第十一條 理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ送付スヘシ... 第十二條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ... 第十三條 審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セシト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ... 第二條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス... 第三條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス... 第四條 開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得... 第五條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス... 第六條 審判官及理事官ハ審判長ニ告ク被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得... 第七條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得... 第八條 被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル... 第九條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ兩席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得... 第十條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得... 第十一條 被審人刑事訴訟ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ... 第十二條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニモ管轄處又ハ審判ヲ行フヘカサルノ申立ヲ爲スコトヲ得... 第十三條 地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄處又ハ審判ヲ行フヘカサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得... 第十四條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タズ直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得... 第十五條 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ

第七節 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ職務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス 第四十九條 海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

航空法

(大正十年四月九日 法律第五十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ航空法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル氣球、風、航空船及飛行機ヲ謂フ 本法ニ於テ航空トハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸トハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第二章 航空機ノ検査及登録

第五條 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技功及製品ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ 第六條 航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

第三章 航空機ノ検査及登録

第七條 航空機ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登録事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録航空機ノ登録事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

航空法 總則 航空機ノ検査及登録

第十四條 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現狀ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第三章 乘員

第十五條 航空機ノ乘員ニ非サレハ航空機ニ搭乗シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十六條 技術證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十七條 乘員ハ技術證明書及航空免狀ヲ携帶スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ乘員ニ對シ定期又ハ臨時ニ検査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乗シテ運航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乘員ト同乘シ共同シテ運航ニ從事スル者ニテ之ヲ適用セズ

第二十條 行政官廳ハ乘員引續キ六月以上運航ニ從事セザルトキ、第十八條ノ検査ノ結果ニ基キ必要アルトキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命スルトキハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命スルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第二十二條 第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セザレバ乘員ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付ス

第四章 飛行場及其ノ經營者

第二十二條 飛行場ヲ設置セムル者、其ノ區域ヲ變更セムル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケシテ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セザル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セザル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムル者亦同シ

第二十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲ス

第二十四條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セムルコトヲ得ス

第二十五條 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ヲ爲ルヘキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第二十六條 飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日没後日没前ニ限リ他人ノ土地ニ立入リ若ハ障礙ヲ爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通知スルコトヲ要ス

第二十七條 飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ他人ノ土地ニ立入リ若ハ障礙ヲ爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ運搬ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ通知ス

第二十八條 前條ノ規定ニ依リ立入、除去又ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者ノ之ヲ補償ス

第五章 航空及運送

第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ着陸スルコトヲ得但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 前項ノ規定ニ依リ航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

第三十三條 前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十四條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ヲ爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニテ之ヲ適用ス

第三十五條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケシ

第三十七條 公共ノ用ニ供セザル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ノ運航スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セムルコトヲ得ス

第三十八條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 前項ノ規定ニ依リ航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

第四十一條 前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十二條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ヲ爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニテ之ヲ適用ス

第四十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケシ

第四十五條 公共ノ用ニ供セザル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ノ運航スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セムルコトヲ得ス

第四十六條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 前項ノ規定ニ依リ航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

第四十九條 前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ヲ爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニテ之ヲ適用ス

第五十一條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケシ

第五十三條 公共ノ用ニ供セザル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ノ運航スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セムルコトヲ得ス

第五十四條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

第五十五條 前項ノ規定ニ依リ航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十六條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

第五十七條 前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十八條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ヲ爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニテ之ヲ適用ス

第五十九條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十條 前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受ケシ

第六十一條 公共ノ用ニ供セザル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ノ運航スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セムルコトヲ得ス

第六十二條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

第六十三條 前項ノ規定ニ依リ航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得

第三十三條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第六十四條 航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無効トシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十四條 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第五條又ハ第十一條ノ検査ニ合格セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者
 三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
 第五十六條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十七條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス
 第三十條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十八條 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第二十四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者

二 故ナク當該官吏ノ應檢査ハ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者
 三 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ氏名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
 四 第十條ノ規定ニ違反シテ航空機證明書又ハ登録證明書ヲ備付ケザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
 第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名稱若ハ住所ヲ表示セザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
 二 第十條ノ規定ニ違反シテ航空機證明書又ハ登録證明書ヲ備付ケザル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者
 第六十一條 第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第二十七條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケテシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者
 第六十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス
 一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者
 二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依ル登録ノ申請ヲ怠リタル者
 三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル填航證明書又ハ登録證明書ヲ返付ヲ怠リタル者
 四 第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空免狀ノ返付ヲ怠リタル者

五 第四十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者
 前項ノ規定ニ依ル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス
 第六十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付テ之ヲ適用ス
 附則
 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和二年勅令第四百四號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ス）

●特許法

（大正十年四月三十日 法律第九十六號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル特許法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 特許法

第一章 總則

第一條 新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付特許ヲ受クルコトヲ得
 第二條 特許權者又ハ特許出願者ハ其ノ發明ノ改良又ハ擴張ニ係ル新規ノ發明ニ付獨立ノ特許ニ代ヘ追加ノ特許ヲ受クルコトヲ得
 第三條 左ニ掲クル發明ニ付テハ之ヲ特許セズ
 一 飲食物又ハ嗜好物
 二 醫藥又ハ其ノ調合法
 三 化學方法ニ依リ製造スヘキ物質
 四 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ
 第四條 本法ニ於テ發明ノ新規ト稱スルハ發明力左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス
 一 特許出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノ
 二 特許出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ
 第五條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲メ其ノ發明ヲ前條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス
 第六條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者ノ意ニ反シテ其ノ者ノ發明力前條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス

特許法 總則

月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキ亦前項ニ同シ
 第六條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ博覽會ニ出品ノ爲メ其ノ者ノ發明ヲ第四條各號ノ一ニ該當スルニ至ラシメタル場合ニ於テ其ノ開會ノ日ヨリ六月以内ニ其ノ者カ特許ヲ出願シタルトキハ其ノ者ノ發明ハ之ヲ新規ナルモノト看做ス
 第七條 前項ニ掲クル博覽會ニ於テ外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル發明ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第七條 特許出願ハ一發明毎ニ之ヲ爲スヘシ但シ二以上ノ發明力牽連シテ利用上一發明ヲ爲スモノト認メ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第八條 同一發明ニ付テハ最先ノ出願者ニ限り特許ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ特許シ協議ハサルトキハ共ニ特許セズ
 第九條 二以上ノ發明ヲ包含スル特許出願ヲ二以上ノ出願ト爲シタルトキハ各出願ハ最初出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第十條 特許出願ヲ獨立ノ特許出願ニ、獨立ノ特許出願ヲ追加ノ特許出願ニ變更シタルトキ亦前項ニ同シ
 第十一條 特許出願カ特許ヲ受クルノ權利ノ承認人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ承認シタル者ノ爲シタルモノナルニ因リ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ特許出願ノ後ニ爲シタル特許出願者ノ出願ハ其ノ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ三十日ヲ出願公告アリタル場合ニ於テハ出願公告日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承認人ニ非サル者又ハ特許ヲ受クルノ權利ヲ承認シタル者ノ受ケタルモノナルニ因リ其ノ特許ヲ無効トスル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ其ノ特許ノ出願ノ後ニ爲シタル正當權利者ノ出願ハ其ノ無効ト爲リタル特許ノ出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ出願公告ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ノ出願又ハ其ノ審決確定シ若ハ判決アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタル後ノ出願ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第十三條 特許ヲ受クルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス
 第十四條 特許ノ權利カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス
 第十五條 特許ヲ受クルノ權利ノ承認人カ特許出願前ニ在リテハ特許ヲ出願シ特許出願後ニ在リテハ出願人名義ノ變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
 第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル法定又ハ指定期間ノ計算ハ左ノ規定ニ依ル
 一 期間ノ初日ハ之ヲ算入セズ但シ其ノ期間力午前零時ヨリ始ルトキハ此ノ限ニ在ラス
 二 期間ヲ定ムル月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從テ月又ハ年ノ始ヨリ期間ヲ起算セザルトキハ其ノ期間ハ最後ノ月又ハ年ニ於テ其ノ起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ満了ス但シ最後ノ月ニ應當日ナキトキハ其ノ月ノ末日ヲ以テ満了ス
 第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テノ法定又ハ指定期間ノ末日カ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニ當ルヘキトキハ其ノ日ノ翌日ヲ以テ其ノ期間ノ末日トス

第十四條 被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シテシタル發明ニ付テハ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲力被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノ外除ク外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クル權利又ハ特許權ヲ承継セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無効トス

被用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ハ被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ其ノ勤務ニ關シテシタル發明ニシテ性質上使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ノ業務範圍ニ屬シ且其ノ發明ヲ爲スニ至リタル行爲力被用者、法人ノ役員又ハ公務員ノ任務ニ屬スル場合ノモノ外除ク外豫メ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ特許ヲ受クル權利又ハ特許權ヲ承継セシムルコトヲ定メタル契約又ハ勤務規程ノ條項ハ之ヲ無効トス

被用者、法人ノ役員又ハ公務員ハ前項ノ發明ニ付テハ特許ヲ受クル權利又ハ特許權ヲ豫メ定メタル契約又ハ勤務規程ニ依リ使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ヲシテ承継セシムル場合ニ於テ相當ノ補償金ヲ受クル權利ヲ有ス

使用者、法人又ハ職務ヲ執行セシムル者ニ於テ既ニ支拂ヒタル報酬アルトキハ裁判所ハ前項ノ補償金ヲ定ムルニ付テハ斟酌スルコトヲ得

本條ニ於テ法人ノ役員ト稱スルハ法人ノ業務ヲ執行スル役員ヲ謂ヒ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第十五條 特許出願ニ係ル發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許ヲ與ヘス、特許ヲ受クルノ權利ヲ政府ニ於テ收用シ又ハ制限ヲ附シテ特許ヲ與フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ特許ヲ與ヘス、權利ヲ收用シ又ハ制限ヲ

附シテ特許ヲ與フル場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ支給ス

第十六條 帝國内ニ住所ヲ有セザル者ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外帝國内ニ住所又ハ居所ヲ有スル代理人ニ依リ非サレハ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ特許權若ハ特許ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ出願若ハ請求又ハ主張ヲ爲ス代理人ハ特ニ授ケラレタル權限ノ外本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ手續並民事訴訟、私訴及告訴ニ付本人ヲ代表ス

特許權者又ハ特許權ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ代理人ニシテ第一項ノ規定ニ依リ手續又ハ主張ヲ爲スモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三項ニ對抗スルコトヲ得ス

第十七條 特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ノ代理人ニシテ前條第三項ノ規定スル代理人ニ非サルモノノ選任若ハ變更又ハ代理權若ハ其ノ變更消滅ハ特許局ニ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ特許局ニ對抗スルコトヲ得ス

第十八條 特許ニ關スル代理人數人アルトキハ特許局ニ對シテハ共同又ハ各別ニ本人ヲ代表ス

第十九條 特許局長官ニ於テ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

特許局長官又ハ審判長ニ於テ當事者、參加人若ハ特許異議申立人又ハ其ノ代理人カ手續又ハ演述ヲ爲スノ能力ナシト認ムルトキハ審判長トシテ代理セシムルコトヲ命ズルコトヲ得

前二項ノ規定スル命令アリタル後第一項ノ代理人又ハ前項ノ當事者、參加人、特許異議申立人若ハ代理人ノ特許局ニ對シテ爲シタル行爲ハ之ヲ無効ト爲スコトヲ得

第二十條 特許局ニ對シテ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辨理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第二十一條 數人共同シテ特許ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者又ハ特許權ノ共有者ハ特許局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ特許局ニ届出タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 特許局ニ對シテ爲スヘキ事項ノ代理業ハ辨理士ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得

第二十三條 特許局長官ハ外國又ハ遠隔若ハ交通不便ノ地ニ在ル者ノ爲請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ特許局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第二十四條 出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキハ登録ヲ受クル際納付スヘキ特許料ノ納付ヲ怠リタルトキハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外特許局長官ハ其ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ無効ト爲シタル場合ニ於テ其ノ期間ノ懈怠力有キニ因リ因ルモノト認ムルトキハ其ノ障礙ノ止ミタル日ヨリ十四日以内ニシテ其ノ期間満了後一年以内ノ請求ニ依リ特許局長官ハ懈怠ノ結果ヲ免レシムルコトヲ得但シ第七十四條ノ規定スル特許異議ノ申立期間ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 特許局ニ差出スヘキ書類其ノ他ノ物件ニ付差出ル

效力ヲ生スヘキ時期ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許權者又ハ特許ニ關スル權利ヲ有スル者ノ爲シタル又ハ其ノ者ニ對シテ爲サレタル手續ノ效力ハ其ノ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ承継人ニ及ブ

第二十八條 特許局ニ事件ノ繫屬中ニ於テ特許權又ハ特許ニ關スル權利ノ移轉アリタルトキハ特許局ハ承継人ニ對シ手續ヲ履行スルコトヲ得

第二十九條 本法ニ規定スルモノノ外特許局ニ繫ル手續ノ中止及中断中止シタル手續ヲ履行ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 特許ニ關シテ證明、特許證ノ複製、書類ノ謄本若ハ圖面ノ複製ヲ求メ又ハ書類ノ閲覧若ハ謄寫ヲ爲サントスル者ハ特許局長官ニ之ヲ申請スルコトヲ得但シ特許局長官ニ於テ秘密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ之ヲ許可セズ

第三十一條 軍事上秘密ヲ要スル發明ニ付テハ本法ニ規定スルモノノ外命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第三十二條 外國人ニシテ帝國内ニ住所ヲ有セザル者モ有セザルモノハ條約又ハ之ニ進スヘキモノニ規定アル場合ヲ除ク外特許權又ハ特許ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

第三十三條 特許ニ關シテ條約又ハ之ニ進スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

定ス

特許權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權、抵觸スル場合又ハ特許發明カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登録實用新案權利用スルモノナル場合ニ於テハ特許權者ハ實用新案權者ノ實施許諾アルニ非サレハ其ノ特許發明ヲ實施スルコトヲ得ス

第三十六條 特許權ノ效力ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一 研究又ハ試驗ノ爲ニスル特許發明ノ實施

二 單ニ帝國内ヲ通過スルニ過キサル運輸具又ハ其ノ裝置

三 特許出願ノ際ヨリ帝國内ニ在ル物

第三十七條 特許出願ノ際現ニ善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十八條 特許ノ無効審判請求ノ登録前善意ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

一 同一發明ニ對スル二以上ノ特許中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケル原特許權者

二 特許ヲ無効トシ同一發明ニ付正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケル原特許權者

三 前二號ニ掲ケタル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル特許權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケル者但シ實施權カ登録ナキモ第五十二條第一項ノ效力ヲ有スル場合ニ於テ登録アラザルヲ要セズ

特許出願ノ日前又ハ之ノ同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト抵觸スル實用新案權ノ存続期間満了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケル者ハ其ノ特許

發明ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登録ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アラザルヲ要セズ

特許權者ハ前二項ノ規定ニ依リ實施權者ヨリ相當ノ補償金ヲ受クル權利ヲ有ス

第三十九條 特許出願ノ日前又ハ之ノ同日ノ出願ニ係リ其ノ特許權ト抵觸スル實用新案權ノ存続期間満了後ニ於ケル原實用新案權者ハ其ノ特許發明ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第四十條 特許發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ制限シ若ハ政府ニ於テ收用シ、特許ヲ取消シ又ハ政府ニ於テ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

特許權ノ收用アリタルトキハ其ノ特許發明ニ關スル特許權以外ノ權利ハ消滅ス

第一項ノ規定ニ依リ制限、收用、取消又ハ實施ノ場合ニ於テハ政府ハ相當ノ補償金ヲ特許權者又ハ實施權者ニ支給ス

第四十一條 特許發明カ軍事上秘密ヲ要シ又ハ軍事上若ハ公益上必要ナルモノナルトキハ特許權ヲ三年以上正當ノ理由ナクシテ其ノ發明カ帝國内ニ適當ニ實施セラレサル場合ニ於テ公益上必要ナルトキハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ其ノ實施權ヲ許シ若ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ職權ヲ以テ其ノ特許ヲ取消スルコトヲ得

特許權者又ハ請求人ハ前項ノ規定ニ依リ實施權許與若ハ特許取消ノ處分又ハ前項ノ請求ノ却下ニ對シ不服アルトキハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ實施權ヲ許與スル場合ニ於テハ特許局長官ハ補償金ニ付テモ亦之カ決定ヲ爲スヘシ

第四十二條 前條ノ規定ニ依リ實施權ヲ取得シタル者適當ニ其

特許法 特許權

ノ特許發明ヲ實施セザル場合ニ於テハ特許局長官ハ利害關係人ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ其ノ實施權ヲ取消スコトヲ得

第四十三條 特許權ノ存続期間ハ出願公告アリタル場合ニ在リテハ其ノ出願公告ノ日ヨリ、出願公告ナカリシ場合ニ在リテハ特許ノ日ヨリ十五年ヲ以テ終了ス

第十條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テ特許ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル特許出願ニ付し出願公告アリタルキハ前項ノ十五年ノ期間ハ其ノ出願公告ノ日ヨリ起算ス

第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタルキハ第一項ノ十五年ノ期間ハ無効ト爲リタル特許ノ出願公告ノ日ヨリ起算ス

追加ノ特許權カ獨立ノ特許權ト爲リタルトキハ其ノ存続期間ハ原特許權ノ存続期間トス第五十三條第二項ノ規定ニ依リ各別ノ特許權ノ存続期間ニ付亦同シ

特許權ノ存続期間ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ三年以上十年以下ノ延長スコトヲ得

第四十四條 特許權ハ制限ヲ附シ又ハ附セシメテ之ヲ移轉スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第四十五條 特許權ノ移轉、拋棄ニ依リ消滅若ハ處分ノ制限又ハ特許權ノ目的トスル實權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ハ其ノ登録ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第四十六條 追加ノ特許權ハ原特許權ニ附隨ス

實施權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ特許權ヲ拋棄シ又ハ第五十三條ノ規定ニ依リ許可ノ審判ヲ受クヘキ補償金

第五十六條 先取特權又ハ質權ハ本法ニ依リ受クヘキ補償金其ノ他特許權ノ對價又ハ特許發明ノ實施ニ對シテ受クヘキ金錢若ハ金銀以外ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スヘシ

第五十七條 特許カ左ノ各號ノ一ニ該當スルキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 特許カ第一條乃至第三條、第八條又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シテ與ヘラレタルトキ

二 特許カ特許ヲ受クルノ權利ノ承認シタル者ニ對シテ與ヘラレタルトキ

三 特許發明ノ明細書又ハ圖面ニ其ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載セズ又ハ其ノ實施ヲ不能若ハ困難ナラシムル爲ニ必要ナル事項ヲ故意ニ記載シタルトキ

四 特許カ第三十三條ノ規定ニ違反スル條約又ハ之ニ違反スヘキモノニ違反シテ與ヘラレタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲グルモノニ違反スヘキモノナルトキ

五 特許カ第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許カ第三十三條ノ規定ニ違反スル條約若ハ之ニ違反スヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至前號ニ掲グルモノニ違反スヘキモノナルトキ

第五十三條ノ許可カ同條第三項又ハ第五十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第五十八條 特許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ初ヨリ存在セザリシモノト看做ス但シ前條第一項第五號ノ規定ニ依リ特

第四十七條 特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ契約ヲ以テ別段ノ定テ爲サレタルキハ他ノ共有者ノ同意ヲ要セズシテ特許發明ヲ實施スルコトヲ得

第四十八條 特許權者ハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

特許權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ特許發明ノ實施ヲ他人ニ許諾スルコトヲ得

第四十九條 特許權者ハ他人ノ特許發明又ハ登録實用新案ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ特許發明ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ他人ノ特許發明ノ實施ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ實施セザルヘキ發明ノ特許權發生ノ日ヨリ三年ヲ經過セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ特許發明ヲ實施セザル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ特許發明ニ付實施ノ許諾ヲ請求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第五十條 第四十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ實施權者ハ特許權者又ハ實用新案權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金カ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ特許發明又ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得但シ第四十一條ノ規定、審決又ハ判決ノ確定前ト雖決定、審決又ハ判決ニ依リ補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第五十一條 第四十九條ノ規定ニ依リ實施權者ハ其ノ特許權ニ附隨ス

許カ無効ト爲リタルトキハ特許權ハ特許カ同號ニ該當スルニ至リタル時ヨリ存在セザリシモノト看做ス

第五十三條ノ許可カ無効ト爲リタルトキハ初ヨリ許可ナカリシモノト看做ス

特許ノ取消又ハ第四十二條ノ規定ニ依リ實施權者ノ取消アリタルトキハ特許權ハ實施權者ハ其ノ效力ナキモノトス

第五十九條 特許權ハ相續人ナキトキハ消滅ス

第六十條 特許カ取消若ハ無効ト爲リ又ハ特許權カ消滅シタル場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ノ特許權ト爲リ第六十九條第二項ノ規定ニ依リ特許權カ消滅シタルトキハ同條第一項ノ規定ニ依リ追納期間ノ満了ノ時獨立ノ特許權ト爲ル

前項ノ場合ニ於テ獨立ノ特許權ト爲リタルモノニ係ル追加ノ特許權アルトキハ其ノ追加ノ特許權ハ獨立ト爲リタル特許權ト追加ノ特許權ト爲ル

第三章 登録、特許證、公報及明細書、特許標記並特許料

第六十一條 特許局ニ特許原簿ヲ備ヘ特許權及實施權並之ヲ目的トスル實權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第六十二條 特許局ハ特許ノ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ特許原簿ニ登録シ特許證ヲ付ス第五十三條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第六十三條 特許局ハ特許公報及特許發明明細書ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他特許發明ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル特許發明ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 特許標記ハ特許ニ係ル物ニ之ヲ附スヘシ物ノ性質

特許發明ノ實施權ニシテ前項ノ實施權ニ非サルモノハ其ノ實施ノ事業ト共ニニル場合又ハ特許權者ノ承諾アル場合ニ於テハ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十二條 特許發明ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ特許權ノ嗣後取得シタル者及其ノ特許權ノ目的トスル嗣後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十四條第二項又ハ第三十七條乃至第三十九條ノ規定ニ依リ實施權者ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第四十九條ノ規定ニ依リ實施權者ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第四十五條ノ規定ハ實施權者ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權者ノ目的トスル實權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付之ヲ準用ス

第五十三條 特許權者ハ特許發明ノ明細書又ハ圖面カ不完全ニ作製セラレタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲グル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

一 特許請求範圍ノ減縮

二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明

特許權者ハ錯誤ニ因リ二以上ノ發明ヲ一特許出願ニ包含セシメタルコトヲ疏明シタル場合ニ限リ各發明毎ニ各別ノ特許權ト爲スノ許可ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部、前項ノ場合ニ於テハ其ノ各發明カ特許出願ノ際獨立シテ新規ノ發明ナルコトヲ要ス

第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ特許請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得

第五十五條 特許權者ハ制限附移轉ノ特許權ヲ有スル者、質權者又ハ第四十四條第二項若ハ第四十八條ノ規定ニ依リ

ニ依リ其ノ物ニ附スルコト能ハサルトキハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ之ヲ附スヘシ

特許權者ハ實施權者又ハ第三十六條第一號ノ實施ヲ爲ス者ニ對シ特許標記ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

特許標記ヲ附セザリシ爲ニ特許ニ係ル物ナルコトヲ知ラスシテ特許權者ハ其ノ權利ノ侵害シタル者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ特許ニ係ル物ノ要部ヲ分離シテ販賣又ハ擴張スル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 特許權ノ登録ヲ受クル者又ハ特許證主ハ特許料トシテ第四十三條第一項ノ規定ニ依リ十五年ノ各年ニ付每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 毎年 十圓

二 第四年乃至第五年 毎年 十五圓

三 第六年乃至第九年 毎年 二十五圓

四 第十年乃至第十二年 毎年 三十五圓

五 第十三年乃至第十五年 毎年 五十圓

特許權存続期間延長ノ登録ヲ受クル者又ハ其ノ特許證主ハ特許料トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 毎年 百圓

二 第四年乃至第六年 毎年 百五十圓

三 第七年乃至第十年 毎年 二百圓

追加ノ特許權ノ登録ヲ受クル者ハ其ノ登録ヲ受クル時特許料トシテ每件一時三十圓ヲ納付スヘシ特許權存続期間延長ノ場合ニ於テ追加ノ特許權アルトキハ其ノ登録ヲ受クル時特許料トシテ每件一時六十圓ヲ納付スヘシ

第五十三條第二項ノ規定ニ依リ各別ノ特許權ノ登録ヲ受クル者又ハ特許證主ハ各別ノ特許權ニ付原特許權ノ當該年分ヨリ特許料ヲ納付スヘシ但シ既納ノ特許料ノ金額ハ納付スヘキ特許料ノ金額中ニ之ヲ充當ス

特許法 審査 審判、抗告審判及出訴

追加ノ特許権カ獨立ノ特許權ト爲リタル場合又ハ第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ニ特許ヲ與ヘタル場合ニ於テハ特許權ノ登録ヲ受クル者又ハ特許證主ハ原特許權ノ當該年分ヨリ特許料ヲ納付スヘシ

第六十六條 前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料ハ一時ニ之ヲ前納シ其ノ第四年以後ノ特許料及前條第二項ノ規定ニ依ル特許料ハ前年ニ之ヲ納付スヘシ但シ數年分ヲ前納スルコトヲ妨ケス

特許局長官ハ前條第一項ノ規定ニ依ル第一年乃至第三年ノ特許料又ハ前條第三項ノ規定ニ依ル特許料ヲ納付スヘキ者カ其ノ特許發明ノ發明者又ハ其ノ相續人ナル場合ニ於テ之ヲ納付スルノ責力ヲ認ムルトキハ二年以内ノカ納付ヲ猶豫シ又ハ之ヲ減免スルコトヲ得

第六十七條 利害關係人ハ特許料ヲ納付スヘキ者ニ代リ納付スルコトヲ得

第六十八條 既納ノ特許料ハ之ヲ還付セズ

第六十九條 特許證主ハ特許料ヲ納付スヘキ期限ヲ經過シタル後ト雖六月間ヲ限リ特許料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第六十五條ノ規定ニ依ル特許料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ特許料トシテ納付スヘシ

前項ニ規定スル追納期間内ニ特許料ヲ追納セザルトキハ特許料ヲ納付スヘキ期限經過ノ時ニ過リ特許權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四章 審査

第七十條 特許ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第七十一條 第九十一條ノ規定ハ審査官ノ審査ノ干與ヨリノ除外ニ付之ヲ適用ス

第七十二條 審査官ハ出願ヲ拒絕スヘキモノト認メタルトキハ出願人ニ對シ拒絕ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定シテ之ニ意見書提出ノ機會ヲ與フヘシ

第七十三條 審査官ハ出願拒絕ノ理由ヲ發見セザルトキハ出願公告ヲ爲スヘキモノト決定スヘシ

前項ノ規定ニ依ル決定アリタルトキハ特許局長官ハ出願年月日、發明者ノ氏名、出願人ノ氏名及住所並出願ノ行旨ヲ特許公報ニ掲載シテ出願公告ヲ爲スヘシ

出願公告アリタルトキハ其ノ出願ニ係ル發明ニ付出版公告ノ時ヨリ特許權ノ效力ヲ生シタルモノト看做ス

特許局長官ハ出願公告ト同時ニ出願書類及其ノ附屬物件ヲ特許局長官ニ於テ或命令ノ定ムル所ニ依リ出願書類及其ノ附屬物件ヲ其ノ他ノ場所ニ於テ公衆ノ閱覽ニ供スヘシ

特許局長官ハ出願人ノ請求ニ依リ出願公告ノ決定アリタル日ヨリ六月以内出願公告ヲ猶豫スルコトヲ得

軍事上秘密ヲ要スル發明ノ出願ニ付テハ出願公告ノ決定ヲ爲サズシテ査定ヲ爲スヘシ

第七十四條 出願公告アリタルトキハ何人ト雖出願公告ノ日ヨリ二月以内ニ特許局長官ニ特許異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

特許異議ノ申立ハ特許異議申立書ヲ提出シテ之ヲ爲シ理由ヲ之ニ記載スヘシ

利害關係人ハ特許異議ノ決定アル迄其ノ特許異議ニ參加スルコトヲ得

特許異議ノ參加ニ關シテハ審判ノ參加ニ關スル規定ヲ適用ス

第七十五條 特許異議ノ申立アリタルトキハ審査官ハ特許異議申立書ノ副本ヲ出願人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與フヘシ

審査官ハ前條第一項ノ規定ニ依ル特許異議申立期間及前項ノ期間ノ經過後特許異議ノ決定ヲ爲シ同時ニ其ノ出願

ニ對シ特許スヘキ否ヲ査定スヘシ

特許異議ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

特許異議ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

審査官ハ特許異議申立ノ結果必要アルトキハ特許發明ノ明細書又ハ圖面ノ訂正ヲ命スルコトヲ得

第七十六條 特許異議ニ關シタル證據調用ノ費用ニ付テハ審判ニ關スル費用ノ規定ヲ適用ス

第七十七條 特許異議ノ申立ナキトキハ審査官ハ査定ヲ爲スヘシ

第七十八條 出願公告後出願ノ拋棄、取下若ハ無効處分アリタルトキ、拒絕ノ査定若ハ審決確定シ若ハ判決アリタルトキ又ハ第五十八條第一項但書ノ場合ヲ除ク外特許カ無効ト爲リタルトキハ第七十三條第三項ノ規定ニ依ル效力ハ初ヨリ生セザリシモノト看做ス

第七十九條 第十條又ハ第十一條ノ規定ニ依ル正當權利者ノ出願アリタルトキハ審査官ハ既ニ出願公告ヲ爲シタルモノニ付テハ更ニ出願公告ヲ爲スコトヲ得

第八十條 第九十條第一項ノ規定ハ審査ニ付之ヲ適用ス

第八十一條 査定ニハ理由ヲ附スヘシ

第八十二條 本法ニ規定スルモノノ外審査ニ關スル書類ニシテ送達スヘキモノ及送達ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十三條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許又ハ拒絕査定確定アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五章 審判、抗告審判及出訴

第八十四條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キ發シタル命令ニ規定スルモノノ外ニ揚クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第五十七條ノ規定ニ依ル特許又ハ許可ノ無効

二 特許權ノ範圍ノ確認

前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第八條ノ規定ニ違反シ又ハ第五十七條第一項第二號ニ該當スル理由ニ依ル無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第二號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第八十五條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ特許又ハ第五十三條ノ許可ノ登録ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ規定スル期間ハ第五十七條第一項第五號ニ該當スルトノ理由ニ依ル無効ノ審判ノ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第八十六條 審判ノ請求ハ審判請求書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

審判請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第八十七條 審判ノ請求カ判然許スヘカラサルモノ、法令ニ定メタル方式ニ適セザルモノ又ハ期間ヲ經過シタルモノナルトキハ審判長ハ直ニ決定ヲ以テ之ヲ却下ス

前項ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第一項ノ決定ニ不服アル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ即時抗告ニ付テハ民事訴訟法中即時抗告ニ關スル規定ヲ適用ス

第八十八條 審判長ハ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ答辯書提出ノ機會ヲ與ヘ其ノ答辯書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ相手方ニ送達スヘシ

審判ニ關シテハ當事者ノ提出シタル書類ニ對シ相手方ヲシテ答辯書ヲ提出セシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ對スル意見書ヲ提出セシムルコトヲ得

第八十九條 審判ハ審判官三人ノ合議ニ依リ之ヲ行フ

合議ハ過半数ニ依リ之ヲ決ス

審判長ハ審判官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

審判長ハ其ノ審判事件ニ關スル事務ヲ掌理ス

第九十條 審判官ハ各審判事件ニ付特許局長官ノ指定スル審判官中審判ニ干與スル故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ附キ更ニ他ノ審判官ヲ以テ之ヲ補充ス

第九十一條 審判官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ノ干與ヨリ除外セラル

一 其ノ事件ニ付當事者、參加人又ハ特許異議申立人ナルトキ

二 前號ニ揚クル者又ハ其ノ配偶者ノ親族ナルトキ

三 第一號ニ揚クル者ノ法定代理人、後見監督人又ハ保佐人ナルトキ

四 其ノ事件ニ付第一號ニ揚クル者ノ代理人ト爲リタルトキ

五 其ノ事件ニ付證人又ハ鑑定人ト爲リタルトキ

六 其ノ事件ニ付審査官又ハ審判官トシテ査定又ハ審決ニ干與シタルトキ

七 其ノ事件ニ付直接ノ利害關係ヲ有スルトキ

第九十二條 審判官カ前條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除外セラルトキ又ハ偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリタルトキハ當事者又ハ參加人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

第九十三條 第九十一條ノ規定ニ依リ審判ノ干與ヨリ除外セラレハシトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ハ審判ノ如何ナル程度ニ在ラザルハス之ヲ爲スコトヲ得

偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ハ當事者又ハ參加人カ其ノ覺知シタル忌避ノ原因ヲ主張セシメ申立ヲ爲シ又ハ相手方ノ申立ニ對シ陳述ヲ爲シタル後ハ之ヲ爲スコトヲ得

第九十四條 忌避ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

忌避ノ原因ハ之ヲ説明スヘシ忌避ヲ申請セラレタル審判官ノ職務上ノ陳述ハ之ヲ其ノ説明ノ用ニ充ツルコトヲ得

當事者又ハ參加人カ申立又ハ陳述ヲ爲シタル後偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲ス審判官ノ忌避ノ申請ニハ其ノ申立又ハ陳述ノ後ニ忌避ノ原因發生シ又ハ忌避ノ原因ヲ覺知シタルコトヲ説明スヘシ

第九十五條 忌避ノ申請アリタルトキハ忌避ヲ申請セラレタル審判官以外ノ審判官ニシテ特許局長官ノ指定シタルモノノ審判ニ依リ其ノ許可ヲ決定ス

前項ノ規定ニ依ル決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第九十六條 忌避ヲ申請セラレタル審判官ハ忌避申請ノ許可ノ決定アル迄其ノ審判事件ニ關シ總テノ行爲ヲ爲スコトヲ得

但シ偏頗ノ審判ヲ爲スノ虞アリトシテ爲ス審判官ノ申請ノ場合ニ於テ猶豫スヘカラサル行爲ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十七條 第八十四條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ口頭審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ書面審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

前項ノ審判以外ノ審判ハ書面審理ニ依ル但シ審判長ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ口頭審理ニ依ルモノト爲スコトヲ得

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ公益又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九十八條 利害關係人ハ審理ノ終結ニ至ル迄其ノ審判ニ參加スルコトヲ得

第九十九條 參加ノ申請ハ參加申請書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

審判長ハ參加申請書ヲ受理シタルトキハ之ヲ當事者及參加人ニ送達シ期間ヲ指定シテ之ニ異議申立ノ機會ヲ與フヘシ

參加ノ申請アリタルトキハ審判ニ依リ其ノ許可ヲ決定ス

第九十五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル

特許法 審判、抗告審判及出訴

決定ニ付之ヲ適用ス

審判ニ於テハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ證據調ヲ爲スコトヲ得

前項ノ證據調ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所其ノ他區裁判所ノ事務ヲ行フ官廳ニ之ヲ囑託スルコトヲ得

民事訴訟法中證據調ニ關スル規定ハ前二項ノ規定ニ依ル證據調ニ付之ヲ適用ス但シ特許局ニ於テ爲ス證據調ニ關シテハ罰金ノ管渡ヲ爲シ又ハ勾引ヲ命ズルコトヲ得

第一條 當事者又ハ參加人カ法定若ハ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲ス又ハ期日ニ出頭セザルトキト雖審判長ハ審判ヲ進行スルコトヲ得

第二條 審判ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得但シ答辯書ノ提出アリタル後ニ於テハ相手方ノ承諾ヲ要ス

第三條 審判ニ於テハ當事者又ハ參加人ノ申立テサル理由又ハ取下クル理由ニ付テモ之ヲ審理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ニ付當事者又ハ參加人ニ期間ヲ指定シテ意見申立ノ機會ヲ與フヘシ

第四條 審判官ハ當事者ノ雙方又ハ一方ノ同一ナル二以上ノ審判ニ付其ノ審理又ハ審決ノ併合ヲ爲スコトヲ得

審判官ハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ併合ヲ爲シタル場合ニ於テ更ニ審理又ハ審決ノ分離ヲ爲スコトヲ得

第五條 審判ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外審決ヲ以テ之ヲ終了ス

前項ノ審決ニハ理由ヲ附スヘシ

事件カ審決ヲ爲スニ懸シタルトキハ審判長ハ審理ノ終結ヲ當事者及參加人ニ通知スヘシ

審判長ハ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ終結ヲ通知シタル後ト雖申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ審理ノ再開ヲ爲スコトヲ得

審決ハ審理ノ終結ノ通知ヲ發シタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第六條 第四十九條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第七條 第八十二條ノ規定ハ審判ニ付之ヲ適用ス

第八條 第七十二條、第七十三條第一項第二項第四項第六項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ第五十三條ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第九條 第九十九條及第四百四條ノ規定ハ前項ノ審判ニ付之ヲ適用ス

第十條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得但シ第六條ノ規定ニ依ル補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 第八十六條乃至第九十四條ノ規定ハ抗告審判ニ付之ヲ適用ス但シ審判官ノ合議ハ三人又ハ五人ヲ以テ之ヲ爲シ第九十二條乃至第九十四條及第一百一條ニ於テ當事者又ハ參加人トアルハ當事者、參加人又ハ特許異議申立人トス

第十二條 抗告審判ニ於テハ審判請求ノ理由ヲ變更シ又ハ新カ事案若ハ證據方法ヲ提出スルコトヲ得

第十三條 抗告審判ニ於テハ其ノ事件ニ付審決ヲ爲スシテ審判長ハ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ再開ヲ爲スコトヲ得

第十四條 第七十二條ノ規定ハ拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テ其ノ査定ノ理由ト異ル拒絶ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ適用ス

第七十三條乃至第七十九條ノ規定ハ拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ノ請求ヲ理由アリタル場合ニ之ヲ適用ス但シ特許ノ爲スコトヲ審決スヘシ

前二項ノ規定ハ第五十三條ノ許可ヲ與ヘサル審決ニ對スル

抗告審判ニ付之ヲ適用ス

第十四條 拒絶ノ査定ニ對スル抗告審判ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ラス其ノ査定ヲ破毀シ更ニ審査ニ付スヘシトノ審決ヲ爲スコトヲ得

第十五條 前項ノ規定ニ依リ審決アリタル場合ニ於テハ其ノ破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ審査官ヲ囑束ス

第十六條 抗告審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ審決カ法令ニ違反シタルコトヲ理由トスル場合ニ限リ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル出訴及其ノ裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ適用ス

第十七條 大審院ノ判決ニ於テ審決破毀ノ基本ト爲シタル理由ハ其ノ事件ニ付テハ特許局ヲ囑束ス

第十八條 第十五條、第四十條又ハ第五十條ニ規定スル補償金額ノ通知又ハ決定若ハ審決ヲ受ケタル者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ通知又ハ決定若ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力又ハ特許權ノ範圍ニ關スル確定審決又ハ判決ノ登錄アリタルトキハ何人ト雖同一事實及同一證據ニ基キ同一審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 審判又ハ抗告審判ニ於テ必要アルトキハ民事又ハ刑事ノ訴訟手續ノ完結ニ至ル迄其ノ手續ヲ中止スルコトヲ得

第二十一條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ裁判所ハ特許ニ關シ審決ノ確定又ハ判決アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第二十二條 審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ負擔ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ事件ノ審決ヲ以テ之ヲ定ム

審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ハ請求ニ依リ特許局長官之ヲ決定ス

費用ノ負擔及額ニ關シテハ勸合ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ額ノ決定並本法ニ規定スル補償金額ノ確定ノ決定及審決ハ強制執行ニ關シテ民事訴訟法第五百五十九條第一號ノ規定ニ依ル債務名義ト看做ス但シ其ノ執行力アル正本ハ特許局官吏之ヲ付與ス

第六章 再審

第二十四條 左ノ場合ニ於テ抗告審判又ハ出訴ニ付爲シタル確定審決又ハ判決ヲ以テ終結シタル事件ハ取消ノ請求又ハ原狀回復ノ請求ニ依リ之ヲ再審スルコトヲ得

一 特許若ハ第五十三條ノ許可ノ效力、特許權ノ範圍又ハ實施權ノ取得ニ關スル審判

二 前號ノ審判ノ審決ニ對スル抗告審判

三 前號ノ抗告審判ノ審決ニ對スル出訴

民事訴訟法第四百六十八條ノ規定ハ取消ノ請求ニ付同法第四百六十九條及第四百七十條ノ規定ハ原狀回復ノ請求ニ付之ヲ適用ス

第二十五條 再審ハ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

審決ノ確定又ハ判決ノ前ニ當事者カ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ前項ノ規定スル期間ハ審決確定シ又ハ判決アリタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審判、抗告審判又ハ出訴ノ手續ニ於テ當事者カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレザリシコトヲ理由トシテ再審ヲ請求スル場合ニ於テハ第一項ノ規定スル期間ハ當事者又ハ其ノ法律上代理人カ送達ニ依リ審決又ハ判決アリタルコトヲ知リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

審決確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ再審ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條 審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ノ請求及其ノ後ノ手續ニ付テハ本章ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外各其ノ審級ノ手續ニ關スル規定ヲ適用ス

第二十七條 民事訴訟法第四百六十七條第二項、第四百七十一條、第四百七十二條第一項第二項及第四百七十五條乃至第四百八十二條ノ規定ハ審判、抗告審判又ハ出訴ニ於テ爲ス再審ニ關シ之ヲ適用ス

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ特許權ノ效力ハ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前善意ニ輸入若ハ移入シ又ハ帝國内ニ於テ製作若ハ取得シタル物ニ及ハス

一 無効ト爲リタル特許權カ再審ニ依リ回復シタルトキ

二 特許權ノ範圍ニ屬セズトノ審決確定シ又ハ判決アリタルモノニ付再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタルトキ

第二十九條 前條各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登錄前善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付事業ノ目的タル發明範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十條 實施權ノ取得ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後再審ニ依リ之ニ反スル審決確定シ又ハ判決アリタル場合ニ於テ再審請求ノ登錄前善意ニ帝國内ニ於テ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ特許發明ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第三十一條 第三十八條第三項及第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三十二條 第三者カ請求人及被請求人ノ共謀ニ依リ其ノ第三者ノ權利又ハ利益ヲ詐害スル目的ヲ以テ審決又ハ判決ヲ爲サシメタルコトヲ理由トスル不服ノ申立ニ付テハ原狀回復ノ請求ニ依リ再審ノ規定ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テハ請求人及被請求人ヲ以テ共同被請求人トス

第七章 罰則

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 特許權ヲ侵害シタル者

二 特許權ヲ侵害スヘキ物ヲ輸入又ハ移入シタル者

三 特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ特許前ニ侵害シタル者

四 特許アリタル場合ニ於テ第七十三條第三項ニ規定スル權利ヲ侵害スヘキ物ヲ特許前ニ輸入又ハ移入シタル者

第三十四條 前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ特許ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 特許ニ係ラサル物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三 特許ニ係ラサル物ニシテ其ノ物又ハ其ノ物ノ容器包裝ノ類ニ特許標記ヲ附シ又ハ特許標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノノ販賣又ハ散布シタル者

四 特許ニ係ラサル物又ハ特許ニ係ラサル方法ニ依リ製作シタル物ヲ製作若ハ使用セシムル爲メ又ハ販賣若ハ

五 特許に係る方法ヲ使用セシムル爲又ハ販賣若ハ...

第三百一十一條 第二百九十九條第一項ニ掲グル行爲ヲ組成シ...

第三百一十二條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事...

第三百一十三條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ...

第三百一十四條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サ...

第三百一十五條 辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ特許ニ關シ爲スヘ...

第三百一十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム...

第三百一十七條 舊法ニ依ル特許、特許權ノ改訂又ハ分割ノ許...

第三百一十八條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ...

第三百一十九條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者...

第三百二十條 舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九...

キ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以...

附則

第三百一十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム...

第三百一十七條 舊法ニ依ル特許、特許權ノ改訂又ハ分割ノ許...

第三百一十八條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ...

第三百一十九條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者...

第三百二十條 舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九...

第三百二十一條 本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第...

第三百二十二條 特許力舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ...

第三百二十三條 舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ...

第三百二十四條 本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ...

第三百二十五條 特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ...

第三百二十六條 特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ...

第三百二十七條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ...

第三百二十八條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル特許又ハ特許權ノ...

第三百二十九條 特許ヲ受クルノ權利ヲ有スル者カ試驗ノ爲其ノ者...

第三百三十條 舊法ニ依ル使用權ハ第四十八條又ハ第四十九...

第三百三十一條 本法施行前發生シタル特許權ニ關シテハ舊法第...

第三百三十二條 特許力舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ...

第三百三十三條 舊法ニ依ル特許權ノ存續期間ニ付テハ仍舊法ニ...

第三百三十四條 本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ヲ...

第三百三十五條 特許料又ハ追加特許料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ...

實用新案法

(大正十年四月三十日 法律第九十七號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ實用新案法改正法律ヲ裁可シ茲...

第一條 物品ニ關シ形狀、構造又ハ組合ハセニ係ル實用アル新...

第二條 左ニ掲グル實用新案ニ付テハ之ヲ登録セス...

第三條 一 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ...

第四條 本法ニ於テ實用新案ノ新規ト稱スルハ實用新案カ左...

第五條 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キ...

第六條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付テハ最先ノ出願者ニ限...

第七條 特許出願者又ハ意匠登録出願者カ其ノ特許出願...

第八條 登録出願ニ變更シタルキハ其ノ實用新案登録出願ハ特許...

第九條 出願又ハ意匠登録出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做...

第十條 但シ特許出願又ハ意匠登録出願ニ付テハ特許又ハ登録スヘカ...

第十一條 査定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ...

第十二條 受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルキハ此ノ限ニ在ラス...

第十三條 受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルキハ此ノ限ニ在ラス...

第十四條 受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルキハ此ノ限ニ在ラス...

第十五條 受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルキハ此ノ限ニ在ラス...

第十六條 受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルキハ此ノ限ニ在ラス...

第十七條 受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルキハ此ノ限ニ在ラス...

第十八條 受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルキハ此ノ限ニ在ラス...

第十九條 受ケタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルキハ此ノ限ニ在ラス...

團内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登録オキモ特許法第五十二條第一項又ハ意匠法第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セス

第九條 實用新案登録出願ノ日前又ハ之ト同日ノ出願ニ係リ其ノ實用新案權ト抵觸スル特許權又ハ意匠權ノ存續期間満了後ニ於ケル原特許權者又ハ原意匠權者ハ其ノ登録實用新案ニ付原權利ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第十條 實用新案權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第十一條ノ規定ニ依リ正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタルトキハ前項ノ十年ノ期間ハ無効ト爲リタル登録ノ爲サレタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第十一條 實用新案權者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録實用新案ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ經過セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施セラルル者其ノ實施ヲ必要トスル相手方ノ登録實用新案ニ付實施ノ許諾ヲ求メタル場合ニ於テ其ノ相手方カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セサルトキ又ハ其ノ相手方ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 前條ノ規定ニ依リ實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

前項ノ實施權者ハ補償金ノ支拂ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スコトヲ得

トシテ每件左ノ金額ヲ納付スヘシ

一 第一年乃至第三年 毎年 七圓

二 第四年乃至第六年 毎年 十五圓

三 第七年乃至第十年 毎年 二十五圓

第二十一條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査官ラシテ之ヲ審理セシム

第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キ發スル命令ニ規定スルモノノ外左ニ掲グル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十六條ノ規定ニ依リ登録又ハ許可ノ無効

二 實用新案權ノ範圍ノ確定

三 前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依リ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第四項第二號ノ確定ノ審判ハ利害關係人ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 前條第一項第一號ノ無効ノ審判ハ實用新案ノ登録又ハ第十四條ノ許可ノ登録ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ニ規定スル期間ハ第十六條第一項第五號ニ該當ストノ理由ニ依リ無効ノ審判ヲ請求ニ付テハ同號ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス

第二十四條 第十一條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決スヘシ

第二十五條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告ノ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依リ補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 特許法第六條、第十條乃至第三十三條、第三十六條、第四十條、第四十四條、第四十五條、第四十七

能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依リ補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十三條 登録實用新案ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ實用新案權ノ嗣後取得シタル者及其ノ實用新案權ヲ目的トスル嗣後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依リ實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依リ實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付テ之ヲ准用ス

第十四條 實用新案權者ハ登録實用新案ノ範圍又ハ説明書カ不完全ニ作製セラルタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲グル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ範圍又ハ説明書ノ訂正ノ許可ヲ請求スルコトヲ得

一 登録請求範圍ノ減縮

二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部カ登録出願ノ際獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ登録請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得

第十六條 登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條、第六十七條、第六十八條乃至第六十九條、第七十一條乃至第八十三條、第八十六條乃至第一百五條、第一百七條、第一百八條、第一百八十八條乃至第二百二十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シテ之ヲ准用ス

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ販賣シタル者

二 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ノ類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ販賣シタル者

三 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録實用新案ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器、包装ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三 登録實用新案ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器、包装ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

四 登録實用新案ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲メ又ハ販賣若ハ販賣シタル爲メ看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録實用新案ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三、登録カ登録ヲ受ケルノ權利ヲ承認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ

五、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ

第十四條ノ許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

登録又ハ第十四條ノ許可ハ實用新案權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十七條 特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案權及實施權並ニ之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第十八條 登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 登録スヘシトシテ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第二十條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル登録實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録證主ハ登録料

第二十九條 第二十七條第一項ニ掲グル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決官選前被告者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ旨ヲ發シ之ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依リ物品ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十一條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル實用新案登録出願中ノ考案又ハ實用新案ノ登録出願者ノ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ准用ス

第三十三條 辨理士ニ非シテ特許局ニ對シ實用新案ニ關シテ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行ス

實用新案法

實用新案法

實用新案法

實用新案法

能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依リ補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十三條 登録實用新案ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ實用新案權ノ嗣後取得シタル者及其ノ實用新案權ヲ目的トスル嗣後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依リ實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依リ實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付テ之ヲ准用ス

第十四條 實用新案權者ハ登録實用新案ノ範圍又ハ説明書カ不完全ニ作製セラルタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲グル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ範圍又ハ説明書ノ訂正ノ許可ヲ請求スルコトヲ得

一 登録請求範圍ノ減縮

二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部カ登録出願ノ際獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ登録請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得

第十六條 登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條、第六十七條、第六十八條乃至第六十九條、第七十一條乃至第八十三條、第八十六條乃至第一百五條、第一百七條、第一百八條、第一百八十八條乃至第二百二十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シテ之ヲ准用ス

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ販賣シタル者

二 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ノ類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ販賣シタル者

三 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録實用新案ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器、包装ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三 登録實用新案ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器、包装ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

四 登録實用新案ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲メ又ハ販賣若ハ販賣シタル爲メ看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録實用新案ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三、登録カ登録ヲ受ケルノ權利ヲ承認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ

五、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ

第十四條ノ許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

登録又ハ第十四條ノ許可ハ實用新案權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十七條 特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案權及實施權並ニ之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第十八條 登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 登録スヘシトシテ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第二十條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル登録實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録證主ハ登録料

第二十九條 第二十七條第一項ニ掲グル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決官選前被告者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ旨ヲ發シ之ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依リ物品ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十一條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル實用新案登録出願中ノ考案又ハ實用新案ノ登録出願者ノ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ准用ス

第三十三條 辨理士ニ非シテ特許局ニ對シ實用新案ニ關シテ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行ス

實用新案法

實用新案法

實用新案法

實用新案法

能ハサル場合ニ於テハ供託ヲ爲スニ非サレハ其ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得但シ審決又ハ判決ノ確定前ト雖審決又ハ判決ニ依リ補償金ニ相當スル金額ヲ供託シタルトキハ實施スルコトヲ得

第十三條 登録實用新案ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ實用新案權ノ嗣後取得シタル者及其ノ實用新案權ヲ目的トスル嗣後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第七條乃至第九條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第十四條第二項ノ規定ニ依リ實施權ハ其ノ登録ナキ場合ト雖前項ノ效力ヲ有ス

第十一條ノ規定ニ依リ實施權ハ其ノ登録前設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

特許法第四十五條ノ規定ハ實施權ノ移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限又ハ實施權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、消滅若ハ處分ノ制限ニ付テ之ヲ准用ス

第十四條 實用新案權者ハ登録實用新案ノ範圍又ハ説明書カ不完全ニ作製セラルタルコトヲ發見シタルトキハ左ノ各號ノ一ニ掲グル事項ヲ目的トスル場合ニ限リ其ノ範圍又ハ説明書ノ訂正ノ許可ヲ請求スルコトヲ得

一 登録請求範圍ノ減縮

二 誤記ノ訂正

三 不明瞭ナル記載ノ釋明

前項第一號ノ場合ニ於テハ其ノ殘部カ登録出願ノ際獨立シテ新規ノ實用新案ナルコトヲ要ス

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ登録請求範圍ヲ實質上擴張シ又ハ實質上變更スルコトヲ得

第十六條 登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條、第五十九條、第六十四條、第六十五條、第六十七條、第六十八條乃至第六十九條、第七十一條乃至第八十三條、第八十六條乃至第一百五條、第一百七條、第一百八條、第一百八十八條乃至第二百二十八條ノ規定ハ實用新案ニ關シテ之ヲ准用ス

第二十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ販賣シタル者

二 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ノ類似ノ物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ販賣シタル者

三 他人ノ登録實用新案ニ係ル物品ト同一又ハ類似ノ物品ヲ業トシテ輸入又ハ移入シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケ又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録實用新案ニ係ラサル物品又ハ其ノ物品ノ容器、包装ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

三 登録實用新案ニ係ラサル物品ニシテ其ノ物品又ハ其ノ物品ノ容器、包装ノ類ニ實用新案登録標記ヲ附シ又ハ實用新案登録標記ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

四 登録實用新案ニ係ラサル物品ヲ製作若ハ使用セシムル爲メ又ハ販賣若ハ販賣シタル爲メ看板、引札ノ類ニ其ノ物品カ登録實用新案ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

二、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三、登録カ登録ヲ受ケルノ權利ヲ承認シタル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ

五、登録カ第二十六條ノ規定ニ依リ准用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ

第十四條ノ許可カ同條第二項又ハ前條ノ規定ニ違反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

登録又ハ第十四條ノ許可ハ實用新案權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十七條 特許局ニ實用新案原簿ヲ備ヘ實用新案權及實施權並ニ之ヲ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第十八條 登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 登録スヘシトシテ査定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス第十四條ノ許可ノ審決確定シ又ハ判決アリタルトキ亦同シ

第二十條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ但シ軍事上秘密ヲ要スル登録實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録證主ハ登録料

第二十九條 第二十七條第一項ニ掲グル行爲ヲ組成シタル物又ハ其ノ行爲ヨリ生シタル物ニシテ刑法第十九條ノ規定ニ依リ沒收スルコトヲ得ヘキモノニ付判決官選前被告者ノ請求アリタルトキハ其ノ物ヲ沒收シ之ヲ被害者ニ交付スルノ旨ヲ發シ之ヲ爲スヘシ

被害者ハ前項ノ規定ニ依リ物品ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ物ノ價額ヲ超過スル損害ノ額ニ限リ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十一條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務上知得タル實用新案登録出願中ノ考案又ハ實用新案ノ登録出願者ノ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡サザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ准用ス

第三十三條 辨理士ニ非シテ特許局ニ對シ實用新案ニ關シテ爲スヘキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行ス

實用新案法

實用新案法

實用新案法

實用新案法

第三十五條 舊法ニ依ル實用新案ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

第三十六條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル實用新案登録ノ出願ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第三十七條 本法施行前發生シタル實用新案權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ準用シ第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第三十八條 實用新案ノ登録カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ準用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第八條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第三十九條 舊法ニ依ル實用新案ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲ケタル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第四十條 前條ノ規定ニ依リ無効ノ審判ハ本法施行前爲サレタル實用新案ノ登録ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ三年ヲ経過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ズ

●意匠法

(大正十年四月三十日 法律第九十八號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル意匠法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 物品ニ關シテ形狀、模様若ハ色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ノ工業的考察ヲ爲シタル者ハ其ノ物品ノ意匠ニ付意匠ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 左ニ掲ケル意匠ニ付テハ之ヲ登録セズ 一 菊花御紋若クハ同一又ハ類似ノ形狀又ハ模様ヲ有スルモノ 二 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ 三 世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

第三條 本法ニ於テ意匠ノ新規ト稱スルハ意匠カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス 一 登録出願前帝國内ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用キラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ 二 登録出願前帝國内ニ頒布セラレタル刊行物品ニ容易ニ實施スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

第四條 同一又ハ類似ノ意匠ニ付テハ最先ノ出願者ニ限リ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議ハサルトキハ共ニ登録セズ

第五條 意匠登録出願者ハ命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ意匠ヲ現スヘキ物品ヲ指定スヘシ

第六條 意匠登録出願者ハ登録ノ日ヨリ三年以内其ノ意匠ヲ秘密ニセムコトヲ請求スルコトヲ得

第七條 實用新案登録出願者カ其ノ實用新案登録出願ヲ其ノ出願ニ係ル意匠ニ付テノ意匠登録出願ニ變更シタルトキハ其ノ意匠登録出願ハ實用新案登録出願ノ時ニ於テ之ヲ爲シタルモノト看做ス但シ實用新案登録出願ニ付登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ最初ノ査定ヲ送達ラ受ケタル日ヨリ三十日ヲ経過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 意匠權ハ登録ニ依リ發生ス 意匠權者ハ其ノ登録意匠ニ係ル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス 自己ノ登録意匠ニ類似スル意匠ノ意匠權ハ最先ニ發生シタル意匠權ト合體スルモノトス

第九條 意匠權カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル實用新案權若ハ商標權ト抵觸スル場合又ハ登録意匠カ其ノ出願ノ日前ノ出願ニ係ル登録實用新案ヲ利用スルモノナル場合ニ於テハ意匠權者ハ實用新案權者ノ實施許諾又ハ商標權者ノ許諾アルニ非サレハ其ノ登録意匠ヲ實施スルコトヲ得ズ

第十條 意匠登録出願ノ際現ニ善意帝國内ニ於テ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ意匠實施ノ事業ヲ爲シ又ハ事業設備ヲ有スル者ハ其ノ意匠實施ニ付事業ノ目的タル意匠範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス

第十一條 同一又ハ類似ノ意匠ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠權者

第十二條 登録ノ無効トシ同一又ハ類似ノ意匠ニ付正當權利者ノ爲ニ登録ヲ爲シタル場合ニ於ケル登録ヲ受ケタル原意匠權者

三 前二號ニ掲ケル場合ニ於テ其ノ無効ト爲リタル意匠權ニ付實施權ヲ得テ其ノ登録ヲ受ケタル者但シ實施權カ登録ナキモ第十五條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十一條 意匠登録出願ノ日前又ハ之ノ同日ノ出願ニ係リ其ノ意匠權ト抵觸スル實用新案權ノ存続期間満了シタル場合ニ於テ其ノ實用新案權ニ付實施權ヲ得テ登録ヲ受ケタル者ハ其ノ登録意匠ニ付原實施權ノ範圍内ニ於テ實施權ヲ有ス但シ原實施權カ登録ナキモ實用新案法第十三條第一項ノ效力ヲ有スル場合ハ登録アルヲ要セズ

第十二條 意匠權ノ存続期間ハ登録ノ日ヨリ十年ヲ以テ終了ス

第十三條 意匠權者ハ他人ノ登録實用新案又ハ登録意匠ヲ實施スルニ非サレハ自己ノ登録意匠ヲ實施スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ他人カ正當ノ理由ナクシテ實施ヲ許諾セザルトキ又ハ其ノ他人ノ實施許諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ實施セラルヘキ實用新案又ハ意匠ノ實用新案權又ハ意匠權發生ノ日ヨリ二年ヲ経過セザルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 前條ノ規定ニ依ル實施權者ハ實用新案權者又ハ意匠權者ニ對シ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

第十五條 登録意匠ノ實施權ハ之ヲ登録シタルトキハ其ノ意匠權ヲ嗣後取得シタル者及其ノ意匠權ヲ目的トスル嗣後設定ノ質權ヲ有スル者ニ對シテモ其ノ效力ヲ生ス

第十六條 意匠權ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル物品ニ依リ之ヲ分割シテ移轉スルコトヲ得

第十七條 登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ 一 登録カ第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ 二 登録カ第二十五條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

第十八條 特許局ニ意匠原簿ヲ備ヘ意匠權及實施權者ノ目的トスル質權ノ設定、保存、移轉、變更、消滅、處分ノ制限其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第十九條 登録スヘシトノ査定若ハ審判確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ意匠原簿ニ登録シ意匠登録證ヲ下付ス

第二十條 意匠ノ登録ヲ受ケル者又ハ登録證主ハ登録料トシテ毎件左ノ金額ヲ納付スヘシ 一 第一年乃至第三年 毎年 三圓 二 第四年乃至第十年 毎年 五圓

第二十一條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第二十二條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第二十三條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第二十四條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第二十五條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第二十六條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第二十七條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第二十八條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第二十九條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第三十條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

第三十一條 意匠登録ノ出願アリタルトキハ審判官ラシテ之ヲ審

意匠法

查セシム

第二十二條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キ發シタル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲ケル事項ニ付テハ請求スルコトヲ得

一 第十七條ノ規定ニ依リ登録ノ無効

二 意匠權ノ範圍ノ確定

前項第一號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十七條第一項第三號ニ該當ストノ理由ニ依リ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第二號ノ確定ノ審判ハ利害關係人ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 第十三條ノ審判ニ於テハ補償金額ニ付テモ亦之ヲ審決ス

第二十四條 査定又ハ審判ノ審決ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ査定又ハ審決ヲ送達シテ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ抗告ヲ審判ヲ請求スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依リ補償金額ノ審決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 特許法第六條ノ第十條乃至第十四條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第三十六條、第四十四條、第四十五條、第四十七條、第四十八條、第五十一條、第五十五條、第五十六條、第五十八條第一項、第五十九條、第六十四條、第六十五條第六項第七項、第六十六條第一項、第六十七條乃至第六十九條、第七十一條、第七十二條、第七十七條、第七十八條、第八十六條乃至第九十五條、第九十七條、第九十八條、第九十九條、第一百零二條、第一百零三條第一項及第一百零四條乃至第一百零八條ノ規定ハ意匠ニ關シテ之ヲ適用ス

第二十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

法律ニ依リ宣誓シタル証人若ハ鑑定人又ハ通事

第二十九條 法律ニ依リ宣誓シタル証人若ハ鑑定人又ハ通事

特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シテ偽

ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十條 特許局職員又ハ其ノ職ニ在リタル者故ナク其ノ職務

上知得タル意匠登録出願中ノ考案又ハ意匠登録出願者ノ事業上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 特許局ヨリ証人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第三十二條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テテ之ヲ適用ス

第三十三條 辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シテ意匠ニ關シテハキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行ス)

第三十四條 舊法ニ依リ意匠ノ登録、處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ意匠ニ關シテ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付亦前項ニ同シ

第三十五條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル意匠登録ノ出願ノ處理ニ付テハ舊法ニ依リ

本法施行前送達ヲ受ケタル審決ニ對シテ不服申立ノ期間ニ

商標法

(大正十年四月三十日) 法律第九十九號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾商標法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲メ商標ヲ專用セムトスル者ハ商標ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

登録ヲ受ケルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受ケルコトヲ得

第二章 左ニ掲ケル商標ニ付テハ之ヲ登録セズ

一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章又ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ

三 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「J」ニネヴ

「A」トシテ記號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

四 秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

五 他人ノ肖像、氏名名稱又ハ商號ヲ有スルモノ但シ其ノ他人ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 同一又ハ類似ノ商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ

七 政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ外國ニ於ケル官設若ハ官許ノ博覽會ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ其ノ圖形ヲ使用セムトスルモノハ此ノ限ニ在ラス

八 取引者又ハ需要者ノ間ニ廣ク認識セラルル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

九 他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ

十 登録失効ノ日ヨリ一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ニシテ同一又ハ類似ノ商品ニ使用スルモノ但シ其ノ他人ノ商標カ登録失効前一年以上使用セザルモノナル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

十一 商品ノ誤認又ハ混淆ヲ生セシムルノ虞アルモノ

商標ノ要部ト認メラルル處アル部分カ分離シテ前條第二項ニ規定スル特別顯著ノ要件ヲ具備セザル爲メ又前項第六號ニ該當スル爲メ登録ヲ受ケルコトヲ得サルモノナル場合ト雖出願人カ其ノ部分自體ニ付權利ヲ要求セザル旨ヲ申出ラタルトキハ其ノ商標ヲ登録ス

第三章 同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ種類似スルモノ又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ同一ノモノ若ハ相類似スルモノハ聯合ノ商標トシテ出願シタル場合ニ限リテ之ヲ登録ス

第四章 同一又ハ類似ノ商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ノ登録出願カ競合スルトキハ最先ノ出願者ニ限リテ登録ス但シ同日ノ各別ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登録シ協議ハサルトキハ共ニ登録セズ

政府ノ開設シ、道府縣若ハ之ニ準スヘキモノノ開設シ若ハ政府ノ認可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ工業所有權保護同盟條約國ノ版圖内ニ開設スル官設若ハ官許ノ博覽會ヨリ六月

以内ニ其ノ商標ノ使用者カ其ノ商標ノ登録ヲ出願シタルトキハ其ノ開會ノ日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

前項ノ規定ハ命令ヲ以テ前項ニ規定スル出品ニ付豫メ届出

付テハ仍舊法ニ依リ

第三十六條 本法施行前發生シタル意匠權ニ關シテハ舊特許法第二十九條第二號ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同號ノ規定ヲ適用シ第九條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第三十七條 意匠ノ登録カ舊法施行中無効ト爲リタル場合ニ付テハ舊法第十條ノ規定及同條ノ規定ニ基キ專用スル舊特許法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

第三十八條 本法施行前既ニ納メタル又ハ納付スヘキ期限ノ經過シタル意匠料ニ付テハ仍舊法ニ依リ

第三十九條 意匠料ノ納付ヲ怠リタル場合ニ於テ本法施行ノ際未タ其ノ意匠登録ノ取消ナキモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ六月間ヲ限リ意匠料ヲ追納スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ舊法ニ依リ意匠料ノ二倍ニ相當スル金額ヲ意匠料トシテ納付ス

前項ニ規定スル追納期間内ニ意匠料ヲ追納セザルトキハ本法施行ノ時ニ適リ意匠權ハ消滅シタルモノト看做ス

第四十條 舊法ニ依リ意匠ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十二條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リテ之ヲ無効ト爲ス

ツヘキコトヲ規定シタル場合ニ於テ其ノ届出ヲ怠リタル者ニ付之ヲ適用セズ

第二項ニ掲ケル萬國博覽會ヲ除クノ外外國ノ版圖内ニ開設スル官設又ハ官許ノ博覽會ニ出品スル商品ニ使用スル商標ニ付保護ヲ與フルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 商標登録出願者ハ勅令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第六條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第七條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第八條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第九條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十一條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十二條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十三條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十四條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十五條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十六條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十七條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十八條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十九條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十一條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十二條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十三條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十四條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十五條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十六條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十七條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十八條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十九條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十一條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十二條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十三條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十四條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十五條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十六條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十七條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十八條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十九條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十一條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十二條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十三條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十四條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十五條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十六條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十七條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十八條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十九條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十條 商標登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第九條 他人ノ登録商標ノ登録出願前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ必要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ標章ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ他人ノ商標ノ登録ニ拘ラス其ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業又ハ業務ト共ニ其ノ標章ノ使用ヲ繼續スル者亦同シ

第十條 前項ノ場合ニ於テ商標權者ハ標章使用者ニ對シ商品ノ混同ヲ防クニ適當ナル表示ヲ附スヘキコトヲ請求スルコトヲ得

第十一條 商標權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ二十年ヲ以テ終了ス

第十二條 前條ノ存續期間ハ更新登録ノ出願ニ依リテ更新スルコトヲ得但シ其ノ更新登録ノ出願ニ係ル商標カ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號又ハ第十一號ニ該當スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十四條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十五條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十六條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十七條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十八條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第十九條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十一條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十二條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十三條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十四條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十五條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十六條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十七條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十八條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第二十九條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十一條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十二條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十三條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十四條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十五條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十六條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十七條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十八條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第三十九條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十一條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十二條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十三條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十四條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十五條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十六條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十七條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十八條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第四十九條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

第五十條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リテ之ヲ移轉スルコトヲ得

聯合ノ商標中其ノ一ヲ使用シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外移轉アリタル日ヨリ一年以内ニ商標權者ノ登録ヲ申請セザルコトヲ得

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ニ付テハ前項第一號ノ規定ヲ適用セズ

第十五條 商標權者故意ニ其ノ登録商標ニ商品ノ混同又ハ混同ヲ生セシムル虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキハ審判ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ取消サレタル者ハ取消ノ審判確定シ又ハ判決アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

第十六條 商標ノ登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リテ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第一條乃至第四條又ハ前條第二項ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ適用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

三 登録カ商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ノ承継人ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

四 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ適用スル特許法第三十三條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スル條約若ハ之ニ準ズヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ準ズヘキモノナルトキ

五 登録カ第二十四條ノ規定ニ依リ適用スル特許法第三十二條ノ規定ニ違反スルニ至リタルトキ又ハ特許法第三十三條ノ規定ニ違反スル條約若ハ之ニ準ズヘキモノニ違反スルニ至リタル場合ニ於テ其ノ違反カ第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ準ズヘキモノナルトキ

商標權存續期間更新ノ登録カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ審判ニ依リテ之ヲ無効ト爲スヘシ

一 登録カ第十一條但書ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二 登録カ商標權者ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

三 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ハ商標權消滅後ト雖前二項ノ規定ニ依リテ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十七條 特許局ニ商標原簿ヲ備ヘ商標權ノ設定、移轉、變更、消滅其ノ他法令ニ定ムル事項ヲ登録ス

第十八條 登録ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 登録スヘシトノ命定若ハ審決確定シ又ハ判決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登録ス

第二十條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ本法ニ規定スル事項其ノ他登録商標ニ關スル必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

第二十一條 商標ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル時登録料トシテ毎件一時三十圓ヲ納付スヘシ

第二十二條 商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル時登録料トシテ毎件一時五十圓ヲ納付スヘシ

第二十三條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ審査セシム

第二十四條 審判ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル勅令ニ規定スルモノノ外左ニ掲ケル事項ニ付テハ請求スルコトヲ得

一 第十四條、第十五條又ハ第三十一條ノ規定ニ依リ商標ノ登録ノ取消

二 第十六條ノ規定ニ依リ商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ノ無効

三 商標權ノ範圍ノ確定

前項第一號ノ取消ノ審判又ハ第二號ノ無効ノ審判ハ利害關係人及審査官ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ第二條第一項第五號第八號乃至第十號、第三條若ハ

第四條ノ規定ニ違反シ又ハ第十六條第一項第三號若ハ第二項第二號ニ該當ストノ理由ニ依リ無効ノ審判ヲ請求スルコトヲ得

第一項第三號ノ確認ノ審判ハ利害關係人ニ限リテ之ヲ請求スルコトヲ得

第二十三條 前條第一項第二號ノ無効ノ審判ハ登録ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得但シ第二條第一項第一號乃至第四號第六號第七號第十一號、第十一條但書、第十五條第二項又ハ第二十四條ノ規定ニ依リ適用スル特許法第三十二條又ハ第三十三條ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 特許法第十三條、第十六條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第四十五條、第五十八條、第七十三條第一項第二項第四項、第七十四條乃至第七十七條、第八十條乃至第八十三條、第八十六條乃至第九十七條、第九十九條乃至第一百零五條、第一百零七條乃至第一百二十四條及第一百二十八條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ適用ス但シ第七十三條第一項第二項第四項及第七十四條乃至第七十七條ノ規定ハ商標權存續期間更新ノ登録出願ニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十五條 登録無効ノ審決確定シ又ハ判決アリタル後ニシテ再審請求ノ登録前ヨリ同一又ハ類似ノ商品ニ付取引者又ハ必要者ノ間ニ廣ク認識セラレタル同一又ハ類似ノ商標ノ登録ヲ善意ニ使用スル者ハ其ノ登録商標カ再審ニ依リ登録ヲ回復シタル商標ニ抵觸スル爲メ第二條第一項第九號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依リ登録ヲ無効トセラレタル場合ニ於テモ其ノ商標ノ使用ヲ繼續スルコトヲ得營業ト共ニ其ノ商標ノ使用ヲ繼續スル者亦同シ

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第二十六條 營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ノ標章ヲ專用セムトスル者ハ標章ノ登録ヲ受ケルコトヲ得

前項ノ標章ハ之ヲ商標トシテ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十七條 同業者及密接ノ關係ヲ有スル營業者ノ設立シタル法人ニシテ團體員ノ營業上ノ共同ノ利益ヲ增進スルヲ目的トスルモノハ其ノ團體員ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ標章ヲ專用セシムル爲メ其ノ標章ニ付團體標章ノ登録ヲ受ケルコトヲ得團體標章ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外之ヲ商標トシテ本法中商標ニ關スル規定ヲ之ニ適用ス

第二十八條 前條ノ規定ニ依リ團體標章ノ登録ヲ受ケムトスル法人ハ其ノ定款ニ於テ其ノ團體標章ノ使用ニ關スル事項ヲ定メ特許局長官ノ認可ヲ受ケヘシ其ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第二十九條 團體標章權ノ侵害ニ因リ損害賠償請求權ハ團體員ニ生シタル損害ヲ包含ス

第三十條 第二十七條ノ法人ノ合併又ハ分割ノ場合ニ於テ一ノ法人カ他ノ法人ニ團體標章ノ登録出願ヨリ生シタル權利又ハ團體標章權ヲ移轉セムトスルトキハ特許局長官ノ認可ヲ受ケヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ適用ス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ審判ニ依リ團體標章ノ登録ヲ取消スヘシ

一 法人カ團體員ヲシテ第二十八條又ハ前條ノ規定ニ依リ特許局長官ノ認可ヲ受ケタル定款ノ規定ニ違反シテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ其ノ使用ヲ放任シタルトキ

二 法人カ團體員ニ非サル者ヲシテ團體標章ヲ使用セシメ又ハ團體員ニ非サル者ノ使用ヲ放任シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ團體標章ノ登録ヲ取消サレタル法人ハ取消アリタル日ヨリ五年間同一又ハ類似ノ商品ニ付同一又ハ

類似ノ商標ヲ登録受ケルコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第十六條及第二十二條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 團體標章ノ登録受ケル者ハ其ノ登録受ケル時登録料トシテ每件一時二百圓ヲ納付ス

團體標章權存續期間更新ノ登録受ケル者ハ其ノ登録受ケル時登録料トシテ每件一時二百五十圓ヲ納付ス

第二十三條 前六條ノ規定ハ公法人カ其ノ地域内ニ於ケル營業者ヲシテ其ノ營業ニ係ル商品ニ專用セシムル爲メ團體標章ノ登録受ケトスル場合ニテ之ヲ適用ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

二 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付シ若ハ販賣シ又ハ其ノ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ偽造又ハ模造シタル者

四 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ使用シタル同一若ハ類似ノ商品ヲ交付、販賣ノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

五 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同一若ハ類似ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ輸入又ハ移入シタル者

六 他人ノ登録商標ヲ偽造若ハ模造スルノ目的又ハ偽造若ハ模造セシムルノ目的ヲ以テ其ノ用具ヲ製作、交付、販賣又ハ所持スル者

七 同一若ハ類似ノ商品ニ關シ他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノモノヲ營業ニ用ケル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ行爲ヲ以テ商標若ハ商標權存續期間更新ノ登録受ケケル者又ハ審決若ハ判決ヲ受ケタル者

二 登録受ケタル商標ニシテ商標登録簿ニ附シ若ハ商標登録簿ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付シ、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

三 登録受ケタル商標ニシテ商標登録簿ニ附シ若ハ商標登録簿ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタルモノヲ營業ニ用ケル廣告、看板、引札、物價表ノ類又ハ取引書類ニ使用シタル者

第二十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十七條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付テ之ヲ適用ス

第二十八條 辨理士ニ非スシテ特許局ニ對シ商標ニ關シ爲スキ事項ノ代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十年勅令第四百五十九號ヲ以テ同十一年一月十一日ヨリ施行ス)

第四十條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録處分及手續ハ本附則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リ商標ニ關シ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續ニ付テ亦前項ニ同シ

第四十一條 本法施行ノ際現ニ繫屬スル商標若ハ商標權存續期間更新ノ登録出願又ハ商標登録ノ取消ニ關スル事項ノ處理ニ付テハ仍舊法ニ依ル

本法施行前送達ヲ受ケル審決ニ對スル不服申立ノ期間ニ付テハ仍舊法ニ依ル

第四十二條 舊法ニ依ル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ニ關シテハ本法施行後ニ登録カ爲サレタル場合ト雖舊法第十一條ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同條ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同條ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ登録カ同條ノ規定ニ該當スル場合ニ限リ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ此ノ場合ニ於テ舊法附則第二項ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有シ同項ノ規定ノ適用ノ範圍内ニ於テ同項ニ掲ケル舊法ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第四十三條 登録カ舊法第一條又ハ第二條第五號ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無効ノ審判ハ本法施行前爲サレタル商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ニ關シテハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

登録カ舊法第二條第八號第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル前條ノ無効ノ審判ハ商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録カ商標公報ニ掲載セラレタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

附則

第四十四條 本法施行前舊法第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ本法施行後ト雖告訴アルニ非サレハ其ノ罪ヲ論セス

●度量衡法

(明治四十二年三月八日)

改正、大八一法五〇、大一〇一法七一

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル度量衡法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

度量衡法

第一條 度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

メートルハ融解シツアル純粋ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際

メートル原器ノ示ス所ノ長トス

キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス大正十年

法律第七十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二條 メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタ

ルメートル原器ニ依リ、キログラムハメートル條約ニ依

リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

(同上本條ヲ改正)

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

ミクロン

ミリメートル

センチメートル

メートル

キロメートル

面積

平方ミリメートル

平方センチメートル

平方メートル

平方デシメートル

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方キロメートル

立方センチメートル

立方デシメートル

立方メートル

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

第七條 度量衡器ノ製作、輸入、移入又ハ修繕シタル者ハ命

令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外其ノ檢定ヲ受クヘシ

檢定ニ合格シタル度量衡器ニハ檢定證明ヲ附ス

檢定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ勅令ヲ以テ定ムル

場合ヲ除ク外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲メノ所持スルコトヲ

得ス(大正八年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 檢定證明ナキモノ

二 修繕ヲ爲シタル後其ノ檢定ヲ受ケス又ハ檢定ニ合格

セザルモノ

三 變造シタルモノ

四 勅令ノ定ムル公差以上ノ差狂ヲ生シタルモノ

五 命令ノ定ムル構造ヲ具備セザルモノ

第八條ノ二 度量衡器ニ非サルモノ及前條各號ノ一ニ該當スル

度量衡器ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外取引上又ハ證

明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ之ヲ使用シ又ハ使用ニ供スル

爲メノ所持スルコトヲ得ス(同上本條ヲ改正)

第九條 度量衡ニ依リ正味量ノ表記アル商品ニシテ其ノ表

記正味量ヲ賣量ヲ超過スルモノハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除

ク外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲メノ所持スルコトヲ得ス

商品ノ度量衡ニ依リ賣目ノ表記アル正味量ノ表記ニ非サルコ

ト明ナル場合ヲ除ク外之ヲ度量衡ニ依リ正味量ノ表記ト

看做ス(同上本條ヲ改正)

第十條 度量衡器ノ製作、修繕、取締及其ノ使用ノ制限並

度量衡ノ計量ノ取締ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上本

條ヲ改正)

第十一條 當該官吏度量衡器ノ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締

ノ爲メ必要アリト認ムルトキハ店舖、工場其ノ他ノ場所ニ應檢

スルコトヲ得(大正八年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十二條 當該官吏ハ第八條第二號乃至第五號ニ該當スル

度量衡器ノ證明ヲ除去シ若ハ消印ヲ附シ又ハ其ノ度量衡

器ヲ破毀シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 當該官吏ハ度量衡ニ依リ正味量ノ表記アル商

品ニシテ其ノ表記正味量賣量ヲ超過スルモノノ表記ヲ更正

シ又ハ消去シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得(大正

八年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

●度量衡法

(明治四十二年三月八日)

改正、大八一法五〇、大一〇一法七一

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル度量衡法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

度量衡法

第一條 度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

メートルハ融解シツアル純粋ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際

メートル原器ノ示ス所ノ長トス

キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス大正十年

法律第七十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二條 メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタ

ルメートル原器ニ依リ、キログラムハメートル條約ニ依

リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

(同上本條ヲ改正)

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

ミクロン

ミリメートル

センチメートル

メートル

キロメートル

面積

平方ミリメートル

平方センチメートル

平方メートル

平方デシメートル

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方キロメートル

立方センチメートル

立方デシメートル

立方メートル

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

第七條 度量衡器ノ製作、輸入、移入又ハ修繕シタル者ハ命

令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外其ノ檢定ヲ受クヘシ

檢定ニ合格シタル度量衡器ニハ檢定證明ヲ附ス

檢定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ勅令ヲ以テ定ムル

場合ヲ除ク外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲メノ所持スルコトヲ

得ス(大正八年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 檢定證明ナキモノ

二 修繕ヲ爲シタル後其ノ檢定ヲ受ケス又ハ檢定ニ合格

セザルモノ

三 變造シタルモノ

四 勅令ノ定ムル公差以上ノ差狂ヲ生シタルモノ

五 命令ノ定ムル構造ヲ具備セザルモノ

第八條ノ二 度量衡器ニ非サルモノ及前條各號ノ一ニ該當スル

度量衡器ハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除ク外取引上又ハ證

明上ニ於ケル度量衡ノ計量ニ之ヲ使用シ又ハ使用ニ供スル

爲メノ所持スルコトヲ得ス(同上本條ヲ改正)

第九條 度量衡ニ依リ正味量ノ表記アル商品ニシテ其ノ表

記正味量ヲ賣量ヲ超過スルモノハ勅令ヲ以テ定ムル場合ヲ除

ク外之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ爲メノ所持スルコトヲ得ス

商品ノ度量衡ニ依リ賣目ノ表記アル正味量ノ表記ニ非サルコ

ト明ナル場合ヲ除ク外之ヲ度量衡ニ依リ正味量ノ表記ト

看做ス(同上本條ヲ改正)

第十條 度量衡器ノ製作、修繕、取締及其ノ使用ノ制限並

度量衡ノ計量ノ取締ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(同上本

條ヲ改正)

第十一條 當該官吏度量衡器ノ取締又ハ度量衡ノ計量ノ取締

ノ爲メ必要アリト認ムルトキハ店舖、工場其ノ他ノ場所ニ應檢

スルコトヲ得(大正八年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十二條 當該官吏ハ第八條第二號乃至第五號ニ該當スル

度量衡器ノ證明ヲ除去シ若ハ消印ヲ附シ又ハ其ノ度量衡

器ヲ破毀シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 當該官吏ハ度量衡ニ依リ正味量ノ表記アル商

品ニシテ其ノ表記正味量賣量ヲ超過スルモノノ表記ヲ更正

シ又ハ消去シ其ノ他取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得(大正

八年法律第五十號ヲ以テ本條ヲ改正)

●度量衡法

(明治四十二年三月八日)

改正、大八一法五〇、大一〇一法七一

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル度量衡法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

度量衡法

第一條 度量ハメートル、衡ハキログラムヲ以テ基本トス

メートルハ融解シツアル純粋ノ水ノ氷ノ溫度ニ於ケル國際

メートル原器ノ示ス所ノ長トス

キログラムハ國際キログラム原器ノ質量トス大正十年

法律第七十一號ヲ以テ本條ヲ改正ス

第二條 メートルハメートル條約ニ依リ帝國ニ交付セラレタ

ルメートル原器ニ依リ、キログラムハメートル條約ニ依

リ帝國ニ交付セラレタルキログラム原器ニ依リ之ヲ現示ス

(同上本條ヲ改正)

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ

度

ミクロン

ミリメートル

センチメートル

メートル

キロメートル

面積

平方ミリメートル

平方センチメートル

平方メートル

平方デシメートル

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方メートルノ百分ノ一

平方キロメートル

立方センチメートル

立方デシメートル

立方メートル

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

立方メートルノ百分ノ一

●出版法

(明治二十六年四月十四日) 法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

出版法

第一條 凡ソ機械舎密其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス文書圖書ヲ印刷シテ之ヲ發賣シ又ハ頒布スルヲ出版ト云ヒ其ノ文書ヲ著述シ又ハ編纂シ若ハ圖書ヲ作爲スル者ヲ著作者ト云ヒ發賣頒布ヲ擔當スル者ヲ發行者ト云ヒ印刷ヲ擔當スル者ヲ印刷者ト云フ

ル者ニ限ル但シ著作者又ハ其ノ相續者ハ發行者ヲ兼スルコトヲ得

第七條 文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所及發行ノ年月日ヲ其ノ文書圖書ノ末尾ニ記載スヘシ

●豫約出版法

(明治四十三年四月十六日) 法律第十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ豫約出版法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

豫約出版法

第一條 代金ノ全部又ハ一部ヲ前收シ文書圖書ノ頒布ヲ豫約スル出版ニ對シテハ出版法ニ依リテ外尚本法ヲ適用ス

豫約出版法

第二十一條 軍事ノ機密ニ關スル文書圖書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ出版スルコトヲ得ス

コトヲ得

第二十九條 第二十六條第二十七條第二十八條ノ場合ニ於テ刻版及印本ハ檢査ニ於テ假ニ之ヲ差押フルコトヲ得

第五條 發行所、發行者ノ法定代理人、發行者法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ニ變更アリ又ハ發行者能力ヲ失ヒ、死亡シ若ハ解散シ又ハ死亡シ若ハ解散ニ因リ法律上豫約出版ヲ廢絶スルノ已ムヲ得サルニ至リタルトキハ十日以内ニ内務大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出ハ書面ヲ以テシ發行者又ハ其ノ法定代理人、其ノ死亡ニ係ルトキハ相續人、相續人定マラス又ハ相續人ナキトキハ主若ハ同居ノ親族、法人ノ合併ニ因ル解散ニ係ルトキハ其ノ法人ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人、破産ニ因ル解散ニ係ルトキハ破産管財人ヨリ管轄地方官廳ニ之ヲ差出スヘシ

第六條 法律上已ムヲ得サルニ非サル豫約出版ノ廢絶又ハ第八條第一項第一號乃至第五號ノ事項ノ變更及死亡若ハ解散ニ因ラサル發行者ノ變更ハ新舊發行者又ハ其ノ法定代理人ヨリ其ノ事由ヲ具シタル書面ヲ以テ豫約管轄地方官廳ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ハ豫約管轄者ノ解除權行使ヲ妨ケララルコトナシ

第七條 相續人又ハ法人ノ合併ニ因リ其ノ權利及義務ヲ承繼シタル法人ハ豫約出版ニ關スル權利及義務ヲ承繼ス

第八條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行者變更ノ場合ニ於テ承繼發行者ノ之ヲ承繼ス

第九條 保證金ハ適法ニ豫約出版ヲ廢絶シ又ハ完全ニ豫約出版履行シタル後ニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ適用スル法令ヲ適用シ又ハ豫約解除若ハ豫約不履行ニ因リ代金返還若ハ損害賠償ヲ命スル判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 罰金又ハ刑事訴訟費用ヲ完納セザルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

第十條 發行者又ハ其ノ法定代理人ハ保證金ノ關額ヲ生シテ

ル場合ニ於テ之ヲ填補スヘシ

第十一條 第二條、第四條ノ規定ニ依ラスシテ豫約手續ニ著手シ又ハ第六條若ハ第九條ニ違反シ又ハ管轄地方官廳ノ督促ヲ受ケタル後七日以内ニ保證金ヲ填補セザル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本法ハ新聞紙、出版法第二條但書ニ依ル雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖書ニ之ヲ適用セス

第十四條 明治三十三年法律第五十二號ハ前條ノ犯罪ニ之ヲ適用ス

第十五條 本法ハ新聞紙、出版法第二條但書ニ依ル雜誌及官廳ニ於テ出版スル文書圖書ニ之ヲ適用セス

新聞紙法

(明治四十二年五月六日) (法律第四十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル新聞紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

新聞紙法

第一條 本法ニ於テ新聞紙ト稱スルハ一定ノ題號ヲ用キ時期ヲ定メ又ハ六箇月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メシテ發行スル著作物及定期以外ニ本著作物ト同一題號ヲ用キテ臨時發行スル著作物ヲ謂フ

同一題號ノ新聞紙ヲ他ノ地方ニ於テ發行スルトキハ各別種ノ新聞紙ト看做ス

第二條 左ニ掲グル者ハ新聞紙ノ發行人又ハ編輯人タルコトヲ得ス

一 本法ヲ施行スル帝國領土内ニ居住セザル者

二 陸海軍軍人ニシテ現役若ハ召集中ノ者

三 未成年者、禁治重者及進禁治重者

四 懲役又ハ禁錮ノ刑ノ執行中又ハ執行猶豫中ノ者

第三條 印刷所ハ本法ヲ施行スル帝國領土外ニ之ヲ設クルコトヲ得ス

第四條 新聞紙ノ發行人ハ左ノ事項ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ

一 題號

二 掲載事項ノ種類

三 時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無

四 發行ノ時期、若時期ヲ定メザルトキハ其ノ旨

五 第一回發行ノ年月日

六 發行所及印刷所

七 持主ノ氏名、若法人ナルトキハ其ノ名稱及代表者ノ氏名

八 發行人、編輯人及印刷人ノ氏名年齢但シ編輯人二人以上アルトキハ其ノ主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ノ氏名年齢

前項ノ届出ハ持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署シタル書面ヲ以テ第一回發行ノ日ヨリ十日以前ニ管轄地方官廳ニ差出スヘシ

第五條 前條第一項第一號乃至第三號ノ事項ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ第四號若ハ第六號ノ事項又ハ持主、編輯人、印刷人ノ變更ハ變更前又ハ變更後七日以内ニ前條ノ手續ニ依リ發行人ヨリ之ヲ内務大臣ニ届出ツヘシ但シ持主變更ノ届出ニハ死亡ニ因ル場合ノ外新舊持主又ハ其ノ法定代理人ノ連署ヲ要ス

第六條 死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル發行人ノ權利及義務ヲ承繼シタル發行人ハ其ノ發行人ト爲リタル日ヨリ七日以内ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ノ外發行人ノ變更ハ變更ノ日ヨリ十日以前ニ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 新聞紙ハ届出ラ爲シタル發行時期又ハ發行休止ノ日ヨリ起算シテ百日間、三回發行ノ期間ヲ通シテ百日ヲ超スル新聞紙ニ在リテハ三回發行ノ期間中ニ之ヲ發行セザルトキハ其ノ發行ヲ廢止シタルモノト看做ス

第八條 發行人若ハ編輯人ノ死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リ後任ノ發行人若ハ編輯人ヲ定メザル間又ハ發行人若ハ編輯人一箇月以上本法ヲ施行スル帝國領土外ニ旅行スル場合ニ於テハ假發行人若ハ假編輯人ヲ設クルニ非サレハ新聞紙ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

發行人及編輯人ニ關スル本法ノ規定ハ假發行人及假編輯人ニ之ヲ適用ス

第九條 編輯人ノ責任ニ關スル本法ノ規定ハ左ニ掲グル者ニ之ヲ適用ス

一 編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者

二 掲載ノ事項ニ署名シタル者

三 正誤書、辯駁書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者

第十條 新聞紙ニハ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名及發行所ヲ掲載スヘシ

第十一條 新聞紙ハ發行ト同時ニ内務省ニ一部、管轄地方官廳、地方裁判所檢事局及區裁判所檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十二條 時事ニ關スル事項ヲ掲載スル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ保證トシテ左ノ金額ヲ納ムルニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

一 東京市、大阪市及其ノ市外三里以内ノ地ニ於テハ二千圓

二 人口七萬以上ノ市又ハ區及其ノ市又ハ區外一里以内ノ地ニ於テハ千圓

三 其ノ他ノ地方ニ於テハ五百圓

前項ノ金額ハ一箇月三回以下發行スルモノニ在リテハ其ノ半額トス

保證金ハ命令ヲ以テ定ムル種類ノ有價證券ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十三條 保證金ニ對スル權利及義務ハ發行人變更ノ場合ニ於テ後任發行人ノ之ヲ承繼スルモノトス

第十四條 保證金ハ發行ヲ廢止シタルトキニ非サレハ其ノ還付ヲ請求シ又ハ其ノ債權ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ國稅徵收法及之ヲ適用スル法令ヲ適用シ又ハ名譽ニ對スル罪ニ因ル損害賠償ノ判決ヲ執行スルハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 保證金ヲ納ムル新聞紙ニ關シ發行人又ハ編輯人罰金又ハ刑事訴訟費用ノ言渡確定ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ完納セザルトキハ檢事ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ之ニ充ツルコトヲ得

コトヲ得
 第十六條 保證金ハ其ノ額額ヲ生シタル場合ニ於テ之ヲ填補スルニ非サレハ其ノ新聞紙ヲ發行スルコトヲ得ズ但シ額額ヲ生シタル日ヨリ七日以内ハ此ノ限ニ在ラス
 第十七條 新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次回又ハ第三次同ノ發行ニ於テ正誤ヲ寫シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ
 正誤、辯駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ウヘシ
 正誤、辯駁ノ趣旨法令ニ違反スルトキ又ハ請求者ノ氏名住所ヲ明記セサルトキハ之ヲ掲載スルコトヲ得ズ
 正誤書、辯駁書ノ字數原文ノ字數ヲ超過シタルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付發行人ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ料金ヲ要求スルコトヲ得
 第十八條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金ヲ要求スルコトヲ得ズ
 第十九條 新聞紙ハ公判ニ付スル以前ニ於テ豫審ノ内容其ノ他檢事ノ差止メタル搜查又ハ豫審中ノ被告事件ニ關スル事項又ハ公判ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ズ
 第二十條 新聞紙ハ官署、公署又ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ニ於テ公ニセザル文書又ハ公開セザル會議ノ議事ヲ許可ヲ受ケズシテ掲載スルコトヲ得ズ請願書又ハ訴訟書ニシテ公ニセザルモノ亦同シ
 第二十一條 新聞紙ハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ犯罪人若ハ刑事被告人ヲ賞徳若ハ救護シ又ハ刑事被告人ヲ陪害スルノ事項ヲ掲載スルコトヲ得ズ

第二十二條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ填補スヘキ場合ニ於テ之ヲ納メ若ハ之ヲ填補セズシテ發行シタルトキハ正當ノ届出ヲ爲シ又ハ保證金ヲ納メ若ハ之ヲ填補スル迄管轄地方官廳ニ於テ新聞紙ノ發行ヲ差止ムヘシ
 第二十三條 内務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ノ場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ内務大臣ハ同一主旨ノ事項ノ掲載ヲ差止ムルコトヲ得
 第二十四條 内務大臣ハ外國若ハ本法ヲ施行セザル帝國領土ニ於テ發行シタル新聞紙掲載ノ事項ニシテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ本法施行ノ地域内ニ於ケル發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得
 新聞紙ニ對シ一年以内ニ二回以上前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ内務大臣ハ其ノ新聞紙ヲ本法施行ノ地域内ニ輸入又ハ輸入スルヲ禁止スルコトヲ得
 第二十五條 前條第二項ニ依リ禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ輸入スル新聞紙及第四十三條ニ依リ禁止ノ裁判ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得
 第二十六條 本法ニ依リ差押タル新聞紙ニシテ二年以上其ノ差押ヲ解除セラレサルトキハ差押ヲ執行シタル行政官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得
 第二十七條 陸軍大臣、海軍大臣及外務大臣ハ新聞紙ニ對シ命令ヲ以テ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
 第二十八條 第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人ト爲リタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

罰金ニ處ス
 第二十九條 第三條ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十條 第四條乃至第六條ノ届出ヲ爲サス若ハ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセス又ハ第四條第一項第一號、第四號乃至第六號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第三十一條 第四條第一項第二號又ハ第三號ニ關シ届出ノ事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第三十二條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルに至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ場合ニ於テハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第三十三條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實ヲ以テセザルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 第三十四條 第十二條第一項、第二項、第十六條ニ違反シ又ハ第二十二條ニ依リ差止メ命令ニ違反シタルトキハ發行人ヲ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十五條 第十七條第一項、第二項又ハ第十八條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 前項ノ罪ハ私事ニ係ル場合ニ於テ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
 第三十六條 第十九條、第二十條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十七條 第二十一條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ三月以下ノ罰金又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十八條 第二十三條ニ依リ禁止若ハ差止メ命令、第二十四條ニ依リ禁止ノ命令、第四十三條ニ依リ禁止ノ裁判ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ三

百圓以下ノ罰金ニ處ス情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十九條 第二十三條第一項、第二十四條第一項、第二十五條ニ依リ差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十條 第二十七條ニ依リ禁止又ハ制限ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人、編輯人ヲ二年以下ノ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十一條 安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十二條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セムトスルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人、印刷人ヲ二年以下ノ禁錮及三百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四十三條 第四十條乃至第四十二條ニ依リ處罰スル場合ニ於テ裁判所ハ其ノ新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得
 第四十四條 本法ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ
 第四十五條 新聞紙ニ掲載シタル事項ニ付名譽ニ對スル罪ノ公訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其ノ私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ惡意ニ出テテ専ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムルトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ得若其ノ證明ノ確立ヲ得タルトキハ其ノ行爲ハ之ヲ罰セス公訴ニ關聯スル損害賠償ノ訴ニ對シテハ其ノ義務ヲ免ル

填補ヲ猶豫ア
 第二十六條 規定ハ本法施行前ノ差押ニ係ル新聞紙ニ之ヲ適用ス

新聞紙條例ハ之ヲ廢止ス
 本法施行前ヨリ發行スル新聞紙ニシテ本法ノ規定ニ依リ保證金ニ關額ヲ生スルニ至リタルトキハ本法施行ノ日ヨリ三年間其ノ

●著作權法

(明治三十二年三月四日) 法律第三十九號

改正、明四三—法六三、大九—法六〇

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ著作權法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

著作權法

第一章 著作者ノ權利

第一條 文藝演述圖畫建築彫刻模型寫眞演奏歌唱其ノ他文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ノ著作者ハ其ノ著作物ヲ複製スルノ權利ヲ專有ス

第二條 文藝學術ノ著作物ノ著作權ハ翻譯權ヲ包含シ各種ノ脚本及樂譜ノ著作權ハ與業權ヲ包含ス明治四十二年法律第六十三號、大正九年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正

第三條 著作權ハ之ヲ讓渡スコトヲ得

第四條 發行又ハ興業シタル著作物ノ著作權ハ著作者ノ死後三十年間繼續ス

第五條 無名又ハ變名著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行トキヨリ三十年間繼續ス但シ其ノ期間内ニ著作者其ノ實名ヲ登錄ラ受ケタルキハ第三條ノ規定ニ從フ

第六條 官公學校社寺協會會社其ノ他團體ニ於テ著作物ノ名義ヲ以テ發行又ハ興行シタル著作物ノ著作權ハ發行又ハ興行トキヨリ三十年間繼續ス

第七條 著作權者原著作物發行トキヨリ十年内ニ其ノ翻譯物ヲ發行セサルトキハ其ノ翻譯權ハ消滅ス

前項ノ期間内ニ著作權者其ノ保護ヲ受ケントスル國語ノ翻譯物ヲ發行シタルトキハ其ノ國語ノ翻譯權ハ消滅セス

第八條 冊號ヲ逐ヒ順次ニ發行スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ每冊若ハ每號發行トキヨリ起算ス

第九條 一部分ツラ漸次ニ發行シ全部完成スル著作物ニ關シテハ前四條ノ期間ハ最終部分ノ發行トキヨリ起算ス但シ二年ヲ經過シ仍繼續ノ部分ヲ發行セサルトキハ既ニ發行シタル部分ヲ以テ最終ノモノト看做ス

第十條 前六條ノ場合ニ於テ著作權ノ期間ヲ計算スルニハ著作者死亡ノ年又ハ著作物ヲ發行又ハ興行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第十一條 相續人ナキ場合ニ於テ著作權ハ消滅ス

第十二條 左ニ記載シタルモノハ著作權ノ目的物ト爲ルコトヲ得

一 法律命令及公文書

二 新聞紙ニ記載シタル雜報及時事ノ記事(明治四十二年法律第六十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

三 公開セル裁判所、議會或政談集會ニ於テ爲シタル演述

第十三條 無名又ハ變名著作物ノ發行又ハ興行者ハ著作權者ニ屬スル權利ヲ保全スルコトヲ得但シ著作者其ノ實名ヲ登錄ラ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 數人ノ合著作ニ依リ著作物ノ著作權ハ各著作者ノ共有ニ屬ス

第十五條 各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナラサル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ其ノ者ニ賠償シテ其ノ持分ヲ取得スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 各著作者ノ分擔シタル部分明瞭ナル場合ニ於テ著作者中ニ其ノ發行又ハ興行ヲ拒ム者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ發行シタル者アルトキハ他ノ著作者ハ自己ノ部分ヲ發行シタル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

分ラ分擔シ單獨ノ著作物トシテ發行又ハ興行スルコトヲ得但シ反對ノ契約アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 本條第二項ノ場合ニ於テハ發行又ハ興行ヲ拒ムル著作者ノ意ニ反シテ其ノ氏名ヲ其ノ著作物ニ掲グルコトヲ得ス

第十八條 數多ノ著作物ヲ適法ニ編輯シタル者ハ著作者ト看做シ其ノ編輯物全部ニ付テノ著作權ヲ有ス但シ各部ノ著作權ハ其ノ著作者ニ屬ス

第十九條 著作權ノ相續讓渡及質入ハ其ノ登錄ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十條 無名又ハ變名著作物ノ著作者ハ其ノ實名ヲ登錄ヲ受ケルコトヲ得明治四十二年法律第六十三號ヲ以テ本條ヲ改正

第二十一條 登錄ハ行政廳之ヲ行フ

第二十二條 未タ發行又ハ興行セサル著作物ノ原本及其ノ著作權ハ價權者ノ爲ニ差押ヲ受ケルコトヲ得但シ著作權者ニ於テ承諾ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 著作權ヲ承繼シタル者ハ著作者ノ同意ナクシテ其ノ著作物ノ氏名稱號ヲ變更シ若ハ其ノ題號ヲ改メ又ハ其ノ著作物ヲ改置スルコトヲ得ス

第二十四條 原著作物ニ對シテ、傍註、句讀、批評、註釋、附録、圖畫ヲ加ヘ又ハ其ノ他ノ修正増減ヲ爲シ若ハ翻案シタルカ爲新ニ著作權ヲ生スルコトナシ但シ新著作物ト看做サルヘキモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 新聞紙ニ掲載シタル記事ニ關シテハ小説及文藝學術若ハ美術ノ範圍ニ屬スル著作物ヲ除ク外著作權者力持ニ轉載ラ禁スル旨ヲ明記セサルトキハ其ノ出所ヲ明示シテ轉載スルコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第二十六條 翻譯者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス但シ原著作物ノ權利ハ之ヲ妨ケルコトナシ(同上本條ヲ改正)

第二章 偽作

第二十七條 原著作物ト異リタル技術ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ著作者ト看做シ本法ノ保護ヲ享有ス

第二十八條 寫眞者若シテ著作者ト看做シタル者ハ其ノ前項ノ期間ハ其ノ著作物ヲ始メテ發行シタル年ノ翌年ヨリ起算ス若シ發行セサルトキハ種板ヲ製作シタル年ノ翌年ヨリ起算ス

第二十九條 寫眞ニ依リ適法ニ美術上ノ著作物ヲ複製シタル者ハ原著作物ノ著作權ト同一ノ期間内本法ノ保護ヲ享有ス但シ當事者間ニ契約アルトキハ其ノ制限ニ從フ

第三十條 文藝學術ノ著作物中ニ挿入シタル寫眞ニシテ特ニ其ノ著作物ノ寫ニ著作シ又ハ著作セシメタルモノナルトキハ其ノ著作權ハ文藝學術ノ著作物ノ著作權ニ屬シ其ノ著作權ト同一ノ期間内繼續ス

第三十一條 他人ノ囑托ニ依リ著作シタル寫眞寫像ノ著作權ハ其ノ囑托者ニ屬ス

第三十二條 寫眞ニ關スル規定ハ寫眞術ト類似ノ方法ニ依リ製作シタル著作物ニ適用ス

第三十三條 著作權者ノ不明ナル著作物ニシテ未タ發行又ハ興行セサルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ發行又ハ興行スルコトヲ得

第三十四條 外國人ノ著作權ニ付テハ條約ニ別段ノ規定アルモノヲ除ク外本法ノ規定ヲ適用ス但シ著作權保護ニ關シ條約ニ規定ナキ場合ニハ帝國ニ於テ始メテ其ノ著作物ヲ發行シタル者ニ限リ本法ノ保護ヲ享有ス

偽作ト看做セズ

第一 發行スルノ意思ナク且器械的又ハ化學的方法ニ依ラスシテ複製スルコト

第二 自己ノ著作物中ニ正當ノ範圍内ニ於テ節録引用スルコト

第三 普通教育上ノ修身書及讀本ノ目的ニ供スル爲ニ正當ノ範圍内ニ於テ拔萃編輯スルコト

第四 文藝學術ノ著作物ノ文句ヲ自己ノ著作シタル脚本ニ挿入シ又ハ樂譜ニ充用スルコト

第五 文藝學術ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ美術上ノ著作物ヲ挿入シ又ハ美術上ノ著作物ヲ説明スルノ材料トシテ文藝學術ノ著作物ヲ挿入スルコト

第六 圖畫ヲ彫刻物模型ニ作リ又ハ彫刻物模型ヲ圖畫ニ作ルコト

本條ノ場合ニ於テハ其ノ出所ヲ明示スルコトヲ要ス

第三十五條 帝國ニ於テ發賣頒布スルノ目的ヲ以テ偽作物ヲ輸入スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十六條 練習用ノ爲ニ著作シタル問題ノ解答書ヲ發行スル者ハ偽作者ト看做ス

第三十七條 一 活動寫眞術ニ依リ他人ノ著作物ヲ複製シ又ハ興行スル者ハ偽作者ト看做ス(明治四十二年法律第六十三號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十八條 一 音聲器械的ニ複製スルノ用ニ供スル機器ニ他人ノ著作物ヲ寫調スル者ハ偽作者ト看做ス(大正九年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三十九條 善意ニシテ且過失ナク偽作ヲ爲シ利益ヲ受ケルカ爲ニ他人ニ損失ヲ及ボシ且過失ナク其ノ利益ノ存スル限度ニ於テ之ヲ返還スル義務ヲ負フ

第四十條 數人ノ合著作ニ依リ著作物ノ著作權者ハ偽作ニ對シ他ノ著作權者ノ同意ナクシテ告訴ヲ爲シ及自己ノ持分

ニ對スル損害ノ賠償ヲ請求シ又ハ自己ノ持分ニ應ジ前條ノ利益ヲ返還ヲ請求スルコトヲ得

第四十一條 偽作ニ對シ民事ノ訴訟ヲ提起スル場合ニ於テハ既ニ發行シタル著作物ニ於テ其ノ著作者トシテ氏名ヲ掲グル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

無名又ハ變名著作物ニ於テハ其ノ著作者トシテ氏名ヲ掲グル者ヲ以テ其ノ發行者ト推定ス

未タ發行セサル脚本及樂譜ノ興行ニ關シテハ其ノ興行ニ著作トシテ氏名ヲ顯ハサル者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

著作者ノ氏名ヲ顯ハサルトキハ其ノ興行者ヲ以テ其ノ著作者ト推定ス

第三十六條 偽作ニ關シ民事ノ出訴又ハ刑事ノ起訴アリタルトキハ裁判所ハ原告又ハ告訴人ノ申請ニ依リ保證ヲ立テシメ又ハ立テシメスシテ假ニ偽作ノ疑アル著作物ノ發賣頒布ヲ禁止ス若ハ之ヲ差押ヘ又ハ其ノ興行ヲ差止ムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ偽作ニ非サル旨ヲ判決確定シタルトキハ申請者ハ差止又ハ差押ヨリ生シタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第三章 罰則

第三十七條 偽作ヲ爲シタル者及情ヲ知テ偽作物ヲ發賣シ又ハ頒布シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第十八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第二十條及第三十條第二項ノ規定ニ違反シ出所ヲ明示セシテ複製シタル者並第廿三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十二年法律第五十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四十條 著作者ニ非サル者ノ氏名稱號ヲ附シテ著作物ヲ發行シタル者ハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 著作權ノ消滅シタル著作物ト雖之ヲ改置シ著作

者ノ意ヲ害シ又ハ其ノ題號ヲ改メ若ハ著作ノ氏名稱號ヲ隱匿シ又ハ他人ノ著作物ト詐稱シテ發行シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十二年法律第五十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第四十二條 虚偽ノ登録ヲ受ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス(同上本條ヲ改正)

第四十三條 偽作物及専ラ偽作ノ用ニ供シタル器械器具ハ偽作者、印刷者、發賣者及頒布者ノ所有ニ在ル場合ニ限リ之ヲ沒收ス

第四十四條 本章ニ規定シタル罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス但シ第三十八條ノ場合ニ於テ著作ノ死亡シタルトキ並第四十條乃至第四十二條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條 本章ノ罪ニ對スル公訴ノ時効ハ二年ヲ経過スルニ因リテ完成ス

第四章 附則

第四十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治三十二年勅令第三百十三號ヲ以テ同年七月十五日ヨリ施行ス)

明治二十六年法律第十六號版權法明治二十年勅令第七十八號脚本樂譜條例明治二十年勅令第七十九號寫真版權條例ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第四十七條 本法施行前ニ著作權ノ消滅セザル著作物ハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ保護ヲ享有ス

第四十八條 本法施行前偽作ト認メラレザリシ複製品ニシテ既ニ複製シタルモノ又ハ複製ニ着手シタルモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得

前項ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ノ現存スルモノハ本法施行後五年間仍其ノ複製ノ爲メ之ヲ使用スルコトヲ得

第四十九條 本法施行前翻譯シ又ハ翻譯ニ着手シ其ノ當時ニ

於テ偽作ト認メラレザリシモノハ之ヲ完成シテ發賣頒布スルコトヲ得但シ其ノ翻譯物ハ本法施行後七年内ニ發行スルコトヲ要ス

前項ノ翻譯物ハ發行後五年間仍之ヲ複製スルコトヲ得

第五十條 本法施行前既ニ發行シ若ハ發行ニ着手シ其ノ當時ニ於テ偽作ト認メラレザリシモノハ本法施行後五年間仍之ヲ發行スルコトヲ得

第五十一條 第四十八條乃至第五十條ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル手續ヲ履行スルニ非サレハ其ノ複製物ヲ發賣頒布シ又ハ發行スルコトヲ得ス

第五十二條 (明治四十三年法律第五十三號ヲ以テ本條ヲ前除)

●土地收用法

(明治三十三年三月七日) 法律第二十九號

改正、大三一法一五、昭二一法三九

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ土地收用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲メニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
- 二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル事業(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
- 三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業(同上本條ヲ改正)
- 四 鐵道、軌道、省道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用器水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業(同上本條ヲ改正)

第三條 一 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地ハ特別ノ必要アル場合ニ非サレバ之ヲ收用又ハ使

土地收用法 總則 事業ノ準備

事業ノ認定

用スルコトヲ得(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ追加)

第三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル起業者ノ權利義務ハ事業ト共ニ其ノ承繼人ニ移轉ス

第四條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リテ起業者ノ手續其ノ他ノ行為ハ起業者、土地所有者又ハ關係人ノ承認人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

第五條 本法ニ於テ土地所有者ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地ノ所有者ヲ謂フ

第六條 本法ニ於テ關係人ト稱スルハ收用又ハ使用スヘキ土地又ハ其ノ土地ニ在ル建物ニ關シテ權利ヲ有スル者ヲ謂フ

第七條 本法ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ノ收用又ハ使用ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

第八條 本法ノ規定ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用ス

第二章 事業ノ準備

第九條 事業ノ準備ノ爲メ必要アルトキハ起業者ハ事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ得テ土地

ニ立入リ測量又ハ検査ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テ官内省又ハ國ノ起業者ニ係ルトキハ官内大臣又ハ主務大臣ハ之ヲ地方長官ニ通知ス(シ)

第十條 地方長官前項ノ許可ヲ與ヘ又ハ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類及立入ルヘキ土地ノ區域ヲ公告シ又ハ之ヲ其ノ土地占有者ニ通知ス(シ)

第十一條 地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ事業ノ準備ノ爲メ其ノ土地ニ立入リ測量又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ本條ノ許可又ハ通知ヲ要セズ

第十二條 前條ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入ルヘキ日ヨリ五日以前ニ其ノ日時及場所ヲ市町村長ニ通知ス(シ)市町村長ハ之ヲ公告シ又ハ其ノ土地占有者ニ通知ス(シ)

第十三條 前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ豫メ其ノ占有者ニ通知ス(シ)

第十四條 日出前日没後ハ起業者ハ占有者ノ承諾アルニ非サレバ邸内ニ立入ルコトヲ得(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本項ヲ改正)

第三章 事業ノ認定

第十五條 第九條ノ規定ニ依リ測量又ハ検査ノ爲メ必要アルトキハ起業者ハ行政廳ノ許可ヲ得テ障礙物ヲ除却スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ障礙物ヲ除却ヲ爲ス場合ニ於テハ起業者ハ三日以前ニ其ノ所有者及占有者ニ通知ス(シ)

第十六條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ内務大臣ノ認定ニ依リ軍機ニ關スル事業ハ此ノ限ニ在ラス(同上本條ヲ改正)

第十七條 起業者ハ前條ノ認定ヲ受ケントストキハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ内務大臣ニ申請ス(シ)但シ起業者ガ官内省又ハ國ナルトキハ官内大臣又ハ主務大臣ハ事業計畫書及圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ請求ス(シ)之ヲ昭和

二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十四條 内務大臣カ認定シタルトキハ起業者及事業ノ種類並起業地ヲ公告スヘシ(同上本條ヲ改正)

第十五條 天災事變ニ際シ急務ヲ要スル事業ノ爲メ土地ヲ使用スルトキハ市町村長ハ其ノ事業ノ認定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ事業ガ官内省、國又ハ道府縣ノ起業ニ係ルトキハ官内大臣、主務大臣又ハ道廳長官府縣知事ハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及期間ヲ市町村長ニ通知スベシ

前二項ノ使用ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

軍事上臨時急務ヲ要スル事業ノ爲メ土地ヲ使用スルトキハ主務大臣ハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ市町村長ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

第十六條 起業者カ市町村長ノ認定ヲ受ケムトスルトキハ事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及期間ヲ市町村長ニ申請スヘシ(同上本條ヲ改正)

第十七條 市町村長カ認定シタルトキ又ハ第十五條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ起業者、事業ノ種類、使用スヘキ土地ノ區域及期間ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

市町村長カ第十五條第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ使用スヘキ土地ノ區域ヲ土地所有者及占有者ニ通知スヘシ(同上本條ヲ改正)

第十八條 起業者カ内務大臣ノ認定ノ公告ノ後三箇年内ニ第十九條ノ申請ヲ爲サルトキハ其ノ認定ハ效力ヲ失フ(同上本條ヲ改正)

第四章 收用ノ手續

土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

軍機ニ關スル事業ニ付テハ主務大臣ハ地方長官ニ收用又ハ使用スヘキ土地ノ細目ヲ通知シ地方長官ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十九條 前條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ土地所有者及關係人ハ事業ニ支障ヲ及ボス虞ナキ場合ヲ除クノ外行政廳ノ許可ヲ得ルニ非ザレバ收用又ハ使用スヘキ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ第七條ノ二ノ物件ヲ損壞若ハ收去スルコトヲ得ズ(同上本條ヲ改正)

第二十條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後ハ起業者ハ其ノ土地ニ立入り土地物件ヲ調査スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ起業者ハ立入りヘキ日ヨリ三日前ニ其ノ日時及場所ヲ其ノ土地占有者ニ通知スヘシ

日出前日以後ハ占有者ノ承諾アルニ非ザレバ邸内ニ立入りコトヲ得ズ(同上本條ヲ改正)

第二十一條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ土地所有者及關係人ト共ニ土地物件ニ關スル調査ヲ作ルベシ

前項ノ場合ニ於テ土地所有者又ハ關係人カ調査ヲ作ルコトヲ拒ミタルトキ其ノ他ノ共同調査ヲ作ルコト能ハサルトキハ起業者ハ市町村長ノ立會ヲ以テ之ヲ作ルベシ市町村長カ起業者ナルトキ又ハ起業者ニ對シ第四十條第二項ニ掲ケタル關係ヲ有スルトキハ起業者ノ申請ニ依リ地方長官立會人ヲ指定スベシ

起業者、土地所有者及關係人ハ本條ノ規定ニ依リ作リタル調査ノ記載事項ニ對シ異議ヲ述ブルコトヲ得ズ(同上本條ヲ改正)

第二十二條 第十九ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者ハ其ノ土地ニ關スル權利ヲ取得スル爲メ土地所有者及關係人

ニ協議ヲ爲スヘシ

前項ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ起業者ハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 收用審査會ノ裁決ヲ求ムルトキハ起業者ハ其ノ申請書ニ左ニ掲ケタル書類ヲ添ヘ地方長官ニ差出スヘシ但シ軍機ニ關スル事業ニ付テハ事業計畫書及圖面ヲ添フルコトヲ要セス

一 事業計畫書及圖面

二 市區町村別ニ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シタル書類
收用又ハ使用スヘキ土地ノ番號、地目
收用又ハ使用スヘキ土地ノ面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量但シ土地物件カ分割ヲ來スヘキ場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積建坪等ヲ併記スヘシ
損失補償ノ見積金額及内課

收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

土地所有者及關係人ノ氏名、住所

三 第二十一條ノ規定ニ依リ土地物件ニ關スル調査又ハ其ノ寫(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

收用審査會ノ裁決ヲ求メタルトキハ起業者ハ同時ニ土地所有者及關係人ニ通知スヘシ

第二十四條 地方長官前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ送付スベシ但シ同條第一項第三號ノ書類ハ此ノ限ニ在ラズ

市町村長前項ノ書類ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク公告ヲ爲シ公告ノ日ヨリ一週間ノ中公衆ノ縦覽ニ供スベシ(同上本條ヲ改正)

第二十五條 土地所有者及關係人ハ前條縦覽期間ノ初日ヨリ一週間内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得

第二十六條 地方長官前條ノ期間ヲ經過シタル後收用審査

會ヲ開クヘシ

第二十七條 收用審査會ハ開會ノ日ヨリ一週間内ニ裁決ヲ爲スヘシ但シ地方長官ハ必要ト認ムルトキハ二週間内ノ延期ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 收用審査會カ前條ノ期間内ニ裁決ヲ爲サルトキハ地方長官ハ事情ヲ具シ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ内務大臣ハ收用審査會ニ一定ノ期間内ニ裁決ヲ爲スヘキコトヲ命ジ又ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘキコトヲ地方長官ニ命スルコトヲ得

收用審査會カ前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲サルトキハ地方長官ハ之ニ代テ裁決ヲ爲スヘシ

第二十九條 收用審査會カ招集ニ應ギ又ハ成立セザルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ之ニ代テ裁決ヲ爲スコトヲ得事業ノ急務ヲ要スルトキ亦同シ

第三十條 收用審査會カ裁決ヲ爲サルトキハ其ノ裁決書ノ謄本ヲ添ヘ地方長官ニ報告スヘシ

第三十一條 前條ノ報告ヲ受ケ又ハ收用審査會ニ代テ裁決ヲ爲サルトキハ地方長官ハ裁決書ノ謄本ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ送達スヘシ

第三十二條 軍機ニ關スル事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ノ施行ニ因リテ必要ヲ生シタル道路、堤防其ノ他公用ニ供スル工作物ノ新築、改築又ハ増築ノ爲メ土地ヲ收用又ハ使用スルトキハ地方長官ノ許可ヲ得テ直ニ本條ノ規定ニ依リコトヲ得(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十三條 市町村長カ認定シタルトキ又ハ第十五條第二項若ハ第四項ノ通知ヲ受ケタルトキハ第十八條ノ通知ノ後起業者ヲ直ニ其ノ土地ヲ使用セシムルコトヲ得但シ損失ノ補償ニ關シテハ本法ノ規定ニ依リヘシ(同上本條ヲ改正)

第三十四條 起業者カ第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後一箇年内ニ收用審査會ノ裁決ヲ求メサルトキハ其ノ公告又ハ通知ハ效力ヲ失フ

第五章 收用審査會

第二十五條 收用審査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ左ニ掲ケタル事項ヲ定メ收用又ハ使用ノ裁決ヲ爲スモノトス

一 收用又ハ使用スヘキ土地ノ區域

二 損失ノ補償

三 收用ノ時期又ハ使用ノ時期、期間

起業者ノ申請カ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反スルトキハ收用審査會ハ却下ノ裁決ヲ爲スヘシ

第二十六條 收用審査會ハ會長一人委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十七條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ議事其ノ他ノ會務ヲ統理シ會ヲ代表ス

第二十八條 委員ハ高等文官及道府縣名譽職參事會員各三人ヲ以テ之ニ充ツ

高等文官ニシテ委員タルヘキ者ハ内務大臣之ヲ命ジ道府縣名譽職參事會員ニシテ委員タルヘキ者ハ其ノ互選トス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十九條 收用審査會ハ委員半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

第三十條 委員カ起業者、土地所有者又ハ關係人ナルトキハ收用審査會ノ議事ニ參與スルコトヲ得ズ

委員カ起業者、土地所有者若ハ關係人ノ配偶者、四親等内ノ親族、戸主、家族、代理人及保佐人ナルトキ又ハ起業者、土地所有者若ハ關係人タル市町村市町村長、合名會社ノ社員、合資會社及株式合資會社ノ無限責任社員、株式會社ノ取締役及監査役其ノ他法人ノ理事及監事ナルトキ亦前項ニ同シ

第六章 損失ノ補償

本條ノ規定ニ依リ委員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ地方長官ハ左ニ掲ケタル順序ニ從ヒ其ノ本條ノ規定ニ抵觸セザル者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ之ヲ補充スヘシ(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

一 道府縣名譽職參事會員

二 道府縣名譽職參事會員ノ補充員

三 道府縣會議員

第四十一條 收用審査會ノ裁決ハ起業者、土地所有者及關係人ノ申立タル範圍ヲ超ユルコトヲ得ズ

第四十二條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ鑑定人ヲ選ビ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

前項ノ鑑定人ニ付テハ第四十條ノ規定ヲ準用ス

第四十三條 收用審査會ハ必要ト認ムルトキハ起業者、土地所有者又ハ關係人ヲ呼出シ其ノ意見ヲ聽クコトヲ得

收用審査會ハ事實參考ノ爲メ必要ト認ムルトキハ前項ニ掲ケタル者以外ノ者ヲ呼出シ其ノ供述ヲ聽クコトヲ得(同上本條ヲ改正)

第四十四條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附シ會長之ニ署名捺印スヘシ

裁決書ノ謄本ニハ會ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第四十五條 鑑定人及事實參考人ハ旅費及手當ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條 一府縣以上ニ涉ル事業ニ係ルトキハ關係地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ合同シテ收用審査會ヲ開クコトヲ得

第四十七條 土地所有者及關係人ノ受タル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ

損失ノ補償ハ各人別ニ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ各人別ニ見積

リ難キトキハ此ノ限ニ在ラス
 第四十八條 收用スヘキ土地物件ニ付テハ相當ノ價格ニ依リ其ノ損失ヲ補償スヘシ
 第四十九條 土地ノ一部ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ土地ノ價格ヲ減シ其ノ他種地ニ關シ損失ヲ生スヘキトキハ其ノ損失ヲ補償スヘシ
 第五十條 土地ノ一部ヲ收用スルニ因リテ土地ノ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ土地所有者ハ其ノ全部ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
 第五十一條 收用又ハ使用スヘキ土地ニ在ル物件ハ移轉料ヲ補償シテ移轉セムヘシ但シ物件ノ分割ヲ來シ其ノ全部ヲ移轉スルニ非サルハ從來用キタル目的ニ供スルコト能ハサルトキハ所有者ハ其ノ全部ノ移轉料ヲ請求スルコトヲ得
 第五十二條 前條ノ移轉料ニ付テハ物件ノ相當價格ヲ超ユル場合ニ於テハ起業者ハ其ノ收用ヲ請求スルコトヲ得
 第五十三條 土地ヲ收用又ハ使用スルニ因リテ道路、溝渠、堤、柵其ノ他ノ工作物ノ新築、改築、増築又ハ修繕ヲ爲ス必要ヲ生スルトキハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ
 第五十四條 前條ノ規定ニ依リテ土地ノ收用又ハ使用スルニ因リテ土地所有者及關係人ノ通常受クヘキ損失ハ之ヲ補償スヘシ
 第五十五條 土地ノ使用力三箇年以上ニ互立ルキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後行政官ノ許可ヲ得シテ土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築、改築、増築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加増置シタル土地所有者又ハ關係人ハ之ニ關シ損失ノ補償ヲ請求スルコトヲ得
 第五十七條 第九條又ハ第二十條ノ規定ニ依リテ土地ニ立入り測量、検査又ハ調査ヲ爲スニ因リテ他人ニ及ボタル損失ハ起業者之ヲ補償スヘシ
 第五十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後起業者カ事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地所有者又ハ關係人ノ受ケタル損失ハ之ヲ補償スヘシ
 第五十九條 前二條ノ補償ニ付キ協議調ハサルトキハ地方長官ノ決定ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第三十一條及第四十一條乃至第四十五條ノ規定ヲ準用ス
 第七十條 起業者ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ヲ拂渡スヘシ
 一 二場ケタル場合ニ於テハ補償金ヲ供託スルコトヲ得
 二 補償金ヲ受クヘキ者カ其ノ受領ヲ拒ミタルトキ又ハ之ヲ受領スルコト能ハサルトキ
 三 起業者カ收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アルトキ但シ補償金ヲ受クヘキ者ノ請求アルトキハ起業者ハ自己ノ見積金額ヲ拂渡スヘシ
 四 起業者カ補償金拂渡シ差押又ハ假差押ヲ受ケタルトキ
 第六十一條 土地所有者及關係人ハ收用又ハ使用ノ時期迄ニ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スヘシ但シ左ニ掲ケタル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ
 第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲サルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
 第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
 第六十四條 土地ノ使用力三箇年以上ニ互立ルキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
 第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年以内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル土地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サルハ之ヲ買受ルコトヲ得ス
 第六十七條 前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ノ他ノ軍艦ニ關スル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

第六十八條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス同上本條ヲ改正
 第六十九條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ラ受ケタル者故ナク出頭セザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス同上本條ヲ改正
 第七十條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ
 第六十二條 起業者カ收用又ハ使用ノ時期迄ニ補償金ノ拂渡又ハ供託ヲ爲サルトキハ收用審査會ノ裁決ハ其ノ效力ヲ失フ但シ土地所有者及關係人カ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ケス
 第六十三條 土地物件ヲ收用スルトキハ收用ノ時期ニ於テ所有權ハ起業者之ヲ取得シ其ノ他ノ權利ハ消滅ス
 第六十四條 土地ノ使用力三箇年以上ニ互立ルキ又ハ土地ノ形質ヲ變更スルトキ若ハ使用スヘキ土地ニ建物アルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ノ收用ヲ請求スルコトヲ得但シ空間ヲ使用スル場合ニ於テ土地ノ使用ヲ妨ケサルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第六十五條 先取特權、質權又ハ抵當權ハ其ノ目的物ノ收用又ハ使用ニ因リテ債務者カ受クヘキ補償金ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但シ其ノ拂渡前ニ差押ヲ爲スヘシ
 第六十六條 收用ノ時期ヨリ二十箇年以内ニ事業ノ廢止其ノ他ノ事故ニ因リテ收用シタル土地ノ全部又ハ一部カ不用ニ歸シタルトキハ舊所有者又ハ其ノ相續人ハ補償價格ヲ以テ之ヲ買受ルコトヲ得但シ第五十條ノ規定ニ依リテ收用シタル土地ハ其ノ接續部分ノ不用ニ歸シタル時ニ非サルハ之ヲ買受ルコトヲ得ス
 第六十七條 前項ノ場合ニ於テ買受ハ第三者ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス第一項ノ期間内ニ於テ收用シタル土地ノ他ノ軍艦ニ關スル場合ニ於テハ起業者ノ請求ニ依リ市町村長ハ土地所有者及關係人ニ代ルモノトス
 一 土地所有者及關係人カ土地物件ヲ引渡シ又ハ物件ヲ移轉スルコト能ハサルトキ
 二 起業者ノ過失ナクシテ土地所有者及關係人ヲ確知スルコト能ハサルトキ

事業又ハ内務大臣ノ認定シタル事業ニ供スルトキハ不用ニ歸シタルモノト看做サス昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正
 第六十七條 前條ノ不用ノ土地アルトキハ起業者ハ舊所有者又ハ其ノ相續人ニ通知スヘシ但シ起業者ノ過失ナクシテ之ヲ確知スルコト能ハサルトキハ少クモ三箇月ノ公告ヲ爲スヘシ
 第六十八條 前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ二箇月内又ハ第三項ノ公告終了ノ日ヨリ六箇月内ニ舊所有者又ハ其ノ相續人カ買受ノ通知ヲ爲サルトキハ其ノ權利ヲ失フ
 第八章 費用ノ負擔
 第六十八條 起業者、土地所有者及關係人カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ規定シタル手續其ノ他ノ行爲ヲ爲シ又ハ義務ヲ履行スル爲ニ要シタル費用ハ各其ノ負擔トス
 第六十九條 收用審査會ニ要シタル費用ハ命令ヲ以テ別ニ負擔者ヲ定メタルモノヲ除ク外府縣ノ負擔トス第五十九條ノ場合ニ要シタル費用ニ付テ亦同シ
 第七十條 規定ニ依リ收用審査會ノ裁決ヲ取消シタル場合ニ於テ更ニ開クヘキ收用審査會ニ要シタル費用ハ之ヲ起業者、土地所有者及關係人ニ負擔セシムルコトヲ得又
 第七十一條 第七十三條第一項ノ規定ニ依リ地方長官カ義務者ノ爲スヘキ事項ヲ自ら執行シ又ハ他人ヲシテ執行セシメタル爲ニ要シタル費用ハ府縣ノ負擔トス
 第七十二條 府縣ハ前項ノ費用ヲ各其ノ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得但シ其ノ義務者ノ受領スヘキ補償金ヲ以テ之ヲ充ツルコトヲ得
 第七十三條 土地所有者又ハ關係人ノ負擔スヘキ費用ハ第六十一條但書ノ場合ニ於テハ市町村ノ負擔トス
 前項ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
 第九章 監督、強制及罰則

第七十二條 收用審査會カ其ノ權限ヲ越ス又ハ法令ノ規定ニ違反シテ爲シタル裁決ハ内務大臣ノ之ヲ取消スコトヲ得
 第七十三條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セズ又ハ之ヲ履行スルモ一定ノ期間内ニ終了スル見込ナキトキハ地方長官ハ自ら之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得
 第七十四條 義務者カ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ依ル義務ヲ履行セザル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リコト能ハサルトキハ地方長官ハ直接ニ之ヲ強制スルコトヲ得
 第七十五條 前項ノ規定ニ依リ私人ノ負擔スヘキ費用ヲ支出セザル者アルトキハ行政官ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得
 第七十六條 前項ノ費用ニ付テハ行政官ハ國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス
 第七十七條 第九條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ行政官ノ許可ヲ得ズシテ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第七十八條 第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知アリタルコトヲ知リタル者第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス(同上本條ヲ改正)
 第七十九條 鑑定人トシテ收用審査會ニ呼出ラレタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス同上本條ヲ改正
 第八十條 故ナク鑑定人タルコトヲ拒ミタル者又ハ鑑定人カ故ナク鑑定ヲ爲スコトヲ拒ミタルトキハ百圓以下ノ過料ニ處ス同上本條ヲ改正
 第八十一條 鑑定人又ハ第四十三條第二項若ハ第五十九條ノ規定ニ依リ呼出ラ受ケタル者故ナク出頭セザルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス(同上本條ヲ改正)
 第八十二條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ

規定ハ前二條ノ過料ニ之ヲ準用ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第十章 訴願及訴訟
 第八十一條 收用審査會ノ裁決ニ對シテ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得
 第八十二條 收用審査會ノ違法裁決ニ由リ權利ヲ侵害セラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 第八十三條 前二項ノ規定ニ依リ訴願訴訟ハ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二週間ヲ經過シタルトキハ之ヲ提起スルコトヲ得ス
 第八十四條 本法ノ規定ニ依リ通常裁判所ニ出訴ヲ許シタル事項ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
 第八十五條 收用審査會ノ裁決中補償金額ノ決定ニ對シテ不服アル者ハ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ裁決書原本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三箇月ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 第八十六條 前項ノ訴訟ハ收用審査會ニ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得又
 第八十七條 第五十九條ノ規定ニ依リ地方長官ノ決定ニ付テハ前二項ノ規定ヲ準用ス
 第八十八條 本法ノ規定ニ依リ訴願訴訟ハ事業ノ進行及土地ノ收用又ハ使用ヲ停止セズ
 附則
 第八十四條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
 第八十五條 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用又ハ使用ニ關シテ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 明治二十二年法律第十九號土地收用法ノ規定ニ依リ收用シタル土地ニ關シテハ第六十六條ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

●土地收用法施行令

(明治三十三年三月三十一日) 勅令第九十九號 改正、昭二一勅二七三

朕土地收用法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法施行令

第一條 土地收用法第十一條第一項ニ規定シタル行政官ノ職權ハ市町村長ニ移行ス(昭和二年勅令第二百七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二條 土地收用法第九條、第十一條又ハ第二十條ノ規定ニ依リ起業者ノ爲メ土地ニ立入り又ハ障害物ヲ除却スル者ハ其ノ證據ヲ携帶ス(シ)

第三條 起業者ガ内務大臣ノ認定ヲ受ケントスル場合ニ於テ起業者ハ左ニ掲ゲタル土地アルトキハ其ノ土地ニ關スル調査及圖面ヲ申請スベシ

一 御料地及皇族所有地
二 國有地
三 現ニ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ用ニ供スル土地
四 寺院境内地
五 名所、舊蹟及古墳墓

前項ニ規定スル調査ニハ其ノ土地ヲ起業地ニ編入スルニ付土地管理ノ意見ヲ記載スベシ(同上本條ヲ改正)

第四條 土地收用法第十四條ノ規定ニ依ル公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲ス(シ)

第五條 内務大臣ノ認定ノ公告ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ關シテ

因リテ土地收用法第十九條ノ申請ヲ爲スノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツ(昭和二年勅令第二百七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第六條 土地收用法第二十一條ノ規定ニ依ル調査ハ土地調査及物件調査トス

一 土地所在ノ郡、市、區、町村及字、土地ノ番號、地目及面積並ニ土地所有者ノ名及住所

二 收用又ハ使用セントスル土地ノ面積

三 土地ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調査ヲ作リタル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件調査ニハ收用又ハ移轉セントスル物件ニ付左ノ事項ヲ記載スベシ

一 物件ノ在ル土地所在ノ郡、市、區、町村及字並ニ土地ノ番號及地目

二 物件ノ種類及數量並ニ其ノ所有者ノ名及住所

三 物件ニ關シテ權利ヲ有スル者ノ名及住所並ニ其ノ權利ノ種類及内容

四 調査ヲ作リタル年月日

五 其ノ他必要ナル事項

物件ガ建物ナル場合ニ在リテハ物件調査ニハ前項ニ掲グルモノノ外建物ノ種類ニ區別シ其ノ構造及建坪ヲ記載シ實測平面圖ヲ添付スベシ

土地收用法第七條ノ規定ニ依リ權利ヲ收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調査ニ關シテハ第二項ノ例ニ依ル

土地收用法第七條ノ二ノ規定ニ依リ物件ニ關スル權利ヲ

附則

本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律

(大正十五年六月二十四日) 法律第七十八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ハ町村長ニ之ヲ適用ス

附則

本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治八年太政官達第百三十二號公用土地買上規則ニ依リ買上ク現ニ國有タル土地ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本條ノ規定ヲ適用ス

第八十六條 第十五條乃至第十七條及第三十三條ノ規定ニ依リ町村長ノ爲メキ職務ハ北海道ニ於テハ支廳長ニ移行ス

本法ニ依リ町村長ノ爲メキ職務ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ町村長ニ進スベキ者ニ移行ス(昭和二年法律第三十九號ヲ以テ本條ヲ改正)

第八十七條 明治二十二年勅令第五號東京市區改正土地建物處分規則其ノ他別段ノ定アルモノハ各其ノ定ムル所ニ依ル

第八十八條 明治二十二年法律第十九號土地收用法明治二十三年法律第五十四號土地收用法協議會規則及明治三十二年法律第七十二號ハ之ヲ廢止ス

附則 (昭和二年法律第三十九號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅令第二百七十三號ヲ以テ同年九月十五日ヨリ施行ス)

大正十五年法律第七十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前收用審査會ノ裁決ヲ求メタル收用又ハ使用ニ付テハ第四十三條ノ規定ヲ除ク外仍從前ノ例ニ依ル但シ第三十五條第二項ノ規定ニ依リ却下ノ裁決アリタルモノニ付テハ其ノ裁決ニ對シ訴訟ヲ爲ス場合ヲ除ク外此ノ限ニ在ラズ

本法施行前從前ノ第七十八條又ハ第八十條ノ規定ニ該當スル行為ヲ爲シタル者ニシテ本法施行ノ際未ダ其ノ裁判ヲ受ケザル者ハ本法ニ依リ處罰ス但シ過料ノ額ハ同條ノ罰金ノ額ヲ超エルコトヲ得ズ

收用又ハ使用スル場合ニ於ケル調査ニ關シテハ第三項及第四項ノ例ニ依ル

調査ニハ調査ヲ作リタル起業者、土地所有者及關係人記名捺印スベシ立會人アルトキハ立會人モ亦之ニ記名捺印スベシ(昭和二年勅令第二百七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第七條 土地收用法第二十四條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲シタルトキハ市町村長ハ其ノ旨ヲ地方長官ニ報告ス(シ)同上本條ヲ改正

第八條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル者ハ工事計畫書及圖面ヲ添ヘ左ニ掲ケタル事項ヲ記載シ出願ス(シ)

一 工事ノ種類
二 收用又ハ使用スベキ土地ノ細目
三 其ノ必要ナル生シメタル事業トノ關係

本條ノ場合ニ於テハ第三條ノ規定ヲ適用ス

第九條 土地收用法第三十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ地方長官ハ收用又ハ使用スベキ土地ノ細目ト共ニ起業者及工事ノ種類ヲ公告シ又ハ之ヲ土地所有者及關係人ニ通知ス(シ)

第十條 土地收用法第十九條ノ地方長官ノ公告又ハ通知ノ後事業ヲ廢止變更シタルニ因リテ土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要ナキニ至リタルトキハ起業者ハ之ヲ地方長官ニ届出ツ(シ)

地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ公告シ又ハ土地所有者及關係人ニ通知ス(シ)

第十一條 收用審査會會長及委員ハ八歳費ヲ支給ス

第十二條 收用審査會會長及高等文官ニシテ委員タル者ノ旅費額及其ノ支給方法ハ内國旅費規則ノ定ムル所ニ依ル

高等文官ニ非ラズ委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ府縣制第九十四條ノ規定ニ從ヒ定ムル所ニ依ル

土地收用法中郡長ノ職務ヲ定ムル規定ノ適用ニ關スル法律

附則 (昭和二年勅令第二百七十三號附則)

本令ハ昭和二年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

●國有財產法

(大正十年四月八日) (法律第四十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル國有財產法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

國有財產法

- 第一條 本法ニ於テ國有財產ト稱スルハ國有ノ不動產並勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動產及權利ヲ謂フ
- 第二條 國有財產ヲ分テテ左ノ四種トス
 - 一 公用財產 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 二 公用財產 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 三 營林財產 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ
 - 四 雜種財產 前各號ニ屬セザルモノ
- 第三條 國有財產ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財產ニ關スル總務事務ハ大臣之ヲ管理ス
- 第四條 國有財產ハ雜種財產ヲ除ク外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ズ但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 雜種財產ハ左ニ掲ケル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得
 - 一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲メ必要アルトキ
 - 二 公用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲

三

- 第六條 雜種財產ハ法律ヲ以テ特別ノ定メ爲シタル場合ニ限リ之ヲ出賣ノ目的ト爲スコトヲ得
- 第七條 雜種財產ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限リ帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲メ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金銀ヲ以テ補足ス
- 第九條 用途及期間ヲ指定シタル國有財產ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニテ其ノ用途ニ供セズ又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニテ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得
- 第十條 國有財產ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムルヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得
- 第十一條 國有財產ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メ隣接地所有者ニテ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得
- 第十二條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニテ通知スヘシ
- 第十三條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所居所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ
- 第十四條 前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日より起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條

- 第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第十四條 國有財產ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲メ政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障礙物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得
- 第十五條 國有財產ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ズ
 - 一 植樹ノ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八十年
 - 二 前號ノ場合ヲ除ク外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年
 - 三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年
- 第十六條 國有財產ハ帝室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲メ必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除ク外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得
- 第十七條 國有財產ノ貸付料ハ毎年定期ニテ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシムルコトヲ妨ケズ
- 第十八條 國有財產ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲メ必要アル生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得
- 第十九條 前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得
- 第二十條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國有財產ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者ハ正當ノ理

●國有財產法施行令

(大正十一年一月二十八日) (勅令第十五號)

第一章 總則

- 第一條 左ニ掲ケル動產及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財產法第一條ノ國有財產トス
 - 一 船舶、浮標、浮橋及浮船渠
 - 二 不動產又ハ前號ニ掲ケル動產ノ從物
 - 三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具
 - 四 地上權、地役權、礦業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スル權利
 - 五 株式及出資ニ因ル權利
- 第二條 各省大臣公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大臣ニテ通知シ特ニ大臣大臣ト協定シタルモノヲ除ク外用途廢止後遲滞シテ之ヲ大臣大臣ニ引續ケヘシ
- 第三條 前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財產タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財產トナスノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、製鐵所特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付テ之ヲ適用セズ(昭和二年勅令第四十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得

- 第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付テ之ヲ適用ス
- 第二十一條 雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サシムル者アル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財產ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第二十二條 前項ノ規定ニ依リ事業業者ヲ爲サシムル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要スル豫定期間事業業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第二十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業業者ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ事業業者其ノ事業ニ著手セザルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得
- 第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財產ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス
- 第二十五條 寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財產ハ其ノ用ニ供スル爲メ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラスニテ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコトヲ得
- 第二十六條 政府ハ國有財產ノ種類ニ從ヒ其ノ彙帳ヲ備ヘシ
- 第二十七條 彙帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第二十八條 政府ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財產増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財產現在額總計算書ヲ編製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會

報告スヘシ

前項ノ國有財產増減總計算書ニハ各省ノ國有財產増減報告書ヲ、國有財產現在額總計算書ニハ各省ノ國有財產現在額報告書ヲ添付スヘシ

附則

- 第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム大正十一年勅令第六十二號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行ス
- 第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公用財產ニ付テ之ヲ適用セズ
- 第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財產増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財產現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ編製スヘシ
- 第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ抵觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス
- 第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、第十六條乃至第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減變動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ適用ス
- 第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行為ハ本法中ニ之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス
- 第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定メヲ爲スコトヲ得

國有財産法施行令

賣拂、讓與及交換

境界査定 貸付及準貸付

第三條 各省大臣國有財産ノ管理換り受ケムトスルキハ所管大臣及大蔵大臣ニ協議スヘシ

第一 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大蔵大臣ノ定ムルモノニ該當スルキ

第二 公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルキ

第三 雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルキ

第四 營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルキ

第五 各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルキハ遲滞ナクシテ大蔵大臣ニ通知スヘシ

第六 前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬スヘキ財産ニ付テハ適用セス

第七 國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

要シタル費用ノ額ヲ超過スルキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十 公用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノノ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除ク外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調査ヲ作成スヘシ

第十二 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ適用ス

第十三 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途ノ之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ時期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルキハ此ノ限ニ在ラス

第十四 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルキハ隣接地所有者ノ申請アリタルキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五 境界査定ヲ施行セムトスルキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十六 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出タルキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

第十七 境界査定ヲ了シタルキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十八 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除ク外其ノ受領書ヲ徴スヘシ

第十九 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ進スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リテ之ヲ爲サシム

第二十 公用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調査ヲ作成スヘシ

第二十二 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ付テハ適用ス

第二十三 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシム

第二十四 前二條ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付テハ適用セス

第二十五 作業會計若ハ造船局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ又ハ製鐵所特別會計ノ固定財産ノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格又ハ財産價格ニ依ルヘシ(昭和二年勅令第四十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

第二十六 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘテ會計検査院ニ送付スヘシ

第二十七 會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第二十八 各省大臣ハ會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ

第二十九 各省大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

國有財産法施行令

賣拂、讓與及交換

境界査定 貸付及準貸付

第一 土地又ハ水面ノ所在及面積

第二 事業ノ目的

第三 事業施行ノ方法及順序

第四 成功豫定期間

第五 收支豫算

第六 計畫

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシム

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調査ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ適用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ム

天災其ノ他已ムラザル事由ニ因リ必要アリト認ムルキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ着手セシム

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付テハ適用ス

第二十七條 國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除ク外豫約ニ定メタル條項ニ進シテ其ノ契約ヲ爲ス

第二十八條 國有財産法第二十四條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ

第五節 稟帳

第三十條 國有財産ノ稟帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備フヘシ

第三十一條 國有財産ノ稟帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一 種目

二 所在又ハ所屬

三 數量

四 得喪變更ノ年月日及事由

五 其ノ他必要ナル事項

第三十二條 國有財産ノ稟帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リテ之ヲ定ム

一 土地ニ付テハ該地ノ時價ニ比シテ算定シタル金額

二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格

三 建築物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格

四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲グルモノハ見込價格

第三十三條 格、第五號ニ掲グルモノハ拂込金額又ハ出資金額

第三十四條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リテ之ヲ改定スヘシ但シ稟帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 前項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付テハ適用セス

第三十六條 作業會計若ハ造船局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ又ハ製鐵所特別會計ノ固定財産ノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格又ハ財産價格ニ依ルヘシ(昭和二年勅令第四十二號ヲ以テ本條ヲ改正)

第三十七條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘテ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十八條 會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十九條 各省大臣ハ會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ

第四十條 各省大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第四十一條 各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ

第六節 計算書及報告書

第四十二條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘテ會計検査院ニ送付スヘシ

第四十三條 會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第四十四條 各省大臣ハ會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八月三十一日迄之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ

第四十五條 各省大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第四十六條 各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ

第六節 計算書及報告書

第四十七條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲メ國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證書類ヲ添ヘテ會計検査院ニ送付スヘシ

第四十八條 會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

國有財産法施行令

賣拂、讓與及交換

境界査定 貸付及準貸付

第三十條 國有財産ノ稟帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備フヘシ

第三十一條 國有財産ノ稟帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

第三十二條 國有財産ノ稟帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リテ之ヲ定ム

之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ
大蔵大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ編製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除ク外國有財産ノ彙帳ニ關シ必要ナル事項ハ大蔵大臣ニ之ヲ定ム
第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ樣式及送付期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ
第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除ク外本令ニ定ムル計算書類ノ樣式ハ大蔵大臣ニ之ヲ定ム
第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ樣式ハ國防上秘密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附則

第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル
明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ遺蹟等修繕改築ニ關スル件
明治八年第四百四十六號達
明治八年第四百九十八號達
明治九年第四百六十六號達
明治十三年第六號達
明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ遺蹟外岸接近ノ官有地(家屋等建築)ニ關スル件
明治十四年第十號達
明治十六年第四十五號達

貨幣法

(明治三十年三月二十九日法律第十六號)

改正、明三九一法二六、明四〇一法六、大五一法八、大七一法四二、大九一法五、大一一一法七三

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ爾貨幣法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

貨幣法

第一條 貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス
第二條 純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト爲シ之ヲ圓ト稱ス
第三條 貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス(大正九年法律第五號ヲ以テ本條ヲ改正)
金貨幣
二十圓
十圓
五圓
銀貨幣
五十錢
二十錢
白銅貨幣
十錢
五錢
青銅貨幣
一錢
五厘

第四條 貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用キ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ厘ト稱ス

貨幣法

官有地特別處分規則
官有地管理規則
官有地取扱規則
明治二十四年勅令第十五號
明治二十七年勅令第九十二號
明治三十六年勅令第九十六號
明治三十九年勅令第二百一十號
明治四十一年勅令第二百十九號
明治四十二年勅令第七十號
大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除ク外第二條ノ規定ニ進シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大蔵大臣ニ引續クヘシ
第四十五條 本令施行ノ際國有財産ノ彙帳ニ登錄スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除ク外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル
第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ編製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大蔵大臣ニ送付スヘシ
第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除ク外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大蔵大臣ニ之ヲ定ム

附則 (昭和二年勅令第四十二號附則)
本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條

貨幣ノ品位ハ左ノ如シ
一 金貨幣 純金九百分參和銅一百分
二 銀貨幣 純銀七百二十分參和銅二百八十分(大正十一年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
三 白銅貨幣 「ニッケル」二百五十分參和銅七百五十分
四 青銅貨幣 銅九百五十分參和錫四十分鉛十分

第六條 貨幣ノ量目ハ左ノ如シ(明治三十九年法律第二十六號、同四十年法律第六號、大正五年法律第八號、同七年法律第四十二號、同九年法律第五號、同十一年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)
一 二十圓金貨幣 四又四分四厘四毛四
二 十圓金貨幣 二又二分二厘二毛二
三 五圓金貨幣 一又一分一厘一毛一
四 五十錢銀貨幣 一又三分二厘
五 二十錢銀貨幣 五分二厘八毛
六 十錢白銅貨幣 一又一分
七 五錢白銅貨幣 七分
八 一錢青銅貨幣 一又一分
九 五厘青銅貨幣 五分六厘

第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣ハ五圓マテ青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス(大正九年法律第五號ヲ以テ本條ヲ改正)
第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス
第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ
一 金貨幣二十圓ハ每片八毛六四一十枚每二八分三厘十圓ハ每片六毛零五一十枚每二六分二厘

第十一條

五圓八每片四毛三二一千枚每四分一厘トス大正五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)
二 銀貨幣五十錢ハ每片一厘七毛一十枚每二一又零分六厘六毛六二錢ハ每片一厘零毛七一十枚每五分三厘三毛三三トス(大正十一年法律第七十三號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十二條 金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四又四分二厘十圓金貨幣二又二分一厘五圓金貨幣一又一分零厘五毛トス(大正五年法律第八號ヲ以テ本條ヲ改正)
第十三條 金貨幣ニシテ磨損ノ爲ニ通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣白銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク磨損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額而價格ヲ以テ無手数料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ
第十四條 貨幣ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ模印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效用ナキモノトス

第十四條 金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フ者アルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應ズヘシ
附則
第十五條 從來發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ品位ニ通用スヘシ
第十六條 「從來發行ノ一圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ都合ニ依リ漸次之ヲ引換フヘシ」
「前項引換ノ結ニテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其ノ通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年內ニ引換ヲ請求セザルトキ爾後地金トシテ取扱フヘシ」
第十七條 從來發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通り通

貨幣法

用スヘシ

第十八條 此ノ法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但シ右期日以前ニ政府ニ輪納シタル銀地金ハ此ノ限ニ在ラス...

附則 (明治三十九年法律第二十六號附則) 本法ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス...

附則 (明治四十年法律第六號附則) 本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス...

附則 (大正五年法律第八號附則) 本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス...

附則 (大正七年法律第四十二號附則) 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス...

附則 (大正九年法律第五號附則) 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス...

附則 (大正十一年法律第七十三號附則) 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス...

遺失物法

改正、大正一法四

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル遺失物法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

遺失物法

第一條 他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ速ニ遺失者又ハ所有者其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差出ス...

第二條 警察官署ハ其ノ保管ノ物件滅失又ハ毀損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ相當ノ費用若ハ手數ヲ要スルトキハ命令ノ定ムル方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得...

第三條 拾得物ノ保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ物件ノ返還ヲ受クル者又ハ物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百二條ノ規定ヲ適用ス...

第四條 物件ノ返還ヲ受クル者ハ物件ノ價格百分ノ五ヨリ少カラス二十ヨリ多カサル報勞金ヲ拾得者ニ給ス...

其ノ他公ノ法人ハ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス...

遺失物法

三三三

法施行ノ日ヨリ廢止ス

遺失物法施行細則

(明治三十二年四月八日) (內務省令第四號)

遺失物法施行細則左ノ通ニテ定ム

遺失物法施行細則

- 第一條 遺失物法第一條ニ定メタル公告ハ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模様及拾得ノ場所、日時等成ルヘク其ノ物件ヲ知得スルニ足ルヘシト思料スル事項ヲ詳記シ十四日間最寄場示場ニ揭示シ仍貴重ノ物件ト認ムルトキハ官報又ハ新聞紙ニ掲載スルモトス
- 第二條 遺失物法第十條ニ依リ寄守者物件ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ警察官署ニ送付スルト同時ニ便宜最寄ノ場所ニ於テ物件ノ名稱、種類、數量、形狀、模様及拾得ノ場所、日時ヲ揭示スヘシ但シ揭示ノ場所ヲ有セザルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第三條 遺失物法第二條ニ依リ賣却ヲ要スル物件ニシテ高價ナリト認ムルモノハ公告シテ賣却ニ付スヘシ但シ即時ニ賣却セザレハ減失又ハ毀損ノ虞アル物件又ハ公告ノ后競買人ナキ物件ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 公告ハ其ノ地方慣行ノ方式ニ從ヒテ之ヲ爲シ且公告ニハ競買ニ付スル物件ノ名稱、種類、數量、擔任官吏ノ氏名、執行ノ場所、日時ヲ記スルヲ要ス
- 第五條 賣却物件ノ引渡ハ代金ト引換ヘテ之ヲ爲ス競買ノ場合ニ於テ最高價競買人競買當日ニ代金ノ支拂ヲ爲シテ物件ノ引渡ヲ求メザルトキハ更ニ其ノ物件ヲ競買スヘシ此ノ場合ニ於テハ前ノ最高價競買人ハ競買ニ加ハルコトヲ得ス
- 第六條 拾得ノ物件國庫ノ所有ニ歸シタルトキハ遺失物法第三條ニ依リ警察官署ヨリ支辨シタル保管費公告費其ノ他必要ナル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

古物商取締法

(明治二十八年三月六日) 法律第十三號

改正、明三三—法六〇、明三八—法二四

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ古物商取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

古物商取締法

- 第一條 古物商トハ主トシテ一度使用シタル物品若ハ其ノ物品ニ幾部ノ手入ヲ爲シタルモノヲ賣買交換スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ云フ
- 第二條 古物商ノ營業ヲ爲サムスル者ハ其ノ物品ノ種類ヲ定メ行政廳ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 古物商ハ免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄内ニ店舗ヲ設ケタルトキハ其ノ行政廳ニ届出ツヘシ
- 第四條 免許ヲ受ケタル行政廳ノ管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルトキハ更ニ其ノ地行政廳ノ免許ヲ受クヘシ
- 第五條 管轄以外ノ地ニ於テ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルニ非シテ賣買若ハ交換シタルトキハ古物商ニ非サル者ヨリ買受ケ若ハ讓受ケタル場合ニ限リ其ノ品目ヲ其ノ地ノ行政廳ニ届出ヘシ但シ官衙公署ノ公賣品及賣業者ヨリ買受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第六條 左ニ記載シタルモノニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第七條 古物ノ市場、行商、露店及露賣
- 第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具其ノ他危險ノ虞アル物品ノ賣買交換
- 第九條 古物商物品ヲ買受ケ若ハ交換セムトスルトキハ賣主、讓渡主ニ於テ其ノ物品ヲ處分スルノ權利ヲ有スルコトヲ確認

古物商取締法

シタル後之ヲ爲スヘシ若不正品ノ疑アルトキハ直ニ警察官ニ申告スヘシ

- 第七條 住所、氏名ノ詳ナル者ヨリ物品ヲ買受ケ又ハ交換スルコトヲ得但シ住所、氏名ノ詳ナル者其ノ證人タルトキ又ハ警察官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 傳染病毒ニ汚染シタル物品ナリト認ムルモノハ消毒シタル後ニ非サレハ買受ケ又ハ讓受ケルコトヲ得ス
- 第九條 前項ノ物品ニシテ警察官ニ於テ未ダ消毒セザルモノト認ムルトキハ直ニ消毒法ヲ施サシムルノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ官沒ス
- 第十條 贖物ニシテ特ニ識別シ得ヘキ物品ニ限リ警察官ハ品觸ヲ發スルコトヲ得
- 第十一條 贖物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日ヲ其ノ品觸寫書ニ附記スヘシ品觸到達以後六箇月内ニ品觸ニ相當スル物品ヲ買受ケ又ハ交換シ若ハ寄託ヲ受ケ若ハ其ノ以前ニ之ヲ得タル儘所持シタルトキハ直ニ警察官ニ届出ヘシ
- 第十二條 古物商物品ヲ賣買シ若ハ交換シタルトキハ其ノ物品及賣主、讓渡主ヲ帳簿ニ記載シ又ハ買主、讓渡主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ
- 第十三條 其ノ他帳簿ニ關スル規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第十四條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル帳簿ヲ廢棄セムトスルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第十五條 警察官ハ犯罪ノ嫌疑アル物品若ハ遺失物又ハ傳染病毒汚染ノ物品アリト認ムルトキハ何時タリトモ物品及帳簿ノ検査ヲ爲シ時宜ニ依リ其ノ物品ヲ差押ヘ又ハ帳簿ヲ差出サシムルコトヲ得
- 第十六條 警察官ニ於テ物品ヲ押收シタルトキハ領置證書ヲ交付スヘシ
- 第十七條 古物商法律命令ニ違反シ行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得
- 第十八條 禁止及停止ノ效力ハ全國ニ及フ

第十五條 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ他人ノ名義ヲ以テ古物商營業ヲ爲シ又ハ古物商ノ代理人タルコトヲ得ス停止ノ處分ヲ受ケタル者其ノ期限内亦同シ

- 第十六條 行政廳ハ何時タリトモ營業禁止ヲ解クコトヲ得
- 第十七條 古物商ノ買受ケ又ハ交換シタル物品ニシテ遺失物若ハ贖物ニ係ルトキハ營業者ヨリシタルトキハ警察官ニ於テ之ヲ徵收シ被害者ニ還付スルコトヲ得若被害者知レザルトキハ徵收シタル日ヨリ二箇年ノ後被徵收者ニ還付スヘシ明治三十三年法律第六十號ヲ以テ本條ヲ改正
- 第十八條 他ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ關スル古物商賣買交換シ特ニ此ノ法律ヲ適用スルノ必要アルモノハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十九條 左ニ掲ケル諸項ノ一ニ該當スル者ハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十條 一 第十三條ノ場合ニ於テ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ故意ニ物品、帳簿ヲ毀損シ失シタル者
- 第二十一條 二 第二條ノ免許ヲ受ケシテ營業ヲ爲シタル者
- 第二十二條 三 禁止又ハ停止中營業ヲ爲シタル者
- 第二十三條 四 第十五條ニ違反シタル者
- 第二十四條 第五條ノ規定ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
- 第二十五條 第六條、第七條、第八條、第十條、第十一條及第十二條ニ違反シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ハ刑法ノ「數罪俱發」ノ例ヲ用キス
- 第二十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責任ニ任ス
- 第二十八條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第二十四條 此ノ法律ハ明治二十八年九月一日ヨリ施行ス
(明治三十八年法律第二十四號ヲ以テ但書ヲ削除)
第二十五條 明治十六年第五十號布告古物商取締條例ハ
此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

●古物商取締法細則

(明治二十八年七月二十六日
內務省令第八號)

明治二十八年法律第十三號古物商取締法細則左ノ通り
之ヲ定ム

古物商取締法細則

第一條 古物商取締法及此ノ細則ニ規定シタル行政廳ノ職
權ハ東京府ニ於テハ警視總監北海道ニ於テハ北海道廳長
官其ノ他ノ府縣ニ於テハ知事之ヲ行フ
警視總監、北海道廳長官、府縣(東京府ヲ除ク)以下之ニ
做(知事ハ前項ノ職務ヲ警察署長、警察分署長、島司、
地役人若クハ名主ニ委任スルコトヲ得但シ營業ヲ禁止若ハ
停止シ又ハ營業ヲ禁止若クハ停止ヲ解クノ處分ハ此ノ限ニ
在ラス
第二條 左ノ營業者ニシテ隨時其ノ營業ニ屬スル古物ヲ賣買、
交換スルトキハ古物商取締法及此ノ細則ヲ遵守スヘシ
吳服商 金物商 袋物商 小間物商 籠甲商
時計商 飾 商 書籍商
其ノ他府縣令ヲ以テ定メタル商業
第三條 二箇以上ノ營業所又ハ店舗ヲ設ケタルトキハ營業主自
ラ管理スルモノ、外ハ管理人ヲ定メ其ノ地行政廳ニ届出
ヘシ
第四條 營業ノ廢止營業所又ハ店舗ノ閉鎖、移轉營業者及
後見人ノ族籍、住所、氏名ノ異動管理人ノ變更及後見人
終了ハ行政廳ニ届出ヘシ
後見人ノ變更ハ新後見人ヨリ營業者ノ死亡ハ相續人ヨリ
行政廳ニ届出ヘシ但シ死亡者非ハ主ナルトキハ其死亡ハ口
主ヨリ届出ヘシ

後見人ニ因リテ營業ノ免許ヲ願出又ハ後見人ノ變更ヲ届
出ルニハ其ノ後見ニ關シ町村長又ハ區戸長ノ證明書ヲ添
付スヘシ

第五條 古物商取締法第三條第四條第二項及前二條ノ届
出ハ事實ノ生シタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ古物
商取締法第四條第二項ニ依リ品目ノ届出ヲ要スル物品ヲ
其買受ケ若クハ讓受ケタル日ヨリ十日以内ニ他所ニ運搬シ
又ハ他人ニ交附セントスル場合ニ於テハ其ノ品目届出ハ運搬
又ハ交附ノ行爲ニ先ツヘシ又相續人ヨリ營業者ノ死亡ヲ届
出ルハ相續ノ日ヨリ十日以内ニ於テスヘシ
第六條 帳簿ノ種類及其ノ記載方ハ府縣令ヲ以テ之ヲ規
定スヘシ
第七條 帳簿ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ五日以内ニ其ノ事
由ヲ説明シ行政廳ニ届出ヘシ
第八條 古物商ニシテ行商ヲ爲シ又ハ露店ヲ出サントスル者ハ行
政廳ニ願出書ヲ受ケ之ヲ携帶スヘシ
家屋又ハ同居ノ雇人ニ限リ行商ヲ爲サシメ又ハ露店ヲ出サシ
ムルコトヲ得此場合ニ於テハ前項ノ手續ニ依リ書札ヲ受ケ之
ヲ携帶セシムヘシ
第九條 他人ニ貸與スルコトヲ得ス
第十條 古物ノ市場ヲ開設セントスル者ハ規約書ヲ添ヘ行政廳
ノ認可ヲ受ケヘシ
規約書ニハ開閉ノ時間、場所及發賣スヘキ營業者ノ住所、
氏名ヲ記載スヘシ
規約書ノ變更ハ其ノ都度行政廳ノ認可ヲ受ケヘシ
第十一條 行商、露店及市場ノ取引ニ付テ別ニ帳簿ノ規程ヲ要
スルトキハ府縣令ヲ以テ之ヲ規定スヘシ
第十二條 古物ノ讓賣ヲ爲サントスル者ハ豫メ其ノ日時及場所
ヲ行政廳ニ届出ヘシ
第十三條 古物商ハ露店、途上其ノ他公ノ場所ニ於テ古物商

ニ非サル者ヨリ古物品ヲ買取り讓受ケ又ハ交換スルコトヲ得
ス
第十三條 古物商ハ行商ニ依リ又ハ露店市場ニ於テ刀劍又ハ
之ヲ仕込ミタル器具ヲ賣買交換スルコトヲ得ス
第十四條 第三條第四條第一項第二項第七條第八條第九
條第十一條第十二條及第十三條ニ違背シタル者ハ二箇
以上十箇以下ノ罰金ニ處ス
第十五條 此細則ニ規定シタルモノ、外警視總監、北海道廳
長官及府縣知事ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

醫師法

(明治三十九年五月二日) 法律第四十七號

改正、明四二一法四四、大三一法三八、大八一法五七、大一一一法一

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル醫師法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

醫師法

第一條 醫師タルトスル者ハ左ノ資格ヲ有シ内務大臣ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

一 大學令ニ依ル大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ官立、公立若ハ文部大臣ノ指定シタル私立醫學專門學校醫學科ヲ卒業シタル者(大正八年法律第五十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

二 外國醫學科ヲ卒業シタル者又ハ外國ニ於テ醫師免許ヲ得タル者ニシテ命令ノ規定ニ該當スル者

三 醫師試験ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ノ卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ醫學專門學校ヲ卒業シ若ハ外國醫學科ニ於テ四箇年以上ノ醫學課程ヲ修了シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第一條 左ニ掲グル者ハ免許ヲ受クルコトヲ得ス 一 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者(同上本條ヲ改正)

二 未成年者、禁治產者、進禁治產者、癡者、啞者及盲者(同上第二號ヲ削除、第三號ヲ第二號ニ改ム)

第二條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者又ハ醫學專門學校ニ處セラレタル者ニハ免許ヲ與ヘサルコトアルヘシ(同上本條ヲ改正)

第四條 內務省ニ醫籍ヲ備ヘ醫師免許ニ關スル事項ヲ登錄スルニ依リテ之ヲ定ム

第五條 醫師ハ自ら診察セシメテ診斷書、處方等ヲ交付シ若ハ治療ヲ爲シ又ハ檢案セシメテ檢案書若ハ死産證書ヲ交付スルコトヲ得ス但シ診察中ノ患者死シタル場合ニ交付スル死亡診斷書ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(明治四十二年法律第四十四號ヲ以テ但書ヲ追加)

第六條 醫師ハ診察簿ヲ備ヘ十箇年間之ヲ保存スヘシ(同上本條ヲ改正)

第七條 醫師ハ何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス業務上學位、稱號及專門科名ヲ除ク外其ノ技能、療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス(同上本條ヲ改正)

第八條 醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡市區醫師會ヲ設立スヘシ

第九條 郡市區醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣醫師會ヲ設立スヘシ

第十條 郡市區醫師會及道府縣醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス(大正八年法律第五十七號ヲ以テ本條ヲ改正)

第十一條 郡市區醫師會ハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外郡市又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區域トス

第十二條 郡市區醫師會ハ其ノ出張所ニ於テ診察又ハ治療ニ從事スル醫師ハ其ノ出張所、治療所又ハ出張所ノ所在地ノ區域トス(同上本條ヲ追加)

第十三條 道府縣醫師會ハ道府縣區域トス

第十四條 道府縣醫師會ハ其ノ道府縣區域トス

第十五條 道府縣醫師會又ハ道府縣醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スヘキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十六條 道府縣醫師會ハ其ノ道府縣區域トス

第十七條 道府縣醫師會ハ其ノ道府縣區域トス

第十三條 本法施行前ノ醫術開業免狀ハ本法施行ノ後ト雖仍其ノ效力ヲ有ス

第十四條 本法施行前第一條第一項第一號ニ該當セザル官立、府縣立醫學科ヲ卒業シタル者ニハ第一條第一項ノ資格ヲ有スルモノ免許ヲ與フルコトアルヘシ

第十五條 本法施行前醫術開業免狀ヲ得タル者ハ本法施行ノ後ト雖醫業ヲ爲スコトヲ得但シ免許地域外ニ診察所、治療所又ハ其ノ出張所ヲ設クルコトヲ得ス

第十六條 本法施行後八箇年間ハ第一條第二項ノ規定ヲ適用セズ醫術開業試驗規則ニ依リ醫術開業試驗ヲ舉行ス

第十七條 依リ醫術開業前期試驗ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ屆出テ特ニ定メタル醫術開業後期受驗資格名簿ニ登錄スルヲ要ス

第十八條 受驗資格名簿ニ登錄シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫術開業試驗ヲ舉行ス

第十九條 前三項ノ試驗ニ合格シタル者ハ第一條第一項ノ資格ヲ有スル者ト看做ス

附則 (大正八年法律第五十七號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年勅令第四百二十八號ヲ以テ同年十月一日ヨリ施行ス)

本法ノ適用ニ付テハ帝國大學醫學科大學醫學科ヲ卒業シタル者ハ大學令ニ依リ大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ存スル醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月内

仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

附則 (大正十二年法律第一號附則)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年勅令第四百七十一號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行ス)

醫師法施行規則

(明治三十九年九月三日) 內務省令第二十七號

改正、明四二一內令一七、大八一內令一五

醫師法施行規則左ノ通定ム

醫師法施行規則

第一條 醫師免許ヲ受ケムトスル者ハ醫師法第一條第一項又ハ第二條第二項ノ規定ニ該當スル資格並住所、氏名ヲ記載シタル申請書三戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ住所、地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ提出スヘシ(明治四十二年內務省令第十七號ヲ以テ本項ヲ改正)

第二條 申請書ニ添ヘタル書類ハ醫師法第一條第一項ノ規定ニ該當スル者ト看做ス

第三條 醫師免許ニ關スル事項ハ左ノ如シ

一 登錄番號及登錄年月日

二 族籍(外國人ナルトキハ其ノ國籍)、氏名、生年月日及女子ナルトキハ其ノ旨

三 醫師法第一條第一項又ハ第十三條第二項ノ規定ニ該當スル資格及資格ヲ取得シタル年月

四 免許ノ取消、醫業ノ停止其ノ事由、期間及年月日

五 免許證ノ再下付其ノ事由及年月日

六 抹消ノ事由及年月日

第七條 醫師前條第二號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證及戸籍謄本又ハ戸籍抄本ヲ添ヘ三十日以内ニ住所、地方長官ヲ經由シ內務大臣ニ申請スヘシ(同上本項ヲ改正)

第八條 前條第三號ノ登錄事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ

記シ免許證ヲ添ヘ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ
 醫籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得
 前二項ノ場合ニ於テハ免許證ヲ書換ヘ下付ス
 第四條 醫師免許證ヲ毀損シ失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三
 十日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ内務大臣ニ再下
 付ヲ申請スヘシ
 前項免許證ノ再下付ヲ申請スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付
 スヘシ
 亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ其ノ地ノ地方
 長官ニ提出スヘシ
 第五條 第一條、第三條及第四條ノ申請ヲ爲ス者ハ登録稅
 又ハ手数料ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用スヘシ
 既ニ納付シタル登録稅又ハ手数料ハ之ヲ還付セズ
 第六條 醫師醫籍登錄ノ抹消ヲ申請セムトスルトキハ住所地ノ
 地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大臣ニ返納スヘシ
 醫師失職ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニ依ル屆
 出義務者ヨリ三十日以内ニ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
 第七條 醫師其ノ住所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ地方長官
 ニ届出ヘシ其ノ後稱ニ依リ管轄地方廳ヲ異ニシタルトキハ後ノ
 住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ大正八年内務省令第十五
 號ヲ以テ本條ヲ改正
 第八條 住所地ノ地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ旨ヲ
 後ノ住所地ノ地方長官ニ通知スヘシ(同上本項ヲ追加)
 第九條 醫師自己又ハ他人ノ診察所、治療所若ハ其ノ出張
 所ニ於テ營業ヲ開始シタルトキハ十日以内ニ住所地ノ地方
 長官ニ届出ヘシ其ノ之ヲ休止シ又ハ診察治療ノ場所
 ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ其ノ異動ニ依リ管轄地方廳
 ヲ異ニシタルトキハ後ノ住所地ノ地方長官ニ届出ヘシ(同上本
 項ヲ改正)

ノ旨ヲ前ノ所在地ノ地方長官ニ通知スヘシ(大正八年内務
 省令第十五號ヲ以テ本項ヲ追加)
 官立又ハ公立ノ病院ニ於テ診察治療ニ従事スル場合ハ第
 一項ニ依ルノ限ニ在ラス(同上本項ヲ改正)
 診察所又ハ治療所ト稱スルハ公衆ノ需ニ應ジ診察又ハ治療
 ヲ爲ス場所ヲ謂フ
 第九條 醫師死體又ハ四箇月以上ノ死産兒ヲ檢案シ異常ヲ
 リト認ムルトキハ二十四時間以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘ
 シ
 第十條 醫師ハ法令ノ規定ニ依リ必要アル者ニ正當ノ事由
 ナクシテ診察檢案書又ハ死産證書ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス
 (明治四十二年内務省令第十七號ヲ以テ本條ヲ追加)
 開業ノ醫師ハ診察治療ノ需アル場合ニ於テ正當ノ事由ナク
 シテ之ヲ拒ムコトヲ得ス(大正八年内務省令第十五號ヲ以
 テ本項ヲ追加)
 第九條之三 醫師ハ其ノ診察シタル患者ニ交付スル處方箋ニ患
 者ノ氏名、年齢、藥名、分量、用法、用量、處方ノ年
 月日ヲ記載シ及署名又ハ捺印スヘシ(明治四十二年内務
 省令第十七號ヲ以テ本條ヲ追加)
 第九條之四 醫師ハ診察簿ニ其ノ治療シタル患者ノ氏名、年
 齡、病名及療法ヲ記載スヘシ但シ其ノ不明ナルモノハ患者廢
 療ノ時其ノ旨ヲ記載スヘシ(同上本條ヲ追加)
 第十條 醫師其ノ診察治療スル患者ニ自ラ藥劑ヲ交付スルトキ
 ハ容器又ハ包紙ニ其ノ用法患者ノ氏名及診察所、治療所
 ノ名稱又ハ自己ノ氏名ヲ明記スヘシ
 第十一條 地方長官ハ醫師法第十條ノ處方ヲ必要ト認ムルト
 キハ内務大臣ニ具申スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ豫メ道府縣醫師會ノ意見ヲ徵スルコトヲ
 要ス(大正八年内務省令第十五號ヲ以テ本項ヲ追加)
 第十二條 醫師法第十條ニ依リ免許取消處分ヲ受ケタル者ハ

五日以内ニ住所地ノ地方長官ヲ經由シ免許證ヲ内務大
 臣ニ返納スヘシ
 第十三條 醫師法第十條ニ依リ停止處分ヲ受ケタル者ハ五日
 以内ニ免許證ヲ住所地ノ地方長官ニ提出スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ地方長官ハ其ノ要旨ヲ免許證ニ裏書シ
 捺印ノ上領置シ期間満了ノ後之ヲ還付スヘシ
 第十四條 左ニ掲タル場合ニ於テハ族籍、氏名、事由其ノ他必
 要ト認ムル事項ヲ官報ニ公告ス
 一 醫籍ニ登録シ又ハ抹消シタルトキ
 一 免許證再下付ノトキ
 第十五條 醫師法第十條ノ處分ヲ爲シタルトキ
 一 醫師法第一項、第四條第一項第三項、第六條
 第二項、第七條第一項及第八條第一項ニ違背シタル者ハ
 拾圓以下ノ科料ニ處ス(明治四十二年内務省令第十七
 號、大正八年内務省令第十五號ヲ以テ本條ヲ改正)
 第十六條 第九條、第九條之二、第九條之三、第九條之四、
 第十條、第十二條及第十三條第一項ニ違背シタル者ハ貳
 拾五圓以下ノ罰金ニ處ス(明治四十二年内務省令第十
 七號ヲ以テ本條ヲ改正)

附則

本則ハ明治三十九年法律第四十七號醫師法施行ノ日ヨリ
 之ヲ施行ス

●未成年者喫煙禁止法

(明治三十三年三月七日
 法律第三十三號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ未成年者喫煙禁止法ヲ裁可シ茲
 ニ之ヲ公布セム
 未成年者喫煙禁止法
 第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス
 第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ
 爲ニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス
 第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其ノ喫煙ヲ
 制止セザルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス
 親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リ
 テ處斷ス
 第四條 未成年者ニ其ノ自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草
 又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

未成年者喫煙禁止法

未成年者飲酒禁止法

●未成年者飲酒禁止法

(大正十一年三月三十日) (法律第二十號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル未成年者飲酒禁止法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

未成年者飲酒禁止法

- 第一條 未成年者ハ酒類ヲ飲用スルコトヲ得ス
未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者若ハ親權者ニ代リテ之ヲ監督スル者未成年者ノ飲酒ヲ知リタルキハ之ヲ制止スヘシ
營業者ニシテ其ノ業態上酒類ヲ販賣又ハ供與スル者ハ未成年者ノ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ得ス
第二條 未成年者カ其ノ飲用ニ供スル目的ヲ以テ所有又ハ所持スル酒類及其ノ器具ハ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ沒收シ又ハ廢棄其ノ他ノ必要ナル處置ヲ爲サシムルコトヲ得
第三條 第一條第二項、第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス
第四條 營業者カ未成年者又ハ禁酒產者ナルトキハ本法ニ依リテ之ヲ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
明治三十三年法律第五十二號 本法ニ依リ犯罪ニ之ヲ適用ス

本法ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●自動車取締令

(大正八年一月十一日) (內務省令第一號)

改正、大一一一內令四四

- 自動車取締令左ノ通之ヲ定ム
自動車取締令
第一條 本令ニ於テ自動車ト稱スルハ原動機ヲ用キ軌條ニ依ラズシテ運轉スル車輛ヲ謂フ
第二條 自動車ノ通行スル道路、區域又ハ時間ニ關スル制限ハ地方長官ノヲ定ム
第三條 自動車ノ最高速度ハ一時間十六哩トス但シ地方長官ハ道路、區域、時間又ハ自動車ノ種類ヲ指定シテ之ニ異ナル速度ヲ定ムルコトヲ得
第四條 自動車ハ左ノ各號ノ構造裝置ヲ具備スルコトヲ要ス
一 轆ハ護膜製ノモノタルヘキコト但シ貨車ニ在リテハ地方長官ノ定ムル所ニ依リテ之ニ異ナルモノヲ用ウルコトヲ得
二 各獨立ニ作用スヘキ二箇以上ノ制動機ヲ備フヘキコト
三 變速機ヲ備ヘ且運轉手ノ踏易キ箇所ニ速度計ヲ備フヘキコト
四 蒸氣、瓦斯又ハ油其ノ他爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ區、管及氣筒並電氣裝置等ハ堅牢ニ作リ漏洩又ハ危險ノ虞ナキモノタルヘキコト
五 運轉ニ際シ甚シキ騒聲ヲ發シ又ハ有臭若ハ有害ノ瓦斯若ハ煤煙ヲ多量ニ發散セザル構造タルヘキコト
六 車輛ノ總重量八百磅度以上ノ自動車ハ短半徑ヲ以テ容易ニ方向ヲ轉シ及逆行シ得ヘキ裝置ヲ有スヘキコト
七 適當ナル警響器ヲ備フヘキコト
八 車輛ノ前面ニハ二個以上、後面ニハ一箇以上ノ相

自動車取締令

常光カヲ有スル燈火ヲ備ヘ後面燈火ハ運轉手ノ座席ヨリ消燈シ得サル構造スヘキコト

- 第五條 營業用又ハ自家用ノ爲自動車ヲ使用セムトスル者ハ主タル使用地ノ地方長官ニ願出テ其ノ検査ヲ受クヘシ
商品トシテ自動車ヲ所持スル者ハ自動車所在地ノ地方長官ノ検査ヲ受クルコトヲ得
検査ニ合格シタルトキハ検査ノ證明ヲ爲シ車輛番號ヲ指示ス検査證明ノ爲検査證ヲ交付セラレタルトキハ車體内部ニ之ヲ標示スヘシ
第六條 自動車ノ主タル使用地ヲ變更シタルトキハ運轉手其ノ旨後ノ使用地ノ地方長官ニ届出テ更ニ車輛番號ノ指示ヲ受クヘシ
検査ニ合格シタル自動車ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ其ノ旨主タル使用地(商品トシテ讓受又ハ相續シタルモノニ在リテハ其ノ所在地)ノ地方長官ニ届出ツヘシ其ノ主タル使用地(商品トシテ讓受又ハ相續シタルモノニ在リテハ其ノ所在地)ノ検査ヲ受ケタル地ト異ナルトキハ更ニ車輛番號ノ指示ヲ受クヘシ
第七條 自動車ノ構造裝置ニシテ左ノ各號ノ部分ヲ變更シタルトキハ更ニ地方長官ノ検査ヲ受クヘシ
一 原動機
二 爆發性若ハ可燃性ノモノヲ容ルヘキ區、管
三 氣筒及曲柄
四 制動機、變速機及換向機
五 電氣裝置(電路ヲ除ク)
六 車蓋
七 車體
第八條 検査ニ合格シタル自動車ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ定ムル所ニ依リ検査又ハ試運轉若ハ運搬等ノ爲一時自動車ヲ使用スルハ此ノ限ニ在ラス
第九條 當該地方長官ハ定期又ハ臨時ニ自動車ノ検査ヲ行

ヒ必要ト認メタルトキハ使用ノ禁止ヲ命スルコトヲ得

- 第十條 營業用又ハ自家用ノ爲自動車ヲ使用スル者ハ其ノ構造裝置ニ付危者ヲ防止スルニ必要ナル注意ヲ爲スヘシ
第十一條 營業用又ハ自家用ノ爲自動車ヲ使用スル者其ノ使用ヲ廢止シタルトキハ地方長官ニ届出テ検査證ヲ返納シ其ノ他検査證明ノ取消ヲ受クヘシ
第十二條 自動車ニ依リ運輸ノ業ヲ營マムトスル者ニシテ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノハ營業地ノ地方長官其ノ他ノモノハ營業所所在地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ
第十三條 前條ノ規定ニ依リ營業ノ免許ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓受又ハ相續スルコトヲ得ス
第十四條 營業ヲ廢止シタルトキハ運轉手地方長官ニ届出ツヘシ但シ一定ノ路線又ハ區間ニ據ルモノニ在リテハ廢止前營業地ノ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
第十五條 運轉手タラムトスル者ハ主タル就業地ノ地方長官ニ願出テ其ノ免許ヲ受クヘシ免許ヲ與ヘタルトキハ免許證ヲ交付ス
第十六條 運轉手免許證ハ甲乙ノ二種トシ甲種免許證ヲ有スル運轉手ハ各種ノ自動車ヲ運轉スルコトヲ得乙種免許證ヲ有スル運轉手ハ特定又ハ特種ノ自動車ニ非サレハ之ヲ運轉スルコトヲ得ス
第十七條 運轉手免許ノ有効期間ハ五年トス
第十八條 十八歳未満ノ者
一 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者
二 其ノ他地方長官ニ於テ不適當ト認ムル者
三 運轉手ノ試驗ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ自動車ノ構造、

自動車取締令

取締規則及實地ノ技能ニ關シテ之ヲ行フ

第十六條ノ二 現ニ運轉手タル者ニシテ運轉手免許ノ有効期間満了後仍ホ引續運轉手タルトスル者ニ付テハ加給第一項各號ノ一ニ該當セス且相當按量アリト認メタル者ニ限リ前條ノ規定ニ拘ラス試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スル免許ヲ與フルコトヲ得(大正十二年內務省令第四十四號ノ以テ本條ヲ追加)

第十七條 運轉手免許證ハ就業中ニテ之ヲ携帶スヘシ

第十八條 自動車検査證又ハ運轉手免許證ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ其ノ再交付ヲ地方長官ニ願出ツヘシ

第十九條 自動車ノ検査證明ヲ毀損シタルトキ地方長官ニ願出テ更ニ其ノ證明ヲ受クヘシ

第二十條 左ニ掲グル場合ニ於テハ運轉手ハ運轉ナク免許證ヲ返納スヘシ

一 第二十七條ニ依リ免許ヲ取消又ハ就業ヲ停止セラレタルトキ

二 免許ノ有効期間ヲ經過シタルトキ運轉手死亡シ又ハ行能不明ト爲リタルトキ其ノ雇主、戶主又ハ家族ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 運轉手其ノ主タル就業地ヲ變更シタルトキハ五日內ニ免許證ノ寫ヲ添(後)ノ就業地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十二條 前條ノ届出ヲ受ケタル場合ニ於テ當該地方長官必要ト認ムルトキハ第十六條第二項ニ依リ試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ試験ニ合格セザルトキハ其ノ道府縣內ニ於ケル就業ヲ停止スルコトヲ得

第二十三條 運轉手ノ雇入レタル者ハ五日內ニ免許證ノ寫ヲ添(後)運轉手ノ氏名及住所ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

運轉手ノ解雇シタル者ハ十日內ニ運轉手ノ氏名ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十三條 車輛番號ハ車輛ノ前面及後面暗易キ箇所ニ標示スヘシ

後面車輛番號ハ夜間三十間ノ距離ニ於テ明瞭ニ認メ得ヘキ燈火ヲ以テ照射スヘシ

第二十四條 検査證及車輛番號ハ他ノ車輛ニ使用スルコトヲ得ス

第二十五條 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ運轉手ハ直ニ其ノ運轉ヲ停止スヘシ

前項ノ場合ニ於テ運轉手及其ノ他ノ從業者ハ被害者ノ救護其ノ他ニ付必要ナル應急ノ措置ヲ爲スヘシ但シ警察官吏在ルトキハ其ノ指示ニ從フヘシ

運轉手其ノ他ノ從業者ハ前項ノ措置ヲ了シ且各本人、雇主、自動車使用者ノ氏名、住所(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地)及車輛番號ヲ警察官吏ニ申告シ、警察官吏在ラザルトキハ被害者若ハ其ノ同伴者ニ同一事項ヲ通告スルニ非サレハ自動車ノ運轉ヲ繼續スルコトヲ得ス

前項後段ノ規定ニ從ヒ自動車ノ運轉ヲ爲シタルトキハ運轉手其ノ他ノ從業者ハ運轉ナク前各項ノ事實ヲ警察官吏ニ申告スヘシ

乘用者ハ運轉手其ノ他ノ從業者カ前四項ノ措置ヲ爲スニ付テハ妨グルコトヲ得ス

第二十六條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十二條ノ規定ニ依リ營業免許ヲ取消シ又ハ營業ヲ停止スルコトヲ得

一 正當ノ事由ナクシテ許可ノ日ヨリ百二十日以内ニ營業ヲ開始セザルトキ

二 營業ヲ繼續スルニ適セズト認メタルトキ

三 公安上危害ヲ生スル虞アリト認メタルトキ

四 營業免許ノ條件ニ違反シタルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十七條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ運轉手ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ就業ヲ停止スルコトヲ得

一 自動車ニ依リ人ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキ

二 第十六條第一項第二號又ハ第三號ニ該當スルニ至リタルトキ

三 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第二十八條 第八條、第十二條、第十三條、第十五條第一項第二項、第二十五條ノ規定ニ違反シタル者、又ハ第九條第一項、第二十六條及第二十七條ニ基キテ地方長官ノ處分ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金若ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二十九條 過失ニ因リ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第三十條 故意又ハ過失ニ因リ第五條第四項、第六條、第七條、第九條第二項、第十條、第十一條、第十四條、第十七條、第十九條、第二十條、第二十二條乃至第二十四條ノ規定又ハ第八條、第二十一條第二項ニ基キテ地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ第三條及第三條ニ基キテ地方長官ノ定メタル速度ヲ超過シテ自動車ヲ運轉シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス地方長官ノ定メタル期日ニ自動車ノ検査ヲ受クルコトヲ怠リタル者亦同シ

第三十一條 營業用又ハ自家用自動車ノ使用者ニシテ未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 法人ノ代表者其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ノ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人

トス

第三十三條 自動車(サイドカー)附ノモノヲ除ク及オトベツドノ類ニ付テハ其ノ運轉者ニ對シ第三條、第二十五條及其ノ罰則ノ規定ヲ適用スルノ外本令ヲ適用セズ

前項ノ外特種ノ自動車ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ規定ニ依リ構造裝置ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第三十四條 本令ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第三十五條 本令ハ大正八年二月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 本令施行前ニ於テ自動車營業ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行前ニ於テ自動車ノ検査又ハ運轉手ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令施行後東京府ニ在リテハ六箇月內ニ、其ノ他ノ地方ニ在リテハ三箇月內ニ本令ニ依リ検査又ハ免許ヲ受クヘシ

前項ニ依リ運轉手ノ免許ヲ願出テタル者ニ對シテハ地方長官ハ第十六條第二項ノ規定ニ依リ試験ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得

第三十七條 東京府ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監之ヲ行フ

自動車取締令

自動車取締令

間接國稅犯則者處分法

(明治三十三年三月十七日) 法律第六十七號

改正、明三七一法一一、明四一一法八

朕帝國議會ノ協賛ヲ經テ爾間接國稅犯則者處分法改正法律ヲ敕可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法

第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得
第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿ストル場所ニ檢査シ搜索ヲ爲スコトヲ得
第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調査スル爲ニ必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問スルコトヲ得
第四條 收稅官吏ハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必ク身分ヲ證明スヘキ證書ヲ携帶スヘシ
第五條 收稅官吏ハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得
第六條 收稅官吏ハ搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫、船車其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、雇人、鄰佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲ立會ハシムヘシ
第七條 前項ニ掲グル者其ノ地ニ在ラザルトキ又ハ立會ヲ拒ミタルトキハ其ノ地ノ警察官吏又ハ市町村吏員ヲ立會ハシムヘシ
第八條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目録ヲ作ルヘシ但シ所有者又ハ所持者ハ其ノ差押目録ノ謄本ヲ請求スルコトヲ得
第九條 差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ發シ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シ

但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ

第一條 收稅官吏ハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ頭末ヲ記載シ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ尋問ヲ受ケタル者署名捺印セシ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ
第二條 犯則事件ノ證據集取ハ事件發見地ヲ所轄スル稅務監督局又ハ稅務署ノ收稅官吏ニシテ爲ス
第三條 稅務監督局收稅官吏ノ集取シタル證據ハ之ヲ所轄稅務署收稅官吏ニ引續クヘシ
第四條 同一犯則事件ニ付數箇所ニ於テ發見セラレタル時ハ各發見地ニ於テ集取セラレタル證據ハ之ヲ最初ノ發見地所轄稅務署ノ收稅官吏ニ引續クヘシ
第五條 收稅官吏前各條ニ依リ檢査、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スヘキ所屬稅務監督局又ハ所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他ノ稅務監督局又ハ稅務署ノ管轄區域ニ於テ檢査、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲スル必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
第六條 稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調査ヲ必要トスルトキハ之ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ囑託スルコトヲ得
第七條 收稅官吏ハ犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ
第八條 收稅官吏ハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ差押物件ノ處分ニ關シテハ稅務署長ハ之ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法施行規則

(明治三十三年三月二十三日) 勅令第五十二號

改正、明三四一勅一七〇、明三五一勅一四五、勅二五三、明三七一勅九二、明三八一勅九、勅一三五、明四一勅四二、大元一勅一三、大三一勅一五三、大一一勅五二三、大一一一勅四〇

朕間接國稅犯則者處分法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法施行規則

第一條 間接國稅犯則者處分法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

- 一 酒造稅
二 酒精及酒精含有飲料稅
三 出港稅
四 麥酒稅
五 醬油稅(自家用醬油稅トモ)
六 砂糖消費稅
七 賣藥稅
八 印紙稅
九 骨牌稅
十 織物消費稅
十一 取引稅
十二 清涼飲料稅(大正十五年勅令第四十號ヲ以テ本號ヲ追加)

第二條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於

テ所有者、所持者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルトキハ之ニ封印ヲ爲シ若シハ其ノ他ノ方法ヲ以テ差押ヲ明白ニスヘシ

第三條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、箇數、差押ノ場所及時、所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ
第四條 收稅官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳又ハ市町村ニ送致スルトキハ差押目録ノ謄本ヲ其ノ所持者ニ交付スヘシ
第五條 收稅官吏市町村ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
第六條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ
第七條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第七條ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨ヲ差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ
第八條 收稅官吏檢査、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル頭末書ニハ檢査、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載スヘシ
第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ
第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ發スヘシ但シ配達證明便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得
第十一條 稅務署長間接國稅犯則者處分法第十九條ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添付シ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ
第十二條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印スヘシ文字ノ挿入、削除又ハ欄外ノ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ

間接國稅犯則者處分法施行規則

間接國稅犯則者處分法施行規則

認印スヘシ

文字ヲ削除ストキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載ス

第十三條 收稅官吏ハ直接ト間接トノ間ハ差押物件又ハ沒收物件ヲ買受クルコトヲ得ス

第十四條 本令中稅務署長ノ職務ハ總太ニ在リテハ總太廳支廳長之ヲ行フ

附則

本令ハ間接國稅犯則者處分法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (大正十五年勅令第四十號附則)

本令ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

計理士法

(昭和二年三月三十日 法律第三十一號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テ計理士法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

計理士法

第一條 計理士ハ計理士ノ稱號ヲ用ヒテ會計ニ關スル検査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條 左ノ條件ヲ具フル者ハ計理士タル資格ヲ有ス

一 帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ私法上ノ能力者タルコト

二 計理士試驗ニ合格シタルコト

計理士試驗ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士タル資格ヲ有ス

一 會計學ヲ修メタル經濟學博士又ハ商學博士

二 帝國大學若ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ會計學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ專門學校令ニ依ル專門學校ニ於テ會計學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

三 主務大臣ニ於テ前號ニ掲グル學校ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ會計學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ計理士タル資格ヲ有セス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未満ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未満ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十一條又ハ第十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三 破産者ニシテ復權ヲ得ザル者

四 計理士ノ業務ノ停止ノ期間中其ノ業務ヲ廢止シ未ダ其ノ期間ノ經過セザル者

五 計理士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケタル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情願者ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 計理士タル資格ヲ有スル者ハ登錄簿ニ登錄ラ受ケルコトヲ要ス

計理士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 計理士ノ登錄ラ受ケントスル者ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スベシ

第八條 計理士ハ其ノ業務ヲ公正ニ行フニ支障アリト認メラルル事項ニ付計理士ノ業務ヲ行フコトヲ得ズ

第九條 計理士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス

第十條 計理士本法ノ規定ニ違反シタル者又ハ品位ヲ失墜スベキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲ヲ爲シタル者ハ主務大臣ハ計理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

第十一條 計理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一 罰金

二 千圓以下ノ過料

三 一年以内計理士ノ業務ノ停止

四 計理士ノ業務ノ禁止

前項第二號ノ過料ヲ完納セザルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訟事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ執行ニ付之ヲ準用ス

第十二條 計理士又ハ計理士タルシ者故ナク其ノ業務上取扱ヒタル事項ニ付知得タル秘密ヲ漏泄シ又ハ濫用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ

第十三條 計理士タル資格ヲ有セスシテ計理士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 計理士タル資格ヲ有スル者其ノ登錄ラ受ケズシテ計理士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ千圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第十五條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和二年勅令第二百八十號ヲ以テ同年九月十日ヨリ施行ス)

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ二年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ二年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際迄引續キ一年以上會計ニ關スル検査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ノ業務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月以内ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士試驗委員ノ銜ヲ經テ計理士タルコトヲ得

帝國大學、大學令ニ依ル大學若ハ專門學校令ニ依ル專門學校又ハ主務大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ經濟ニ關スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒業タル者ニシテ引續キ三年以上以上會計ニ關スル検査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ノ業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ五年以内ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士試驗委員ノ銜ヲ經テ計理士タルコトヲ得

任官ノ外復職
 二 現役軍人ニ在リテハ任官又ハ入營若ハ入團、非現役軍人ニ在リテハ召集ニ依リ部隊編入又ハ志願ニ依リ軍人タル勤務ニ就クコト
 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命
 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命但シ巡査若ハ判任官ノ待遇受クル消防手警部補ニ任シ又ハ警部補巡査若ハ判任官ノ待遇受クル消防手ニ就職スルトキハハ任官ノ待遇受クルコト
 五 待選職員ニ在リテハ任命
 第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ
 一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
 二 現役軍人ニ在リテハ現役ヲ離ルルコト、非現役軍人ニ在リテハ召集セラレタル者ニ付テハ召集解除志願ニ依リ軍人タル勤務ニ服スル者ニ付テハ解職
 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職
 四 警察監獄職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職又ハ失職但シ警部補他ノ官職ニ轉シ又ハ他ノ官ヨリ警部補ニ轉シタルトキハハ任職ト看做ス
 五 待選職員ニ在リテハ免職、退職又ハ失職
 第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ准文官ノ就職及退職ニ付テハ準用ス
 第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ准教育職員ノ

就職及退職ニ付テハ準用ス
 進軍人ノ就職トハ職務、戒嚴地域内ノ勤務又ハ外國ノ鎮戍ニ服スルコトヲ謂フ
 第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヨリ以テ終ル
 退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前二一退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ起算ス
 第二十九條 公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル
 第三十條 軍人ノ恩給權ニ付テハ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十一年ニ達スル迄ハ軍人又ハ警察監獄職員以外ノ公務員トシテ在職年ハ其ノ四分ノ三ニ當ル年月數ヲ以テテ計算ス
 第三十一條 警察監獄職員ノ恩給權ニ付テハ在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ十年ニ達スル迄ハ警察監獄職員又ハ軍人以外ノ公務員トシテ在職年ハ其ノ三分ノ二ニ當ル年月數ヲ以テテ計算ス
 第三十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ左記各號ノ規定ニ依リ加算ス
 一 戰地ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付三月
 二 戰地外ニ在リテ職務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半
 前項ノ規定ハ公務員其ノ職務ヲ以テ戰等ニ進スヘキ事變ニ際シ職務ニ服シタル場合ニ付テハ準用ス
 戰等ノ期間及地域、職務ノ範圍並戰等ニ進スヘキ事變ハ勅

裁ヲ以テテ之ヲ定ム
 第三十三條 公務員外國ノ交戰又ハ擾亂ノ地域内ニ於テ危險ヲ顧ミ其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ在勤期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス
 前項ノ外禮ノ交戰又ハ擾亂ノ地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十四條 公務員戒嚴地域内ニ於テ危險ヲ顧ミ其ノ職務ヲ以テ勤務シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月ヲ加算ス
 前項ノ場合ニ於テ其ノ勤務ノ場所カ内國ナルトキハ加算年ハ其ノ二分ノ一トス
 第三十五條 公務員外國領成ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス
 第三十六條 航空機乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ航空勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付二月以内ヲ加算ス
 第三十七條 潜水艦乗員タル公務員其ノ職務ヲ以テ在役潜水艦ノ勤務ニ服シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月ヲ加算ス
 第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ亦同シ
 前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタルトキハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十九條 海上勤務ニ服スル公務員其ノ職務ヲ以テ遠洋航海ヲ爲シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス
 前項ノ遠洋航海ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從テ之ヲ算入ス
 加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ起算シ其ノ事由ノ止シタル月ヨリ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラルヘキ期間ニ對シテハ最も利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス
 第四十一條 左ニ掲グル年月數ハ在職年ヨリテ除算ス
 一 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年
 二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年
 三 在職中六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルトキニ至リタル月迄ノ在職年月數但シ刑ノ執行猶豫ノ旨渡ラ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ旨渡ラ取消セラレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルトキニ至リタル月迄ノ在職年月數
 四 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年月數
 五 官内職員トシテ在職年月數ニシテ官内官ノ恩給規程ニ依リ除算セラルヘキモノ
 第四十二條 左ニ掲グル年月數ハ在職年ニ通算ス
 一 官内官ノ恩給規程ニ依リ官内官恩給權ノ基礎ト爲ルヘキ官内職員トシテ在職年月數
 二 進軍人ノ在職年月數
 三 高等文官ノ候補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數
 四 進教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテ就職ニ接續スル其ノ勤續年月數ノ二分ノ一ニ相當スル年月數
 第二十八條、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ、第三

十條ノ規定ハ前項第一號第三號又ハ第四號ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年月數ノ計算ニ付テハ準用ス
 第四十三條 第三十二條乃至第四十條ノ規定ハ進軍人ノ在職年ノ計算ニ付テハ準用ス
 第四十四條 本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ進スヘキモノヲ謂フ本俸ニ進スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス
 第四十五條 公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス
 第四十六條 公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス
 公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具廢疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受ケタル增加恩給ヲ不具廢疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス
 前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ雖恩給審査會ニ於テ不具廢疾カ公務ニ起因シタルト顯著ナリト議決シタルトキハ決議後之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ改定ス
 公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前項三項ノ規定ニ依リ給ラ給セズ
 第四十七條 前條ノ規定ハ進文官、陸軍ノ見習士官海軍ノ候補生以外ノ進軍人又ハ進教育職員ニシテ在職中公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ

海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノニ付テハ準用ス
 第四十八條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス
 一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ
 二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
 三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ
 前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 前二項ノ規定ハ公務員ニ進スヘキ者ニ付テハ準用ス
 第四十九條 公務員公務ノ原因ヲ分ツテ戰闘又ハ戰闘ニ進スヘキ公務ト普通公務トス
 戰闘ニ進スヘキ公務ノ範圍及公務傷病ニ因ル不具廢疾ノ程度並教育職員、警察監獄職員、待選職員、進文官、進軍人及進教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第五十條 裁定官職ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具廢疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給又增加恩給ヲ給ス
 前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷病復舊回復セザル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス
 第五十一條 公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キキル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ
 一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀喪失ノ處分ニ因リ退職シタルトキ
 二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役

刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第二十六條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ後ノ公務員ラ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セズ

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ後ノ公務員ラ退職スルニ非サレハ之ニ恩給ヲ給セズ

第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル官内職員トシテ在職スルモノニ付テハ本法ニ依リ恩給ハ之ヲ給セズ

第五十四條 普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキ其ノ恩給ヲ改定ス

第五十五條 前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニハ前後ノ傷疾又ハ疾病ヲ合シテモノヲ以テ不具傷疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

ハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

一 後ノ傷疾又ハ疾病ノ期間又ハ職中前項ニ進スル公務員ニ起因スルトキハ別表第一號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具傷疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中其ノ不具傷疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

二 後ノ傷疾又ハ疾病ノ期間又ハ職中前項ニ進スル公務員ニ起因スルトキハ別表第二號表乙號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具傷疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具傷疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十六條 前二條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額ヲ以テ改定恩給ノ年額トス

第五十七條 前三條ノ規定ハ官内官ノ恩給規程ニ依リ恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付テ之ヲ準用ス

第五十八條 普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間ニ停止ス

二 六年未満ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ執行ヲ猶豫ノ言渡リ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セズ其ノ言渡リ取消セラレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

第五十九條 文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付ス

第六十條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

第六十一條 文官在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

第六十二條 教育職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

第六十三條 警察監獄職員在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテ在職年五年以上ナルヲ以テ是ル

第四十六條 第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十五年未満ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ津文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トス

第六十一條 軍人在職年十一年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ軍人在職年十一年以上ニシテ退職シ且其ノ身分ヲ免セラレタル場合ニ付テ之ヲ準用ス

前二項ノ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等及其ノ在職年數ニ依リ定メタル別表第一號表ノ金額トス

第六十二條 教育職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未満ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、實業補習學校、幼稚園又ハ盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテ勤続在職年十五年以上ノ者ニ付テハ其ノ勤続在職年中十五年ヲ控除シタル額ノ勤続在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第一項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテ勤続在職年十五年以上ノ者ニ付テハ其ノ勤続在職年中十五年ヲ控除シタル額ノ勤続在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十五年未満ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額トス

第六十三條 警察監獄職員在職年十年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十年以上十一年未満ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トシ十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ警察監獄職員トシテ勤続在職年十年以上ノ者ニ付テハ其ノ勤続在職年中十年ヲ控除シタル額ノ勤続在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第四十六條又ハ第五十四條第一項第二號若ハ第三號ノ規定ニ依リ在職年十年未満ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額トス

第六十四條 待遇職員在職年十五年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十五年以上十六年未満ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トシ十五年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第六十五條 公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具傷疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ進スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付テ之ヲ準用ス

一年以内之為一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス

傷病賜金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケズ

傷病賜金ノ額ハ退職當時ノ階等並傷病ノ原因及程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス

前項ノ傷病ノ程度ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六十七條 文官在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第六十八條 下士以上ノ軍人在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス但シ下士以上トシテノ在職年一年未満ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

第六十九條 教育職員在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第七十條 警察監獄職員在職年一年以上十五年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス

前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章 遺族

第七十一條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時ノ同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒トシテ出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十二條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二 普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相続人トシタル家督相續ノ順位ニ準シテ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニシ祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニシ

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限リ之ヲ適用ス

第七十四條 未成年ノ子ハ未ダ婚姻セサルトキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限リ之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依リ

一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者戰闘又ハ戰闘ニ準スヘキ公務員因ル傷疾疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ全額

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務員ニ因ル傷疾疾病ノ爲死亡シタルトキハ其ノ普通恩給年額ノ十分ノ八ニ相當スル金額

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五ニ相當スル金額

第七十六條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ付テハ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ

三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條 扶助料ヲ受クル者六年未満ノ遺族又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルトキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行ヲ取消サレタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セズ其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルトキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付テ之ヲ適用ス

第七十八條 扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルト

キハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條 前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條 遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ付テハ其ノ家ニ入リタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ付テハ其ノ家ニ入リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ

三 不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ又ハ成年ノ子ニ付テハ其ノ事情止ミタルトキ

第八十一條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姉妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姉妹未成年又ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限リ之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姉妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一分乃至五分ニ相當スル金額トス

第八十二條 文官、教育職員若ハ待遇職員在職年一年以上十五年未満ニシテ在職中死亡シ又ハ警察監獄職員在職年一年以上十五年未満ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡ノ當時ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

下士以上ノ軍人在職年一年以上十五年未満ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ死亡ノ階等及在職年ノ年數ニ依リ定メタル別表第四號表ノ金額トス

附則

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十四條 左ノ法令ハ之ヲ廢止ス

官吏恩給法

官吏遺族扶助法

軍人恩給法

市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法

府縣立師範學校校長俸給並公立學校職員退職料及遺族扶助料法

明治二十四年法律第 四 號

明治二十九年法律第 十三 號

官吏恩給法及官吏遺族扶助法補則

明治二十九年法律第 七十八 號

明治三十三年法律第 七十五 號

明治三十三年法律第 七十六 號

明治三十三年法律第 七十七 號

巡查看守退職料及遺族扶助料法

明治三十五年法律第 二十九 號

在外指定學校職員退職料及遺族扶助料法

明治四十年法律第 四十八 號

明治四十年法律第 四十九 號

明治四十一年法律第 三十五 號

明治四十四年法律第 六十一 號

明治四十四年法律第 六十七 號

第八十五條 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ恩給ト看做ス

從前ノ規定ニ依リ恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ恩給ト看做ス

明治四十五年法律第 十一 號

明治四十五年法律第 十二 號

大正 七年法律第 三十五 號

大正 十年法律第 九十四 號

大正 十一年法律第 十九 號

大正 十一年法律第 十九 號

明治二十二年勅令第 百三十三 號

明治二十三年勅令第 九十八 號

明治二十五年勅令第 三十二 號

明治二十五年勅令第 三十二 號

明治二十八年勅令第 百九十六 號

明治三十二年勅令第 百八十八 號

明治三十二年勅令第 百八十九 號

明治三十二年勅令第 百八十九 號

明治四十一年勅令第 七十一 號

明治四十四年勅令第 七十一 號

大正 七年勅令第 六十二 號

大正 十年勅令第 百六十八 號

大正 十一年勅令第 八十七 號

明治 九年勅令第 百八十四 號

明治十五年勅令第 九十九 號

明治十五年勅令第 九十九 號

明治十六年勅令第 三十八 號

明治十七年勅令第 一 號

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ進スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類並給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依リ恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ進スヘキモノニシテ本法ニ依リ恩給ニ該當セザルモノアルトキハ本法ニ依リ恩給中最近ノ性質ヲ有スルモノニ依リ

第八十六條 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ進スヘキモノヲ受クヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依リ請求期間ヲ經過セザルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條 第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退職料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ進スヘキモノニ付テハ本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第八十八條 從前ノ規定ニ依リ内閣總理大臣ノ爲シタル裁定ハ具申、訴願又ハ行政訴訟ニ付テハ本法ニ依リ内閣恩給局長ノ裁定ト看做シ從前ノ規定ニ依リ具申ノ裁決ハ之ヲ本法ニ依リ具申ノ裁決ト看做ス

本法施行ノ際現ニ具申中又ハ訴願中ノ事件ニ付テハ從前ノ手續規定ニ依リ之ヲ完結ス

第八十九條 府縣ニシテ本法施行ノ際市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法第十四條ノ規定ニ依リ小學校教員恩給基金ヲ備フルモノハ本法施行後引續キ其ノ恩給基金ヲ備フルコトヲ得

前項ノ恩給基金ヲ備フル府縣ニ於テハ第十八條第二項ノ

規定ニ依リ納金ハ之ヲ其ノ恩給基金ト爲スヘシ

恩給基金ハ其ノ利子ヲ以テ府縣カ給與スヘキ教育職員若ハ進教育職員又ハ其ノ遺族ノ恩給ニ充ツルノ外之ヲ支消スルコトヲ得ス

府縣ニ於テ給與スヘキ教育職員若ハ進教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ恩給基金ノ利子及第十八條第三項ノ規定ニ依リ國庫ヨリ交付スル給與金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨シ不足アルトキハ府縣費ヲ以テ之ヲ補充スヘシ

恩給基金ノ管理ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依リ但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職年限ヲ本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定ムラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州(關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道所屬地ヲ含ム)、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在職シタルトキハ當分ノ在職期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在職スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ六月、警察監獄職員ニ在リテハ二年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ三年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ適用ス

第九十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ在職期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ適用ス

第九十三條 海軍警吏補ヨリ海軍巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ現ニ南洋羣島巡查ノ職ニ在リモノニ付テハ其ノ海軍警吏補トシテ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十四條 朝鮮總督府巡查補ヨリ朝鮮總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ在職年數及朝鮮總督府巡查補トシテ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十五條 臺灣總督府巡查補ヨリ臺灣總督府巡查ト爲リシ者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ在職スルモノニ付テハ其ノ臺灣總督府巡查補トシテ在職年月數ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ巡查トシテ在職シタルモノト看做ス

第九十六條 大正九年七月三十一日以前ニ休職若ハ待命ト爲リタル者ニシテ本法施行ノ際迄引續キ休職若ハ待命中ノモノ又ハ其ノ遺族同日以前ノ俸給ニ基キ年金額ヲ恩給ヲ受クヘキ場合ニ於テハ其ノ金額算出ノ基礎タル俸給年額ハ其ノ額ニ勅令ノ定ムル金額ヲ加ヘタル額トス

第九十七條 第四十六條第二項第三項及第五十四條第一項第三號第二項ノ規定ハ本法施行前退職シタル公務員ニ付之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ公務員ニ進スヘキ者ニ付之ヲ適用ス

前二項ノ規定ニ依リ給與スル恩給ノ金額ハ本法施行前ノ分ニ付テハ從前ノ規定ニ依リ

第九十八條 第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具痾疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セズ仍從前ノ例ニ依リ

第九十九條 第五十八條ノ規定ハ教育職員及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ付テハ當分ノ内之ヲ適用セズ其ノ退職料又ハ恩給ノ停止ハ仍從前ノ例ニ依リ但シ教育職員

及教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官學習院ノ職員ト爲リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ノ施行シタル期間内ニ屬スル教育職員ノ在職年ト教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ公務員ノ在職年トハ互ニ之ヲ通算ス仍從前ノ例ニ依リ教育職員ノ在職年ト第四十二條第一項各號ニ掲グル在職年トノ間ニ付亦同シ但シ學習院ノ職員トシテ在職年ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ノ施行シタル期間内ニ文官ヨリ教育職員又ハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官ニ轉任シタル者失格原因ナクシテ退職シ年金額ヲ恩給ヲ受ケザル場合ニ於テハ文官ノ在職年數ニ應ジシニ一時恩給ヲ給ス

教育職員ヨリ文官ニ轉任シタル者教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官以外ノ文官トシテ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ教官其ノ他教育事務ニ從事スル文官トシテ在職最終ノ俸給額ニ基キ之ニ恩給ヲ給ス

本法施行前死亡シタル者ノ遺族ノ扶助料ニシテ本法施行後轉給セザルヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依リ恩給額ヲ標準トスルノ外本法ニ依リ之ヲ給ス

前項ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ扶助料

ヲ受ケル事ヲ得ル者ノ權利ヲ妨クルコトナシ

本法施行前ニ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有シ且其ノ權利ヲ有セザルニ至リタル者ハ之ヲ受ケルノ權利ヲ本法ニ依リ取得スルコトナシ

第一項ノ場合ニ於テ本法ニ依リ扶助料ヲ受ケルニ付先順位ニ在ルヘキ者ト雖本法ニ依リ後順位ニ在ル者先ニ扶助料ヲ受ケタル場合ニハ本法ニ依リ扶助料ヲ受ケルノ權利ヲ有スルコトナシ

大正六年法律第六號附則ノ規定ニ依リ恩給ノ増額ヲ受ケザリシ軍人ノ遺族ハ本法施行後扶助料ヲ轉給セザルヘキ場合ニ於テ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ軍人ノ恩給ハ之ヲ請求スル英法ニシテ同法附則ノ規定ニ依リ増額セザルモノト看做ス

第九十條 本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依リ年金額ヲ恩給、退職料、遺族扶助料其ノ他之ニ進スヘキモノヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケザルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ勅令ノ定ムル所ニ依リ増給ス

第九十一條 明治二十四年八月十六日以降明治四十三年三月三十一日迄ニ退官退職シ又ハ死亡シタル文官、看守、

陸軍監獄看守、海軍監獄看守、陸軍警査、海軍警査、貴族院守衛若ハ衆議院守衛又ハ其ノ遺族ニシテ明治四十四年四月改正前ノ俸給令ニ依リ俸給ヲ基礎トシ恩給又ハ扶助料ヲ受ケ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スル者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ恩給又ハ扶助料ヲ本法施行ノ日ヨリ増額給與ス

前項ノ規定ハ明治四十四年三月三十一日以前ニ退職シタル小學校、實業補習學校、幼稚園及盲啞學校其ノ他ノ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員若ハ巡查又ハ其ノ遺族ニシテ本法施行ノ際迄其ノ權利ヲ有スルモノニ付之ヲ適用ス

第九十二條 北海道屯田兵ノ現役ニ服シタル年月日數ハ之ヲ公務員ノ在職年ニ通算シ本法施行ノ日ヨリ其ノ受ケタル年金額ヲ恩給額ト改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給額ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金額扶助料ニ付之ヲ適用ス

前二項ノ場合ニ於テハ第五條ニ規定スル請求期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第九十三條 第八十五條乃至前條ニ規定スルモノヲ除外ノ外本法ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(第一號表)

在職年數	將官及相當官					佐尉官及相當官					准士官					下任官					兵卒					
	親任	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	一等	二等	三等	四等	一等兵	二等兵	三等兵	四等兵	陸軍一等卒	陸軍二等卒	陸軍三等卒	陸軍四等卒	海軍一等兵	海軍二等兵	海軍三等兵	海軍四等兵	
十一年	11,000	11,100	11,200	11,300	11,400	11,500	11,600	11,700	11,800	11,900	12,000	12,100	12,200	12,300	12,400	12,500	12,600	12,700	12,800	12,900	13,000	13,100	13,200	13,300	13,400	13,500

恩給法 附則 別表

員(市費ヲ以テ置キタルモノヲ除ク)
 十六 關東州地方待遇職員令ニ依ル地方ノ産業、土木又ハ衛生ニ關スル事務又ハ技術ニ從事スル職員
 第十七條 恩給法第二十四條第四號ノ待遇職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ
 一 造船醫及專賣醫(昭和二年勅令第三百六十二號ヲ以テ本號ヲ追加、第一號ヲ第二號トシ以下順次繰下シ)
 二 陸軍ノ通譯ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
 三 靖國神社附屬遊就館職員ニシテ判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
 四 鐵道醫
 五 北海道廳事業手
 六 朝鮮ニ於ケル監獄ノ藥劑師、鐵道醫及鐵道藥劑師並ニ監獄ニ於ケル警察醫(大正十五年勅令第三百四號ヲ以テ本號ヲ改正)
 七 臺灣又ハ關東州ニ於ケル検査員及檢疫醫員
 第十八條 恩給法第三十二條第一項第一號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リノ外左ノ各號ノ例ニ依ル
 一 戰爭開始後戰地ニ到リタル者ニ付テハ戰地ニ到ルヘキ事由ノ生シタル當時所在ノ地ノ屬スル地域ヲ離レタル月ヨリ加算ス
 二 戰爭中戰地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ其ノ歸還スヘキ地ノ屬スル地域ニ到リタル月迄加算ス
 前項ノ地域トハ内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州、南洋群島及之ニ連スヘキ外國ノ地區ヲ謂フ
 恩給法第三十二條第一項第二號ノ規定ニ依リ從軍加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依ル

ノ外左ノ各號ノ例ニ依ル
 一 勤員(之ニ連スルモノヲ含ム)部隊ニ編入セラレタル者ニ付テハ編入ノ月、勤員(之ニ連スルモノヲ含ム)下令前ヨリ其ノ部隊ニ在リタル者ニ付テハ其ノ下令ノ月ヨリ加算ス
 二 戰爭開始後戰務ニ服スヘキ地ニ到リタル者及戰事中共ノ地ヨリ歸還シタル者ニ付テハ前二項ノ規定ヲ適用ス
 前二項ノ規定ハ恩給法第三十二條第二項ノ規定ニ依リ加算ニ付テテ適用ス
 第十九條 恩給法第三十五條ノ規定ニ依リ編成加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ同法第四十條第二項ノ規定ニ依リノ外公務員編成ノ爲メ内國ヲ出發シタルキハ内國ヲ離レタル月ヨリ加算シ編成ノ終了後直ニ内國ニ歸還シタルキハ内國歸著ノ月迄加算ス
 第二十條 恩給法第三十六條ノ規定ニ依リ航空加算ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ左ノ区分ニ依ル
 一 同月内ニ於テ飛行時數五時間以上飛行機ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルキ又ハ航空機ニ搭乗シ特ニ危險ト認ムル航空試験ニ從事シタルキハ其ノ一月ニ付一月半
 二 同月内ニ於テ飛行時數一時間以上飛行機ニ搭乗シ又ハ五時間以上航空船、航行中ノ船舶乗留ノ氣球若ハ自由氣球ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルキハ其ノ一月ニ付一月
 三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外航空機ニ搭乗シ航空勤務ニ服シタルキハ其ノ一月ニ付半月
 第二十一條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ加算スヘキ邊疆又ハ不健康ノ地域及其ノ加算ノ程度ハ別表第二號表ニ依リ第十六條 邊疆又ハ不健康ノ地域ノ加算ハ在勤地外ノ地ヨリ

其ノ在勤地ニ赴任シタル者ニ付テハ在勤地ニ到リタル月ヨリ、其ノ在勤地ニ在リテ就職シタル者ニ付テハ就職ノ月ヨリ起算シ其ノ在勤地ニ在勤中引續キ九十日以上其ノ地域ヲ離レタルキハ全ク地域ヲ離レタル月ニ對シテハ邊疆又ハ不健康ノ地域ノ加算ヲ爲サス
 第二十二條 恩給法第三十八條ノ規定ニ依リ不健康業務ノ加算ハ一月ニ付半月トス其ノ業務左ノ如シ
 一 有毒ノ瓦斯若ハ蒸氣、爆藥類又ハ危險ナル細菌ノ研究又ハ製造ニ直接ニ從事スル勤務ニシテ内閣總理大臣ノ指定スルモノ
 二 排水量千噸以下ノ在役ノ驅逐艦若ハ掃海艇乗員トシテノ勤務又ハ鐵道事業ニ於ケル蒸氣機關車乗員トシテノ現業勤務
 三 炭坑内切羽ニ於ケル連續ノ現業勤務
 四 肺結核、喉頭結核又ハ癩ノ患者ヲ收容スル病室ニ於テ直接看護ニ從事スル勤務
 前項ノ規定スル業務ニ從事中引續キ三十日以上服務セサルキハ全ク服務セサル月ニ對シテ不健康ノ業務ノ加算ヲ爲サス
 第二十三條 恩給法第三十九條ノ遠洋航海トハ北緯五十度以北、東經六十度以東、東經六十度北緯四十度ノ點ト東經四十度北緯二十度ノ點トヲ連結スル線ノ以東以南、北緯二十度以南及東經百十度以西ノ海面ヲ航行シ一航程千哩ヲ超ユル航海ヲ謂フ
 第二十四條 航海加算ハ初發港出發ヨリ之ニ歸著シ又ハ到港港ニ達スル迄ノ期間ニ對シテノ爲メ但シ出發ニ當リ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ヲ離レタル月ヨリ加算シ歸著ニ際シ内國港灣ニシテ前條ノ海面ニ在ラサルモノヲ經由スル場合ニ於テハ其ノ港灣ニ到著シ

タル月迄加算ス
 航海中引續キ三十日以上航行セザルトキハ全ク航行セザル月ニ對シテハ航海加算ヲ爲サス
 第二十五條 恩給法第四十四條ノ本條ニ連スヘキモノトハ左ニ掲クルモノヲ謂フ
 一 一年功ニ因ル加算
 二 府縣知事ノ指定地加算
 三 官立又ハ公立ノ大學ノ教授又ハ助教教授ノ職務係第一號ニ掲クルモノヲ除クノ外市町村立小學校教員加算令ニ依リ加算
 四 警察監獄職員ノ補助加算及功勞加算
 五 警察監獄職員ノ補助加算及功勞加算
 第二十六條 恩給法第四十八條第一項第一號ノ規定スル流行病及地域ハ別表第三號表ニ依ル
 第二十七條 恩給法第四十八條第一項第二號ノ流行病ノ種類左ノ如シ
 一 マラリア(黒熱ヲ含ム)
 二 猩紅熱
 三 コレラ
 四 脚氣
 五 發疹チフス(戰地ニ限ル)
 六 癩疹チフス
 七 パラチフス
 八 ベルチス
 九 同歸熱
 十 流行性腦脊髄膜炎
 十一 流行性腦脊髄膜炎
 十二 流行性感冒
 十三 肺炎
 十四 トリパノゾーム病
 十五 ワイルス氏病

十六 カラアザル熱
 第十七 黃熱
 第十八條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ戰闘ニ連スヘキ公務員ノ傷疾疾病トハ左ニ掲クルモノヲ謂フ
 一 戰地ニ於テ勤務中敵ノ設置若ハ遺棄シタル危險物ニ因リ又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因リ傷疾疾病ノ傷疾疾病
 二 敵對行動ニ因リ又ハ敵對行動中ノ不可抗力ニ因リ外國ノ交戦若ハ擾亂ノ地域内ニ於テ勤務中又ハ該地域内ノ職務ヲ以テ旅行中ニ於ケル該交戦又ハ擾亂ニ因リ傷疾疾病
 三 航空機ニ乘シ航空勤務中又ハ潜水艇ニ乘シ潛航勤務中ノ不可抗力ニ因リ傷疾疾病
 四 職務ヲ以テ兇賊又ハ脱獄囚ヲ逮捕スルニ當リ危害ヲ加ヘタルキモ豫斷シ得ルニ拘ラス危險ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル爲メ加ヘラレタル傷疾疾病
 五 職務ヲ以テコレラ又ハバスターノ防夜、診察又ハ看護ニ直接從事シテ力ヲ爲シタル該疾病
 第二十九條 恩給法第四十九條第二項ノ規定ニ依リ不具履疾ノ程度ヲ分テ左ノ七項トス
 特別項症
 一 常ニ就床ヲ要シ且復雜ナル介護ヲ要スルモノ
 二 重大ナル精神障礙ノ爲メ監視又ハ復雜ナル介護ヲ要スルモノ
 三 身體諸部ノ障礙ヲ綜合シテ其ノ程度第一項症ニ第一項症乃至第六項症ヲ加ヘタルモノ
 一 復雜ナル介護ヲ要セザルモ常ニ就床ヲ要スルモノ
 二 精神的又ハ身體的作業能力ヲ失ヒ僅ニ自用ヲ辨シ

得ルニ過キサルモノ
 一 咀嚼及言語ノ機能ヲ併セ喪シタルモノ
 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
 三 肘關節以上ニテ兩上肢ヲ失ヒタルモノ
 四 腕關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ
 五 腕關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ
 六 足關節以上ニテ兩下肢ヲ失ヒタルモノ
 第三項症
 一 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
 二 兩眼九ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 肘關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
 四 腕關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ
 五 兩耳ノ聽力カ耳鼓ニ接セザルハ大聲ヲ解シ得サルモノ
 第四項症
 一 泌尿器ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
 二 兩眼ノ視力カ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
 三 腕關節以上ニテ一上肢ヲ失ヒタルモノ
 四 足關節以上ニテ一下肢ヲ失ヒタルモノ
 第五項症
 一 鼻ヲ失ヒ其ノ機能ニ大ニ妨アルモノ
 二 頭部、顔面等ニ大ナル畸形ヲ殘シタルモノ
 三 一眼ノ視力カ視標〇・一ヲ〇・五メートル以上ニテ

恩給法施行令

八辨別シ得サルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第六項 一 頸部又ハ軀幹ノ運動ニ大ニ妨アルモノ
 二 一側ノ視力カ視標〇・一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ
 三 一側指及示指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 前項ノ各症ニ該當セザル傷疾ノ症項ハ前項ノ規定ニ準シテ査定ス
 視力ヲ測定スル場合ニ於テハ屈折異常ノモノニ付テハ矯正視力ニ依リ視標ハ萬國共通視力標ニ依ル
 第二十五條 進士官ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テハ階等ハ左ノ區分ニ依ル
 一 高等官ノ候補ハ判任官一等トシ判任官見習ハ同階等トス
 二 國庫ヨリ俸給ヲ受ケル官ニ在ル者ニ付テハ其ノ官等級ニ依ル
 第二十六條 進士官ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テハ階等ハ左ノ區分ニ依ル
 一 陸軍ノ見習士官及海軍ノ候補生ハ判任官一等トス
 二 前號ニ掲ケザル陸軍ノ士官候補生、陸軍士官學校生徒、海軍兵學校生徒、海軍機關學校生徒、海軍經理學校生徒及海軍豫備生徒ハ判任官三等トス
 三 前二號ニ掲ケザル陸海軍諸生徒及海軍豫備練習生ノ階等ハ兵卒ニ進ス
 第二十七條 教育職員及進教育職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テハ階等ハ左ノ區分ニ依ル

一 教育職員ノ階等ハ其ノ官等級又ハ待遇官等級ニ依リ判任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇受クルモノ官等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等級ニ依ル
 二 進教育職員ノ階等ハ公立學校職員待遇官等級令別表第二表ノ例ニ準ス
 第二十八條 警察監獄職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テハ階等ハ判任官四等トス但シ警察部補ハ其ノ等級ニ依ル
 第二十九條 待遇職員ノ公務傷病ノ規定ノ適用ニ付テハ階等ハ其ノ待遇官等級ニ依リ判任官、奏任官又ハ判任官ノ待遇受クルモノ官等級ノ定ナキ者ハ各其ノ最下位ノ官等級ニ依ル
 第三十條 恩給法第六十二條第五項ニ規定スル中學校下同等以下ノ程度ノ學校トハ左ニ掲ケルモノヲ謂フ
 一 師範學校
 二 高等女學校
 三 專門學校令ニ依ラザル實業學校(實業補習學校ヲ除ク)
 四 中學校又ハ前二號ニ掲ケル學校ニ進スヘキ學校
 五 實業補習學校教員養成所
 六 朝鮮又ハ臺灣ニ於ケル中學校又ハ第一號乃至第三號若ハ第五號ニ掲ケルモノニ進スヘキモノ
 七 在外指定學校ニシテ中學校又ハ第一號乃至第三號ニ掲ケル學校ニ進スヘキモノ
 第三十一條 恩給法第六十六條第四項ノ規定ニ依リ傷病ノ程度ヲ分テ左ノ十款トス
 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側ノ視力カ視標〇・一メートル以上ニテハ辨別シ得サルモノ

三 一耳ノ聽力カ耳鼓ニ接セザレハ大聲ヲ解シ得サルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第三十二條 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第三十三條 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第三十四條 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第三十五條 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第三十六條 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第三十七條 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第三十八條 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 第三十九條 一 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 三 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ
 四 一側指ヲ全ク失ヒタルモノ

第八款症

一 一側小指ヲ全ク失ヒタルモノ
 二 一側第三趾乃至第五趾ノ中二趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
 第九款症 一 一側ノ視力カ〇・二三滿タサルモノ
 二 一耳ノ聽力カ一メートル以上ニテハ四語ヲ解シ得サルモノ
 三 一側小指ノ機能ヲ廢シタルモノ
 四 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ヲ全ク失ヒタルモノ
 第十款症 一 一側第三趾乃至第五趾ノ中一趾ノ機能ヲ廢シタルモノ
 二 前號ノ各症ニ次ク症ヲ殘シタルモノ
 第二十四條 第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ傷病ノ程度ノ査定ニ付テハ適用ス
 第二十五條 第十六條ノ規定ハ恩給法第九十一條又ハ第九十二條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ノ計算ニ付テハ適用ス
 第二十六條 恩給法第九十六條ノ規定ニ依リ在職最終俸給年額ニ增加スヘキ金額ハ別表第四號表ノ區分ニ依ル
 第二十七條 恩給法第九十九條ノ教育事務ニ從事スル文官トハ左ニ掲ケルモノヲ謂フ
 一 官立ノ學校又ハ圖書館ノ職員
 二 文部省官吏
 三 教育事務從事ノ北海道廳、府、縣、郡、島廳、朝鮮總督府、朝鮮總督府道府郡島、臺灣總督府、臺灣總督府州廳郡市、樺太廳、開東廳又ハ南洋廳ノ官吏

四 臺灣公立學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケルモノ
 五 教育事務從事ノ從前ノ區、統監府又ハ關東都督府ノ官吏
 第三十五條 廢官、廢職、廢職若ハ官職名改定ノ際其ノ廢改ニ係ル官職ニ在リタル者又ハ定員ノ減少ニ因リ退職シタル者即日又ハ翌日他ノ官職ニ任セラレタルトキ恩給法ノ適用ニ付テハ之ヲ動線ト看做ス大正十五年勅令第三百四號ヲ以テ本條ヲ改正
 第三十六條 恩給法第一百條ノ規定ニ依ル增額ハ左ノ區分ニ依ル
 一 軍人以外ノ公務員ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル俸給力大正九年七月三十一以前ノ俸給令ニ依ルモノナルトキハ別表第四號表ノ區分ニ依リ增加シタル金額ヲ俸給年額ト爲シ、其ノ他ノモノナルトキハ在職最終ノ俸給年額ヲ基礎トシテ恩給法第六十條、第六十二條、第六十三條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス
 二 軍人又ハ進軍人ノ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ別表第五號表ニ依リ當該軍人又ハ進軍人ノ階等ヲ定メ恩給法第六十一條及第七十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ普通恩給又ハ扶助料ノ年額トス
 三 增加恩給ノ年額ヲ更正スル場合ニ於テハ退職當時ノ階等並別表第六號表ニ依リ定メタル傷病ノ原因及不具廢疾ノ程度ニ從ヒ恩給法第六十五條ノ規定ニ依リ算出シタル年額ヲ以テ其ノ增加恩給ノ年額トス但シ陸海軍進士官ニシテ其ノ官ニ對スル最高俸

ヲ受ケタルモノノ階等ハ之ヲ財官トシ名譽進級ニ因リ階等ヲ進メラレタル軍人ノ階等ハ名譽進級ニ因リ階等トス
 第二十五條 第二十九條ノ規定ハ增加恩給年額ノ更正ニ付テハ適用ス
 第三十七條 恩給法第一百條ノ規定ニ依リ普通恩給又ハ遺族ノ扶助料ノ年額ヲ增額スル場合ニ於テハ其ノ年額算出ノ基礎ト爲リタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ヲ別表第七號表ニ依リ算出シタル年額ニ增加シタル退職又ハ死亡當時ノ俸給年額ト看做シ之ニ恩給法第一百條ノ規定ヲ適用ス
 附則 本令ハ大正十二年十月一日ヨリ施行ス
 第三十八條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス
 明治二十四年勅令第二百四十八號
 明治二十七年勅令第五十二號
 明治二十七年勅令第八十一號
 明治二十七年勅令第四百四十五號
 明治三十一年勅令第二百四十四號
 明治三十三年勅令第二百一號
 明治三十三年勅令第七十三號
 明治三十三年勅令第四百四號
 巡查看守退職料及遺族扶助料法施行令

恩給法施行令

恩給法施行令

明治三十四年勅令第五百五十號
 明治三十五年勅令第五百五十七號
 明治四十一年勅令第三百三十七號
 明治四十三年勅令第二百二十七號
 明治四十四年勅令第七十號
 大正六年勅令第二百四十一號
 大正六年勅令第二百四十二號
 大正九年勅令第三百二十三號
 明治十八年第十五號達官吏恩給令附則
 明治十八年第十六號達文官傷疾疾病等差例
 明治十八年第四十號達陸軍恩給令附則
 第十條各號ニ掲クル官制ニ依リ廢止セラレタル官制
 又ハ其レニ依リ廢止セラレタル官制ニ依リテ判任官以上ノ待
 遇ヲ受ケタル職員ハ在職年通算ノ關係ニ於テハ之ヲ當該各
 號ニ掲クル官制ニ依ル職員ト看做ス

附則 (大正十二年勅令第五百二十號附則)
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十條ノ規定ハ大正十
 二年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

附則 (大正十三年勅令第五十一號附則)
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 從來ノ水雷艦乗員トシテノ勤務ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附則 (大正十三年勅令第四百七號附則)
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 港務部設置制ニ依ル待遇職員ハ仍之ヲ第十條第六號ニ掲ク
 ル待遇職員ト看做ス

附則 (大正十五年勅令第二百四十四號附則)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 郡判任官ハ仍之ヲ第六條第一號ニ掲クル文官ト看做ス

附則 (大正十五年勅令第三百四號附則)
 本令ハ大正十五年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和二年勅令第三百六十二號附則)
 本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 (別表略ス)

昭和三年五月二十七日印刷
 昭和三年五月三十日發行

不許複製

發行所

特輯六法全書
 定價金三圓八十錢

三省堂編輯所

東京市麹町區大手町一丁目一番地
 株式會社 三省堂
 代表者 神保周藏

東京府荏原郡蒲田町
 株式會社 三省堂印刷部

株式會社 三省堂

株式會社 三省堂大阪支店

(東京市麹町區大手町一丁目)
 振替口座東京三一五五番

(大阪市南區難波町通一丁目)
 振替口座大阪八一三〇〇番

本製牧

—ポケットには—

模範六法全書

普及版

三省堂編輯所編纂

コンサイス形 定價二圓

羊革表紙七八〇頁 内地送料14錢

◀實務家ノ書イタ實務家ノタメノ法律書▶

判事 間運吉著
法學士

會社法要論上卷

總論—合名會社—合資會社—株式會社(第四節株式迄)

菊版 總布製約560頁

定價3.80 内地送料0.27

會社法要論下卷

株式會社—株式合資會社—終了

菊版 總布製約430頁

定價3.00 内地送料0.27

株主ノ權利ト義務

四六版 布製約300頁

定價1.50 内地送料0.18

本堂



